

愛媛県美術館

令和4年度年報・研究紀要第22号

ANNUAL REPORT
and
BULLETIN

THE MUSEUM OF ART, EHIME



総 目 次

■ 令和4年度年報

I	沿 革	1
II	展覧会事業	
1	コレクション展示	2
2	企画展示・共催展示・特別展示	8
III	作品の収集事業及び保存管理	
1	収集方針	41
2	取得作品の概要	42
3	収蔵作品数	45
4	保存・修復	45
5	館蔵品貸出状況	46
IV	調査研究事業	55
V	教育普及事業	
1	普及啓発事業	58
	(1) レクチャー	
	(2) 親子ワークショップ	
	(3) ワークショップ	
	(4) コレクショントーク	
	(5) コレクショントーク＋	
2	創作活動支援事業	61
	(1) アトリエの設置	
	(2) 創作学習の支援	
3	美術情報関係事業	62
	(1) 美術館情報発信	
	(2) 美術情報の提供	
4	他機関との連携事業	63
	(1) 館内プログラム	
	(2) 館外プログラム	
	(3) 大学との連携	
	(4) 調査・委員・審査・原稿執筆	
5	その他	71
	(1) 第24回愛媛県美術館開館記念イベント	
VI	美術館地域芸術文化活性化事業	72
VII	文化施設活動継続環境整備事業	74

VIII	貸館事業	
1	展示施設の利用方法	76
2	展示施設の利用状況	77
IX	入館者の状況	81
X	組織及び職員構成	
1	組織図	82
2	職員名簿	82
XI	愛媛県美術館協議会委員名簿	83
XII	関係法規	
1	愛媛県美術館使用料条例	84
2	愛媛県美術館管理規則	85
3	愛媛県博物館協議会設置条例	88
4	愛媛県美術館協議会運営規則	88
5	愛媛県美術品等収集評価委員会設置要綱	89
XIII	施設・設備の概要	90

■ 愛媛県美術館研究紀要 第22号

* 特集 愛媛県美術館「俳文学と美術」コレクション

長井 健
岩本 成美
土居 聡朋

○ 開館までの歩みとその後

昭和45年 9 月 愛媛県立美術館が開館

昭和54年10月 愛媛県立美術館分館郷土美術館を設置

平成 2 年 5 月 生活文化県政推進懇談会で新しい美術館の建設が提言される
9 月 愛媛県中核美術館整備検討委員会設置
(会長：門田圭三 委員21人)

平成 3 年 3 月 第 1 回整備検討委員会開催
11月 「県民の美術館に対するニーズ調査及び特色ある美術館の調査」
(～4年2月まで)
11月 第 2 回整備検討委員会開催

平成 5 年 3 月 第 3 回整備検討委員会開催

平成 6 年 6 月 立地場所について検討委員会に確認

平成 7 年10月 第 4 回整備検討委員会開催
11月 中核美術館基本構想報告

平成 8 年11月 現状変更許可（文化庁）
12月 起工式

平成10年 4 月 愛媛県立美術館は教育委員会から知事部局に移管
9 月 定礎式
10月 愛媛県立美術館を廃止し、愛媛県美術館を設置
11月 落成式

平成12年 4 月 知事部局から教育委員会へ移管

平成21年 3 月 愛媛県美術館分館（萬翠荘）を知事部局に移管

平成30年 4 月 教育委員会から知事部局へ管理運営を事務委任

令和 2 年 4 月 教育委員会から知事部局へ移管

Ⅱ 展覧会事業

1 コレクション展示

○令和4年6月14日～9月11日 コレクション展Ⅰ
令和3年度新収蔵品展（6月14日～8月1日）
企画展示室1

作家名	作品名	制作年	材質・形状	寸法 (cm)	備考
二神常貞	〔風景〕	1949-53 (昭和24-28) 年	油彩・画布	60.4×72.8	
好永紫芳	梅に鶏図	1977 (昭和52) 年	紙本着色・二曲屏風一隻	168.5×186.0	
土居明生	蘇生	1996 (平成8) 年	木口木版・紙	39.2×29.8	
土居明生	黎明	2004 (平成16) 年	木口木版・紙	49.0×70.7	
土居明生	雲湧く	2005 (平成17) 年	木口木版・紙	41.8×57.0	
土居明生	風雪の刻	2008 (平成20) 年	木口木版・紙	39.4×50.0	
土居明生	叱る、叱られる	2011 (平成23) 年	木口木版・紙	36.8×53.2	
土居明生	親子獅子	2012 (平成24) 年	木口木版・紙	61.6×51.0	
土居明生	権現の滝	2020 (令和2) 年	木口木版・紙	69.3×56.3	
浜田泰介	哀荷の歌	2007 (平成19) 年	アクリル絵具・紙	105.0×276.0	

○令和4年8月3日～9月11日
ケンビコレクションで自然観察
常設展示室1

作家名	作品名	制作年	材質・形状	寸法 (cm)	備考
沖冠岳	四季花鳥図	1871 (明治4) 年	絹本着色・軸双幅	各112.0×50.0	
鏑木雲潭	草虫図	江戸時代後期	絹本着色・軸	108.0×41.0	
荒井寛方	〔イナゴ〕 (『大正十二年日本美術院同人画集』)	1923 (大正12) 年	絹本着色・画帖	各23.0×32.0	
長谷川竹友	竹とひなげし図屏風		絹本着色・四曲屏風一隻	172.8×281.2	寄託作品
杉浦非水	『非水の図案』	1916 (大正5) 年	印刷・紙	各31.0×22.8	
杉浦非水	『非水創作図案集』	1926 (大正15) 年	印刷・紙	各36.5×27.5	
野間仁根	晩夏交響楽	1935 (昭和10) 年	油彩・画布	130.5×193.5	
野間仁根	兄弟と昆虫	1953 (昭和28) 年	油彩・画布	91.0×116.5	
野間仁根	虫と猫	1938 (昭和13) 年	油彩・画布	61.0×73.0	
野間仁根	昆虫	1954 (昭和29) 年	油彩・画布	61.0×73.0	
真鍋博	蝶	1956 (昭和31) 年	水彩・紙	27.1×39.0	
真鍋博	昆虫	1956 (昭和31) 年	油彩・画布	33.3×45.5	
真鍋博	昆虫	1956 (昭和31) 年	油彩・画布	38.0×45.5	
真鍋博	昆虫	1956 (昭和31) 年	油彩・画布	45.5×37.8	
真鍋博	昆虫 (顔の皺)	1956 (昭和31) 年	油彩・画布	27.0×22.0	
真鍋博	蜘蛛一族	1957 (昭和32) 年	油彩・板	184.0×93.0	
堀内康司	〔虫〕	1955 (昭和30) 年	鉛筆、パステル・紙	47.3×64.0	
木和村創爾郎	蟹・カマキリ写生図	1920 (大正9) 年	紙本着色	27.9×36.5	
松本秀一	蟷螂Ⅰ	1993 (平成5) 年	メゾチント・紙	13.3×22.0	
松本秀一	蟷螂Ⅱ	1994 (平成6) 年	メゾチント・紙	14.6×25.4	

コレクション・ハイライト
常設展示室1

作家名	作品名	制作年	材質・形状	寸法 (cm)	備考
畦地梅太郎	石鎚霊峰 (石鎚山) 『創作版画 伊豫風景』より	1936 (昭和11) 年頃	多色木版・紙	27.5×36.0	
畦地梅太郎	伊予石鎚山『新日本百景』より	1938 (昭和13) 年	多色木版・紙	22.7×30.2	
畦地梅太郎	石鎚山頂	1940 (昭和15) 年	多色木版・紙	30.0×44.9	
畦地梅太郎	石鎚山『山岳版画集Ⅰ』より	1946 (昭和21) 年	多色木版・紙	16.5×24.0	
畦地梅太郎	石鎚山	1953 (昭和28) 年	多色木版・紙	30.2×40.4	
畦地梅太郎	石鎚山『山の絵本』より	1955 (昭和30) 年	多色木版・紙	18.0×18.0	
畦地梅太郎	石鎚山〔綴帳原画〕	1985 (昭和60) 年	水彩・紙	40.0×80.0	
	秋山英一書簡、畦地梅太郎書籍				

作家名	作品名	制作年	材質・形状	寸法 (cm)	備考
沖冠岳	百狸々図		絹本着色・軸	130.1×50.7	
杉浦非水	水梔子 『非水百花譜』より	1929-34 (昭和4-9) 年	多色木版・紙	47.0×32.0	
杉浦非水	待宵草 『非水百花譜』より	1929-34 (昭和4-9) 年	多色木版・紙	47.0×32.0	
杉浦非水	野牡丹 『非水百花譜』より	1929-34 (昭和4-9) 年	多色木版・紙	47.0×32.0	
杉浦非水	撫子 『非水百花譜』より	1929-34 (昭和4-9) 年	多色木版・紙	47.0×32.0	
	『非水百花譜』 解説	1929-34 (昭和4-9) 年	印刷・紙	47.0×32.0	
杉浦非水	三越呉服店 春の新柄陳列会	1914 (大正3) 年	リトグラフ・紙	105.6×76.4	
杉浦非水	『三越』	明治-昭和時代	印刷・紙		
杉浦非水	『三越タイムス』	明治-昭和時代	印刷・紙		
河東碧梧桐	俳句「温泉めぐりして戻りし部屋に桃の活けてある」	大正時代	紙本墨書・軸	134.5×32.0	
真鍋博	時間 (セル画)	1963 (昭和38) 年			
真鍋博	時間 (35ミリフィルム 複製)	1963 (昭和38) 年			
	『三昧』		書籍		愛媛県立図書館蔵
白川義員	Caribou I	1978 (昭和53) 年	写真パネル	102.0×152.0	
橋本興家	雨	1966 (昭和41) 年	多色木版・紙	48.3×60.1	
福田平八郎	無花果	1966 (昭和41) 年	紙本着色・額	25.0×40.0	武智光春コレクション
福田平八郎	水蜜桃	1968 (昭和43) 年	紙本着色・額	39.5×53.0	武智光春コレクション
ジャン＝パティスト＝カミュー・コロー	ヴィル＝ダヴレー 白樺のある池	1855-60年頃	油彩・画布	49.0×73.0	
ギュスターヴ・クールベ	波	1869年	油彩・画布	49.0×73.0	
ウジェーヌ＝ルイ・ブーダン	プレスト、停泊地	1872年	油彩・画布	55.2×89.5	

森のなぞ? なぞ美術館Ⅲ 一木からハジマル、木からハジメルー 常設展示室2

作家名	作品名	制作年	材質・形状	寸法 (cm)	備考
李禹煥	刻みより	1972 (昭和47) 年	木	72.5×59.0×3.8	
畦地梅太郎	山小屋の老人	1953 (昭和28) 年	多色木版・紙	54.0×36.5	
畦地梅太郎	よろこびの山	1973 (昭和48) 年	多色木版・紙	61.8×42.3	
畦地梅太郎	白い像	1958 (昭和33) 年	多色木版・紙	70.0×44.9	
土居明生	穴神様	1991 (平成3) 年	木口木版・紙		寄託作品
土居明生	山守Ⅱ	2008 (平成20) 年	木口木版・紙		寄託作品
木和村創爾郎	潮来初夏	1953 (昭和28) 年	多色木版・紙	76.0×80.0	
李禹煥	突きより	1973 (昭和48) 年	紙・パネル	70.0×60.0	
柳瀬正夢	木と降る光	1914 (大正3) 年	油彩・板	33.1×23.2	
熊谷守一	桃	1941 (昭和16) 年	油彩・板	23.8×32.9	
ポール・セザンヌ	水の反映	1888-90年頃	油彩・画布	65.0×92.0	
土田麦僊	柳陰	1921 (大正10) 年	絹本着色・六曲屏風一雙	(各) 170.2×356.4	
小清水漸	傘の木の石の色の	1993 (平成5) 年	楠・松・石・金箔・銀箔・辰砂・群青・緑青・黒朱		寄託作品
田窪恭治	壁の向こう (サン・ヴィゴール・ド・ミュー礼拝堂のためのプロジェクト)	1988 (昭和63) 年	水彩、クレヨン、オイルステイン、クリアラッカー・木・コンクリート・プラスター	282.0×287.5×19.5	
田窪恭治	過去の扉	1985 (昭和60) 年	木・金箔・コンクリート・オイルステイン・コールタール	扉:176.0×127.5×36.7 木:229.0×63.0×46.0	
近藤英樹	発芽／再生の種	2010 (平成22) 年	アクリル・木		
増本達彦	森の主	2016-22 (平成28-令和4) 年	木		作家蔵
増本達彦	ざわめく種	2019 (令和元) 年	木		作家蔵

○令和4年10月8日～11月13日 コレクション展Ⅱ コレクション・ハイライト 常設展示室3

作家名	作品名	制作年	材質・形状	寸法 (cm)	備考
杉浦非水	三越呉服店 春の新柄陳列会	1914 (大正3) 年	リトグラフ・紙	105.6×76.4	
杉浦非水	勸業債券賣出し 九月十五日より九月三十日まで	1915 (大正4) 年頃	リトグラフ、オフセット・紙	75.7×53.2	

作家名	作品名	制作年	材質・形状	寸法 (cm)	備考
杉浦非水	ヤマサ醤油 (醸造元 千葉縣銚子町 濱口儀兵衛商店)	1920年代	リトグラフ、オフセット・紙	42.3×76.7	
杉浦非水	近代人の新百貨店 日比谷の美松	1930 (昭和5) 年	リトグラフ、オフセット・紙	105.5×76.9	
杉浦非水	日向の早熟 蔬菜と果實 (宮崎縣)	1928 (昭和3) 年頃	オフセット・紙	106.1×74.3	
杉浦非水	『非水の図案』	1916 (大正5) 年	印刷・紙	各31.0×22.8	
杉浦非水	『非水一般応用図案集』	1921 (大正10) 年	印刷・紙	各31.2×22.5	
杉浦非水	『非水創作図案集』	1926 (大正15) 年	印刷・紙	各36.5×26.5	
杉浦非水	岑嶺豪雪		絹本着色・額	51.0×49.5	
杉浦非水	つぐみ		紙本着色・額	47.0×48.6	
杉浦非水	猫		紙本淡彩・色紙	27.2×24.1	
杉浦非水	装丁、雑誌表紙		印刷・紙		
小林西台	花鳥之図	江戸時代後期	絹本着色・軸	74.5×31.8	
富岡鉄斎	鮮魚図	1910 (明治43) 年	紙本着色・軸	136.5×47.4	
武田耕雪	面河溪図	1927 (昭和2) 年	紙本着色・額	178.5×92.0	
柳瀬正夢	底の復報	1922 (大正11) 年	油彩・板	23.7×23.7	
柳瀬正夢	MV時代	1923 (大正12) 年	油彩・板	33.0×23.7	
藤田嗣治	立つ裸婦	1924 (大正13) 年	油彩・画布	99.6×64.6	
畦地梅太郎	子どもたち	1946 (昭和21) 年	多色木版・紙	65.6×44.5	
福田平八郎	清秋	1963 (昭和38) 年	紙本着色・額	36.0×53.0	武智光春コレクション
東山魁夷	波響く	1985 (昭和60) 年	紙本着色・額	52.5×100.0	
真鍋博	ピクニック・サイクル『自転車賛歌』より	1973 (昭和48) 年	ポスターカラー、コピー、コ ラージュ・紙	25.3×30.5	
坪内晃幸	作品	1971 (昭和46) 年	インク・合成樹脂エナメル ／画布	53.3×45.5	

「アートカード100!」展 I 常設展示室 3

作家名	作品名	制作年	材質・形状	寸法 (cm)	備考
ポール・セザンヌ	水の反映	1888-90年頃	油彩・画布	65.0×92.0	
ピエール・ボナール	アンドレ・ボナール嬢の肖像 画家の妹	1890年	油彩・画布	188.0×80.0	
野間仁根	魔法の森	1934 (昭和9) 年	油彩・画布	130.5×194.0	
長谷川竹友	霊峰石鎚		紙本着色・六曲屏風一隻	174.5×373.0	
三輪田米山	福祿寿	1897 (明治30) 年	紙本墨書・軸三幅対	各 166.5×89.4	
菅井汲	EiYU	1959 (昭和34) 年	油彩・画布	129.0×96.5	
青井辰雄	階段	1952 (昭和27) 年	油彩・画布	100.0×80.3	
鰐 嘔	Rainbow Rain	1977 (昭和52) 年	アクリル・画布	194.0×259.0	
ヴァシリー・カンディンスキー	生き生きとした白	1934年	油彩・画布	60.0×73.0	

○令和4年11月22日～令和5年1月29日 コレクション展Ⅲ コレクション・ハイライト 常設展示室 3

作家名	作品名	制作年	材質・形状	寸法 (cm)	備考
真鍋博	動物A	1956 (昭和31) 年	油彩・板	92.5×61.4	
真鍋博	落葉のシンフォニー (『Cook』千趣会)、 表紙原画	1960年代	ポスターカラー・紙	25.7×19.7	
真鍋博	ニューヨーク世界博 (『広告美術』第46号、 オリコミ)、表紙原画	1964 (昭和39) 年	インク、ポスターカラー・紙	13.7×44.2	
真鍋博	動く歩道 (『日本万国博覧会概要』Vol.6、 日本万国博覧会協会)、挿図原画	1967 (昭和42) 年	インク、ポスターカラー・紙	36.6×27.0	
真鍋博	シンボルゾーン (『日本万国博覧会概要』 Vol.6、日本万国博覧会協会)、挿図原画	1967 (昭和42) 年	インク、鉛筆、ポスターカラー・ 紙	37.1×27.2	
真鍋博	「真鍋博の東京自然旅行」(『毎日グラフ』 7月1日号、毎日新聞社) 挿図原画	1973 (昭和48) 年	ポスターカラー、写真・紙・TP (インク)	15.9×11.1	
真鍋博	「真鍋博の東京自然旅行」(『毎日グラフ』 7月1日号、毎日新聞社) 挿図原画	1973 (昭和48) 年	ポスターカラー、写真・紙・TP (インク)	23.2×15.3	

作家名	作品名	制作年	材質・形状	寸法 (cm)	備考
真鍋博	「73サイクルショー」 財団法人自転車産業振興協会、ポスター原画	1973 (昭和48) 年	墨、写真・紙・TP (色鉛筆)	41.8×59.8	
真鍋博	「73サイクルショー」 財団法人自転車産業振興協会、ポスター	1973 (昭和48) 年	印刷・紙	41.8×59.8	
真鍋博	星新一「マネー・エイジ」(『ボッコちゃん』 新潮社(新潮文庫)) 挿図原画	1971 (昭和46) 年	墨、インク、鉛筆、コラージュ・紙	20.4×7.4	
真鍋博	星新一「悲しむべきこと」(『ボッコちゃん』 新潮社(新潮文庫)) 挿図原画	1971 (昭和46) 年	墨、インク、鉛筆、コラージュ・紙	20.5×7.5	
真鍋博	星新一「鏡」(『ボッコちゃん』新潮社 (新潮文庫)) 挿図原画	1971 (昭和46) 年	墨、インク、鉛筆、コラージュ・紙	11.4×13.6	
真鍋博	星新一『ようこそ地球さん』新潮社 (新潮文庫)、裏表紙原画	1972 (昭和47) 年	ポスターカラー・紙	24.6×22.8	
真鍋博	筒井康隆「鍵」 (『小説新潮』5月号、新潮社) 挿図原画	1976 (昭和51) 年	墨、インク、コラージュ・紙・TP (鉛筆・色鉛筆・インク)	22.4×18.4	
真鍋博	筒井康隆「メチャクチャ小説 急流」(『SFアドベンチャー』5月号、徳間書店) 挿図原画	1979 (昭和54) 年	墨、インク、鉛筆、コラージュ・紙・TP	28.4×21.2	
真鍋博	筒井康隆「傾斜」(『SFアドベンチャー』6月号、徳間書店) 挿図原画	1981 (昭和56) 年	墨、インク、鉛筆・紙・TP (鉛筆・色鉛筆・インク)	24.2×16.4	
真鍋博	筒井康隆「ステイング富豪刑事」 (『小説新潮』11月号、新潮社) 挿図原画	1976 (昭和51) 年	墨、インク、ポスターカラー、スクリーントーン・紙・TP (色鉛筆、インク、鉛筆)	27.2×19.8	
真鍋博	ジュール・ベルヌ『気球旅行の五週間』江口清 訳、パシフィカ レジデント社、表紙原画	1979 (昭和54) 年	ポスターカラー、インク・紙	26.3×18.8	
真鍋博	「地下鉄博物館 1986年7月12日開館」 地下鉄博物館、ポスター原画	1986 (昭和61) 年	ペン、コピー・紙・TP (色鉛筆)	72.8×51.5	
真鍋博	愛媛・空と波と風	1993 (平成5) 年	墨、ポスターカラー、インク・紙	16.1×50.2	
山本雲溪	猿之図	1852 (嘉永4) 年	紙本着色	120.8×52.1	
富岡鉄斎	鮮魚図	1912 (大正元) 年	紙本着色	136.5×47.4	
岸田劉生	千家元磨像	1913 (大正2) 年	油彩・画布	40.9×27.5	
中村彝	自画像	1916 (大正5) 年	油彩・画布	45.5×37.5	
杉浦非水	十二月一日開店 上野地下鉄ストア	1931 (昭和6) 年	リトグラフ・紙	94.5×64.3	
畦地梅太郎	甲州の山 (『山』二六〇〇年版 第3集より)	1940 (昭和15) 年	多色木版・紙	30.5×45.5	
中山巍	月と静物	1952 (昭和27) 年	油彩・画布	116.7×80.3	
馬越舛太郎	風景		油彩・画布	33.3×45.5	
福田平八郎	春霞	1970 (昭和45) 年	紙本着色	34.5×45.6	武智光春コレクション
吉田勝彦	小さな永遠	1981 (昭和56) 年	メゾチント・紙	30.4×20.0	
ビエール・ボナール	アンドレ・ボナール嬢の肖像 画家の妹	1890年	油彩・画布	188.0×80.0	
アンドレ・ロート	マルグリットの肖像	1913年	油彩・画布	164.0×86.0	

中川八郎、一挙公開！ 常設展示室3

作家名	作品名	制作年	材質・形状	寸法 (cm)	備考
中川八郎	風景		水彩・紙	45.5×32.3	
中川八郎	風景(帆掛舟)	明治時代後期	水彩・紙	33.7×50.4	
中川八郎	風景(投網)	明治時代後期	水彩・紙	33.6×50.7	
中川八郎	アゼリア	1905 (明治38) 年	水彩・紙	38.3×55.0	
中川八郎	山城遠望	明治時代後期	水彩・紙	39.2×55.8	
中川八郎	門前の松原	明治時代後期	水彩・紙	34.2×51.3	
中川八郎	風景	1919 (大正8) 年	油彩・画布	33.3×45.5	
中川八郎	風景		油彩・画布	45.5×38.0	
中川八郎	杏花の村	1918 (大正7) 年	油彩・画布	89.5×130.3	
中川八郎	風景		油彩・画布	53.0×72.7	
中川八郎	浅間之秋	1920 (大正9) 年	油彩・画布	33.3×45.5	
中川八郎	奈良風景		油彩・画布	37.9×45.3	
中川八郎	漁港		油彩・画布	45.5×33.5	

作家名	作品名	制作年	材質・形状	寸法 (cm)	備考
中川八郎	漁村風景		油彩・画布	33.3×45.5	
中川八郎	寒霞溪四望眺より	1916 (大正5) 年	油彩・画布	45.6×37.8	
中川八郎	裾野残雪	1920 (大正9) 年	油彩・画布	60.6×80.3	
中川八郎	木曾の風景	1899 (明治32) 年	水彩・紙	37.2×54.5	
中川八郎	東横堀	1909 (明治42) 年	水彩・紙	45.5×33.3	
中川八郎	風景 (三条大橋)		水彩・紙	37.6×45.5	
中川八郎	風景	1919 (大正8) 年	油彩・画布	33.3×45.5	
中川八郎	維懸城壁	1916 (大正5) 年	油彩・画布	45.5×33.3	
中川八郎	アラブの母子		水彩・紙	24.0×17.0	
中川八郎	風景		水彩・紙	45.5×53.0	
中川八郎	松のある海辺の風景	明治時代後期	水彩・紙	50.7×33.1	
満谷国四郎	帰漁	1900 (明治33) 年頃	水彩・紙	24.2×32.6	
吉田博	《帆船 午前》『瀬戸内海集』のうち	1926 (大正15) 年	多色木版・紙	55.6×40.7	
大下藤次郎	松山新立橋	1911 (明治44) 年	水彩・紙		寄託作品
河合新蔵	風景 (日暮里)	明治時代後期	水彩・紙	35.6×49.8	
丸山晚霞	秋景	1902 (明治35) 年	水彩・紙	32.9×49.8	
小杉未醒 編	『瀬戸内海写生一周』(興文社刊)	1911 (明治44) 年	書籍		
小杉未醒 編	『十人写生旅行』(興文社刊)	1911 (明治44) 年	書籍		

○令和4年12月3日～令和5年1月9日 コレクション特別公開

生誕300年 吉田蔵澤 一清廉なる画境—
企画展示室 1

作家名	作品名	制作年	材質・形状	寸法 (cm)	備考
吉田蔵澤	風竹	江戸時代中期	紙本墨画・軸	133.0×54.5	
吉田蔵澤	墨竹図	江戸時代中期	紙本墨画・軸8幅対	各132.0×51.2	
吉田蔵澤	大幹竹	江戸時代中期	紙本墨画・軸	128.3×48.4	
吉田蔵澤	風竹図	江戸時代中期	紙本墨画・軸	133.0×54.5	
吉田蔵澤	墨竹図屏風	江戸時代中期	紙本墨画・六曲屏風一雙押絵貼	各図134.0×51.5	
吉田蔵澤	墨竹図屏風	江戸時代中期	紙本墨画・六曲屏風一雙押絵貼	各図136.2×49.0	
吉田蔵澤	竹図 (雪竹と夜竹)	江戸時代中期	紙本墨画／軸対幅	各126.5×54.0	
吉田蔵澤	蘭	1794 (寛政6) 年頃	紙本墨画・軸	31.4×54.4	
吉田蔵澤	芭蕉霜凌図	江戸時代中期	紙本墨画・軸	126.5×54.0	
蔵山貴謙	五言対句 (袖中蔵日月・・・)	1782 (天明2) 年	紙本墨書／軸対幅	各 131.0×25.0	
明月曇寧	一行書 (天光隠不現)	江戸時代中期	紙本墨書・軸	87.0×28.5	
正岡子規	梅花図	1900 (明治33) 年頃	紙本水彩・軸	26.3×34.9	
夏目漱石	俳句 蔵澤の竹を得てより露の庵		紙本墨書・短冊	36.0×6.0	
石井南放	門前の松	1969 (昭和44) 年	紙本墨画・額	69.0×209.0	

○令和5年2月8日～4月9日 コレクション展Ⅳ

「アートカード100!」展Ⅱ

常設展示室 1

作家名	作品名	制作年	材質・形状	寸法 (cm)	備考
野間仁根	魔法の森	1934 (昭和9) 年	油彩・画布	130.5×194.0	
真鍋 博	真鍋博の東京自然旅行 (『毎日グラフ』7月1日号 毎日新聞社) 挿図原画	1973 (昭和48) 年	墨・ポスターカラー・写真、紙	23.2×15.3	
吉田勝彦	小さな測候所 (真夜中)	1985 (昭和60) 年	ビュラン・紙	21.0×29.5	
海老原喜之助	幸せな雪の村	1930 (昭和5) 年	油彩・画布	72.0×100.0	
畦地梅太郎	よろこびの山	1973 (昭和48) 年	多色木版・紙	23.5×17.8	
白川義員	Caribou I	1978 (昭和53) 年	写真パネル	279.0×384.0	
梶田半古	鶴越	1892 (明治25) 年	絹本着色・軸	143.0×69.0	
白髪一雄	屋島の戦い	1967 (昭和42) 年	油彩・画布	181.8×227.3	
畦地梅太郎	石鎚山 [緞帳原画]	1985 (昭和60) 年	多色木版・紙	40.0×80.0	
畦地梅太郎	山上に叫ぶ	1956 (昭和31) 年	多色木版・紙	46.6×31.4	
長谷川竹友	霊峰石鎚		紙本着色・六曲屏風一隻	174.5×373.0	
野間仁根	来島水道仲渡島附近	1967 (昭和42) 年	油彩・画布	72.7×91.0	

作家名	作品名	制作年	材質・形状	寸法 (cm)	備考
岩波昭彦	マンハッタン	2003 (平成15) 年	金銀箔・墨・岩絵具等／ 鳥の子紙・四曲屏風一隻	152.0×304.0	
松本山雪	製茶風俗図屏風	江戸時代前期	紙本着色・六曲屏風一双	各161.5×360.0	愛媛県指定 有形文化財
都路華香	舞子濱図	1903 (明治36) 年	絹本墨画・四曲屏風一隻	170.0×261.0	
大智勝観	蛇が池	1916 (大正5) 年	紙本彩色・六曲屏風一双	各167.7×381.4	
杉浦非水	三越呉服店 春の新柄陳列会	1914 (大正3) 年	リトグラフ・紙	105.6×76.4	
里見勝蔵	和服の女	1930 (昭和5) 年	油彩・画布	65.5×53.2	
真鍋 博	蒲団	1955 (昭和30) 年	油彩、鉛筆・画布	161.0×255.0	
安田靉彦	古事記	1946 (昭和21) 年	紙本着色・軸	44.0×59.5	
物外不遷	人物画賛	江戸時代後期	紙本墨画墨書・軸	94.0×29.5	
三輪田米山	福祿寿	1897 (明治30) 年	紙本墨書・軸三幅対	各 166.5×89.4	
菅井汲	EiYU	1959 (昭和34) 年	油彩・画布	129.0×96.5	
鰐 嘔	Rainbow Rain	1977 (昭和52) 年	アクリル・画布	194.0×259.0	
芥川 永	遠くの声	1978 (昭和53) 年	ブロンズ	76.0×30.0×28.0	
メダルド・ロッソ	門番の女	1883年	石膏・蜜蝋	39.0×34.0×19.0	
上岡美平	三等車		油彩・画布	91.4×117.0	

コレクション・ハイライト 常設展示室2

作家名	作品名	制作年	材質・形状	寸法 (cm)	備考
畦地梅太郎	母の像	1928 (昭和3) 年	単色木版・紙	10.0×9.0	
畦地梅太郎	子供たち	1946 (昭和21) 年	多色木版・紙	65.6×44.5	
畦地梅太郎	石鎚霊峰 『創作版画 伊豫風景』より	1936 (昭和11) 年	多色木版・紙	27.5×36.0	
畦地梅太郎	石鎚山	1953 (昭和28) 年	多色木版・紙	30.2×40.4	
畦地梅太郎	槍ヶ岳	1952 (昭和27) 年	多色木版・紙	39.5×29.0	
畦地梅太郎	山男	1953 (昭和28) 年	多色木版・紙	39.0×28.5	
畦地梅太郎	鳥と山男 『愛しの山男たち』より	1955 (昭和30) 年	多色木版・紙	40.9×29.6	
畦地梅太郎	めぐりあい	1956 (昭和31) 年	多色木版・紙	60.2×41.7	
畦地梅太郎	望郷	1959 (昭和34) 年	多色木版・紙	69.1×45.2	
畦地梅太郎	花園	1960 (昭和35) 年	リトグラフ・紙	48.0×38.5	
畦地梅太郎	涸沢 『山―北アルプス』より	1967 (昭和42) 年	多色木版・紙	29.8×23.5	
畦地梅太郎	山の家族	1973 (昭和48) 年	多色木版・紙	44.7×32.6	
畦地梅太郎	ものの気配	1975 (昭和50) 年	多色木版・紙	51.7×38.8	
畦地梅太郎	親子よろこぶ 『山のぬくもり』より	1978 (昭和53) 年	多色木版・紙	19.6×20.4	
畦地梅太郎	渇き	1980 (昭和55) 年	多色木版・紙	28.6×39.0	
畦地梅太郎	遠い山／鳥のねぐら 『山のつぶやき』より	1978 (昭和53) 年	多色木版・紙	19.8×21.0	
真鍋博	香水旅行	1962 (昭和37) 年	墨、水彩、色鉛筆・紙	37.2×26.3	
矢野鉄山	芳春譜	1962 (昭和37) 年	紙本着色・額	154.5×95.5	
真鍋博	庭園都市	1973 (昭和48) 年	墨、インク、ポスター カラー・紙	63.5×26.5	
松林桂月	暗香浮動図	1953 (昭和28) 年	絹本墨画淡彩・軸	68.8×86.0	
平福百穂	露の臺・かけ稲	1924 (大正13) 年	絹本着色・軸対幅	各148.5×50.0	
沖冠岳	蔵図		絹本着色・軸		寄託作品
柳瀬正夢	早春の富士―西伊豆江梨ヨリ―	1938 (昭和13) 年	油彩・画布	45.0×45.0	
畦地梅太郎	春の富士 『四季の富士シリーズ』より	1951 (昭和26) 年	多色木版・紙	24.0×33.0	
橋本興家	花と風紋 砂丘連作のうち	1976 (昭和51) 年	多色木版・紙	60.0×49.0	
安藤義茂	春	1946 (昭和21) 年	刀画 (モノクロ) ・紙	22.8×28.2	
福田平八郎	春に匂ふ	1970 (昭和45) 年	紙本着色・額	36.5×43.5	武智光春コ レクション
福田平八郎	白梅目白	1968 (昭和43) 年	紙本着色・額	29.3×39.3	武智光春コ レクション
畦地梅太郎 (木活字)	島崎藤村『早春詩抄』(草木屋出版部発行)	1937 (昭和12) 年	書籍		
ジャン＝パティスト＝ カミユー・コロー	ヴィル＝ダヴレー 白樺のある池	1855－60年頃	油彩・画布	49.0×73.0	
オディロン・ルドン	アポロンの馬車	1907－08年	油彩・画布	100.3×81.2	
マリノ・マリーニ	踊り子	1953年	鉛	155.0×32.0× 35.0	

2 企画展示・共催展示・特別展示

企画展示一覧

場所	展 覧 会 名	会 期
本館	ムーミンコミックス展	令和4年4月2日(土)～5月29日(日)
	名刀は語る展	令和4年4月16日(土)～6月12日(日)
	国宝 高野山金剛峯寺展 空海ゆかりの名宝と運慶・快慶	令和4年10月1日(土)～11月20日(日)
	中川八郎没後100年 発見された日本の風景 美しかりし明治への旅	令和4年12月1日(木)～令和5年1月29日(日)
	追悼 白川義員写真展 「天地創造」	令和5年1月14日(土)～3月12日(日)

共催展示一覧

場所	展 覧 会 名	会 期
本館	ティラノサウルス ～進化の謎にせまる～	令和4年7月16日(土)～9月4日(日)

特別展示一覧

場所	展 覧 会 名	会 期
本館	みる冒険 ゆらぐ感覚	令和4年8月6日(土)～9月30日(金)

ムーミンコミックス展

会 期： 令和4年4月2日（土）～5月29日（日）（51日間）
 主 催： ムーミンコミックス展愛媛実行委員会（愛媛県、愛媛新聞社、テレビ愛媛、東映）
 特別協力： ムーミンキャラクターズ社
 協 力： ライツ・アンド・プランズ、筑摩書房
 後 援： フィンランド大使館、愛媛県教育委員会、松山市、松山市教育委員会、NHK 松山拠点放送局、
 南海放送、あいテレビ、愛媛朝日テレビ、愛媛 CATV、FM 愛媛
 コミックス翻訳： 富原真弓
 アート・ディレクター： 大谷有紀
 会 場： 愛媛県美術館 常設展示室1・2

趣 旨

フィンランドのムーミンキャラクターズ社が所蔵する、トーベ・ヤンソンの習作、ラルス・ヤンソンの原画など、日本初公開の約280点により、ムーミンコミックスの世界を紹介した。

観覧者数：16,888名

関連行事

団体解説「ムーミンコミックスの成立背景について」

日 時： 5月26日（木） 14：00～14：20
 場 所： 愛媛県美術館 講堂
 対 象： 河原デザイン・アート専門学校の学生及び教員
 講 師： 武田信孝（当館専門学芸員）
 参加人数： 45名



名刀は語る展

会 期： 令和4年4月16日（土）－6月12日（日）（51日間）

主 催： 「名刀は語る展」実行委員会（愛媛県、あいテレビ）

特別協力： 公益財団法人 佐野美術館

後 援： 松山市、松山市教育委員会、愛媛県市町教育委員会連合会、愛媛県小中学校長会、愛媛県美術会、愛媛美術教育連盟、愛媛県文化協会、（公財）愛媛県文化振興財団、日本美術刀剣保存協会愛媛県支部、（公財）松山観光コンベンション協会、伊予鉄グループ、愛媛新聞社、朝日新聞松山総局、読売新聞松山支局、毎日新聞松山支局、産経新聞社、南海放送、テレビ愛媛、愛媛朝日テレビ、愛媛CATV、FM愛媛、えひめりびング新聞社

企画協力： NHK プロモーション

会 場： 愛媛県美術館 企画展示室

趣 旨

名刀が美しい輝きを放っているのは、鍛刀されてから今日に至るまでの数百年の間、絶えず日本刀を守り、磨き続けていた人々の手があったからである。本展では、日本有数の刀剣コレクションを誇る佐野美術館の収蔵品から、平安時代から江戸時代にかけての国宝・重要文化財に指定されている刀剣、刀装具、約100点を展示した。なかでも国宝《太刀銘一》は、実に36年ぶりに愛媛での公開となった。さらに人気ゲーム「刀剣乱舞」のキャラクターにもなった、名槍《蜻蛉切》、重要文化財《松井江》といった珠玉の名品たちも展示されるほか、伊予今治城主藤堂高虎が所有した名刀《正宗》（重要文化財）といった愛媛ゆかりの刀剣が県内初公開された。また伊佐爾波神社・東雲神社に伝わった刀剣（重要文化財）を、本展にあわせて特別公開した。約千年にわたる日本刀の歴史を通じて、日本人が培ってきた美意識や文化を伝える機会となった。

観覧者数： 19,949 名

関連行事

記念講演会「日本刀の魅力」

日 時：4月16日（土） 14：00～15：30
講 師：渡邊妙子（公益財団法人佐野美術館理事長）
場 所：愛媛県美術館 講堂
参加人数：58名

講演会「江戸時代の大名と刀剣贈答—今治藩の事例から—」

日 時：4月30日（土） 14：00～15：30
講 師：藤本誉博（今治城学芸員）
場 所：愛媛県美術館 講堂
参加人数：54名

「蜻蛉切」の魅力に迫る！櫻井トオルトークイベント

日 時：5月4日（水・祝） 14：00～15：30
出 演：櫻井トオル（声優）
場 所：松山市民会館 中ホール
参加人数：350名

ダンボール兜をつくろう！

日 時：5月5日（金・祝）、7日（日）
各11：00～11：45／14：00～14：45
講 師：石崎三佳子（当館専門学芸員）
場 所：愛媛県美術館 講堂
参加人数：延45名

親子対象講座「みてみよう 拵（こしらえ）のいろいろ」

日 時：5月14日（土） 13：00～13：50／14：00～14：50
講 師：志田理子（公益財団法人佐野美術館学芸員）
場 所：愛媛県美術館 南館ギャラリー1
参加人数：延15名

「刀剣乱舞－ONLINE－」 宣伝部長 おっきいこんのすけ撮影会

日 時：5月15日（日） 10：30～11：30／13：00～14：00／14：30～15：30／16：00～17：00
出 演：おっきいこんのすけ（「刀剣乱舞－ONLINE－」ナビゲーターマスコット）
場 所：愛媛県美術館 講堂
参加人数：229名

ワークショップ「日本刀入門（日本刀の歴史と科学）」

日 時：5月28日（土）、6月4日（土） 各14：00～15：30
講 師：渡邊聡（公益財団法人日本美術刀剣保存協会刀剣指導員）
場 所：愛媛県美術館 南館ギャラリー1
参加人数：延53名

「刀剣乱舞－ONLINE－」 コラボレーション企画 「蜻蛉切」 「松井江」 等身大パネル展示

日 時：会期中
場 所：愛媛県美術館 エントランス



出品目録

No	指定	名称	作者	時代	世紀	西暦	所蔵	展示期間
1		太刀 無銘 古大和		平安時代	12世紀			通期
2		太刀 銘 安綱		平安時代	12世紀			通期
3	重要美術品	太刀 銘 包平		平安時代	12世紀			通期
4	重要美術品	太刀 銘 利恒		平安時代	12世紀			通期
		黒漆太刀拵						通期
5	静岡県指定文化財	太刀 銘 景則		鎌倉時代	13世紀		矢部コレクション	通期
		毛抜形太刀拵、糸巻太刀拵、尻鞘		江戸時代				通期
6	重要美術品	太刀 銘 行秀		鎌倉時代	13世紀			通期
T-1		太刀 銘 月山作		鎌倉時代	13世紀			通期
8	重要美術品	太刀 銘 国行		鎌倉時代	13世紀			通期
T-2	重要美術品	刀 貼銘 国俊		鎌倉時代	13世紀			通期
9	重要美術品	太刀 銘 来国俊		鎌倉時代	14世紀			通期
T-3		太刀 無銘 来国次		鎌倉時代	14世紀			通期
11		太刀 銘 包永		鎌倉時代	14世紀			通期
T-4		刀 無銘 保昌		鎌倉時代	14世紀		末永コレクション	通期
12-1	重要文化財	短刀 銘 国光		鎌倉時代	13世紀			通期
		金梨子地葵紋蒔絵合口拵		江戸時代				通期
13	重要文化財	刀 無銘 正宗		鎌倉時代	14世紀			4/16～5/13
14		刀 無銘 貞宗		鎌倉時代	14世紀			通期
T-5	重要文化財	刀 朱銘 義弘／本阿（花押） （名物 松井江）		鎌倉時代	14世紀			通期
15		太刀 銘 （柄傘）尚宗／一		鎌倉時代	13世紀			通期
16	国宝	太刀 銘 一		鎌倉時代	13世紀		矢部コレクション	通期
T-6	重要美術品	太刀 銘 光忠		鎌倉時代	13世紀			通期
18	重要美術品	太刀 銘 長光		鎌倉時代	13世紀			通期
19		短刀 銘 長船長光 永仁三年十月		鎌倉時代	13世紀			通期
20		太刀 銘 備州長船住景光		鎌倉時代	14世紀			通期
T-7		太刀 銘 国宗		鎌倉時代	13世紀			通期
23	重要美術品	太刀 銘 雲生		鎌倉時代	13世紀			通期
T-8	重要美術品	太刀 銘 俊次		鎌倉時代	13世紀			通期
		己紋糸巻太刀拵						通期
25	重要美術品	太刀 銘 守次		鎌倉時代	13世紀			通期
26	重要美術品	太刀 銘 為次		鎌倉時代	13世紀			通期
27	重要美術品	太刀 銘 清綱		鎌倉時代	14世紀			通期
T-9		短刀 銘 神息		鎌倉時代	13世紀			通期
28	重要美術品	太刀 銘 實阿作		鎌倉時代	14世紀			通期
T-10		短刀 銘 国資		鎌倉時代	14世紀			通期
29	重要美術品	刀 無銘 延寿		鎌倉時代	14世紀			通期
30-1	重要美術品	脇指 銘 相模国住人廣光／ 康安二年十月日（号 火車切）		南北朝時代	14世紀	1362年		通期
30-2		黒漆塗小サ刀拵		室町時代	16世紀			通期
31	重要文化財	刀 金象嵌銘 備前国兼光／ 本阿弥（花押）（名物 大兼光）		南北朝時代	14世紀			5/14～6/12
33-1	重要美術品	刀 金象嵌銘 基光		南北朝時代	14世紀			通期
33-2		朱塗小刻鞘打刀拵		江戸時代	19世紀			通期
34		太刀 銘 備前国吉井		南北朝時代	14世紀			通期
T-11	重要美術品	太刀 銘 正安二年八月六日 吉光		鎌倉時代	13世紀	1300年		通期
35		短刀 銘 安吉		南北朝時代	14世紀			通期
36		短刀 銘 筑州住弘安／ 正平廿年十一月日		南北朝時代	14世紀	1365年		通期
37		短刀 銘 豊後州藤原友行／ 正平十三年八月日		南北朝時代	14世紀	1358年		通期
T-12		脇指 銘 長谷部国信		南北朝時代	14世紀			通期

No	指定	名称	作者	時代	世紀	西暦	所蔵	展示期間
39		脇指 銘 三条吉則		室町時代中期	15世紀			通期
40		短刀 銘 村正		室町時代末期	16世紀			通期
		鍔皮塗合口腰刀拵						通期
42	静岡県指定文化財	大笹穂槍 銘 藤原正真作 (号 蜻蛉切)		室町時代末期	16世紀		矢部コレクション	通期
43		刀 銘 和泉守藤原兼定／石破渋谷木工頭明秀伊勢山田是作／永正十二年 金象嵌銘二胴切落		室町時代中期	16世紀	1517年		通期
		松葉漆絵塗打刀拵						通期
44		刀 銘 兼明作		室町時代末期	16世紀			通期
45		脇指 銘 出羽国之住人近則月山／文亀二年九月吉日		室町時代中期	16世紀	1502年		通期
46		太刀 銘 守弘		室町時代初期	15世紀			通期
47		太刀 銘 備州長船尚光／応永十一年十月日		室町時代初期	15世紀	1404年		通期
48		刀 銘 備前国住長船与三左衛門尉祐定／天文二二年二月吉日		室町時代中期	16世紀	1535年		通期
49		刀 銘 備前国住長船五郎左衛門尉清光作／天文七年八月吉日		室町時代中期	16世紀	1538年		通期
50		刀 銘 洛陽一条堀川住藤原国廣造／慶長十八年二月日 松兵庫頭所持		江戸時代初期	17世紀	1613年		通期
52	静岡県指定文化財	刀 銘 津田越前守助広／延宝二年二月日		江戸時代初期	17世紀	1674年	矢部コレクション	通期
54	静岡県指定文化財	刀 銘 繁慶		江戸時代初期	17世紀			通期
56		短刀 銘 長曾祢興里作		江戸時代中期	17世紀			通期
55		刀 銘 陸奥大掾三善長道／延宝六年八月日		江戸時代初期	17世紀	1678年		通期
57	静岡県指定文化財	刀 銘 肥前国忠吉		江戸時代初期	17世紀		矢部コレクション	通期
58		刀 銘 肥前国住陸奥守忠吉		江戸時代中期	17世紀		矢部コレクション	通期
59		刀 銘 正清		江戸時代中期	18世紀			通期
60		刀 銘 於江府長運斎綱俊／弘化二年十一月廿六日／於千住二ツ胴土壇拂切テ山田五三郎		江戸時代後期	19世紀	1845年		通期
61		小透鐔 無銘 甲冑師		室町時代				通期
62		車透鐔 無銘 甲冑師		室町時代				通期
63		唐人笠象嵌鐔 無銘 応仁		室町時代				通期
64		八花形透鐔 無銘 鎌倉		室町時代				通期
65		菊花透鐔 無銘 平安城		室町時代				通期
66		折竹透鐔 無銘 尾張		桃山時代				通期
67		茗荷蕨透鐔 無銘 尾張		江戸時代				通期
68		茶席図鐔 銘 西陣住人／埋忠重長		江戸時代				通期
69		鶴丸透鐔 無銘		江戸時代				通期
70		雪輪傘透鐔 無銘 正阿弥		江戸時代				通期
71		枝橘図大小鐔 銘 以御好之図／大森英満(花押)		江戸時代			矢部コレクション	通期
72		梅樹図大小鐔 銘 吉岡／因幡介		江戸時代			矢部コレクション	通期
73		流水鷺図大小鐔 銘 延乗作／光美(花押)		江戸時代			矢部コレクション	通期
74		二福神図縁頭 銘 行年七十五彫之／宗祐(花押)	尾崎宗祐	江戸時代				通期
75		道成寺物語図縁頭 銘 大森英秀(花押)	大森英秀	江戸時代				通期
76		鉄拐仙人図縁頭 銘 大森英秀(花押)	大森英秀	江戸時代				通期
77		富嶽龍図縁頭 銘 文政十二巳丑立春／雲遊三條春明法眼(花押)	河野春明	江戸時代				通期
78		鶏図縁頭 銘 石黒政明(花押)	石黒政明	江戸時代				通期

No	指定	名称	作者	時代	世紀	西暦	所蔵	展示期間
79		枝梅水仙図縁頭 銘一宮長常 (花押)	一宮長常	江戸時代				通期
80		水草鷺図縁頭 銘後藤法橋一乗	後藤一乗	江戸時代				通期
81		月下千鳥図縁頭 銘 安親		江戸時代				通期
82		牡丹図縁 銘 宗珉 (花押)		江戸時代				通期
83		鷹捉雉子図縁頭 銘 津尋甫		江戸時代				通期
84		貝尽図小柄 無銘		室町時代				通期
85		桐紋散小柄 銘 (金象嵌銘) 光乗 作 (極め刻銘) 覚乗 (花押) / 光昌 (花押)	四代 後藤光乗	室町時代				通期
86		韋駄天図小柄 銘 後藤正房 (花押)	六代 後藤栄乗	江戸時代				通期
87		武者合戦図小柄 無銘	七代 後藤顕乗	江戸時代				通期
88		雷図小柄 無銘 伝通乗		江戸時代				通期
89		草紙図小柄 銘 後藤光定 (花押)	後藤光定	江戸時代				通期
90		竹に虎図小柄 銘 宗珉 (花押)		江戸時代				通期
91		富嶽図小柄 無銘		江戸時代				通期
92		幽霊図小柄 銘 元治甲子初秋 / 夏雄刻	加納夏雄	江戸時代	元治元年	1864年		通期
93		枝菊図象嵌毛彫龍銀小柄 銘 夏雄 (花押)	加納夏雄	明治時代				通期
94		鎡鉾図小柄 銘 寿朗 (花押)	加納夏雄	江戸時代				通期
95		月に時鳥図小柄 銘 船田一琴義長 (花押)	船田一琴	江戸時代				通期
96		秋草虫尽図揃大小金具 銘 後藤法 橋一乗 (花押)	後藤一乗	江戸時代				通期
97		俱利伽羅文三所物 銘 紋宗乗作 程乗 (花押)	二代 後藤宗乗	室町時代				通期
98		俱利伽羅文三所物 銘 紋乗真 光守 (花押)	三代 後藤乗真	室町時代				通期
99		俱利伽羅文三所物 銘 後藤光侶 (花押)	十代 後藤廉乗	江戸時代				通期
100		俱利伽羅文三所物 銘 後藤光寿 (花押)	十一代 後藤通乗	江戸時代				通期
101		徳川将軍家『御腰物元帳』		明治2年		1869年		通期
102		太刀 銘 □□ (備州) 長船政光□□ (貞治) 二年六月		南北朝時代	14世紀	1363年		通期
特別 出品	重要文化財	太刀 銘国行		鎌倉時代			伊佐爾波神社蔵 (愛媛県美術館 寄託)	通期
特別 出品	重要文化財	太刀 銘助包		鎌倉時代			東雲神社蔵 (愛媛県美術館 寄託)	通期

弘法大師空海誕生 1250 年記念・ あいテレビ開局 30 周年記念 国宝 高野山金剛峯寺展 空海ゆかりの名宝と運慶・快慶

会 期： 令和 4 年 10 月 1 日（土）－ 11 月 20 日（日）（44 日間）
主 催： 「国宝 高野山金剛峯寺展」実行委員会（愛媛県、あいテレビ）
共 催： 愛媛新聞社
特別協力： 高野山真言宗総本山金剛峯寺、（公財）高野山文化財保存会
監 修： 伊東史朗（和歌山県立博物館長）
特別協賛： 伊予銀行、愛媛銀行、三浦工業
協 賛： 大一ガス株式会社
後 援： HIROTSU バイオサイエンス、NIPPON EXPRESS ホールディングス、フジ、DCM、トゥーコ
ネクト、サカイ引越センター、ベルモニー、三福ホールディングス、タカラスタンダード、大正
製菓、日本航空、松山三越、山崎製パン、ヒガシマル醤油、四国電力、STNet、一六本舗、ECC、
イオタオーエーシステム、いよてつ高島屋、門屋組、石材振興会、レクサス松山城北、ダイコロ、
税理士法人 越智会計事務所、アサヒビール、PORTE、JT 愛媛支社、損害保険ジャパン、オール
ドイイングランド 道後山の手ホテル
会 場： 愛媛県美術館 企画展示室、常設展示室 1

趣 旨

令和 5 年（2023）は、弘法大師空海（774～835）の誕生1250年という大きな節目にあたる。本展ではこれを記念し、空海が開いた高野山金剛峯寺の名宝約40件を選びすぐって紹介した。

唐へ渡り、密教の正統を受け継いだ空海は、弘仁 7 年（816）、密教の奥義を究める修行の道場として、嵯峨天皇より勅許を得て高野山を開いた。承和 2 年（835）に奥之院において入定し、今なおこの地で衆生の救済のために祈りを捧げていると信じられている。開創以来の1200年の歴史の中で、高野山は真言密教の聖地として、また空海を慕う人々の憧れの地として、時代や宗派を超えた信仰を集めた。皇族や貴族、また有力大名ら時の権力者が、当時の最高の技術をもって制作させた仏像、仏画、工芸品などを寄進し、その結果、わが国でも最大規模にして最高水準の仏教美術の宝庫が形成され、歴史的・文化的に世界に誇る数々の文化財が今日まで大切に守り伝えられてきたことから「山の正倉院」とも言われる。本展を通して、空海の人となりと高野山の歴史に育まれたわが国の文化の精髓に触れる貴重な機会となった。また、高野山と伊予との関係を示す資料も併せて紹介した。

観覧者数：50,256名

関連行事

オープニングイベント

講話「高野山の歴史と空海の生涯」／講演会「金剛峯寺の文化財」

日 時：10月 1 日（土） 13：30～15：30

講 師：今川泰伸（高野山真言宗宗務総長）／大森照龍（高野山霊宝館長）

場 所：松山市民会館 中ホール

参加人数：228名

記念コンサート 西村直記「天空の聖地」

日 時：10月 2 日（日） 14：00～15：15

出 演：西村直記（作曲家・シンセサイザー奏者）、宮本光研（脚本）*真言宗御室派総本山仁和寺
元・教学部長、渡邊栄子（コンテンポラリーダンサー）withダンススタジオ108、
谷本祥龍詠監・三好圓暁・木藤清明（金剛流御詠歌）、永木 満（演武）

*日本空手松濤連盟永木本部長with道場生一同

場 所：愛媛県民文化会館 サブホール

参加人数：142名

ミュージアムコンサート

日 時：10月9日（日） 14：00～15：00
 出 演：岳人山（尺八奏者、作曲家）
 場 所：愛媛県美術館 講堂
 参加人数：55名

レクチャー「金剛峯寺の名宝」

日 時：①仏像・工芸編 10月22日（土） 14：00～15：00
 ②絵画・書跡編 11月12日（日） 14：00～15：00
 講 師：長井 健（当館専門学芸員・担当係長）
 場 所：愛媛県美術館 講堂
 参加人数：延110名

講演会「金剛峯寺の仏像」

日 時：10月30日（日） 10：30～12：00
 講 師：伊東史朗（和歌山県立博物館長、本展監修者）
 場 所：愛媛県美術館 講堂
 参加人数：40名

レクチャー「中世の高野山と伊予—金剛三昧院文書を中心に」

日 時：11月3日（木・祝） 14：00～15：00
 講 師：土居聡朋（当館学芸課長）
 場 所：愛媛県美術館 講堂
 参加人数：58名

高野山大学講演会in愛媛

日 時：11月6日（日） 14：00～16：00
 講 師：添田隆昭（高野山大学学長）、山口文章（高野山大学事務局長）
 場 所：愛媛県美術館 講堂
 参加人数：50名

対話型鑑賞プログラム

日 時：10月9日（日）、23日（日）、
 11月6日（日）、20日（日）
 各日11：00～11：30
 ナビゲイター：当館作品ガイドボランティア（ほか）
 場 所：愛媛県美術館 研修室
 参加人数：延52名

高野山マスコットキャラクター「こうやくん」撮影会

日 時：10月23日（日）、30日（日）、
 11月6日（日）、13日（日）、
 20日（日）
 各日11：00～12：00／13：30～14：30
 場 所：愛媛県美術館 エントランス
 参加人数：延約400名

関連展示「空海と四国遍路展」

会 期：10月1日（土）～11月20日（日）
 主 催：愛媛県、四国遍路日本遺産協議会
 協 賛：アトムグループ
 場 所：愛媛県美術館 常設展示室2



出品目録

第1章 高野山の歴史

No.	指定	作者	名称	員数	材質技法等	寸法(縦×横 /cm)	時代	所蔵	展示期間	
									10/1 ～23	10/25 ～11/20
1	重文		高野大師行状図画	6巻のうち2巻	紙本着色	各紙高 30.3	鎌倉時代(14世紀)	地藏院	巻四	巻五
2			弘法大師・四社明神像	2幅	絹本着色	(弘法大師像) 128.5×59.0 (四社明神像) 128.3×58.7	南北朝時代 (14世紀)	金剛峯寺	○	○
3	重文		即身成仏品	1巻	紙本墨書	27.7×579.0	平安時代(9世紀)	金剛峯寺	○	
4	重文		金剛峯寺根本縁起	1巻	絹本墨書	50.0×428.8	南北朝時代 建武2年(1335)	金剛峯寺		○
5	重文		高野山奥之院 出土品のうち					金剛峯寺		
			(1) 比丘尼法薬経塚出土品							
			陶製外容器	1口	陶製	総高 36.2 口径 19.4	平安時代(12世紀)		○	○
			銅製経筒	1口	銅製	総高 31.8 口径 14.5	平安時代(12世紀)		○	○
			比丘尼法薬願文	1巻	紙本墨書	27.2×144.0	平安時代 永久2年(1114)		○	
			紺紙銀字比丘尼法薬 供養目録	1巻	紺紙銀字	27.1×60.0	平安時代 永久2年(1114)			○
			(2) 燈籠堂及び周辺出土品							
			白磁四耳壺	1口	磁製	総高 21.5 口径 10.0	南宋時代 (12～13世紀)		○	○
			金銅菩薩立像	1軀	銅鑄造鍍金	像高 20.6	飛鳥時代(7世紀)		○	○
			金銅光背	1面	銅鑄造鍍金	総長 20.6	飛鳥または鎌倉時代 (7～8世紀または12～13世紀)		○	○
6			(3) 御廟及び周辺出土品							
			水辺菊花飛鳥鏡	1面	銅製	径 11.6	平安時代(12世紀)		○	○
6			御公儀上一山図 (高野山絵図)		紙本着色	116.0×249.5	江戸時代 正保3年(1646)	金剛峯寺	○	○
7	重文		舞楽装束類 (天野社伝来)のうち				室町時代 享徳3年(1454)	金剛峯寺		
			(1) 薄紅地薔薇に 反橋文様水干	1領	平絹地刺繍	前丈 94.0 桁 87.5			○	
			(2) 白地菱文様下襲	1領	麻・平絹地 絞染・錦	前丈 108.0 後丈 198.5 桁 94.0				○

第2章 弘法大師空海

No.	指定	作者	名称	員数	材質技法等	寸法(縦×横 /cm)	時代	所蔵	展示期間	
									10/1 ～23	10/25 ～11/20
8			弘法大師坐像(萬日大師) (複製展示)	1軀	陶製	像高 83.5	平成26年(2014) 原資料: 室町～桃 山時代(16世紀)	金剛峯寺	○	○
9	国宝	空海 筆	聾瞽指帰	2巻のうち1巻	紙本墨書	(上巻) 27.8× 1059.8	平安時代 (8～9世紀)	金剛峯寺	10/1～14、 11/7～20 ※上記以外 は複製を 展示	
10	国宝		諸尊仏龕	1基	木造素地	総高 23.2	唐時代(8世紀)	金剛峯寺	○	○
11	国宝	定智 筆	善女龍王像	1幅	絹本着色	164.3×111.7	平安時代 久安元年(1145)	金剛峯寺	○	
12	重文		山水屏風	6曲1隻	絹本着色	(各扇) 142.8× 40.4	鎌倉時代(13世紀)	金剛峯寺		○
13			弘法大師入定図	1幅	綾本着色	109.2×51.2	室町～江戸時代 (16～17世紀)	金剛峯寺	○	○

第3章 密教の教えとかがたち

No.	指定	作者	名称	員数	材質技法等	寸法（縦×横 /cm）	時代	所蔵	展示期間	
									10/1 ～23	10/25 ～11/20
14	重文		板彫胎藏曼荼羅	2面	木造素地	（甲面）19.3×16.3 （乙面）19.2×15.3	唐時代（8～9世紀）	金剛峯寺	○	○
15	重文		大日如来坐像	1軀	木造漆箔	像高 98.5	平安時代 仁和3年（887）	金剛峯寺	○	○
16	重文		阿弥陀如来坐像	1軀	木造彩色	像高 87.5	平安時代（12世紀）	金剛峯寺	○	○
17	重文		愛染明王像	1幅	絹本着色	193.4×110.8	鎌倉時代（13世紀）	金剛峯寺	○	
18	重文		天弓愛染明王坐像	1軀	木造彩色	像高 50.5	平安時代（12世紀）	金剛峯寺	○	○
19	重文		不動明王坐像	1軀	木造彩色	像高 85.5	鎌倉時代（13世紀）	金剛峯寺	○	○
20			真言八祖像のうち弘法大師像	1幅	絹本着色	182.0×128.8	室町時代（15世紀）	金剛峯寺	○	○
21			両界曼荼羅図	2幅	絹本着色	（胎藏界）177.0×153.1（金剛界） 177.1×153.1	桃山～江戸時代 （16～17世紀）	金剛峯寺	○	○
22	重文		四天王独鈷鈴	1口	銅鑄造鍍金	高 25.3 口径 6.0	唐時代（8世紀）	金剛峯寺	○	○
23	重文		独鈷杵	1口	銅鑄造鍍金	全長 25.2	唐時代または平安時代（8～9世紀）	金剛峯寺	○	○
24	重文		三鈷杵	1口	銅鑄造鍍金	長 23.8	平安時代（11世紀）	金剛峯寺	○	○
25	重文		五鈷鈴	1口	銅鑄造鍍金	高 23.9 口径 7.9	平安時代（12世紀）	金剛峯寺	○	○
26	重文		五鈷杵	1口	銅鑄造鍍金	全長 23.0	平安時代（12世紀）	金剛峯寺	○	○
27	重文		独鈷杵	1口	銅鑄造鍍金	長 17.3	鎌倉時代（13世紀）	金剛峯寺	○	○
28	重文		成身会八葉蒔絵厨子	1基	木製漆塗	高 34.0 幅 23.3 奥行 11.2	鎌倉時代（13世紀）	金剛峯寺	○	

第4章 聖地へのいざない — さまざまな信仰 —

No.	指定	作者	名称	員数	材質技法等	寸法（縦×横 /cm）	時代	所蔵	展示期間	
									10/1 ～23	10/25 ～11/20
29	重文		毘沙門天立像（胎内仏）	1軀	木造素地	像高 32.7	平安時代（11～12世紀）	金剛峯寺	○	○
30	重文		紺紙金字一切経（荒川経）	3575巻のうち2巻	紺紙金字	紙高 23.2	平安時代（12世紀）	金剛峯寺		
			（1）小品般若経巻第五						○	
			（2）仏説阿弥陀経巻下							○
31	重文		紺紙金字法華一品経（開結共）	28巻のうち1巻	紺紙金字	（観普賢経） 紙高 27.0	平安時代（12世紀）	金剛峯寺		○
32	重文		宋版一切経	3750帖のうち2帖	紙本木版	各 28.8×11.5	南宋時代（12～13世紀）	金剛峯寺		
			（1）大般若経巻第一						○	
			（2）大方等陀羅尼経巻第一							○
33	国宝	運慶作	八大童子立像のうち	8軀のうち2軀	木造彩色		鎌倉時代（12世紀）	金剛峯寺		
			（1）恵光童子像			像高 96.1			○	○
			（2）烏俱婆譏童子像			像高 110.8			○	○
34	重文	快慶作	四天王立像のうち	4軀のうち2軀	木造彩色		鎌倉時代（12～13世紀）	金剛峯寺		
			（1）持国天像			像高 132.4			○	○
			（2）広目天像			像高 135.2			○	○
35	国宝		『宝簡集』巻第六 北条義時請文	54巻のうち1巻	紙本墨書	33.6×50.7	鎌倉時代 貞応3年（1224）か	金剛峯寺	10/15～11/6	
36	重文		厨子入金銅水神像	1軀	銅鑄造鍍金	像高 10.5 厨子高 26.3	室町時代（14世紀）	金剛峯寺		○
37			金銅華瓶	1口	銅鑄造鍍金	口径 7.0 高 16.1 胴径 9.2	鎌倉時代（13世紀）	金剛峯寺	○	○
38			紺綾錦弘法大師像・阿弥陀如来像	2枚	錦	（弘法大師像） 41.5×26.5 （阿弥陀如来像） 48.5×26.5	鎌倉時代（13世紀）	金剛峯寺	○	○
39	和歌山県指定	富岡鉄斎筆	山水図（餐水喫霞図）	1幅	紙本墨画	190.1×80.5	大正9年（1920）	金剛峯寺	○	○

第5章 高野山と伊予

No.	指定	作者	名称	員数	材質技法等	寸法(縦×横 /cm)	時代	所蔵	展示期間	
									10/1 ～23	10/25 ～11/20
40-1	国宝		『又統宝簡集』巻 第四百十二中 大田庄地頭大田康継同康 連署陳状案	167巻9 冊のうち 1巻	紙本墨書	31.4×78.8	鎌倉時代 貞応2年(1223)	金剛峯寺	○	
40-2	国宝		『宝簡集』巻第八 大田庄嘉禎検注目録	54巻のうち 1巻	紙本墨書	27.0×363.8	鎌倉時代 正安2年(1300)	金剛峯寺		○
41			伝河野氏当主肖像					高野山 別格本山 金剛三昧 院		
			(1) 伝河野通直 (弾正少弼) 像	1幅	絹本著色	110.0×38.4	江戸時代 天明4年(1784) 写		○	○
			(2) 伝河野通宣 (左京大夫) 像	1幅	絹本著色	110.0×38.4	江戸時代 天明4年(1784) 写		○	○
			(3) 伝河野通直(牛福) 像	1幅	絹本著色	90.4×38.6	江戸時代(18世紀)		○	○
42			上蔵院文書			紙高 26.8 ほか		高野山 別格本山 金剛三昧 院		
			河野通直 (弾正少弼) 宿坊證文	1巻	紙本墨書		室町時代 天文13年(1544)		○	○
			河野通直母等 連署宿坊證文	1巻	紙本墨書		桃山時代 天正16年(1587)		○	○
			河野通春書状	1巻	紙本墨書		室町時代(15世紀) 7月27日付		○	○
			村上通康書状	1巻	紙本墨書		室町時代(16世紀) 6月15日付		○	○
			村上吉継書状	1巻	紙本墨書		室町時代(16世紀) 正月24日付		○	○
			平岡通資書状	1巻	紙本墨書		室町時代(16世紀) 6月9日付		○	○
			河野牛福(通直) 書状	1巻	紙本墨書		室町時代(16世紀) 10月5日付		○	○
			永寿書状	1巻	紙本墨書		桃山時代(16世紀) 5月6日付		○	○
			弾正少弼通直家頼記	1帖	紙本墨書				○	○
			加藤嘉明書状	1巻	紙本墨書		桃山時代 慶長12年(1607)		○	○
			河野家御過去帳	1帖	紙本墨書				○	○
			豫州河野系図	1帖	紙本墨書				○	○
			松山侯勤向記録	1帖	紙本墨書		江戸時代(19世紀)		○	○

中川八郎没後 100 年 発見された日本の風景 美しかりし明治への旅

会 期： 令和 4 年 12 月 1 日（木）－令和 5 年 1 月 29 日（日）（47 日間）
主 催： 愛媛県美術館、京都国立近代美術館
協 賛： 大一ガス株式会社
後 援： 愛媛新聞社、朝日新聞松山総局、読売新聞松山支局、毎日新聞松山支局、産経新聞社、NHK 松山
 拠点放送局、南海放送、テレビ愛媛、あいテレビ、愛媛朝日テレビ、愛媛 CATV、FM 愛媛、え
 ひめりビング新聞社
会 場： 愛媛県美術館 常設展示室 1・2

趣 旨

令和 4 年（2022）は明治最後の年である 1912 年から 110 年後にあたる。本展では、西洋諸国との関りから、日本全体が大きく変容し、また自らの意識も外に向かっていくこの時代の日本の風景を、画家のまなざしがどの様にとらえたのか、ひとりのコレクターが海外で収集した水彩画や油彩画計 227 点によって紹介した。

これらの中には、内子町出身の洋画家、中川八郎（1877～1922）の初期代表作《雪林帰牧》をはじめとした 13 点の作品が含まれていることから、没後 100 年の節目に、本展にあわせて当館の中川作品もコレクション展にて一挙公開し、改めてその魅力を伝えることを意図した。

時代という逆らえないうねりの中で、画家たちが発見した風景は、目新しいものではなく、そこあった日常の暮らしであった。それらは、コロナ禍において、改めてこれまでの暮らしを見つめ直している私たちの「いま」に重なるものもあるのではないだろうか。明治日本の風景を、旅をする様に楽しんでいただく機会となった。

観覧者数： 3,054 名

関連行事

記念講演会「明治の東西美術文化交流 久松定謨と黒田清輝を中心に」

日 時： 12 月 3 日（土） 14：00～16：00
講 師： 梶岡秀一（京都国立近代美術館主任研究員、本展企画者）
場 所： 愛媛県美術館 講堂
参加人数： 32 名

基礎からの水彩画講座

日 時： 12 月 10 日（土） 10：30～15：30
講 師： 井戸啓司（水彩画家、紫蘭の会主宰）
場 所： 萬翠荘、愛媛県美術館 南館 実技教室
参加人数： 18 名

フロアレクチャー

日 時： 12 月 17 日（土）、1 月 15 日（日）
 各日 14：00～15：00
講 師： 喜安嶺（当館主任学芸員）
場 所： 愛媛県美術館 常設展示室 1・2
参加人数： 延 20 名

レクチャー「中川八郎、8つの物語」

日 時：1月21日（土） 14：00～15：30

講 師：喜安嶺（当館主任学芸員）

場 所：愛媛県美術館 研修室

参加人数：23名

対話型鑑賞プログラム

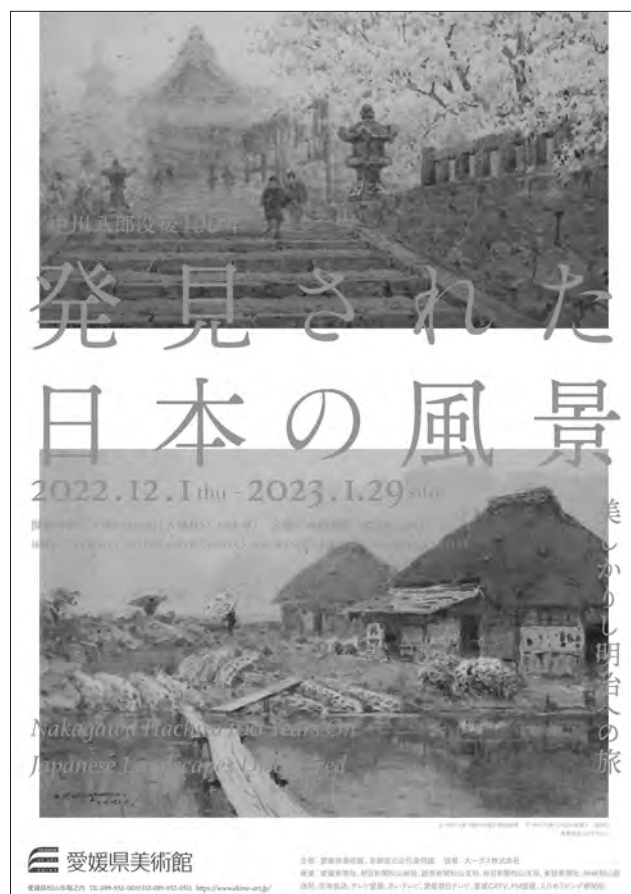
日 時：12月4日（日）、18日（日）、1月8日（日）、22日（日）

各日11：00～11：30

ナビゲイター：当館作品ガイドボランティア

場 所：愛媛県美術館 研修室

参加人数：延40名



出品目録

第0章 序 明治洋画史を眺める

No.	作家	作品名	制作年		技法・材質	寸法 (縦×横/c m)
1	田村宗立	蒙古襲来図			絹本着色	164.5×284.5
2	五姓田芳柳	かるた遊び			油彩/画布	49.5×71.0
3	山本芳翠	月下波上の船			鉛筆、墨/紙	49.0×66.0
4	川村清雄	黄海之戦	1897	明治30頃	油彩/画布	52.3×97.0
5	小山正太郎	秋景図			油彩/画布	54.4×66.8
6	黒田清輝	野辺	1894	明治27	油彩/画布	38.5×30.8
7	中川八郎	雪林帰牧	1897	明治30	木炭/紙	99.0×148.0

第1章 明治の日本を行く

No.	作家	作品名	制作年		技法・材質	寸法 (縦×横/c m)
8	ジョン・ヴァーレー・ジュニア	東京の芝の眺め	1891	明治24	水彩/紙	26.3×36.0
9	柳(高橋)源吉	芝増上寺	1887	明治20	油彩/画布	42.5×59.5
10	ヘレン・ハイド	新宿十二社の桜			水彩/紙	29.7×24.2
11	ジョン・ヴァーレー・ジュニア	春の東京	1891	明治24	油彩/板	27.3×33.6
12	エラ・デュ・ケイン	東京の庭園			水彩/紙	39.5×24.0
13	大下藤次郎	東京の庭園	1902	明治35	水彩/紙	31.5×48.0
14	鹿子木孟郎	上野不忍池			水彩/紙	46.0×36.0
15	O・トレイシー	上野東照宮	1874	明治7	水彩/紙	37.4×52.2
18	五姓田義松	亀戸の藤浪			水彩/紙	21.6×34.8
19	磯部忠一	堀切菖蒲園	1905	明治38	水彩/紙	23.3×32.5
20	渡辺豊洲	東京の河口	1902	明治35	水彩/紙	24.4×33.0
23	渡辺豊洲	房州鴨川	1903	明治36	水彩/紙	32.5×49.5
24	トーマス・ホジソン・リデル	日光の杉並木			水彩/紙	37.2×26.3
25	丸山晚霞	日光の杉並木			水彩/紙	50.0×33.0
26	五百城文哉	日光の神橋			水彩/紙	34.0×51.0
27	T・タブチ	日光東照宮の石鳥居			水彩/紙	48.0×32.5
28	ロバート・ウィアー・アラン	日光東照宮表門	1907	明治40	水彩/紙	50.5×35.5
29	中川八郎	東照宮			水彩/紙	50.5×70.5
30	五百城文哉	日光東照宮の神庫			水彩/紙	32.0×63.0
31	小杉未醒	日光東照宮陽明門			水彩/紙	49.0×65.0
32	五百城文哉	日光東照宮の銅鳥居			水彩/紙	61.2×50.0
34	五百城文哉	日光東照宮陽明門	1898	明治31	油彩/画布	66.5×89.0
35	河久保正名	日光東照宮陽明門			水彩/紙	33.7×50.7
36	ジョン・ヴァーレー・ジュニア	日光東照宮鑄拔門	1890	明治23	水彩/紙	52.7×35.7
37	五百城文哉	日光山輪王寺の常行堂			油彩/画布	42.3×65.6
39	ハリー・ハンフリー・ムーア	日光の宿			油彩/板	26.5×15.5
40	アルフレッド・パーソンズ	雨の日			油彩/板	16.5×30.2
41	五百城文哉	日光の村			水彩/紙	33.0×50.7
42	五百城文哉	花嫁の行列			水彩/紙	49.5×67.0
43	アルフレッド・パーソンズ	日光中禅寺湖の宿			水彩/紙	45.0×28.0
44	G・ブロッケルバンク	湖畔の宿			水彩/紙	23.7×37.1
45	チャールズ・A・ワーグマン(小澤一郎)	中禅寺湖畔の宿	1900	明治33	油彩/画布	39.5×66.0
46	モンタギュー・スマイス	湖畔の宿			水彩/紙	36.5×27.0
47	モンタギュー・スマイス	湖畔			水彩/紙	33.6×28.0
48	五姓田義松	北陸・東海道御巡幸記録画 善光寺山門			油彩/板	30.5×43.5
49	五姓田義松	北陸・東海道御巡幸記録画 天然瓦斯ヲ燈火ニ使用ノ図			油彩/画布	30.0×43.5
50	五姓田義松	北陸・東海道御巡幸記録画 越前敦賀港図			油彩/板	30.0×43.5
51	五姓田義松	北陸・東海道御巡幸記録画			油彩/板	31.0×43.5
52	五姓田義松	北陸・東海道御巡幸記録画 三島大社雨中之図			油彩/板	30.0×43.5
54	渡辺豊洲	木曽の本山宿	1903	明治36	水彩/紙	48.0×31.2

No.	作家	作品名	制作年		技法・材質	寸法 (縦×横/cm)
55	丸山晚霞	洗馬			水彩/紙	50.0×32.5
56	丸山晚霞	大日堂			水彩/紙	50.0×33.5
59	小山正太郎	露梨子村山逕の松涛	1908	明治41	水彩、鉛筆/紙	29.0×44.5
61	河合新蔵	青梅街道			水彩/紙	31.8×48.6
62	大下藤次郎	青梅の千ヶ瀬の庭園	1901	明治34	水彩/紙	43.0×30.0
63	吉田博	仙桃山の門			水彩/紙	49.0×32.5
65	大下藤次郎	小丹波			水彩/紙	32.2×48.8
66	吉田博	小丹波村			鉛筆/紙	25.7×36.0
67	大下藤次郎	相模の小倉	1900	明治33	水彩/紙	31.3×44.3
69	チャールズ・ワーグマン	神奈川			油彩/画布	26.0×40.3
70	チャールズ・クーパー＝キング	横浜、東海道への途上			水彩/紙	18.5×26.2
71	チャールズ・クーパー＝キング	横浜の金沢、丘からの眺望			水彩/紙	16.5×26.0
72	チャールズ・クーパー＝キング	横浜、宿営地に近い現地民の農村	1865	慶応元	水彩/紙	18.9×25.3
73	五姓田芳柳(2世)	横浜居留地			水彩/紙	32.5×48.5
74	中川八郎	泊船			水彩/紙	55.0×73.0
75	ハリー・ハンフリー・ムーア	横浜の宿屋の厨房			油彩/板	26.0×14.5
77	チャールズ・ワーグマン	七里ヶ浜			油彩/画布	22.5×30.0
79	エーリヒ・キプス	鎌倉大仏			油彩/画布	79.5×99.2
80	ロバート・チャールズ・ゴフ	江の島	1877	明治10	水彩/紙	50.5×34.0
81	フランク・ベレスフォード	大磯の岩崎家別邸の庭	1908	明治41	油彩/画布	31.0×46.0
82	三宅克己	小田原			水彩/紙	34.4×50.8
83	コンスタンス・フレデリカ・ゴードン＝カミング	箱根の大地獄(硫黄温泉)を望んで宮ノ下へ向かう			水彩/紙	31.5×45.4
84	コンスタンス・フレデリカ・ゴードン＝カミング	富士山と箱根湖	1879	明治12	水彩/紙	37.7×62.0
85	ウォルター・フェイン	地藏と富士山	1874	明治7	水彩/紙	36.7×61.5
86	フランク・ベレスフォード	箱根	1908	明治41	油彩/板	20.5×27.0
87	アルフレッド・パーソンズ	雪中の仏像			油彩/画布	47.0×64.0
88	ジョルジュ・フェルディナン・ビゴー	伊豆修善寺の菊屋の厨房	1887	明治20	油彩/ボード	31.5×39.0
89	ジョルジュ・フェルディナン・ビゴー	伊豆の国	1887	明治20頃	水彩/紙	26.0×17.8
91	高橋勝蔵	伊豆下田	1903	明治36	水彩/紙	29.5×46.8
92	加藤英華	一新講			水彩/紙	32.2×21.8
93	ロバート・ウィアー・アラン	富士山	1908	明治41	油彩/画布	76.0×152.0
94	ウィリアム・シンプソン	富士山	1889	明治22	水彩/紙	37.2×26.5
95	吉田ふじを	富士山	1903	明治36	水彩/紙	34.0×51.0
96	吉田博	富士山麓の五月幟			水彩/紙	9.5×14.3
97	五百城文哉	富士山麓を行く荷馬			水彩/紙	65.0×44.0
98	白滝幾之助	東海道の佐野	1905	明治38	水彩/紙	36.0×53.0
99	アルフレッド・パーソンズ	富士山			水彩/紙	32.0×49.6
100	アルフレッド・イースト	“さよなら”			水彩/紙	23.4×34.4
101	五百城文哉	富士山			水彩/紙	62.5×99.0
102	河合新蔵	富士山			水彩/紙	31.6×46.3
103	アルフレッド・イースト	朝霧に霞む富士山			水彩/紙	51.8×32.2
104	渡辺豊洲	田子の浦			水彩/紙	32.5×49.5
105	渡辺文三郎	東海道薩埵峠之図	1895	明治28	油彩/画布	59.0×86.0
106	チャールズ・ワーグマン	富士山と貴人の行軍	1871	明治4	油彩/画布	29.0×54.5
107	ジョン・ヴァーレー・ジュニア	農村を抜けて美濃へ行く	1890	明治23	水彩/紙	25.7×35.3
108	中川八郎	紀州田辺	1907	明治40	水彩/紙	33.7×50.7
109	ロバート・チャールズ・ゴフ	石山から琵琶湖を望む	1877	明治10	水彩/紙	10.0×18.3
111	チャールズ・エドウィン・フリップ	石山寺			水彩/紙	30.2×45.8
112	チャールズ・エドウィン・フリップ	琵琶湖に近い村			水彩/紙	24.6×35.7
113	フランク・ディロン	京都郊外の茶屋			水彩/紙	28.2×40.5
114	ロバート・ウィアー・アラン	門前			水彩/紙	35.3×49.0
115	沼辺強太郎	神社の門			水彩/紙	50.4×33.5
116	ジョン・ヴァーレー・ジュニア	祇園から山々を望む	1891	明治24	水彩/紙	51.5×35.2
117	フランク・ベレスフォード	京都の芸妓			油彩/画布	64.0×76.5
118	フランク・ベレスフォード	京都の茶屋			油彩/紙	35.7×25.2
119	ウォルター・ティンデル	ユダの木と清水寺			水彩/紙	35.2×27.7

No.	作家	作品名	制作年		技法・材質	寸法 (縦×横/cm)
120	沼辺強太郎	清水寺			水彩/紙	32.2×48.8
121	沼辺強太郎	清水寺			水彩/紙	46.7×31.4
122	沼辺強太郎	清水坂			水彩/紙	30.0×49.5
123	満谷国四郎	洛東の陶器販売所			水彩/紙	33.0×49.5
125	中川八郎	春日大社二之鳥居			水彩/紙	51.4×34.8
126	満谷国四郎	春日大社の巫女たち			水彩/紙	34.0×50.2
127	モンタギュー・スマイス	多宝塔			水彩/紙	23.8×34.4
128	渡辺豊洲	大阪の天保山			水彩/紙	48.1×59.7
129	ジョン・ヴァーレー・ジュニア	宮島の千畳閣と五重塔	1890	明治23	水彩/紙	35.2×50.5
130	エラ・デュ・ケイン	宮島			水彩/紙	29.2×44.2
131	カール・ザルツマン	四国の飯野山(讃岐富士)	1879	明治12	油彩/画布	52.0×79.0
132	丸山晚霞	宇田の浜辺			水彩/紙	35.0×50.5
133	チャールズ・クーパー＝キング	長崎、牧島の湾岸への途上			水彩/紙	18.7×27.5
134	チャールズ・クーパー＝キング	長崎、鎮西大社の石鳥居			水彩/紙	27.3×23.5
135	チャールズ・ワグマン	一口香の店			水彩/紙	17.0×24.0
136	F・L・チャップマン	長崎	1892	明治25	水彩/紙	23.6×35.5
137	渡辺豊洲	山岳溪流図			水彩/紙	67.2×100.0
138	渡辺豊洲	川辺			水彩/紙	48.5×32.0
139	渡辺豊洲	海辺の夕			水彩/紙	31.7×48.4
140	加藤英華	海の眺め			水彩/紙	24.2×96.0
141	加藤英華	漁村の眺め			水彩/紙	21.5×99.5
142	安藤伸太郎	海辺の松林	1901	明治34	油彩/画布	47.0×87.0
143	吉田博	和田の綱渡し			水彩/紙	21.0×48.5
144	チャールズ・ワグマン	街道			水彩/紙	23.0×33.3
145	チャールズ・ワグマン	宿場町			水彩/紙	23.0×33.4
146	チャールズ・ワグマン	土間			水彩/紙	24.8×31.7
147	チャールズ・ワグマン	見物する人々			水彩/紙	25.2×34.8
148	アルフレッド・イースト	雨後の傘干し			水彩/紙	24.5×36.0
150	吉田博	門前町			水彩/紙	23.5×32.5
152	満谷国四郎	宿場町の五月幟			水彩/紙	32.5×49.0
153	満谷国四郎	鳥居前			水彩/紙	31.6×48.8
155	中川八郎	大八車と馬			水彩/紙	22.5×32.0
157	チャールズ・A・ワグマン (小澤一郎)	雪降る宿場町	1904	明治37	水彩/紙	48.0×66.0
159	永地秀太	宿場町	1901	明治44	油彩/画布	30.2×40.5
161	河久保正名	風雨の大橋			水彩/紙	31.5×47.5
162	アーネスト・ワズワース・ロングフェロー	寺の門	1903	明治36	油彩/画布	30.7×46.5
163	ジョン・ヴァーレー・ジュニア	寺の門	1890	明治23	油彩/板	28.5×34.5
164	永地秀太	神社の門	1897	明治30	油彩/画布	30.5×49.5
165	中川八郎	桜吹雪	1905	明治38	水彩/紙	34.7×51.3
166	中川八郎	境内の桜	1905	明治38	水彩/紙	31.3×46.5
167	中川八郎	雪の境内			水彩/紙	36.0×63.5
169	クレメント・パーマー	門前の茶屋			水彩/紙	20.0×30.0
170	ジョン・ヴァーレー・ジュニア	茶屋	1891	明治24	油彩/板	33.0×26.3

第2章 人々の暮らしを見る

No.	作家	作品名	制作年		技法・材質	寸法 (縦×横/cm)
171	山村柳祥	和装の西洋の女			絹本着色	129.5×47 (左) 129.5×47 (右)
172	中山年次	帯を結ぶ日本の女			絹本着色	154×54.5
173	小笠原豊涯	日傘をさす少年	1903	明治36	油彩/絹	157.0× 84.0
174	チャールズ・ワグマン	日傘をさす女	1876	明治9	水彩/紙	45.3×29.8
175	五姓田義松	舞妓			水彩/紙	29.7×21.8
176	メアリー・ローズ・ヒル・バートン	傘をさす母子			水彩/紙	28.5×19.0
177	満谷国四郎	傘をさす子守の少女			水彩/紙	49.5×32.0
178	本多錦吉郎	障子から覗く少女			水彩/紙	62.5×23.1

No.	作家	作品名	制作年		技法・材質	寸法 (縦×横/cm)
179	松井昇	花籠を持つ少女			水彩/紙	34.3×23.8
180	高橋勝蔵	少女像	1905	明治38	油彩/板	32.5×23.5
181	笠木治郎吉	提灯屋の店先			水彩/紙	100×67.5
182	河久保正名	提灯屋	1905	明治38	水彩/紙	50.5×32.7
183	五百城文哉	猿曳			水彩/紙	33.1×49.7
184	モーティマー・メンペス	雨			グワッシュ、水彩、鉛筆/紙	32.0×40.7
185	モーティマー・メンペス	芝居小屋			油彩、鉛筆/板	33.0×41.8
186	モーティマー・メンペス	道成寺			油彩/画布	44.5×30.5
187	チャールズ・エドウィン・フリップ	戎座			水彩/紙	24.7×35.7
188	チャールズ・エドウィン・フリップ	夏の夕			鉛筆、水彩/紙	30.0×45.0
189	チャールズ・エドウィン・フリップ	赤地蔵尊			水彩/紙	30.2×45.8
190	ハリー・ハンフリー・ムーア	井戸への途上	1881	明治14	油彩/板	19.0×13.0
191	ハリー・ハンフリー・ムーア	子守の子どもたち			油彩/板	18.6×12.1
192	ハリー・ハンフリー・ムーア	子守の少年	1881	明治14	油彩/板	19.5×13.5
193	ハリー・ハンフリー・ムーア	雨の子守の少女たち			油彩/板	18.5×12.0
194	ハリー・ハンフリー・ムーア	三味線の稽古	1881	明治14	油彩/板	13.0×19.5
195	ハリー・ハンフリー・ムーア	門前の芸能者			油彩/板	18.5×12.0
196	ハリー・ハンフリー・ムーア	裁縫をする女性	1881	明治14	油彩/板	12.0×18.5
197	ハリー・ハンフリー・ムーア	食事の宿屋の番頭	1881	明治14	油彩/板	12.5×18.5
198	ハリー・ハンフリー・ムーア	駕籠舁	1881	明治14	油彩/板	27.5×16.0
199	ハリー・ハンフリー・ムーア	駕籠舁			油彩/板	26.5×15.3
200	ウィリアム・シンプソン	明けの明星	1874	明治7	水彩/紙	27.5×21.5
201	小林清親	厨ノ図			油彩/紙	29.2×42.7
203	五百城文哉	秋祭			水彩/紙	34.5×51.5
204	ジョン・ヴァーレー・ジュニア	宮詣	1891	明治24	油彩/画布	27.6×33.3
205	安藤伸太郎	宮詣	1887	明治20	油彩/板	53.3×84.0
206	加藤英華	甘酒の棒手振			水彩/紙	31.8×22.2
207	ジョン・ヴァーレー・ジュニア	商店	1891	明治24	油彩/板	26.3×33.0
208	ジョン・ヴァーレー・ジュニア	海辺の街	1890	明治23	水彩/紙	38.0×27.5
209	ジョン・ヴァーレー・ジュニア	風景	1891	明治24	油彩/板	27.0×33.5
210	ウインクワース・アラン・ゲイ	松の大樹	1880	明治13	油彩/板	35.5×55.5
212	笠木治郎吉	新聞配達人			水彩/紙	51.0×33.3
213	笠木治郎吉	狩人			水彩/紙	50.0×22.5
214	河久保正名	田植え			水彩/紙	30.3×45.1
215	本多錦吉郎	豊穰への道			油彩/画布	88.0×134.5
216	笠木治郎吉	帰途の母子	1912	明治45	水彩/紙	63.5×45.5
217	笠木治郎吉	収穫			水彩/紙	68.1×101.0
218	笠木治郎吉	農家の少女たち			水彩/紙	47.5×31.0
220	五姓田芳柳 (2世)	入浴の女たち			水彩/紙	26.0×34.2
221	五姓田芳柳 (2世)	川辺の洗濯場			水彩/紙	32.3×66.2
222	五百城文哉	農家の縁側の行商人			水彩/紙	63.5×95.5
223	ジョン・ヴァーレー・ジュニア	子守の少女たち	1890	明治23	水彩/紙	36.7×54.2
224	ウォルター・ティンデル	子守の少女			水彩/紙	37.5×27.8
225	渡辺豊洲	子守の少女	1906	明治39	水彩/紙	33.2×50.4
226	渡辺豊洲	農家の庭	1904	明治37	水彩/紙	33.0×49.8
227	満谷国四郎	農家の庭			水彩/紙	23.0×32.0
228	中川八郎	水路			水彩、パステル/紙	38.8×56.4
230	吉田博	霧の田園			水彩/紙	24.0×31.8
231	吉田博	雨後の道	1903	明治36	水彩/紙	36.0×50.0
232	吉田博	月下の水車小屋			水彩/紙	21.0×32.0
233	吉田博	夜の灯			水彩/紙	49.0×65.5
234	吉田博	海に見える風景			水彩/紙	48.0×30.5
235	野崎華年	山道を帰る			水彩/紙	64.0×46.5
236	小山正太郎	村道			鉛筆/紙	27.2×45.0
237	鹿子木孟郎	断崖上の小径			水彩/紙	34.8×51.0
238	クレメント・パーマー	漁村	1901	明治34	水彩/紙	15.2×23.7

No.	作家	作品名	制作年		技法・材質	寸法 (縦×横/cm)
239	笠木治郎吉	牡蠣を採る少女			水彩/紙	49.0×32.0
240	笠木治郎吉	漁網を編む男性			水彩/紙	67.8×50.6
241	笠木治郎吉	漁家の休憩			水彩/紙	50.0×71.4
243	河合新蔵	漁船			水彩/紙	33.0×50.0
247	中川八郎	湖上の船	1912	明治45	油彩/画布	32.0×44.0

第3章 花に満たされる

No.	作家	作品名	制作年		技法・材質	寸法 (縦×横/cm)
249	モーティマー・メンペス	柘榴の乙女			油彩/ボード	40.0×31.8
250	アルフレッド・エドワード・エムスリー	子守			水彩/紙	25.0×17.0
251	中山年次	花を持つ女			水彩/紙	58.5×25.5
252	笠木治郎吉	花を持つ少女			水彩/紙	49.0×33.0
253	ロバート・ウィアー・アラン	舟遊			水彩/紙	35.2×25.0
254	エラ・デュ・ケイン	庭園の喫茶			水彩/紙	40.2×24.8
255	エラ・デュ・ケイン	菖蒲の園			水彩/紙	39.0×24.2
256	ジェイムズ・グレイグ	藤花の庭			水彩/紙	51.0×40.5
257	メアリー・ローズ・ヒル・バートン	鐘楼と母子			水彩/紙	27.8×19.9
258	メアリー・ローズ・ヒル・バートン	茶屋			水彩/紙	19.8×27.5
259	加藤英華	湖畔の茶屋			水彩/紙	96.3×63.7
260	丸山晚霞	湖畔の茶屋			水彩/紙	65.5×95.0
261	吉田博	観桜の茶屋			水彩/紙	34.4×51.6
262	吉田博	観桜の茶屋			水彩/紙	27.1×37.8
265	渡辺豊洲	湖畔の桜	1905	明治38	水彩/紙	33.0×48.7
266	アルフレッド・イースト	海に見える春景			水彩/紙	26×36.5
267	前川千帆	農家の庭			水彩/紙	49.0×67.0
269	大下藤次郎	竹林の白百合	1902	明治35	水彩/紙	32.0×48.5
271	中川八郎	蓮池			水彩/紙	32.3×49.0
272	中川八郎	川辺の茶屋			水彩/紙	32.0×48.2
273	丸山晚霞	川辺の宿	1903	明治36	水彩/紙	22.0×29.0
274	丸山晚霞	川辺の宿			水彩/紙	32.0×48.5
275	丸山晚霞	川辺の宿			水彩/紙	51.3×35.0
276	吉田ふじを	池畔の花菖蒲	1909	明治42	水彩/紙	99.5×64.0
277	吉田ふじを	池畔の桃	1903	明治36	水彩/紙	48.5×32.5
278	加藤英華	菊の畑			水彩/紙	48.0×65.0
279	満谷国四郎	藤棚と茶屋			水彩/紙	27.0×49.5
281	河久保正名	庭園の散策			水彩/紙	32.6×48.6
282	丸山晚霞	花咲く庭園			水彩/紙	34.6×51.0
283	丸山晚霞	初夏の庭園	1904	明治37	水彩/紙	32.0×25.5
284	丸山晚霞	菊の花咲く道			水彩/紙	99.0×66.0
285	丸山晚霞	神苑	1906	明治39	水彩/紙	23.5×32.5
286	笠木治郎吉	菊の畑			水彩/紙	33.0×50.0

追悼 白川義員写真展 「天地創造」

会 期： 令和5年1月14日（土）－3月12日（日）（50日間）
主 催： 追悼 白川義員写真展「天地創造」実行委員会（愛媛県、愛媛新聞社、愛媛朝日テレビ）
企画協力： 東京都写真美術館
協 力： 凸版印刷、小学館
協 賛： 伊予銀行、大一ガス、大王製紙、鹿島建設、梅錦山川
後 援： 愛媛県教育委員会、四国中央市、四国中央市教育委員会、松山市、松山市教育委員会、愛媛県市町教育委員会連合会、（公財）愛媛県文化振興財団、愛媛写真家協会、愛媛県美術会、愛媛美術教育連盟、愛媛県文化協会、NHK松山放送局、南海放送、テレビ愛媛、あいテレビ、愛媛CATV、四国中央テレビ、愛媛県CATV協議会、FM愛媛
会 場： 愛媛県美術館 企画展示室

趣 旨

愛媛県四国中央市出身の写真家・白川義員（1935-2022）は、世界各地の荘厳な大自然を被写体とし、「地球再発見による人間性の回復へ」をテーマに長年発表を続けた。2022年4月に逝去し、追悼展となった本展では「アルプス」「ヒマラヤ」「アメリカ大陸」「聖書の世界」「中国大陸」「神々の原風景」「仏教伝来」「南極大陸」「世界百名山」「世界百名瀑」「永遠の日本」に続く、全12シリーズの集大成であり、また最期のシリーズとなった「天地創造」を紹介した。近年注目されるアメリカの景勝地「ザ・ウェーブ」やボリビアのユニ塩湖他80歳を超えて撮影した最晩年の作品も含め、およそ50年にわたり撮影した作品の中から作家本人が選んだ196点を展示した。

観覧者数：13,027名

関連行事

追悼記念トークセッション「白川義員がとらえたもの」

日 時：1月14日（土） 14：00～15：30
講 師：関次和子（学芸員・東京都写真美術館事業企画課長）、村上仁一（合同会社 PCT／雑誌『写真』編集長）
進 行：杉山はるか（当館専門学芸員）
場 所：愛媛県美術館 講堂
定 員：60名（要申込）
参加人数：60名

フロアレクチャー

日 時：2月4日、3月4日（各土）14：00～15：00
講 師：杉山はるか（当館専門学芸員）
場 所：愛媛美術館 展示室
定 員：各10名（先着順）
参加人数：延20名

カメラ・オブスクラ公開制作

日 時：2月18日（日） 14：00～17：00
講 師：金成めい（当館学芸員）
場 所：愛媛県美術館 2階展望ロビー
 ※申込不要
参加人数：13名

出品目録

第1章
嶺上晴雲
山岳・火山

Mountains and Volcanoes

No.	題 名	Title
1-01	K2 8611m 北稜 (パキスタン・中国)	K2 North Ridge (Pakistan, China)
1-02	ヒマラヤ連山 (ネパール・中国)	The Himalayas (Nepal, China)
1-03	マカルー東面 (ネパール)	Mt. Makalu (Nepal)
1-04	ダウラギリ I 峰 (ネパール)	Mt. Dhaulagiri I (Nepal)
1-05	マナスル東壁 (ネパール)	Mt. Manaslu (Nepal)
1-06	ガッシャーブルム山群 (パキスタン・中国)	The Gasherbrums (Pakistan, China)
1-07	マチャプチャレ東壁 (ネパール)	Mt. Machhapuchhare (Nepal)
1-08	ローツェ西稜 (ネパール)	Mt. Lhotse (Nepal)
1-09	K2北東面 (パキスタン・中国)	K2 northeast face (Pakistan, China)
1-10	バインター・ブラック (パキスタン)	Baintha Brakk (Pakistan)
1-11	ガッシャーブルム II 峰 (パキスタン・中国)	Mt. Gasherbrum II (Pakistan, China)
1-12	マナスルとP29 (ネパール)	Mt. Manaslu (r) , P29 (l) (Nepal)
1-13	ラカポシ (パキスタン)	Mt. Rakaposhi (Pakistan)
1-14	ネパール山群遠望 (ネパール・中国)	Mountains of Central Nepal (Nepal, China)
1-15	ガウリ・シャンカール山群 (ネパール・中国)	Mt. Gaurishankar (Nepal, China)
1-16	K2連山遠望 (パキスタン)	K2, Mt. Broad Peak, Mt. Gasherbrum IV, III, II (l to r) (Pakistan)
1-17	キンヤン・キッシュ (パキスタン)	Khunyang Chhish (Pakistan)
1-18	K2とその山群 (パキスタン・中国)	K2 and surrounding mountains (Pakistan, China)
1-19	メンルンツェ (中国)	Mt. Menlungtse (China)
1-20	ヒマルチュリ (ネパール)	Mt. Himalchuli (Nepal)
1-21	チュクン氷河の無名峰 (ネパール)	Chukhung Glacier (Nepal)
1-22	エベレスト北西壁と日の出 (中国)	Sunrise over the northwest face of Mt. Everest (China)
1-23	パイネ・グランデ (チリ)	Cerro Paine Grande (Chile)
1-24	チャクララフ (ペルー)	Mt. Chacaraju (Peru)
1-25	アルパマーヨ (ペルー)	Mt. Alpamayo (Peru)
1-26	フィッツ・ロイ山 (アルゼンチン)	Mt. Fitz Roy (Argentina)
1-27	ハンター山 (アメリカ)	Mt. Hunter (USA)
1-28	デス・ヴァレの山岳地帯 (アメリカ)	Mountains of Death Valley (USA)
1-29	アッシニボイン山 (カナダ)	Mt. Assiniboine (Canada)
1-30	ソドム (イスラエル)	Mt. Sodom (Israel)
1-31	ダマヴァンド (イラン)	Mt. Damavand (Iran)
1-32	マッターホーン (スイス)	The Matterhorn (Switzerland)
1-33	シャモニー山群 (フランス)	Chamonix – Mont – Blanc (France)
1-34	ケニア山 (ケニア)	Mt. Kenya (Kenya)
1-35	峨眉山 仏光 (中国)	Brocken spectre, Mt. Emei (China)
1-36	ボグダ峰 (中国)	Bogda Peak (China)
1-37	峨眉山山頂の日の出 (中国)	Day breaks over Mt. Emei (China)
1-38	チョゴリ氷河の氷塔 (中国)	Seracs on Chhogori (K2) glaciers (China)
1-39	チョゴリ氷河上流部 (中国)	Chhogori (K2) glaciers, upstream (China)
1-40	天山飛雲 (中国)	Mt. Tianshan (China)
1-41	チョゴリ氷河の雪解け (中国)	Chhogori (K2) glaciers, melting snow (China)
1-42	八ヶ岳赤岳 (日本)	Mt. Akadake, Yatsugatake Mountains (Japan)
1-43	富士山の日の出 (日本)	Mt. Fuji, dawn (Japan)
1-44	穂高涸沢 (日本)	Karasawa fall leaves and the Hotaka Mountains (Japan)
1-45	谷川岳一ノ倉沢紅葉 (日本)	Fall leaves at Ichinokurasawa, Mt. Tanigawadake (Japan)
1-46	阿蘇中岳第1火口 (日本)	Mt. Aso Nakadake, northernmost crater (Japan)

No.	題 名	Title
1-47	樽前山火口（日本）	Mt. Tarumae craters (Japan)
1-48	昭和新山（日本）	Mt. Showa - Shinzan (Japan)
1-49	新燃岳火口（日本）	Mt. Shinmoedake crater (Japan)
1-50	新燃岳火口と高千穂峰（日本）	Mt. Shinmoedake crater, Mt. Takachiho - no - mine (Japan)
1-51	雌阿寒岳火口（日本）	Mt. Meakan craters (Japan)
1-52	阿蘇米塚（日本）	Mt. Aso Komezuka crater (Japan)
1-53	雌阿寒岳と噴煙（日本）	Volcanic plumes rising from Mt. Meakan (Japan)
1-54	桜島夜明けの噴火（日本）	Mt. Sakurajima, dawn eruption (Japan)
1-55	桜島噴煙（日本）	Mt. Sakurajima erupting (Japan)

第2章 瀑布轟々 滝

Waterfalls

No.	題 名	Title
2-01	イグアス、リバダビア滝（アルゼンチン）	Iguazu Falls, Rivadavia (Argentina)
2-02	ヴィクトリア滝①（ジンバブエ）	Victoria Falls (Zimbabwe)
2-03	ヴィクトリア滝②（ザンビア）	Victoria Falls (Zambia)
2-04	ヴィクトリア滝③（ザンビア）	Victoria Falls (Zambia)
2-05	ヴィクトリア滝④（ジンバブエ）	Victoria Falls (Zimbabwe)
2-06	ジュルアン I 滝（ベネズエラ）	Juruan I (Venezuela)
2-07	ナイアガラ①（アメリカ）	Niagara Falls (USA)
2-08	ナイアガラ②（カナダ）	Niagara Falls (Canada)
2-09	カミンズ二段滝（カナダ）	Cummins Falls (Canada)
2-10	デティ滝（アイスランド）	Dettifoss Waterfall (Iceland)
2-11	ハウイ滝（アイスランド）	Haifoss Waterfall (Iceland)
2-12	ヴィクトリア滝⑤（ジンバブエ）	Victoria Falls (Zimbabwe)
2-13	イグアス、ボゼッチ滝（アルゼンチン）	Iguazu Falls, Carlos Bozzetti (Argentina)
2-14	イグアス、フロリアーノ滝と虹（ブラジル）	Rainbow across Iguazu Falls, Floriano (Brazil)
2-15	イグアス、フロリアーノ滝鳥瞰（ブラジル）	Iguazu Falls, Floriano (Brazil)
2-16	イグアス滝全景（ブラジル・アルゼンチン）	Iguazu Falls (Brazil, Argentina)
2-17	イグアス滝、悪魔の喉笛（ブラジル・アルゼンチン）	Iguazu Falls, Devil's Throat (Brazil, Argentina)
2-18	ペニョン滝、ベルグラノー滝（アルゼンチン）	Iguazu Falls, Peñon and Belgrano (Argentina)
2-19	トレス・モスケテロスの滝（アルゼンチン）	Iguazu Falls, Tres Mosqueteros (Argentina)
2-20	聖マルティヌス滝（アルゼンチン）	Iguazu Falls, St. Martinus (Argentina)
2-21	サンタマリア滝（ブラジル）	Iguazu Falls, St. Maria (Brazil)
2-22	ワイヒラウ滝（アメリカ）	Waihilau Falls (Hawaii)

第3章 川流不息 河川・湖沼

Rivers and Lakes

No.	題 名	Title
3-01	漓江、画山の日の出（中国）	Sun rises over the Li River and Mt. Jiuma (China)
3-02	漓江と画山（中国）	Li River, Mt. Jiuma (China)
3-03	漓江、黄布灘（中国）	Li River, Huangbutan (China)
3-04	楊堤朝色（中国）	Yangdi (China)
3-05	死海①（イスラエル）	Dead Sea (Israel)
3-06	死海②（イスラエル）	Dead Sea (Israel)
3-07	ワット・チェートゥボン池（タイ）	Lake at Wat Chetuphon (Thailand)
3-08	ブッダ・ガヤー大塔の池（インド）	Lake in Bodh Gaya (India)
3-09	フィッツ・ロイ山朝光（アルゼンチン）	Morning light over Mt. Fitz Roy (Argentina)
3-10	パイネの角（チリ）	Paine Horns (Chili)

No.	題 名	Title
3-11	レインボー・リバー (アメリカ)	Rainbow River (USA)
3-12	マッキンレー・リバー (アメリカ)	McKinley River (USA)
3-13	レイク・パウエル① (アメリカ)	Lake Powell (USA)
3-14	レイク・パウエル② (アメリカ)	Lake Powell (USA)
3-15	レイク・パウエル③ (アメリカ)	Lake Powell (USA)
3-16	レイク・パウエル④ (アメリカ)	Lake Powell (USA)
3-17	モノ・レイク① (アメリカ)	Mono Lake (USA)
3-18	モノ・レイク② (アメリカ)	Mono Lake (USA)
3-19	陸中海岸、浄土ヶ浜 (日本)	Jodogahama Beach (Japan)
3-20	蔦沼錦秋 (日本)	Lake Tsutanuma in autumn (Japan)
3-21	ウユニ塩湖① (ボリビア)	Salar de Uyuni (Bolivia)
3-22	ウユニ塩湖② (ボリビア)	Salar de Uyuni (Bolivia)
3-23	ウユニ塩湖③ (ボリビア)	Salar de Uyuni (Bolivia)
3-24	ウユニ塩湖④ (ボリビア)	Salar de Uyuni (Bolivia)
3-25	ウユニ塩湖の星 (ボリビア)	Salar de Uyuni (Bolivia)

第4章

地勢既美

峡谷・溪谷・洞窟

Canyons, Valleys and Caves

No.	題 名	Title
4-01	バッドランド① (アメリカ)	Badlands (USA)
4-02	キャニオンランド① (アメリカ)	Canyonlands (USA)
4-03	キャニオンランド② (アメリカ)	Canyonlands (USA)
4-04	バッドランド② (アメリカ)	Badlands (USA)
4-05	バッドランド③ (アメリカ)	Badlands (USA)
4-06	バッドランド④ (アメリカ)	Badlands (USA)
4-07	キャニオンランド③ (アメリカ)	Canyonlands (USA)
4-08	キャニオンランド④ (アメリカ)	Canyonlands (USA)
4-09	グランド・キャニオン (アメリカ)	Grand Canyon (USA)
4-10	バッドランド⑤ (アメリカ)	Badlands (USA)
4-11	キャニオンランド⑤ (アメリカ)	Canyonlands (USA)
4-12	キャニオンランド⑥ (アメリカ)	Canyonlands (USA)
4-13	キャニオンランド⑦ (アメリカ)	Canyonlands (USA)
4-14	キャニオンランド⑧ (アメリカ)	Canyonlands (USA)
4-15	キャニオンランド⑨ (アメリカ)	Canyonlands (USA)
4-16	キャニオンランド⑩ (アメリカ)	Canyonlands (USA)
4-17	レイク・パウエル (アメリカ)	Lake Powell (USA)
4-18	グランド・キャニオン N. M. (アメリカ)	Grand Canyon National Monument (USA)
4-19	キャニオンランド⑪ (アメリカ)	Canyonlands (USA)
4-20	キャニオンランド⑫ (アメリカ)	Canyonlands (USA)
4-21	キャニオンランド⑬ (アメリカ)	Canyonlands (USA)
4-22	ザ・ウェーブ① (アメリカ)	The Wave (USA)
4-23	ザ・ウェーブ② (アメリカ)	The Wave (USA)
4-24	ホワイト・ポケット① (アメリカ)	White Pocket (USA)
4-25	ザ・ウェーブ③ (アメリカ)	The Wave (USA)
4-26	ザ・ウェーブ④ (アメリカ)	The Wave (USA)
4-27	ホワイト・ポケット② (アメリカ)	White Pocket (USA)
4-28	ザ・ウェーブ⑤ (アメリカ)	The Wave (USA)
4-29	アンテロープ・キャニオン① (アメリカ)	Antelope Canyon (USA)
4-30	アンテロープ・キャニオン② (アメリカ)	Antelope Canyon (USA)
4-31	アンテロープ・キャニオン③ (アメリカ)	Antelope Canyon (USA)

第5章 乱石穿空 石林・岩峰

Rocks Formations

No.	題 名	Title
5-01	キャニオンランド① (アメリカ)	Canyonlands (USA)
5-02	キャニオンランド② (アメリカ)	Canyonlands (USA)
5-03	キャニオンランド③ (アメリカ)	Canyonlands (USA)
5-04	タリット・アーチと月 (アメリカ)	Turret Arch (USA)
5-05	モニュメント・ヴァレ① (アメリカ)	Monument Valley (USA)
5-06	モニュメント・ヴァレ② (アメリカ)	Monument Valley (USA)
5-07	モニュメント・ヴァレ③ (アメリカ)	Monument Valley (USA)
5-08	ブライス・キャニオン (アメリカ)	Bryce Canyon (USA)
5-09	武陵源① (中国)	Wulingyuan (China)
5-10	武陵源② (中国)	Wulingyuan (China)
5-11	武陵源③ (中国)	Wulingyuan (China)
5-12	武陵源④ (中国)	Wulingyuan (China)
5-13	石林① (中国)	Shilin Stone Forest (China)
5-14	石林② (中国)	Shilin Stone Forest (China)
5-15	青龍洞 (日本)	Seiryudo Cave (Japan)

第6章 平沙万里 草原・平原・砂漠

Grasslands, Plains and Deserts

No.	題 名	Title
6-01	レンソイス・マランヤンセス国立公園① (ブラジル)	Lençóis Maranhenses National Park (Brazil)
6-02	レンソイス・マランヤンセス国立公園② (ブラジル)	Lençóis Maranhenses National Park (Brazil)
6-03	グレート・サンド・デューン① (アメリカ)	Great Sand Dunes (USA)
6-04	グレート・サンド・デューン② (アメリカ)	Great Sand Dunes (USA)
6-05	デス・ヴァレ国立公園 (アメリカ)	Death Valley (USA)
6-06	イエローストーン国立公園 (アメリカ)	Yellowstone National Park (USA)
6-07	デス・ヴァレ俯瞰 (アメリカ)	Death Valley (USA)
6-08	デス・ヴァレ (アメリカ)	Death Valley (USA)
6-09	デス・ヴァレ、塩の平原 (アメリカ)	Death Valley, salt flats (USA)
6-10	デス・ヴァレ、岩塩平原 (アメリカ)	Death Valley (USA)
6-11	ホワイト・サンド (アメリカ)	White Sands (USA)
6-12	グリーン・シー・オブ・デューン (アメリカ)	Sandhills (USA)
6-13	南極夏至の太陽 (南極)	Summer Solstice at the South Pole (Antarctica)
6-14	南極のオーロラ (南極)	Southern Lights (Antarctica)
6-15	南極半島 (南極)	Antarctic Peninsula (Antarctica)
6-16	南極横断山脈、バード氷河 (南極)	Byrd Glacier, Transantarctic Mountains (Antarctica)
6-17	ブータン・ヒマラヤ (ブータン・中国)	Bhutan Himalayas (Bhutan, China)
6-18	天山の雪解け (中国)	Snow melting in the Tianshan Mountains (China)
6-19	火焰山 (中国)	Huoyan Mountain (China)
6-20	尾瀬ヶ原、秋色① (日本)	Ozegahara Marshland in autumn (Japan)
6-21	尾瀬ヶ原、秋色② (日本)	Ozegahara Marshland in autumn (Japan)
6-22	尾瀬ヶ原、秋色③ (日本)	Ozegahara Marshland in autumn (Japan)
6-23	能取湖、サンゴソウ (日本)	Lake Notoro, grasswort (Japan)

第7章
驚濤拍岸
海浜・島嶼

Beaches and Islands

No.	題 名	Title
7-01	新舞子浜、赤景（日本）	Shinmaikohama Beach at sunrise in December（Japan）
7-02	青島、鬼の洗濯板①（日本）	Oni - no - sentakuita Rocks, Aoshima（Japan）
7-03	青島、鬼の洗濯板②（日本）	Oni - no - sentakuita Rocks, Aoshima（Japan）
7-04	西表、南風見田浜（日本）	Haemidanohama Beach, Iriomote Island（Japan）
7-05	観音岩の落日（日本）	Sun sets on Kannon - iwa Rock（Japan）
7-06	西海、九十九島①（日本）	Kujuku Islands（Japan）
7-07	橋杭岩（日本）	Hashiguiwa Rocks（Japan）
7-08	知床半島（日本）	Shiretoko Peninsula（Japan）
7-09	西海、九十九島②（日本）	Kujuku Islands（Japan）
7-10	伊豆諸島、恩馳島（日本）	Onbasejima Island（Japan）
7-11	笠崎海岸流紋岩（日本）	Kasazaki Beach（Japan）
7-12	コロラド川河口（メキシコ）	Colorado River（Mexico）
7-13	ドルの落日（イスラエル）	Sunset at Dor Beach（Israel）
7-14	南極半島カルバハール（南極）	Carvajal, the Antarctic Peninsula（Antarctica）
7-15	南極半島の島々（南極）	Islands of the Antarctic Peninsula（Antarctica）
7-16	ケーブ・デービスの海水（南極）	The icy sea at Cape Davis（Antarctica）
7-17	夕陽のスケルトン氷河（南極）	Skelton Glacier in the sunset（Antarctica）
7-18	ヴァンダーフォード氷河（南極）	Vanderford Glacier（Antarctica）
7-19	ジェームス・ロス島の夕陽（南極）	Sunset at James Ross Island（Antarctica）
7-20	ケーシー湾の海水（南極）	An ice - covered Casey Bay（Antarctica）
7-21	マルシ基地の日の出（南極）	Marsh Base sunrise（Antarctica）
7-22	エスペランサ基地周辺の海水（南極）	An icy sea around Esperanza Base（Antarctica）
7-23	デービス基地周辺（南極）	Around Davis Station（Antarctica）
7-24	グスタフ海峡とロス島（南極）	Prince Gustav Channel and James Ross Island（Antarctica）
7-25	ウェッデル海の落日（南極）	Sunset at Weddell Sea（Antarctica）

作品は全て凸版オフセット7色印刷、個人蔵

あいテレビ開局30周年記念 ティラノサウルス ～進化の謎にせまる～

会 期： 令和4年7月16日（土）～9月4日（日）（44日間）
主 催： ティラノサウルス展実行委員会（愛媛県・あいテレビ）
協 賛： 三福ホールディングス、門屋組
協 力： 愛媛大学、愛媛県総合科学博物館
後 援： 愛媛県教育委員会、松山市、松山市教育委員会、愛媛県市町教育委員会連合会、愛媛県小中学校長会、愛媛県PTA連合会、愛媛県国公立幼稚園・こども園PTA連合会、愛媛県私立幼稚園PTA連合会、愛媛県私立幼稚園協会、愛媛県保育協議会、伊予鉄グループ、愛媛新聞社、朝日新聞松山総局、毎日新聞松山支局、読売新聞社、産経新聞社、南海放送、テレビ愛媛、愛媛朝日テレビ、愛媛CATV、FM愛媛

会 場： 愛媛県美術館 企画展示室

趣 旨

太く鋭くとがった歯と頑丈で大きな頭を持つ最大級の肉食恐竜である、世界で最も有名で不動の人気を誇る恐竜、ティラノサウルス。本展では、暴君竜T.rexを含むティラノサウルスの仲間スポットを当て、その生態について最新の研究成果に基づいて紹介した。大迫力のT.rexの全身復元骨格や、動く恐竜ロボットも登場し、ティラノサウルスの起源と進化の謎に迫った。

観覧者数：36,388名

関連行事

アンモナイトのレプリカを作ろう

日 時： 8月6日（土）
10：00～12：00、14：00～16：00
講 師： 山根勝枝
（愛媛県総合科学博物館専門学芸員）
場 所： 愛媛県美術館 南館ギャラリー1
材 料 費： 300円
定 員： 各回先着50名
参加人数： 延95名

植物化石を調べよう

日 時： 8月7日（日）
10：30～12：00、14：00～15：30
講 師： 山根勝枝
（愛媛県総合科学博物館専門学芸員）
場 所： 愛媛美術館 南館ギャラリー1
材 料 費： 1,000円
定 員： 各回15名（要申込）
参加人数： 延45名

こどもたちの描く「きょうりゅうの絵」展示

日 時： 会期中
場 所： 愛媛県美術館 展示室内
参加人数： 255名

大迫力の全身骨格展示

最新のXR体験!

リアルに動く! 巨大ロボット

あいテレビ開局30周年記念
ティラノサウルス
～進化の謎にせまる～

2022
7.16-9.4
土・日

愛媛県美術館 本館1階企画展示室
9:40～18:00 (入場は17:30まで)

休館日/月曜日 7/19(火)・8/1(日)は開館し、7/19(火)・8/2(水)は休館

主催/ティラノサウルス展実行委員会(愛媛県、あいテレビ)
協賛/三福ホールディングス、門屋組
協力/愛媛大学、愛媛県総合科学博物館
後援/愛媛県教育委員会、松山市、松山市教育委員会、愛媛県市町教育委員会連合会、愛媛県小中学校長会、愛媛県PTA連合会、愛媛県国公立幼稚園・こども園PTA連合会、愛媛県私立幼稚園PTA連合会、愛媛県私立幼稚園協会、愛媛県保育協議会、伊予鉄グループ、愛媛新聞社、朝日新聞松山総局、毎日新聞松山支局、読売新聞社、産経新聞社、南海放送、テレビ愛媛、愛媛朝日テレビ、愛媛CATV、FM愛媛

※会場での新型コロナウイルス感染拡大予防対策にご協力ください。
※感染拡大防止によりイベント中止・変更や、展示室内の入場制限を実施する場合があります。

【お問合せ】ティラノサウルス展実行委員会事務局(あいテレビ内) ☎itv. TEL.089-921-2192(平日9:00～17:30)

出品目録

「ティラノサウルス～進化の謎にせまる～」展示物リスト

No.	名称	時代	産地	部位他	形態他	展示期間
1	ヘレラサウルス	後期三畳紀	アルゼンチン	全身	模型	通期
2	コエロフィシス	後期三畳紀	アメリカ	全身	模型	通期
3	アンテトニトルス	後期三畳紀	南アフリカ	全身	縮小模型	通期
4	ヘレラサウルス	後期三畳紀	アルゼンチン	頭骨	複製	通期
5	コエロフィシス	後期三畳紀	アメリカ	歯	実物	通期
6	コエロフィシス	後期三畳紀	アメリカ	頭骨	複製	通期
7	クラデスキテス	後期三畳紀	インドネシア	全身	実物	通期
8	ラコフィルリテス	後期三畳紀	インドネシア	全身	実物	通期
9	アラウカリオキシロン	後期三畳紀	アメリカ	植物	実物	通期
10	メガプノサウルス	後期三畳紀～前期ジュラ紀	ジンバブエ	頭骨	複製	通期
11	アロサウルス	後期ジュラ紀	アメリカ	全身骨格	複製	通期
12	アロサウルス	後期ジュラ紀	アメリカ	尾椎	複製	通期
13	アロサウルス	後期ジュラ紀	アメリカ	歯	複製	通期
14	アロサウルス	後期ジュラ紀	アメリカ	前肢指骨	複製	通期
15	アロサウルス	後期ジュラ紀	アメリカ	肋骨	実物	通期
16	ステゴサウルス	後期ジュラ紀	アメリカ	全身骨格	複製	通期
17	ステゴサウルス	後期ジュラ紀	アメリカ	スパイク	複製	通期
18	竜脚類	後期ジュラ紀	アメリカ	胃石	複製	通期
19	ペリスフィンクテス	後期ジュラ紀	マダガスカル	全身	実物	通期
20	ボトザミテス	後期ジュラ紀	アメリカ	植物	実物	通期
21	ボトザミテス	後期ジュラ紀	アメリカ	植物	実物	通期
22	ギンコ	後期ジュラ紀	アメリカ	植物	実物	通期
23	ザミテス	後期ジュラ紀	フランス	植物	実物	通期
24	ファルカリウス	前期白亜紀	アメリカ	全身骨格	複製	通期
25	ノスロニクス	後期白亜紀	アメリカ	全身骨格	複製	通期
26	メガラプトル	後期白亜紀	アルゼンチン	末節骨	複製	通期
27	テリジノサウルス	後期白亜紀	アメリカ	末節骨	複製	通期
28	ユタラプトル	前期白亜紀	アメリカ	末節骨	複製	通期
29	砂漠の薔薇	不詳	モロッコ	岩石	実物	通期
30	スピノサウルス	後期白亜紀	モロッコ	歯	実物	通期
31	スピノサウルス	後期白亜紀	モロッコ	尾椎	実物	通期
32	スピノサウルス	後期白亜紀	モロッコ	中足骨	実物	通期
33	スピノサウルス	後期白亜紀	モロッコ	胴椎	実物	通期
34	スピノサウルス	後期白亜紀	モロッコ	頭部	模型	通期
35	カルカロドントサウルス	後期白亜紀	モロッコ	全身	模型	通期
36	カルカロドントサウルス	後期白亜紀	モロッコ	歯	実物	通期
37	カルカロドントサウルス	後期白亜紀	モロッコ	脛骨	実物	通期
38	カルカロドントサウルス	後期白亜紀	モロッコ	椎骨	実物	通期
39	ユウティラヌス	前期白亜紀	中国	全身	模型	通期

No.	名称	時代	産地	部位他	形態他	展示期間
40	セコイヤ	後期白亜紀	アメリカ	植物	実物	通期
41	ラムス	後期白亜紀	アメリカ	植物	実物	通期
42	ビバーナム	後期白亜紀	アメリカ	植物	実物	通期
43	ダフォニフィルム	後期白亜紀	アメリカ	植物	実物	通期
44	ベツリテス	後期白亜紀	アメリカ	植物	実物	通期
45	マンテリケラス	後期白亜紀	マダガスカル	全身	実物	通期
46	マミテス	後期白亜紀	マダガスカル	全身	実物	通期
47	クレオニケラス	後期白亜紀	マダガスカル	全身	実物	通期
48	マジュンガサウルス	後期白亜紀	マダガスカル	尾椎	実物	通期
49	ティラノサウルス 亜成体 Jane	後期白亜紀	アメリカ	全身骨格	複製	通期
50	ティラノサウルス Stan	後期白亜紀	アメリカ	全身骨格	複製	通期
51	ティラノサウルス	後期白亜紀	アメリカ	頭骨	複製	通期
52	タルボサウルス	後期白亜紀	モンゴル	頭骨	複製	通期
53	ストルティオミムス	後期白亜紀	アメリカ	全身	模型	通期
54	ティラノサウルス	後期白亜紀	アメリカ	歯	複製	通期
55	ティラノサウルス	後期白亜紀	アメリカ	後肢末節骨	複製	通期
56	ティラノサウルス	後期白亜紀	アメリカ	前肢	複製	通期
57	ティラノサウルス (ロボット)	－	－	全身	ロボット	通期
58	K/Pg境界層	後期白亜紀/暁新世	アメリカ		実物	通期
59	隕石	現代	モロッコ		実物	通期

【主に愛媛県で産出した化石】 ＜協力：愛媛大学 (No.71－75)、愛媛県総合科学博物館 (No.60－70)＞

No.	名称	時代	産地	部位他	形態他	展示期間
60	サンゴ類	シルル紀	西予市		実物	通期
61	フズリナ類	ペルム紀	西予市		実物	通期
62	モノチス	三畳紀	西予市		実物	通期
63	アンモナイト	白亜紀	宇和島市		実物	通期
64	イノセラムス	白亜紀	宇和島市		実物	通期
65	サバリテス	新第三紀中新世	東温市		実物	通期
66	モミジバフウ	新第三紀中新世	東温市		実物	通期
67	材化石	第四紀更新世	伊予市		実物	通期
68	ナウマンゾウ臼歯	第四紀更新世	瀬戸内海		実物	通期
69	ナウマンゾウ切歯	第四紀更新世	瀬戸内海		実物	通期
70	ナウマンゾウ大腿骨	第四紀更新世	瀬戸内海		実物	通期
71	首長竜	後期白亜紀	松山市	遊離歯化石	実物	8/11～28
72	首長竜	後期白亜紀	北海道	脊椎	実物	8/11～28
73	二枚貝	後期白亜紀	松山市		実物	8/11～28
74	異常巻きアンモナイト	後期白亜紀	松山市		実物	8/11～28
75	異常巻きアンモナイト	後期白亜紀	北海道		複製	8/11～28

特別展 みる冒険 ゆらぐ感覚

会 期： 令和4年8月6日（土）－9月30日（金）（47日間）※9/19（月・祝）は台風により臨時休館
主 催： 愛媛県美術館
後 援： 愛媛新聞社、朝日新聞松山総局、読売新聞松山支局、毎日新聞松山支局、産経新聞社、NHK 松山
放送局、南海放送、テレビ愛媛、あいテレビ、愛媛朝日テレビ、愛媛CATV、FM 愛媛、えひめ
リビング新聞社
助 成： 一般財団法人地域創造
会 場： 愛媛県美術館 常設展示室 3

趣 旨

愛媛県美術館では、令和2年度より美術鑑賞を視覚だけに限らず触覚や聴覚、対話などで作品にアプローチする展覧会やプログラムを開催し、意識していなかった感覚の領域にふれ、鑑賞者のひとりひとりが「みること」を考える場を提供している。

本展では視覚以外の感覚で捉えた世界を触る形や記憶の色で表現する光島貴之と、身近な素材を用い、視覚や聴覚などの知覚を問い直す八木良太の作品を中心に、当館の所蔵品を交えて構成し、日常の感覚を揺さぶる作品を紹介した。

光島や八木の作品による触覚や聴覚を用いた鑑賞体験が、普段意識していない感覚と向き合う時間となり、感覚の不確かさや自分と異なる視点に気づき、鑑賞者一人ひとりが「みること」について思考を巡らす機会となった。

観覧者数：3,424名

関連行事

トークイベント 光島貴之×八木良太

日 時：8月6日（土） 14：00～15：30
登壇者：光島貴之、八木良太
場 所：愛媛県美術館 講堂
参加人数：50名

ワークショップ 手ざわりで作る

「わたしの好きな愛媛」

日 時：7月31日（日） 13：30～16：30
講 師：光島貴之
場 所：愛媛県美術館 南館 実技教室
対 象：小学3年生以上
参加人数：16名

ワークショップ 音をつなげる、音をひっかく

日 時：8月13日（土） 13：30～15：30
講 師：八木良太
場 所：愛媛県美術館 南館 実技教室
対 象：小学生以上
参加人数：12名



ワークショップ 感覚のトビラをヒラク

日 時：8月6日（土） 10：00～12：00
 進 行：石崎三佳子（当館専門学芸員）
 場 所：愛媛県美術館 特別展示室
 対 象：小学生以上
 参 加 者：12名

美術館吟行会

日 時：8月6日（土） 10：00～12：00
 講 師：キム・チャンヒ
 場 所：愛媛県美術館 研修室
 協 力：月刊誌『100年俳句計画』
 参 加 者：25名

特別展トーク

- ・光島貴之《松山まち歩き一何を求める 風の中ゆく》より松山城 ※作品画像

日 時：8月28日（日） 11：00～11：30
 進 行：作品ガイドボランティア
 場 所：愛媛県美術館 研修室
 参 加 者：17名

- ・八木良太《Resonance in Perspectine (A)》、《Resonance in Perspectine (B)》

日 時：9月25日（日） 11：00～11：30
 進 行：作品ガイドボランティア
 場 所：愛媛県美術館 展望ロビー
 参 加 者：14名

鑑賞サポート（視覚障がい者の方の案内）

所要時間：1時間程度
 サポート：担当学芸員
 参 加 者：4名

※実施日は申込者と相談の上、決定。

<共催事業>

アート×俳句×福祉「みる冒険」ワークショップ

多様な方の交流や活動を提供する主催者が「共に生きる」ということを考え、試行するワークショップを実施した。

日 時：8月29日（月）13：30～16：00
 場 所：愛媛県美術館（エントランス、「みる冒険」会場、中庭）
 主 催：松山市社会福祉協議会、愛媛県美術館、有限会社マルコボ、コム
 参 加 者：17名

オンライントーク〈触っておもしろいものは見たらおもしろくない、かもしれない〉のか？

同時期に「光島貴之滞在制作・展示 GOING OVER—まちの肌理（きめ）にふれる—」を開催する東京都渋谷公園通りギャラリーの提案を受け、光島氏と両館の担当学芸員によるオンライントークイベントを実施した。

日 時：9月11日（土）18：30～20：00
 登壇者：光島貴之、アトリエみつしまスタッフ 高内洋子・亀井友美、東京都渋谷区公園通りギャラリー 学芸員 河原巧也、愛媛県美術館専門学芸員 田代亜矢子・石崎三佳子
 共 催：東京都渋谷公園通りギャラリー、愛媛県美術館
 視 聴 者：18名（アーカイブ59回）※ZOOMウェビナーによる生配信後、9月30日までアーカイブ放映

出品目録

特別展「みる冒険 ゆらぐ感覚」作品リスト

1. 光島貴之

No.	作品名	制作年	素材・技法	寸法 (mm)	所蔵	備考
1	セミに惑わされる堀川通	2020	釘、ピン、フック、カッティングシート／木製パネル	600×1,320×90	作家蔵	制作協力：アトリエみつしま
2	草原	2019	釘／木製パネル	600×600×120	作家蔵	制作協力：アトリエみつしま
3	新しい点字ブロック (ここから先 居酒屋あり)	2019	釘、木材、フェルト／木製パネル	300×300×100	作家蔵	制作協力：アトリエみつしま
4	新しい点字ブロック (ここから速く歩く)	2019	釘、タイルシート、EVAシート／木製パネル	300×300×100	作家蔵	制作協力：アトリエみつしま
5	夕日に向かって歩く	2018	釘、まち針、鋏、ピン／木製パネル	400×600×100	作家蔵	制作協力：アトリエみつしま
6	コーヒー・ブレイク	2018	釘、ネジ、まち針、鋏、ピン、ステッフル、ヒートン、取手／木材	92×1,502×64	作家蔵	制作協力：アトリエみつしま
7	歯車とビスケット	2022	釘、まち針、ピン、歯車／木材	110×1,640×90	作家蔵	制作協力：アトリエみつしま
8	松山まち歩き －何を求める 風の中ゆく－	2022	ミクストメディア	壁： 1,450×8,805×120 床： 1,200×1,800×50	当館蔵	制作協力：アトリエみつしま 協力：株式会社高雄木材工業所、IDEA R LAB、スタジオぐるり
9	一人でスタート	2019	釘、ピン／木製ボックス	328×325×380	作家蔵	制作協力：アトリエみつしま
10	資料 (釘見本)	2020	釘、カッティングシート／木材	200×300×80	作家蔵	制作協力：アトリエみつしま
11	資料 (セミに惑わされる堀川通 (下図))	2020	ラインテープ、カッティングシート／紙	600×1,320×90	作家蔵	

2. 八木良太

No.	作品名	制作年	素材・技法	寸法 (mm)	所蔵	備考
1	Rainy day Music	2005－2022	傘、ヘッドフォン、オーディオプレーヤー	30×150×1,315	作家蔵	
2	On the Retina	2019	Cプリント、アクリルマウント	590×30×590	作家蔵	
3	Time Resonance	2019－2021	パンチングメタル、ライト、モーター、ステンレス	500×250×500	作家蔵	
4	Mr. Mitsushima's Walk	2022	映像、白杖、オーディオプレーヤー、ヘッドフォン	—	作家蔵	
5	First Light	2022	映像	—	作家蔵	
6	Imaginary Friend (Ghost)	2022	インクジェットプリント・ビジョンコントロールフィルム	500×30×500	作家蔵	
7	Imaginary Friend (Bed)	2022	インクジェットプリント・ビジョンコントロールフィルム	500×30×500	作家蔵	
8	Sea under the Table	2010	机、ワイヤレスヘッドフォン、オーディオプレーヤー	1,100×1,100×750	個人蔵	
9	Magnetic Field	2022	木版画、シナベニヤ	木版画 650×990 版木 600×910	作家蔵	
10	Resonance in Perspective (A)	2019	パンチングメタル、フレーム	1,000×1,000×2000	作家蔵	展望ロビーに展示
11	Resonance in Perspective (B)	2019	パンチングメタル、フレーム	420×420×1,210	作家蔵	展望ロビーに展示

3. 当館所蔵

No.	作品名	作家名	制作年	素材・技法	寸法 (mm)	備考
1	PERCEPTION IN THE MIRROR	石山直司	2008	エッチング、アクアチント／紙	620×840	ed.10/30
2	あるく 私の生活基本形 松山 2010年3月20日～3月31日	秋山 さやか	2010	ししゅう糸、もめん糸、ポリエステル糸、毛糸、リボン、ひも、ゴム、ボタン、アップリケ、キーホルダー、コルク、花びら、布のはぎれ、割れたハサミ、飛行機の搭乗券や切符、機内誌、ホテルのテレビ番組表、手紙やメモやパンフレットやレシートの切れはし、歯ブラシの袋やふとんの説明書などあらゆる生活用品の包装用紙やシール、みかんジュースや駅弁など食べ物や飲み物の包み紙、松山城の記念コインなどの土産、などなど… 松山でみつけた素材／ポリエステル布に昇華プリント	940×1135×150	
3	ヴィトリーヌ 白のカリグラフィー	山口勝弘	1953	ガラス・油絵具／紙・木板	560×650×100	
4	ヴィトリーヌ 空中の花	山口勝弘	1955	ガラス・油絵具／紙・木板	590×500×100	
5	乳化庭／三本の楠から	大竹敦人	2006	写真／硝子球 (9点組)	各直径400	3点のみ展示
6	Beneath Untitled	荒川修作	1985-86	油彩・アクリル／画布・彩色された額	2170×1560	

1 収集方針（愛媛県美術館収集方針）

趣旨

古代から瀬戸内海交通の要所として栄え、これまで多くの文人・画家の輩出や来訪があった愛媛の地は、瀬戸内海の島々や石鎚山などの豊かな自然と温暖な気候に恵まれ、温厚できめ細かな県民性を育んだ。このような歴史と風土から生まれた愛媛の伝統的な文化を受け継ぎながら、豊かで個性的な愛媛の芸術文化を創造するため、愛媛ならではの特色ある収集を行う。

収集分野

日本画、洋画、版画、デザイン、写真、書ほかの平面作品、彫塑、工芸ほかの立体作品、映像作品等を含む。

基本方針

- (1) 国内外の優れた作品の鑑賞を通して、県民の審美眼や美意識の涵養を図るため、美術史上重要な作家及びその動向を知る上で欠くことのできない作家の作品及び関連資料を収集する。
- (2) 本県出身作家及び本県ゆかりの作家を顕彰することにより、本県美術の流れを県民に理解していただくため、本県出身作家及び関連作家の作品並びに関連資料を収集する。

重点方針

- (1) 国内外の優れた作品
 - ア 19世紀以降現代にいたる美術史の流れを辿れる国内外の優れた作品を中心に収集する。さらに近代の作品をより広い視野でとらえるために18世紀以前の作品も収集の対象とする。
 - イ 今日という時代を刻印する作品を収集する。
- (2) 本県出身作家及び関連作家の作品と関連資料
 - ア 松本山雪を基点として、関連する近世絵画を収集する。
 - イ 大智勝観、矢野橋村をはじめ、関連する日本画を収集する。
 - ウ 中川八郎、中野和高、野間仁根らをはじめ、関連する絵画を収集する。
 - エ 日本の前衛美術における柳瀬正夢の位置を重視し、その作品及び関連する作品等を収集する。
 - オ 杉浦非水、真鍋博をはじめ、デザインに関連する作品等を収集する。
 - カ 畦地梅太郎を中心として、関連する版画を収集する。

2 取得作品の概要

購入作品

No.	作家名	作品名	制作年	技法・支持体	寸法 (cm)
1	三輪田米山	貼交屏風 (履素、無違、文在中、独清、成言、有終)	明治時代	紙本墨書・六曲屏風一隻	各134.5×53.9
2	三輪田米山	酔如夢	明治時代	紙本墨書・額	56.0×135.0
3	三輪田米山	大美不言	明治37年 (1904)	紙本墨書・額	32.5×134.5
4	三輪田米山	麒麟、高尚、楽群	明治時代	紙本墨書・軸三幅対	各137.0×62.5
5	八木良太	Resonance in Perspective (A)	令和元年 (2019)	パンチングメタル、フレーム	100.0×100.0×200.0
6	八木良太	Resonance in Perspective (B)	令和元年 (2019)	パンチングメタル、フレーム	42.0×42.0×121.0
7	矢崎千代二	瀬戸内海	昭和10年 (1935)	パステル、紙	24.4×33.2

寄贈作品

No.	作家名	作品名	制作年	技法・支持体	寸法 (cm)
1	山本雲溪	費長房図	嘉永4年 (1851)	絹本着色・軸	31.2×50.8
2	沖 冠岳	竹林図	江戸時代末期-明治時代初期	絹本墨画・額	32.8×64.8
3	下村為山	雑誌表紙原画	大正-昭和時代	紙本淡彩・軸 (2点組)	各27.0×17.4
4	柳瀬正夢	〔乳児寝姿〕	昭和12年 (1937)	クレヨン・紙	28.4×37.2
5	柳瀬正夢	中央公園前	昭和14年 (1939)	鉛筆、水彩・紙	22.5×27.5

委託制作作品

No.	作家名	作品名	制作年	技法・支持体	寸法 (cm)
1	光島貴之	松山まち歩き 一何を求める 風の中ゆくー	令和4年 (2022)	ミクストメディア	壁面:145.0×880.5×12.0 床面:120.0×180.0×5.0

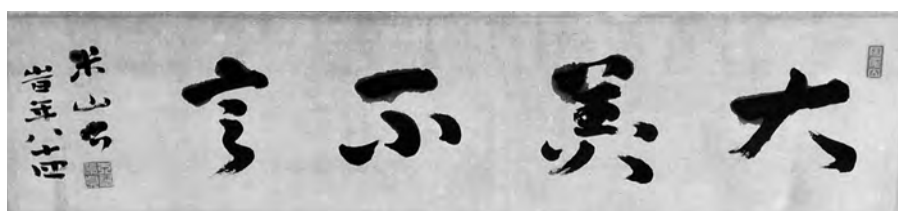
購入作品



1
三輪田米山
貼交屏風(履素、無違、文在中、独清、成言、有終)
明治時代
紙本墨書・六曲屏風一隻
各134.5×53.9cm



2
三輪田米山
醉如夢
明治時代
紙本墨書・額
56.0×135.0cm

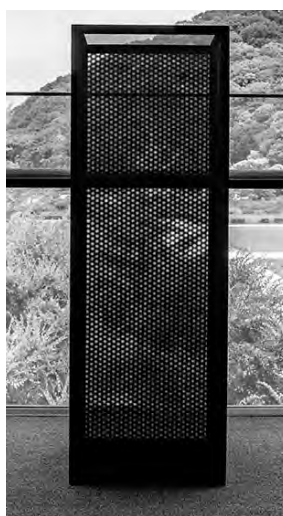


3
三輪田米山
大言不言
明治37年(1904)
紙本墨書・額
32.5×143.5cm

4
三輪田米山
麒麟、高尚、楽群
明治時代
紙本墨書・軸三幅対
各137.0×62.5cm



5
八木良太
Resonance in Perspective (A)
令和元年(2019)
パンチングメタル、フレーム
100.0×100.0×200.0cm



6
八木良太
Resonance in Perspective (B)
令和元年(2019)
パンチングメタル、フレーム
42.0×42.0×121.0cm



7
矢崎千代二
瀬戸内海
昭和10年(1935)
パステル、紙
24.4×33.2cm

寄贈作品



1
山本雲溪
費長房図
嘉永4年(1851)
絹本着色・軸
31.2×50.8cm



2
沖 冠岳
竹林図
江戸時代末期—明治時代初期
絹本墨画・額
32.8×64.8cm



3
下村為山
雑誌表紙原画
大正—昭和時代
紙本淡彩・軸(2点組)
各27.0×17.4cm



4
柳瀬正夢
〔乳児寝姿〕
昭和12年
(1937)
クレヨン、紙
28.4×37.2cm



5
柳瀬正夢
中央公園前
昭和14年
(1939)
鉛筆・水彩、紙
22.5×27.5cm

委託制作作品



1
光島貴之
松山まち歩き—何を求める 風の中ゆく—
令和4年(2022)
ミクストメディア
壁面:145.0×880.5×12.0cm
床面:120.0×180.0×5.0cm

3 収蔵作品数

分野	～平成 23 年度 末	平成 24 年度末	平成 25 年度末	平成 26 年度末	平成 27 年度末	平成 28 年度末	平成 29 年度末	平成 30 年度末	令和元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	合計
日 本 画	511 点	110 点	2 点	26 点	6 点	1 点	24 点	17 点	1 点	12 点	2 点	3 点	715 点
海 外 絵 画	9 点												9 点
油 彩 画	652 点		13 点	4 点		10 点	9 点		6 点	3 点	1 点		698 点
水 彩 画	117 点	1 点	11 点	2 点		7 点						1 点	139 点
素 描	234 点		2 点						4 点			2 点	242 点
版 画	720 点	16 点		14 点			1 点	81 点	3 点	1 点	7 点		843 点
書	307 点	1 点								13 点		4 点	325 点
彫 塑	40 点												40 点
工 芸	46 点												46 点
写 真	43 点												43 点
立体・イン スタレー シ ョ ン	33 点	18 点	6 点		3 点							3 点	63 点
デザイン	71 点		3 点	7 点						118 点			199 点
そ の 他	8,542 点			15 点		308 点			3 点	3 点			8,871 点
計	11,325 点	146 点	37 点	68 点	9 点	326 点	34 点	98 点	17 点	150 点	10 点	13 点	12,233 点

4 保存・修復

(1) 収蔵庫燻蒸

内 容 : 専門業者によるブンガノン V A 及びエコミューア F T の薬剤噴霧
 期 間 : 令和 4 年 10 月 14 日
 場 所 : 収蔵部門 収蔵庫 2・3、収蔵前室 計 324m²

(2) 収蔵庫清掃

内 容 : 学芸員の当番制及び博物館実習生による清掃作業（年 4 回）
 場 所 : 収蔵前室、収蔵庫 1・2・3、撮影室、作業室

5 所蔵品貸出状況 令和4年度

作家名	作品名	貸出先	展覧会名	貸出期間
杉浦非水	日本画科写生教室 五月三日	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、三重県立美術館、 福岡県立美術館、静岡市美術館、群馬県立近代美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2023.6.30
杉浦非水	臨模帖「縮図 芳章」	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、三重県立美術館、 福岡県立美術館、静岡市美術館、群馬県立近代美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2023.6.30
杉浦非水	画帖「寝ている男他」	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、三重県立美術館、 福岡県立美術館、静岡市美術館、群馬県立近代美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2023.6.30
杉浦非水	象 三月九日上野動物園	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、三重県立美術館、 福岡県立美術館、静岡市美術館、群馬県立近代美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2023.6.30
杉浦非水	『習画百題』	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、三重県立美術館、 福岡県立美術館、静岡市美術館、群馬県立近代美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2023.6.30
黒田清輝	杉浦非水像（非水図 案集発刊ニ際シテ） （複製）	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、三重県立美術館、 福岡県立美術館、静岡市美術館、群馬県立近代美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2023.6.30
杉浦非水	画帖「大阪時代」	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、三重県立美術館、 福岡県立美術館、静岡市美術館、群馬県立近代美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2023.6.30
杉浦非水	画帖「島根時代」	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、三重県立美術館、 福岡県立美術館、静岡市美術館、群馬県立近代美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2023.6.30
森脇 忠	「裸婦」	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、三重県立美術館、 福岡県立美術館、静岡市美術館、群馬県立近代美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2023.6.30
杉浦非水	画帖「富士山他」	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、三重県立美術館、 福岡県立美術館、静岡市美術館、群馬県立近代美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2023.6.30
杉浦非水	『富士山スケッチ』	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、三重県立美術館、 福岡県立美術館、静岡市美術館、群馬県立近代美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2023.6.30
杉浦非水（装丁）	饗庭篁村著『文学叢書 巢林子撰註』	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、三重県立美術館、 福岡県立美術館、静岡市美術館、群馬県立近代美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2023.6.30
杉浦非水（装丁）	あやめ会著 『あやめ草』	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、三重県立美術館、 福岡県立美術館、静岡市美術館、群馬県立近代美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2023.6.30
杉浦非水（装丁）	与謝野晶子著 『夢の華』	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、三重県立美術館、 福岡県立美術館、静岡市美術館、群馬県立近代美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2023.6.30
杉浦非水（装丁）	巖谷小波編『日本一 ノ画噺』（復刻）	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、三重県立美術館、 福岡県立美術館、静岡市美術館、群馬県立近代美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2023.6.30
杉浦非水	『タングラム』	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、三重県立美術館、 福岡県立美術館、静岡市美術館、群馬県立近代美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2023.6.30
杉浦非水（装丁）	柳川春葉著『生さぬ なか』中・下	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、三重県立美術館、 福岡県立美術館、静岡市美術館、群馬県立近代美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2023.6.30
杉浦非水（装丁）	菊池幽芳著『百合子』 上・中・下	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、三重県立美術館、 福岡県立美術館、静岡市美術館、群馬県立近代美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2023.6.30
杉浦非水（装丁）	菊池幽芳、鍋木清方 著『百合子画集』上	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、三重県立美術館、 福岡県立美術館、静岡市美術館、群馬県立近代美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2023.6.30
杉浦非水（装丁）	柳川春葉著『かたおもひ』 一・二・三巻	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、三重県立美術館、 福岡県立美術館、静岡市美術館、群馬県立近代美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2023.6.30
杉浦非水（装丁）	一海軍中佐（水野広徳）著 『戦影』	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、三重県立美術館、 福岡県立美術館、静岡市美術館、群馬県立近代美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2023.6.30
杉浦非水（装丁）	田口掬丁著 『ふたおもて』前	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、三重県立美術館、 福岡県立美術館、静岡市美術館、群馬県立近代美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2023.6.30
杉浦非水（装丁）	高峰 博著『夢学』	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、三重県立美術館、 福岡県立美術館、静岡市美術館、群馬県立近代美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2023.6.30
杉浦非水（装丁）	桜井忠温著『十字路』	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、三重県立美術館、 福岡県立美術館、静岡市美術館、群馬県立近代美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2023.6.30
杉浦非水（表紙）	『中学世界』第十三巻第九号	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、三重県立美術館、 福岡県立美術館、静岡市美術館、群馬県立近代美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2023.6.30
杉浦非水	『お伽世界』第一巻第一号（原画）	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、三重県立美術館、 福岡県立美術館、静岡市美術館、群馬県立近代美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2023.6.30
杉浦非水（表紙）	『日曜画報』第一巻第一号	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、三重県立美術館、 福岡県立美術館、静岡市美術館、群馬県立近代美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2023.6.30
杉浦非水（表紙）	『日曜画報』第一巻第三十九号	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、三重県立美術館、 福岡県立美術館、静岡市美術館、群馬県立近代美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2023.6.30
杉浦非水（表紙）	『少年世界』第十八巻第一号	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、三重県立美術館、 福岡県立美術館、静岡市美術館、群馬県立近代美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2023.6.30
杉浦非水（表紙）	『少年世界』第十八巻第十号	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、三重県立美術館、 福岡県立美術館、静岡市美術館、群馬県立近代美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2023.6.30

作 家 名	作 品 名	貸 出 先	展 覧 会 名	貸出期間
杉浦非水 (表紙)	『台湾愛国婦人』 第四十五巻	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、三重県立美術館、 福岡県立美術館、静岡市美術館、群馬県立近代美術館	杉浦非水 時代をひ らくデザイン	2021.6.27 - 2023.6.30
杉浦非水 (表紙)	『文章世界』 三月号	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、三重県立美術館、 福岡県立美術館、静岡市美術館、群馬県立近代美術館	杉浦非水 時代をひ らくデザイン	2021.6.27 - 2023.6.30
杉浦非水 (表紙)	『演芸画報』 第七年第一号	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、三重県立美術館、 福岡県立美術館、静岡市美術館、群馬県立近代美術館	杉浦非水 時代をひ らくデザイン	2021.6.27 - 2023.6.30
杉浦非水 (表紙)	『秀才文壇』 第十三巻第十号	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、三重県立美術館、 福岡県立美術館、静岡市美術館、群馬県立近代美術館	杉浦非水 時代をひ らくデザイン	2021.6.27 - 2023.6.30
杉浦非水 (表紙)	『女子文壇』 第十巻第六号	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、三重県立美術館、 福岡県立美術館、静岡市美術館、群馬県立近代美術館	杉浦非水 時代をひ らくデザイン	2021.6.27 - 2023.6.30
杉浦非水 (表紙)	『ダイヤモンド』 第三巻第八号	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、三重県立美術館、 福岡県立美術館、静岡市美術館、群馬県立近代美術館	杉浦非水 時代をひ らくデザイン	2021.6.27 - 2023.6.30
杉浦非水 (表紙)	『家庭雑誌』 第二巻第一号	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、三重県立美術館、 福岡県立美術館、静岡市美術館、群馬県立近代美術館	杉浦非水 時代をひ らくデザイン	2021.6.27 - 2023.6.30
杉浦非水 (表紙)	『家庭と玩具』 第二巻第一号	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、三重県立美術館、 福岡県立美術館、静岡市美術館、群馬県立近代美術館	杉浦非水 時代をひ らくデザイン	2021.6.27 - 2023.6.30
杉浦非水 (表紙)	『家庭』 二月号	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、三重県立美術館、 福岡県立美術館、静岡市美術館、群馬県立近代美術館	杉浦非水 時代をひ らくデザイン	2021.6.27 - 2023.6.30
杉浦非水 (表紙)	『婦人倶楽部』 第二巻第九号	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、三重県立美術館、 福岡県立美術館、静岡市美術館、群馬県立近代美術館	杉浦非水 時代をひ らくデザイン	2021.6.27 - 2023.6.30
杉浦非水 (表紙)	『現代』 第二巻第四号	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、三重県立美術館、 福岡県立美術館、静岡市美術館、群馬県立近代美術館	杉浦非水 時代をひ らくデザイン	2021.6.27 - 2023.6.30
杉浦非水 (表紙)	『現代』 第二巻第六号	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、三重県立美術館、 福岡県立美術館、静岡市美術館、群馬県立近代美術館	杉浦非水 時代をひ らくデザイン	2021.6.27 - 2023.6.30
杉浦非水	三越呉服店 春の新柄陳列会	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、三重県立美術館、 福岡県立美術館、静岡市美術館、群馬県立近代美術館	杉浦非水 時代をひ らくデザイン	2021.6.27 - 2023.6.30
杉浦非水	三越呉服店 新館落成	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、三重県立美術館、 福岡県立美術館、静岡市美術館、群馬県立近代美術館	杉浦非水 時代をひ らくデザイン	2021.6.27 - 2023.6.30
杉浦非水	三越呉服店 (エンゼル)	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、三重県立美術館、 福岡県立美術館、静岡市美術館、群馬県立近代美術館	杉浦非水 時代をひ らくデザイン	2021.6.27 - 2023.6.30
杉浦非水 (表紙)	『三越』	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、三重県立美術館、 福岡県立美術館、静岡市美術館、群馬県立近代美術館	杉浦非水 時代をひ らくデザイン	2021.6.27 - 2023.6.30
杉浦非水 (表紙)	『みつこしタイムス』	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、三重県立美術館、 福岡県立美術館、静岡市美術館、群馬県立近代美術館	杉浦非水 時代をひ らくデザイン	2021.6.27 - 2023.6.30
杉浦非水 (表紙)	『三越のショール』	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、三重県立美術館、 福岡県立美術館、静岡市美術館、群馬県立近代美術館	杉浦非水 時代をひ らくデザイン	2021.6.27 - 2023.6.30
杉浦非水 (装丁)	巖谷季雄編『子宝』	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、三重県立美術館、 福岡県立美術館、静岡市美術館、群馬県立近代美術館	杉浦非水 時代をひ らくデザイン	2021.6.27 - 2023.6.30
杉浦非水	光風会洋画 図案展覧会	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、三重県立美術館、 福岡県立美術館、静岡市美術館、群馬県立近代美術館	杉浦非水 時代をひ らくデザイン	2021.6.27 - 2023.6.30
杉浦非水	光風会第二回 絵画展覧会	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、三重県立美術館、 福岡県立美術館、静岡市美術館、群馬県立近代美術館	杉浦非水 時代をひ らくデザイン	2021.6.27 - 2023.6.30
杉浦非水	南満州鉄道株式会社	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、三重県立美術館、 福岡県立美術館、静岡市美術館、群馬県立近代美術館	杉浦非水 時代をひ らくデザイン	2021.6.27 - 2023.6.30
杉浦非水	勲業債券売出 九月一日より十日まで	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、三重県立美術館、 福岡県立美術館、静岡市美術館、群馬県立近代美術館	杉浦非水 時代をひ らくデザイン	2021.6.27 - 2023.6.30
杉浦非水	勲業債券売だし 十一月廿日より十二月 五日まで	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、三重県立美術館、 福岡県立美術館、静岡市美術館、群馬県立近代美術館	杉浦非水 時代をひ らくデザイン	2021.6.27 - 2023.6.30
杉浦非水 (表紙)	『ツーリスト』 第十八号	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、三重県立美術館、 福岡県立美術館、静岡市美術館、群馬県立近代美術館	杉浦非水 時代をひ らくデザイン	2021.6.27 - 2023.6.30
杉浦非水 (表紙)	『THE TOURIST』 Vo 1 . X II No.3	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、三重県立美術館、 福岡県立美術館、静岡市美術館、群馬県立近代美術館	杉浦非水 時代をひ らくデザイン	2021.6.27 - 2023.6.30
杉浦非水	翠子宛書簡 明治36年11月28 日-12月3日付	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、三重県立美術館、 福岡県立美術館、静岡市美術館、群馬県立近代美術館	杉浦非水 時代をひ らくデザイン	2021.6.27 - 2023.6.30
	〔非水と翠子〕	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、三重県立美術館、 福岡県立美術館、静岡市美術館、群馬県立近代美術館	杉浦非水 時代をひ らくデザイン	2021.6.27 - 2023.6.30
杉浦非水	スケッチ	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、三重県立美術館、 福岡県立美術館、静岡市美術館、群馬県立近代美術館	杉浦非水 時代をひ らくデザイン	2021.6.27 - 2023.6.30
杉浦非水 (装丁)	杉浦翠子著 『愛しき歌人の群』	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、三重県立美術館、 福岡県立美術館、静岡市美術館、群馬県立近代美術館	杉浦非水 時代をひ らくデザイン	2021.6.27 - 2023.6.30

作 家 名	作 品 名	貸 出 先	展 覧 会 名	貸出期間
杉浦非水	〔樹氷〕	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、三重県立美術館、福岡県立美術館、静岡市美術館、群馬県立近代美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2023.6.30
杉浦非水	日立電気冷蔵庫	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、三重県立美術館、福岡県立美術館、静岡市美術館、群馬県立近代美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2023.6.30
杉浦非水	〔浅間山噴火〕	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、三重県立美術館、福岡県立美術館、静岡市美術館、群馬県立近代美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2023.6.30
杉浦非水	昭和九年十一月廿四日 新雪の浅間	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、三重県立美術館、福岡県立美術館、静岡市美術館、群馬県立近代美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2023.6.30
杉浦非水	昭和二十二年八月十四日十二時二十五分位噴火	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、三重県立美術館、福岡県立美術館、静岡市美術館、群馬県立近代美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2023.6.30
杉浦非水 (装丁)	杉浦翠子著『生命の波動』	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、三重県立美術館、福岡県立美術館、静岡市美術館、群馬県立近代美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2023.6.30
杉浦非水 (表紙)	『短歌至上主義』第三巻第二号	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、三重県立美術館、福岡県立美術館、静岡市美術館、群馬県立近代美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2023.6.30
杉浦非水	〔潮干狩り〕	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、三重県立美術館、福岡県立美術館、静岡市美術館、群馬県立近代美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2023.6.30
杉浦非水	岐阜長良川鷺飼と納涼	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、三重県立美術館、福岡県立美術館、静岡市美術館、群馬県立近代美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2023.6.30
杉浦非水	佐渡まで海上二時間	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、三重県立美術館、福岡県立美術館、静岡市美術館、群馬県立近代美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2023.6.30
杉浦非水 (表紙)	『家の光』第二巻第八号	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、三重県立美術館、福岡県立美術館、静岡市美術館、群馬県立近代美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2023.6.30
杉浦非水 (表紙)	『現代』第八巻第十二号	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、三重県立美術館、福岡県立美術館、静岡市美術館、群馬県立近代美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2023.6.30
杉浦非水 (表紙)	『科学知識』第十三巻第六号	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、三重県立美術館、福岡県立美術館、静岡市美術館、群馬県立近代美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2023.6.30
杉浦非水 (表紙)	『科学知識』第十五巻第四号	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、三重県立美術館、福岡県立美術館、静岡市美術館、群馬県立近代美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2023.6.30
杉浦非水	爽快美味滋強飲料カルピス	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、三重県立美術館、福岡県立美術館、静岡市美術館、群馬県立近代美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2023.6.30
杉浦非水	「カルピス」徳用塩包紙 (青、赤)	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、三重県立美術館、福岡県立美術館、静岡市美術館、群馬県立近代美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2023.6.30
杉浦非水	「カルピス」塩ラベル	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、三重県立美術館、福岡県立美術館、静岡市美術館、群馬県立近代美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2023.6.30
藤田嗣治	自画像	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、三重県立美術館、福岡県立美術館、静岡市美術館、群馬県立近代美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2023.6.30
	藤田嗣治肖像写真	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、三重県立美術館、福岡県立美術館、静岡市美術館、群馬県立近代美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2023.6.30
	旅行鞆	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、三重県立美術館、福岡県立美術館、静岡市美術館、群馬県立近代美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2023.6.30
杉浦非水	ヨーロッパ日記	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、三重県立美術館、福岡県立美術館、静岡市美術館、群馬県立近代美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2023.6.30
杉浦非水	フランス語ノート	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、三重県立美術館、福岡県立美術館、静岡市美術館、群馬県立近代美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2023.6.30
杉浦非水	スケッチ	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、三重県立美術館、福岡県立美術館、静岡市美術館、群馬県立近代美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2023.6.30
	アルバム (フランス留学時代)	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、三重県立美術館、福岡県立美術館、静岡市美術館、群馬県立近代美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2023.6.30
杉浦非水	ヨーロッパ遊学中に撮影した写真	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、三重県立美術館、福岡県立美術館、静岡市美術館、群馬県立近代美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2023.6.30
	非水アルバム帖	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、三重県立美術館、福岡県立美術館、静岡市美術館、群馬県立近代美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2023.6.30
杉浦非水	蔵書票 (人魚、飛天) (原画)	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、三重県立美術館、福岡県立美術館、静岡市美術館、群馬県立近代美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2023.6.30
	収集物 (工芸品、郷土玩具他)	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、三重県立美術館、福岡県立美術館、静岡市美術館、群馬県立近代美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2023.6.30
	『外国文字集』	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、三重県立美術館、福岡県立美術館、静岡市美術館、群馬県立近代美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2023.6.30
	『名物控帳』	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、三重県立美術館、福岡県立美術館、静岡市美術館、群馬県立近代美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2023.6.30
	スクラップブック (招待券、入場券他)	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、三重県立美術館、福岡県立美術館、静岡市美術館、群馬県立近代美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2023.6.30

作 家 名	作 品 名	貸 出 先	展 覧 会 名	貸出期間
	メニュー	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、三重県立美術館、福岡県立美術館、静岡市美術館、群馬県立近代美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2023.6.30
	ホテルラベル	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、三重県立美術館、福岡県立美術館、静岡市美術館、群馬県立近代美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2023.6.30
	非水宛年賀状	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、三重県立美術館、福岡県立美術館、静岡市美術館、群馬県立近代美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2023.6.30
杉浦非水	銀座三越 四月十日開店	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、三重県立美術館、福岡県立美術館、静岡市美術館、群馬県立近代美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2023.6.30
杉浦非水	新宿三越落成 十月十日開店	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、三重県立美術館、福岡県立美術館、静岡市美術館、群馬県立近代美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2023.6.30
杉浦非水	LETTER TABLET (孔雀)	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、三重県立美術館、福岡県立美術館、静岡市美術館、群馬県立近代美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2023.6.30
杉浦非水	団扇〔青い花〕	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、三重県立美術館、福岡県立美術館、静岡市美術館、群馬県立近代美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2023.6.30
杉浦非水	団扇〔海景〕	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、三重県立美術館、福岡県立美術館、静岡市美術館、群馬県立近代美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2023.6.30
杉浦非水	七人社第二回創作 ポスター展覧会	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、三重県立美術館、福岡県立美術館、静岡市美術館、群馬県立近代美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2023.6.30
杉浦非水	七人社第三回創作 ポスター展覧会	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、三重県立美術館、福岡県立美術館、静岡市美術館、群馬県立近代美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2023.6.30
杉浦非水	SHICHININSHA	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、三重県立美術館、福岡県立美術館、静岡市美術館、群馬県立近代美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2023.6.30
杉浦非水 (表紙)	『アフィッシュ』 第一年第一号	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、三重県立美術館、福岡県立美術館、静岡市美術館、群馬県立近代美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2023.6.30
野村 昇	七人社第十回 創作図案展	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、三重県立美術館、福岡県立美術館、静岡市美術館、群馬県立近代美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2023.6.30
青井辰雄	多摩帝国美術学校第 I回図案科展覧会	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、三重県立美術館、福岡県立美術館、静岡市美術館、群馬県立近代美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2023.6.30
	『デセグノ』1	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、三重県立美術館、福岡県立美術館、静岡市美術館、群馬県立近代美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2023.6.30
杉浦非水、渡邊 素舟共著	『図案の美学』	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、三重県立美術館、福岡県立美術館、静岡市美術館、群馬県立近代美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2023.6.30
杉浦非水、渡邊 素舟編	『実用図案資料大成 植物資料図案集』 上巻	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、三重県立美術館、福岡県立美術館、静岡市美術館、群馬県立近代美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2023.6.30
杉浦非水、渡邊 素舟編	『世界植物図案資料 集成』	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、三重県立美術館、福岡県立美術館、静岡市美術館、群馬県立近代美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2023.6.30
杉浦非水、渡邊 素舟編	『世界人物図案資料 集成』	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、三重県立美術館、福岡県立美術館、静岡市美術館、群馬県立近代美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2023.6.30
杉浦非水	巻一男女共通 幾 何学的単独充填模様 (原画)	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、三重県立美術館、福岡県立美術館、静岡市美術館、群馬県立近代美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2023.6.30
杉浦非水	巻三男子巻四女子 風景の図案的表現 (原画)	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、三重県立美術館、福岡県立美術館、静岡市美術館、群馬県立近代美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2023.6.30
杉浦非水	ヤマサ醤油	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、三重県立美術館、福岡県立美術館、静岡市美術館、群馬県立近代美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2023.6.30
杉浦非水	古河コッパーペイント	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、三重県立美術館、福岡県立美術館、静岡市美術館、群馬県立近代美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2023.6.30
杉浦非水	東洋唯一の地下鉄道 上野浅草間開通	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、三重県立美術館、福岡県立美術館、静岡市美術館、群馬県立近代美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2023.6.30
杉浦非水	科学の粋をあつめた 地下鉄道 上野浅草間開通	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、三重県立美術館、福岡県立美術館、静岡市美術館、群馬県立近代美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2023.6.30
杉浦非水 (表紙)	『東京地下鉄道広告 案内』	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、三重県立美術館、福岡県立美術館、静岡市美術館、群馬県立近代美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2023.6.30
杉浦非水	アサヒグラフ 臨時増刊 明治大正名作展号	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、三重県立美術館、福岡県立美術館、静岡市美術館、群馬県立近代美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2023.6.30
杉浦非水	科学の力に魂の叫び	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、三重県立美術館、福岡県立美術館、静岡市美術館、群馬県立近代美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2023.6.30
杉浦非水	国の文化は道路から	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、三重県立美術館、福岡県立美術館、静岡市美術館、群馬県立近代美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 - 2023.6.30

作家名	作品名	貸出先	展覧会名	貸出期間
杉浦非水	画帖〔ポスターラフスケッチ他〕	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、三重県立美術館、福岡県立美術館、静岡市美術館、群馬県立近代美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 – 2023.6.30
杉浦非水	『非水創作図案集』	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、三重県立美術館、福岡県立美術館、静岡市美術館、群馬県立近代美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 – 2023.6.30
杉浦非水 (装丁)	佐藤紅緑著『第一步』	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、三重県立美術館、福岡県立美術館、静岡市美術館、群馬県立近代美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 – 2023.6.30
杉浦非水 (装丁)	エクトル・マロー著 (片岡鉄平訳)『あゝ故郷』	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、三重県立美術館、福岡県立美術館、静岡市美術館、群馬県立近代美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 – 2023.6.30
杉浦非水 (装丁)	沖野岩三郎著『赦し得ぬ悩み』	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、三重県立美術館、福岡県立美術館、静岡市美術館、群馬県立近代美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 – 2023.6.30
杉浦非水 (表紙)	『新曲歌謡 大風小風』	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、三重県立美術館、福岡県立美術館、静岡市美術館、群馬県立近代美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 – 2023.6.30
杉浦非水 (表紙)	『現代』第六巻第六号	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、三重県立美術館、福岡県立美術館、静岡市美術館、群馬県立近代美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 – 2023.6.30
杉浦非水 (表紙)	『科学』第二巻第三号	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、三重県立美術館、福岡県立美術館、静岡市美術館、群馬県立近代美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 – 2023.6.30
杉浦非水 (表紙)	『雄弁』第十五巻第十号	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、三重県立美術館、福岡県立美術館、静岡市美術館、群馬県立近代美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 – 2023.6.30
杉浦非水 (表紙)	『東京』第一巻第二号	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、三重県立美術館、福岡県立美術館、静岡市美術館、群馬県立近代美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 – 2023.6.30
杉浦非水 (表紙)	『東京』第二巻第一号	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、三重県立美術館、福岡県立美術館、静岡市美術館、群馬県立近代美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 – 2023.6.30
杉浦非水 (表紙)	『実業界』第三十四巻第四号	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、三重県立美術館、福岡県立美術館、静岡市美術館、群馬県立近代美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 – 2023.6.30
杉浦非水 (表紙)	『処女の友』第十巻第五号	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、三重県立美術館、福岡県立美術館、静岡市美術館、群馬県立近代美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 – 2023.6.30
杉浦非水	『街』第一巻第一号 (原画)	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、三重県立美術館、福岡県立美術館、静岡市美術館、群馬県立近代美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 – 2023.6.30
杉浦非水	エスケーコナ石鯨	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、三重県立美術館、福岡県立美術館、静岡市美術館、群馬県立近代美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 – 2023.6.30
杉浦非水	「琥珀ワニス」ラベル	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、三重県立美術館、福岡県立美術館、静岡市美術館、群馬県立近代美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 – 2023.6.30
杉浦非水	黎明無風 浅間連作の内	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、三重県立美術館、福岡県立美術館、静岡市美術館、群馬県立近代美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 – 2023.6.30
杉浦非水	雨	島根県立美術館、たばこと塩の博物館、三重県立美術館、福岡県立美術館、静岡市美術館、群馬県立近代美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2021.6.27 – 2023.6.30
杉浦非水 (表紙)	『雄弁』第十五巻第十号	静岡市美術館、群馬県立近代美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2022.11.12 – 2023.6.30
杉浦非水 (表紙)	『東京』第一巻第二号	静岡市美術館、群馬県立近代美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2022.11.12 – 2023.6.30
杉浦非水 (表紙)	『東京』第二巻第一号	静岡市美術館、群馬県立近代美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2022.11.12 – 2023.6.30
杉浦非水 (表紙)	『実業界』第三十四巻第四号	静岡市美術館、群馬県立近代美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2022.11.12 – 2023.6.30
杉浦非水 (表紙)	『処女の友』第十巻第五号	静岡市美術館、群馬県立近代美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2022.11.12 – 2023.6.30
杉浦非水	『街』第一巻第一号 (原画)	静岡市美術館、群馬県立近代美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2022.11.12 – 2023.6.30
杉浦非水	エスケーコナ石鯨	静岡市美術館、群馬県立近代美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2022.11.12 – 2023.6.30
杉浦非水	「琥珀ワニス」ラベル	静岡市美術館、群馬県立近代美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2022.11.12 – 2023.6.30
杉浦非水	黎明無風 浅間連作の内	静岡市美術館、群馬県立近代美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2022.11.12 – 2023.6.30
杉浦非水	雨	静岡市美術館、群馬県立近代美術館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	2022.11.12 – 2023.6.30
柳瀬正夢	MV 時代	レンパッハハウス美術館 (ドイツ)	Group Dynamics – Collectives of the Modernist Period	2021.9.16 – 2022.6.29
	『版』第4号	五百亀記念館	棟方志功展 西条市との出会い	2021.12.25 – 2022.4.10

作 家 名	作 品 名	貸 出 先	展 覧 会 名	貸出期間
	『版』第7号	五百亀記念館	棟方志功展 西条市との出会い	2021.12.25 － 2022.4.10
尾藤二洲	十四字句	愛媛県生涯学習センター	愛媛人物博物館常設展示	2022.3.1 － 2023.3.31
吉田蔵澤	墨竹	愛媛県生涯学習センター	愛媛人物博物館常設展示	2022.3.1 － 2023.3.31
三輪田米山	和歌（手にとらば…）	愛媛県生涯学習センター	愛媛人物博物館常設展示	2022.3.1 － 2023.3.31
下村為山	桔芭蕉に水仙	愛媛県生涯学習センター	愛媛人物博物館常設展示	2022.3.1 － 2023.3.31
下村為山	河畔図	愛媛県生涯学習センター	愛媛人物博物館常設展示	2022.3.1 － 2023.3.31
野間仁根	ライオンとかぶと虫	愛媛県生涯学習センター	愛媛人物博物館常設展示	2022.3.1 － 2023.3.31
野間仁根	迷宮物語	愛媛県生涯学習センター	愛媛人物博物館常設展示	2022.3.1 － 2023.3.31
村上三島	五言対句 （花乱似無主…）	愛媛県生涯学習センター	愛媛人物博物館常設展示	2022.3.1 － 2023.3.31
建畠大夢	白井雨山像	愛媛県生涯学習センター	愛媛人物博物館常設展示	2022.3.1 － 2023.3.31
土井要輔	子規坐像	愛媛県生涯学習センター	愛媛人物博物館常設展示	2022.3.1 － 2023.3.31
楨江山	義農作兵衛像	愛媛県生涯学習センター	愛媛人物博物館常設展示	2022.3.1 － 2023.3.31
佐々木二六	鐘馗	愛媛県生涯学習センター	愛媛人物博物館常設展示	2022.3.1 － 2023.3.31
横江嘉純	秋山大将騎馬像	愛媛県生涯学習センター	愛媛人物博物館常設展示	2022.3.1 － 2023.3.31
秋山好古	達磨図	愛媛県生涯学習センター	愛媛人物博物館常設展示	2022.3.1 － 2023.3.31
正岡子規	俳句分類初稿本 （五月雨）	愛媛県生涯学習センター	愛媛人物博物館常設展示	2022.3.1 － 2023.3.31
八木彩霞	石手川堤 夏	愛媛県美術館 特別展示室	八木彩霞・HiRo 彩霞と仲間達の作品 ヨーロッパの現代 アーティスト展	2022.3.29 － 4.10
八木彩霞	石手川堤防 雪の朝	愛媛県美術館 特別展示室	八木彩霞・HiRo 彩霞と仲間達の作品 ヨーロッパの現代 アーティスト展	2022.3.29 － 4.10
八木彩霞	海老	愛媛県美術館 特別展示室	八木彩霞・HiRo 彩霞と仲間達の作品 ヨーロッパの現代 アーティスト展	2022.3.29 － 4.10
八木彩霞	面河溪	愛媛県美術館 特別展示室	八木彩霞・HiRo 彩霞と仲間達の作品 ヨーロッパの現代 アーティスト展	2022.3.29 － 4.10
八木彩霞	観音像	愛媛県美術館 特別展示室	八木彩霞・HiRo 彩霞と仲間達の作品 ヨーロッパの現代 アーティスト展	2022.3.29 － 4.10
八木彩霞	鯉	愛媛県美術館 特別展示室	八木彩霞・HiRo 彩霞と仲間達の作品 ヨーロッパの現代 アーティスト展	2022.3.29 － 4.10
八木彩霞	睡蓮	愛媛県美術館 特別展示室	八木彩霞・HiRo 彩霞と仲間達の作品 ヨーロッパの現代 アーティスト展	2022.3.29 － 4.10
八木彩霞	雪中の猛虎	愛媛県美術館 特別展示室	八木彩霞・HiRo 彩霞と仲間達の作品 ヨーロッパの現代 アーティスト展	2022.3.29 － 4.10

作家名	作品名	貸出先	展覧会名	貸出期間
八木彩霞	瀬戸の船	愛媛県美術館 特別展示室	八木彩霞・HiRo 彩霞と仲間達の作品ヨーロッパの現代アーティスト展	2022.3.29 - 4.10
八木彩霞	鯛	愛媛県美術館 特別展示室	八木彩霞・HiRo 彩霞と仲間達の作品ヨーロッパの現代アーティスト展	2022.3.29 - 4.10
八木彩霞	ダゲール街のアトリエ	愛媛県美術館 特別展示室	八木彩霞・HiRo 彩霞と仲間達の作品ヨーロッパの現代アーティスト展	2022.3.29 - 4.10
八木彩霞	十勝の牧場	愛媛県美術館 特別展示室	八木彩霞・HiRo 彩霞と仲間達の作品ヨーロッパの現代アーティスト展	2022.3.29 - 4.10
八木彩霞	薔薇	愛媛県美術館 特別展示室	八木彩霞・HiRo 彩霞と仲間達の作品ヨーロッパの現代アーティスト展	2022.3.29 - 4.10
八木彩霞	薔薇	愛媛県美術館 特別展示室	八木彩霞・HiRo 彩霞と仲間達の作品ヨーロッパの現代アーティスト展	2022.3.29 - 4.10
八木彩霞	牡丹	愛媛県美術館 特別展示室	八木彩霞・HiRo 彩霞と仲間達の作品ヨーロッパの現代アーティスト展	2022.3.29 - 4.10
八木彩霞	ライオン	愛媛県美術館 特別展示室	八木彩霞・HiRo 彩霞と仲間達の作品ヨーロッパの現代アーティスト展	2022.3.29 - 4.10
八木彩霞	裸婦 グランショミエール	愛媛県美術館 特別展示室	八木彩霞・HiRo 彩霞と仲間達の作品ヨーロッパの現代アーティスト展	2022.3.29 - 4.10
八木彩霞	鯉の滝登り	愛媛県美術館 特別展示室	八木彩霞・HiRo 彩霞と仲間達の作品ヨーロッパの現代アーティスト展	2022.3.29 - 4.10
	パリにて(八木彩霞、藤田嗣治、石黒敬七)	愛媛県美術館 特別展示室	八木彩霞・HiRo 彩霞と仲間達の作品ヨーロッパの現代アーティスト展	2022.3.29 - 4.10
八木彩霞	森永ミルクキャラメル図案他	愛媛県美術館 特別展示室	八木彩霞・HiRo 彩霞と仲間達の作品ヨーロッパの現代アーティスト展	2022.3.29 - 4.10
八木彩霞	明治天皇肖像(写真)	愛媛県美術館 特別展示室	八木彩霞・HiRo 彩霞と仲間達の作品ヨーロッパの現代アーティスト展	2022.3.29 - 4.10
山元春挙	春の海	滋賀県立美術館、笠岡市竹喬美術館、富山県水墨美術館	生誕 150 年 山元春挙展	2022.4.10 - 11.18
伊藤五百亀	旦(あした)	五百亀記念館	没後 30 年 伊藤五百亀 彫刻のいろは展	2022.4.10 - 9.10
坂本繁二郎	ブルターニュ	アーティゾン美術館	生誕 140 年 ふたつの旅 青木繁×坂本繁二郎	2022.7.30 - 10.16
坂本繁二郎	ブルターニュ	久留米市美術館	生誕 140 年 ふたつの旅 青木繁×坂本繁二郎	2022.10.29 - 2023.1.22
中川八郎	寒霞溪四望眺より	香川県立ミュージアム	風景が物語る 瀬戸内海の力	2022.9.23 - 11.6
吉田博	帆船 午前	香川県立ミュージアム	風景が物語る 瀬戸内海の力	2022.9.23 - 11.6
吉田博	帆船 夕	香川県立ミュージアム	風景が物語る 瀬戸内海の力	2022.9.23 - 11.6
野間仁根	来島水道仲渡島附近	香川県立ミュージアム	風景が物語る 瀬戸内海の力	2022.9.23 - 11.6
高階重紀	作品	今治市河野美術館	生誕 110 年 今治美術界の父 高階重紀展	2022.8.4 - 8.30

作 家 名	作 品 名	貸 出 先	展 覧 会 名	貸出期間
高階重紀	作品	今治市河野美術館	生誕 110 年 今治美術界の父 高階重紀展	2022.8.4 - 8.30
高階重紀	作品 R	今治市河野美術館	生誕 110 年 今治美術界の父 高階重紀展	2022.8.4 - 8.30
クロード・モネ	アンティープ岬	練馬区立美術館	日本の中のマネー出会い、120 年のイメージ	2022.8.16 - 11.17
安井曾太郎	樹蔭	練馬区立美術館	日本の中のマネー出会い、120 年のイメージ	2022.8.16 - 11.17
下村為山	子規庵句会写生図 (寄託作品)	松山市立子規記念博物館	第 68 回特別企画展「子規と進化する句会－俳句革新の原動力－」	2022.8.21 - 10.26
正岡子規	河東碧梧桐宛書簡 (明治 25 年 9 月 5 日付)	松山市立子規記念博物館	第 68 回特別企画展「子規と進化する句会－俳句革新の原動力－」	2022.8.21 - 10.26
正岡子規	河東碧梧桐宛書簡 (明治 26 年 1 月 31 日付)	松山市立子規記念博物館	第 68 回特別企画展「子規と進化する句会－俳句革新の原動力－」	2022.8.21 - 10.26
正岡子規	河東碧梧桐宛書簡 (明治 29 年 12 月 11 日付)	松山市立子規記念博物館	第 68 回特別企画展「子規と進化する句会－俳句革新の原動力－」	2022.8.21 - 10.26
高橋貞次	備前伝刀	林原美術館、刀剣博物館、坂城町鉄の展示館	令和の名刀・名工展	2022.8.26 - 12.8
高橋貞次	相州伝脇差	林原美術館、刀剣博物館、坂城町鉄の展示館	令和の名刀・名工展	2022.8.26 - 12.8
前田青邨	鯉三題	岐阜県美術館	開館 40 周年記念 前田青邨展	2022.9.13 - 12.8
大竹伸朗	芥子／音影Ⅱ	東京国立近代美術館	大竹伸朗展	2022.10.13 - 2023.4.20
矢野橋村	柳蔭書堂図	大阪中之島美術館、東京ステーションギャラリー	大阪の日本画	2022.12.16 - 2023.6.30
矢野橋村	湖山清暁 (寄託作品)	大阪中之島美術館、東京ステーションギャラリー	大阪の日本画	2022.12.16 - 2023.6.30
矢野橋村	羅浮逢仙 (寄託作品)	大阪中之島美術館、東京ステーションギャラリー	大阪の日本画	2022.12.16 - 2023.6.30
矢野橋村	暮色蒼々 (寄託作品)	大阪中之島美術館、東京ステーションギャラリー	大阪の日本画	2022.12.16 - 2023.6.30
矢野橋村	不動窟 (寄託作品)	大阪中之島美術館、東京ステーションギャラリー	大阪の日本画	2022.12.16 - 2023.6.30
矢野鉄山	孤琴涓潔	大阪中之島美術館、東京ステーションギャラリー	大阪の日本画	2022.12.16 - 2023.6.30
矢野鉄山	秋意幽遠	大阪中之島美術館、東京ステーションギャラリー	大阪の日本画	2022.12.16 - 2023.6.30
ウジェーヌ＝ルイ・ブーダン	プレスト、停泊地	国立西洋美術館	憧憬の地 ブルターニュ・モネ、ゴーガン、黒田清輝らが見た異郷	2023.2.21 - 6.23
坂本繁二郎	ブルターニュ	国立西洋美術館	憧憬の地 ブルターニュ・モネ、ゴーガン、黒田清輝らが見た異郷	2023.2.21 - 6.23
クロード・モネ	アンティープ岬	SOMPO 美術館、福島県立美術館、静岡市美術館	ブルターニュの光と風	2023.3.9 - 10.27
ギュスターヴ・クールベ	波	SOMPO 美術館、福島県立美術館、静岡市美術館、豊橋市美術館、広島県立美術館	ブルターニュの光と風	2023.3.9 -
ピエール・ボナール	アンドレ・ボナール嬢の肖像 画家の妹	SOMPO 美術館、福島県立美術館、静岡市美術館、豊橋市美術館、広島県立美術館	ブルターニュの光と風	2023.3.9 -

下記のテーマで調査研究を行った。

土居聡朋 学芸課長

テーマ：中世伊予の地域史研究、中世～近代の書・古文書の研究、愛媛県社会教育史・文化史

内 容：

【中世伊予の地域史研究】

来島村上氏等に関する調査研究を行い、その成果を『伊予史談』第405号及び『戦国武将列伝10 四国編』（戎光堂出版）に公開した。

【中世～近代の書・古文書の研究】

高野山金剛三昧院所蔵文書及び関連文書を調査し、その成果を研究紀要第21号に掲載した。

【愛媛県社会教育史・文化史】

愛媛県立美術館の前身の一つにあたる郷土芸術館の設立・運営状況を行政資料により考察した。

長井 健 専門学芸員・担当係長

テーマ：伊予地方の宗教美術の調査研究、杉浦非水と日本のアール・デコ

内 容：

【伊予地方の宗教美術の調査研究】

将来的な企画展開催を見越して、各自治体教育委員会（文化財保護担当者）と連携しながら、伊予地方における寺社所有の文化財（仏像・絵画等）の調査を実施した。

【杉浦非水と日本のアール・デコ】

杉浦非水が近代日本のグラフィックデザイン創成期に果たした役割を検証し、特に、渡欧経験により得たヨーロッパのデザインの様式と理念を、どのように日本に紹介して、いわば「日本のアール・デコ」が展開していったかの調査研究を行った。また、令和3年度から全国巡回中の「杉浦非水 時代をひらくデザイン」展の全体監修を担当し、開催館での講演会などを行った。

鈴木有紀 専門学芸員・担当係長

テーマ：「対話型鑑賞」を応用した常設展示の研究

内 容：

【対話を軸とした常設展示活動の研究】

平成27年度～30年度まで実施したえひめ「対話型授業」プロジェクトで得た知見をもとに、常設展示室内で「対話的」な展示について実践・模索した。

田代亜矢子 専門学芸員

テーマ：美術館の教育普及活動、技法について

内 容： 創作では、フェルト制作を簡易に行えるように工夫し、講座において小学生から募集し座布団を作成、障がい児はポシェットの制作を行った。

次年度の文化庁事業「みることを考える」で活用するため、触図の試作を行い、視覚障がい者の受け入れWSで活用し改善を図った。

また、昨年度より続けている職場体験やインターンシップ等での受け入れに際し、美術館において自発的な学びの提供プログラム「展示室のひみつ」の改善、試行を繰り返した。

石崎三佳子 専門学芸員

テーマ：アトリエの活性化、「みることを考える」取り組み

内 容：

【アトリエの活性化】

アトリエの新規利用者の拡充、既存利用者の技術の向上を図るアトリエ活性化事業を実施するため、作家の選定、公開制作やワークショップの内容の検討、制作手順の紹介動画を監修した。

【「みることを考える」取り組み】

視覚障がい者との美術鑑賞や視覚に頼らない美術の楽しみ方について調査、検討を継続した。

特別展「みる冒険」では、光島貴之氏、八木良太氏の2名の作家を軸に所蔵品を交えて、鑑賞者が普段意識していなかった感覚と向き合い、「みること」を思考する場を利用者に提供する展覧会、関連イベントを企画し、実施した。

武田信孝 専門学芸員

テーマ：欧米と日本を中心とした近現代美術史

内 容： 令和4年度企画展「ムーミンコミックス展」の開催にあたり、「ムーミンコミックスの成立背景について」と題し、同展を観覧する団体（河原デザイン・アート専門学校の学生及び教員）対象の講座の講師を務めた。

また、コレクション展の開催にあたり、「西洋の肖像画の魅力とその見方」と題し、レクチャーの講師を務めた。

加えて、令和5年度企画展「ヨハネ・パウロ2世美術館展」の開催に向けて、同展図録（ホワイトインターナショナル、令和5年発行）に章解説1件（「母と子」）、作品解説7件を寄稿し、下訳2件・作家解説60件の校閲・アレンジ、全体の編集・校正等に携わった。

その他、Google Arts & Cultureに当館プラットフォームを構築し、昨年度作成した英文ストーリー「日本の四季」、当館所蔵品150点の欧文基礎情報、作品画像を登録公開した。

杉山はるか 専門学芸員

テーマ：白川義員および県ゆかりの写真家について、県ゆかりの現代作家等について

内 容：

【白川義員および県ゆかりの写真家について】

白川義員展の実施に際し、愛媛新聞に連載記事を執筆した。合わせて県ゆかりの写真家である新山清を中心に調査し、関連講座で発表した。

【県ゆかりの現代作家等に関する調査研究】

県ゆかりの作家についての調査研究。次年度個展開催が決定した大竹伸朗に関して資料収集等展覧会準備を行った。所蔵作家の版画家・木下恵介の作品集（『木下恵介 作品集 1983-2022』東京造形大学、2023年）に寄稿した。愛媛県立美術館設立前後の状況について伊予史談会5月例会で発表し、要旨をまとめた。

喜安嶺 主任学芸員

テーマ：中川八郎及び関連する近代洋画家の作品調査、畦地梅太郎コレクションに関する調査研究、新型コロナウイルス感染拡大期における美術館活動に関する調査研究

内 容：

【中川八郎を始めとする愛媛県に関わりの深い近代洋画家の作品調査】

愛媛県内子町出身の中川八郎及び中川と関係の深い作家についての調査を行い、企画展「発見された日本の風景展」及びコレクション展においてその成果を公開するとともに、企画展図録において中川八郎に関する論考を掲載した。

【畦地梅太郎コレクションに関する調査】

畦地梅太郎コレクションの再調査を行い、コレクション展でその成果を紹介するとともに、畦地の活動を愛媛で支えた郷土史家の交流について考察を行い、『伊予史談』405号（伊予史談会編・発行）に「畦地梅太郎と故郷 愛媛について－秋山英一旧蔵資料から－」を掲載した。

【新型コロナウイルス感染拡大期における美術館活動に関する調査研究】

令和元年度から令和4年度中までの愛媛県美術館における感染拡大防止策や感染拡大期において

様々に模索を重ねた美術館活動の動向を取りまとめ、その成果と課題について『愛媛県美術館研究紀要』第21号に論考を掲載した。

金成めい 学芸員

テーマ：ミュージアムにおけるメディア芸術作品の活用と保存に関する研究

内 容： 企画展「愛媛県美術館開館25周年記念 海洋堂展 創るたのしみをすべての人に」の企画運営を通じて、アニメーションや漫画などのメディア芸術から派生したフィギュア作品やその展示方法について調査研究を行った。また、映像作品や資料の展示方法や活用方法についても検討を行った。

1 普及啓発事業

(1) レクチャー

①描かれた「かたな」と武具

内 容 作品に描かれた刀について解説しながら作品鑑賞を楽しんだ。
講 師 学芸課長 土居聡朋
日 時 5月22日(日) 14:00~15:30
受講人数 8 名(募集対象 一般 60名)

②『非水百花譜』の世界

内 容 杉浦非水の「百花譜」を中心に解説した。
講 師 専門学芸員・担当係長 長井健
日 時 6月5日(日) 14:00~15:30
受講人数 18 名(募集対象 一般 60名+オンライン配信)

③木からハジマル木からハジメル

内 容 木を材としたコレクションについて解説した。
講 師 主任学芸員 喜安嶺
日 時 7月9日(土) 14:00~15:30
受講人数 7 名(募集対象 一般 60名)

④昆虫おじさんが語る絵画の中の自然

内 容 作品に描かれた昆虫について自然史博物館の学芸員による解説を行った。
講 師 面河山岳博物館 矢野真志
日 時 8月20日(土) 14:00~15:30
受講人数 10 名(募集対象 一般 60名+オンライン配信)

⑤えひめの作家とフランスを旅する

内 容 愛媛の作家の描いた「フランス」をテーマに解説した。
講 師 専門学芸員 杉山はるか
日 時 9月24日(土) 14:00~15:30
受講人数 10 名(募集対象 一般 60名)

⑥柳瀬正夢とドイツ美術

内 容 柳瀬正夢とドイツ美術の関連について解説した。
講 師 愛媛大学法文学部准教授 野村優子
日 時 10月23日(日) 14:00~15:30
受講人数 15 名(募集対象 一般 60名+オンライン配信)

⑦吉田蔵澤-松山藩士、清廉なるその画境

内 容 吉田蔵澤の生涯と画業について解説した。
講 師 専門学芸員・担当係長 長井健
日 時 12月24日(土) 14:00~15:30
受講人数 12 名(募集対象 一般 60名)

⑧西洋の肖像画の魅力とその見方

内 容 コレクション展で展示中のボナールとロートの作品を起点として、西洋の肖像画の魅力とその見方について解説した。
講 師 専門学芸員 武田信孝
日 時 1月21日(土) 14:00~15:30
受講人数 11 名(募集対象 一般 60名)

⑨えひめの写真家 当館コレクションを中心に

内 容 愛媛出身の当館がコレクションする作家の内5人とフランスとの関わりについて取り上げた。

講 師 専門学芸員 杉山はるか

日 時 2月23日（木・祝） 14：00～15：30

受講人数 5 名 (募集対象 一般 60名)

⑩祝！畦地梅太郎生誕120年、その画業

内 容 コレクション展に連動した講座「うめたろうのくめ>」と題して作品解説を行った後、「あと
りえ・う」の畦地堅司と共にリモートによる対談を行い、畦地梅太郎の魅力に迫った。

講 師 主任學芸員 喜安嶺

日 時 3月11日(土) 14:00~15:30

受講人数 23 名 (募集対象 一般 60名+オンライン配信)

(2) 親子ワークショップ

簡単に制作できるキットを使って、参加者だけでできる講座を行った。

時 間 各10：30～11：30、14：00～15：00

募集対象 各 3 組（大人や1名でも参加可能）

①布に描いて、マイバッグ！

内 容 A4サイズの布袋に染料でイラストを描き、オリジナルバッグを作った。

講 師 専門学芸員 石崎三佳子

日 時 5月8日(日)・15日(日)、6月12日(日)・19日(日)

参加人数 延 58 名 (定員 各回 3 組)



②木でオリジナル乗り物をつくろう

内 容 色々な形の小さな木材を組み合わせせて乗り物の形に組み立てた。

講 師 専門学芸員 田代亜矢子

日 時 8月14日（日）・21日（日）、9月11日（日）・18日（日）

参加人数 延 66 名 (定員 各回 3 組)



③クリスマスツリーをつくろう

内 容 緑のツリー型のダンボールを飾り付けてクリスマスツリーをつくる。

講 師 専門学芸員 田代亜矢子

日 時 11月13日（日）・20日（日）、12月11日（日）・18日（日）

参加人数 延 50 名 (定員 各回 3 組)



④つながる絵カレンダー

内 容 並べると繋がる絵を描いて日めくりカレンダーをつくる。

講 師 専門学芸員 石崎三佳子

日 時 2月12日(日)・19日(日)、3月12日(日)・19日(日)

参加人数 52名(定員 各回3組)



(3) ワークショップ

①アートカードでカードゲームだー！

内 容 所蔵作品より作成した100枚のアートカードを使って、美術館コレクションに親しんだ。

担 当 専門学芸員 田代亜矢子

専門学芸員・担当係長 鈴木有紀

日 時 6月25日(土) 14:00~15:00

参加人数 14名



②ニードルフエルトで似顔絵づくり♪

内 容 羊毛やフェルトシート、毛糸やボタンを使ってちょっと凸凹した似顔絵を作った。

担 当 専門学芸員 田代亜矢子

学芸員 金成めい

日 時 7月10日(日)・17日(日) 13:30~15:30

参加人数 7名



③感覚のトビラをヒラク

内 容 普段とは違う方法で周囲を観察し、感覚を揺るがす体験を行った。

担 当 専門学芸員 石崎三佳子、田代亜矢子

学芸員 金成めい

日 時 9月23日(金・祝) 14:00~15:30

参加人数 12名



④版に写して、紙に写す

内 容 物の形や表面を写して版を作り、インクをのせて紙に刷るソフトグラウンド・エッチングの技法を楽しんだ。

担 当 専門学芸員 石崎三佳子

日 時 10月23日(日)

①14:00~15:30 ②14:00~16:00

参加人数 9名



⑤美術館探検

内 容 館内を探検しながら参加者同士で話し合い、「作品を守るため」の仕事について考えた。

担 当 専門学芸員・担当係長 鈴木有紀

専門学芸員 田代亜矢子、学芸員 金成めい

日 時 11月19日(土) 13:30~15:30

参加人数 4名



⑥ノッティング織りでほこほこ座布団

内 容 羊毛を洗った状態のものを結び織りして、絨毯のような小さい座布団をつくった。

担 当 専門学芸員 田代亜矢子

日 時 1月21日(土) 11:00~16:00

参加人数 6名



(4) コレクショントーク

内 容 所蔵作品を対話型鑑賞で楽しむワークショップ。コロナ感染対策のため研修室にてスライドで実施。

ファシリテーター 当館学芸員・当館作品ガイドボランティア

日 時 4/6(水) 24(日) 5/8(日) 18(水) 8/28(日) 9/7(水) 16(金) 25(日)
10/9(日) 19(水) 23(日) 11/2(水) 13(日) 12/7(水) 11(日) 21(水) 25(日)
1/4(水) 18(水) 22(日) 2/1(水) 12(日) 15(水) 26(日) 3/1(水) 12(日)
15(水) 26(日) 各14時~15時

参加人数 延 530名 (開催回数 28回)

(5) コレクショントーク+ (プラス)

内 容 見える人も見えない人も一緒に作品鑑賞を楽しむワークショップ。研修室にてスライドで実施。

ファシリテーター 当館学芸員・当館作品ガイドボランティア

日 時 4/15(金) 6/17(金) 8/19(金) 10/5(水) 12/7(水) 2/1(水)
各14時~15時30分

参加人数 延 73名 (開催回数 6回)

2 創作活動支援事業

(1) アトリエの設置

創作活動ができる場として、アトリエ1(版画全般)、アトリエ2(染織、木工、写真等)を設置し、県民に開放している。

アトリエ利用状況

(単位: 開館日数以外は人)

区 分	開室日数	利用人数			計
		アトリエ1	アトリエ2	アトリエひろば	
4月	26	22	54	0	76
5月	26	35	105	0	140
6月	26	50	80	0	130
7月	27	26	52	0	78
8月	25	21	117	0	138
9月	25	47	99	0	146
10月	26	50	103	0	153
11月	26	27	132	0	159
12月	24	38	68	0	106
1月	24	32	83	0	115
2月	24	33	126	0	159
3月	27	32	240	0	272
計	306	413	1,259	0	1,674
1日平均		1.3	4.1	0	5.0

※アトリエひろばの開設は感染防止のため中止

(2) 創作学習の支援

アトリエ等での創作活動を行うにあたって、制作方法や技法などについて相談にのり、アドバイスを行った。また、アトリエの利用促進のため、下記の事業を開催した。

①アトリエ教室

初めてアトリエを利用する方に、利用者の要望に対応した基本的な機材の使い方や制作手順を指導するワークショップを開催した。

日 時 アトリエ1 (版画) 第1・3水曜日・土曜日

アトリエ2 (多目的) 第2・4水曜日・土曜日

種 目 シルクスクリーン、銅版画、ガリ版、ドライポイント、紡ぎ、染め(インド藍・草木染め)、フェルト、写真、おひさま写真など

対 応 者 田代亜矢子専門学芸員・石崎三佳子専門学芸員・金成めい学芸員

参加人数 延 85 名(開催回数 40回)



②夏休みイベント

夏休み版 親子ワークショップ

「モノタイプ版画」

塩ビ板に水彩絵の具で描き、水で濡らした紙に刷った。

「藍染めエコバッグ」

布バッグを輪ゴムなどで縛ったりして、インド藍で染めた。

日 時 8/11 (木・祝)・12 (金)

①11:00~11:45 ②13:30~14:15

③14:30~15:15

参加人数 延 45 名(定員 各3組)



3 美術情報関係事業

(1) 美術館情報発信

①ホームページ、SNSでの情報発信

美術館の概要、展覧会や講座の案内などを紹介している。(https://www.ehime-art.jp/)

②年間予定表「みるん・するん」

みるん(展覧会スケジュール)・するん(教育普及プログラム)を掲載したイベントスケジュールを半期毎に変形6折れで、各10,000部発行した。

③美術館ニュース「Canforo(カンフォロ)」の発行

第64号(令和4年7月)、第65号(令和5年2月)をA4版、4頁で各2,000部刊行した。



【第64号】



【第65号】

④メールマガジンの配信

メールマガジン「カンフォロ」を月1回配信している。

(2) 美術情報の提供

①美術館情報図書コーナーの設置

新館1階に美術情報図書コーナーを開設、一般の利用に役立てている。

収蔵図書数 計43,710冊（閉架を含む）

②DVD上映ブース

美術情報図書コーナー内に2台のDVD上映ブースを設置し、希望者が視聴できる。

上映DVD数 計46番組

※新型コロナ感染拡大防止のため休止

4 他機関との連携事業

(1) 館内プログラム

美術館活用を希望する団体からの研修依頼に応え、当館学芸員及び職員が講師を務めた。

①教員研修の受け入れ

	研 修 名	日 時	対 象 者	人 数	研 修 内 容
1	県教育センター 10年研修	7/22(金) 10:00~16:00	教員	3	コラグラフ アートカード
合 計				3	

②学校団体の受け入れ

ア 職場体験の対応

	研 修 名	日 時	対象者	人数	研修内容
1	松山市立旭中学校①	6/30(木)・7/1(金) 9:30~15:00	中学2年生	2	施設見学、発送業務、ワーク ショップ試作等
2	松山市立南中学校	7/6(水)~8(金) 9:30~15:00	中学2年生	4	施設見学、コレクショントーク、 監視業務等
3	松山市立久米中学校①	8/16(火)・17(水) 9:30~15:00	中学2年生	4	施設見学、展示室のひみつ探し、 監視業務等
4	松山市立久米中学校②	8/18(木)・19(金) 9:30~15:00	中学2年生	4	施設見学、展示室のひみつ探し、 監視業務等
5	東温市立重信中学校	8/23(火)~26(金) 9:30~15:00	中学2年生	3	施設見学、対話型鑑賞アトリエ 清掃等
6	松前町立松前中学校	8/24(水)~26(金) 9:30~15:00	中学2年生	2	施設見学、展示室のひみつ探し、 発送業務等
7	松山市立旭中学校②	8/30(火)・31(水) 9:30~15:00	中学2年生	4	施設見学、温湿度記録用紙交換、 発送業務等
8	松山市立椿中学校	9/7(水)~9(金)	中学2年生	4	施設見学、展示室のひみつ探し 等
9	松山市立津田中学校 松山市立小野中学校	9/13(火)~15(木) 9:30~15:00	中学2年生	1 3	施設見学、講座準備、展示室の ひみつ探し等
10	松山市立桑原中学校	9/13(火)~16(金) 9:30~15:00	中学2年生	2	施設見学、講座準備、展示室の ひみつ探し等
11	松前町立北伊予中学校	9/19(水)~21(金) 9:30~15:00	中学2年生	2	施設見学、団体対応補助、コン サート補助等
12	伊予市立港南中学校	10/25(火) 9:30~15:00	中学2年生	3	施設見学、展示室のひみつ探し 等
13	松山市立東中学校	11/29(火)~12/1(木) 9:30~15:00	中学2年生	4	施設見学、展示室のひみつ探し 等
14	松山市立勝山中学校	12/2(金)・5(月)・7(水) 9:30~15:00	中学2年生	4	施設見学、展示室のひみつ探し 等
合 計				46	

イ 体験学習の受け入れ

学校団体等の要望により、アトリエでの創作体験学習の対応をした。

※人数の（ ）は引率者数

	学 校 名	日 時	対 象 者	人 数	活 動 内 容
1	咲くやこの花中学校	5/12 (木) 14:25~16:35	中学3年生	19 (5)	展覧会鑑賞 創作体験「大きな風船」
2	第一高等学院	6/14 (火) 13:00~15:00	高校生	9 (1)	創作体験「コラグラフ」
3	高齢者大学校	8/18 (木) 13:30~16:00	高齢者	29 (2)	展覧会鑑賞 対話型鑑賞
4	松山ビジネスカレッジ	9/2 (木) 9:40~16:20	専門学生	4 (1)	シルクスクリーン
5	松山ビジネスカレッジ	9/30 (金) 9:40~16:20	専門学生	10 (1)	シルクスクリーン
6	松山北高等学校	10/20 (木) 10:00~12:00	高校生	40 (2)	展覧会ができるまで
7	愛媛県立松山盲学校	1/20 (金) 13:40~14:50	中学生	4 (6)	藍染め体験
合 計				115 (18)	

ウ 展覧会観覧受け入れ

展覧会名		児童・生徒数						合 計
		幼稚園	小学校	中学校	高等学校	大学・ 専門学校	特別支援 学校等	
1	ムーミンコミックス展	14校	1 校	3 校	7 校	1 校	校	26校
		748名	82名	241名	182名	20名	名	1,278名
2	名刀は語る展	校	校	2 校	6 校	1 校	校	9 校
		名	名	109名	147名	10名	名	266名
3	特別展 みる冒険 ゆらぐ感覚	校	校	校	校	1 校	4 校	5 校
		名	名	名	名	46名	134名	180名
4	国宝 高野山金剛峯寺展 空海ゆかりの名宝と運慶・快慶	校	5 校	5 校	22校	1 校	校	33校
		名	200名	157名	290名	16名	名	663名
5	中川八郎没後100年 発見された日本の風景 美しかりし明治への旅	校	1 校	校	2 校	校	校	3 校
		名	139名	名	86名	名	名	225名
6	追悼 白川義員写真展「天地創造」	校	11校	1 校	2 校	1 校	校	15校
		名	752名	19名	56名	25名	名	852名
7	コレクション展	14校	18校	11校	39校	4 校	4 校	90校
		748名	1,173名	526名	766名	117名	134名	3,464名
合 計		28校	36校	22校	78校	9 校	8 校	181校
		1,496名	2,346名	1,052名	1,532名	234名	268名	6,928名

③令和3年度 愛媛県インターンシップ

愛媛県インターンシップの受け入れを行った。

実習期間 8/9 (木)～13 (月) 各9:30～18:00

愛媛大学

実 習 生 2名

(2) 館外プログラム

施設や団体等の美術に関する事業依頼に応じ、当館学芸員及び職員を派遣した。

【講義・レクチャー】

①伊予史談会令和4年5月例会

内 容 愛媛県立美術館設立前後の動向について
日 時 5/8 (日) 9:30~10:40
場 所 愛媛県生活文化センター
講 師 杉山はるか専門学芸員
参加人数 43 名

②県内5校限定・対話型鑑賞出前授業

内 容 対話型鑑賞
日 時 5/13 (金)、6/17 (金)、7/8 (金)、9/22 (木)、10/28 (金) 10:55~11:45
場 所 愛媛県立丹原高等学校
講 師 鈴木有紀専門学芸員・担当係長
参加人数 23名×5回 (延べ 115 名)

③県内5校限定・対話型鑑賞出前授業

内 容 対話型鑑賞
日 時 5/26 (木)、7/14 (木)、10/13 (木)、11/11 (金)、2/17 (木)
(うち3回はオンライン) 9:20~12:00
場 所 西条市周布小学校
講 師 鈴木有紀専門学芸員・担当係長、作品ガイドボランティア2名
参加人数 106名×5回 (延べ 530 名)

④県内5校限定・対話型鑑賞出前授業

内 容 対話型鑑賞
日 時 6/21 (火)、7/19 (火)、9/29 (木)、10/25 (火)、12/6 (火) 10:20~14:40
場 所 伊方町立伊方小学校
講 師 鈴木有紀専門学芸員・担当係長、作品ガイドボランティア2名
参加人数 140名×5回 (延べ 700 名)

⑤県内5校限定・対話型鑑賞出前授業

内 容 対話型鑑賞
日 時 6/24、10/14、11/7 (月)、1/16 (火)、2/21 (火) 10:20~14:40
場 所 八幡浜市立白浜小学校
講 師 鈴木有紀専門学芸員・担当係長、作品ガイドボランティア2名
参加人数 139名×5回 (延べ 695 名)

⑥黒潮町対話型授業研究会

内 容 対話型鑑賞
日 時 6/28 (火)、7/21 (木)、9/30 (金)、10/20 (木) 13:50~16:30
場 所 高知県黒潮町内小中学校ほか
講 師 鈴木有紀専門学芸員・担当係長
参加人数 延べ 124 名

⑦県内5校限定・対話型鑑賞出前授業

内 容 対話型鑑賞
日 時 7/1 (金)、9/16 (金)、11/29 (火)、1/17 (火)、3/8 (水) 10:00~14:30
(うち3回はオンライン)
場 所 鬼北町立三島小学校
講 師 鈴木有紀専門学芸員・担当係長
参加人数 38×5回 (延べ 190 名)

⑧東予コミュニティ・カレッジ「愛媛の博物館・研究機関講座」／愛媛県生涯学習センター

内 容 国宝 高野山金剛峯寺展に向けて
日 時 7/22（金） 13：30～15：30
場 所 愛媛県総合科学博物館
講 師 長井健専門学芸員・担当係長
参加人数 28 名

⑨宇和島市立天神小学校教員研修

内 容 対話型鑑賞
日 時 7/22（金） 10：00～12：00
場 所 宇和島市立天神小学校
講 師 鈴木有紀専門学芸員・担当係長
参加人数 17 名

⑩水戸市立稲荷第一小学校教員研修

内 容 対話型鑑賞
日 時 8/9（火） 10：00～11：30
場 所 水戸市立稲荷第一小学校（オンライン）
講 師 鈴木有紀専門学芸員・担当係長
参加人数 30 名

⑪愛媛県家庭科研究会

内 容 対話型鑑賞
日 時 8/11（木） 10：00～16：00
場 所 愛媛県美術館
講 師 鈴木有紀専門学芸員・担当係長
参加人数 60 名

⑫東予コミュニティ・カレッジ「愛媛の博物館・研究機関講座」／愛媛県生涯学習センター

内 容 戦国時代の南予
日 時 8/26（金） 13：30～15：30
場 所 南予文化会館
講 師 土居聡朋学芸課長
参加人数 22 名

⑬広島県安芸高田市立八千代小中学校対話型鑑賞授業研修

内 容 対話型鑑賞
日 時 9/14（水） 13：30～15：00
場 所 安芸高田市立八千代小学校
講 師 鈴木有紀専門学芸員・担当係長
参加人数 52 名

⑭第85回新制作展 アートレクチャーⅠ／新制作協会

内 容 古茂田守介について
日 時 9/23（金） 14：00～15：30
場 所 東京国立新美術館
講 師 喜安嶺主任学芸員
参加人数 65 名

⑮第1回日本絵手紙協会公認講師実学講座

内 容 三輪田米山について
 日 時 10/6（木） 12：00～12：45
 場 所 松山市民会館
 講 師 長井健専門学芸員・担当係長
 参加人数 ※コロナにより中止

⑯西予市図工・美術委員会

内 容 おひさま写真
 日 時 10/26（水） 15：30～17：00
 場 所 西予市立中川小学校
 講 師 田代亜矢子専門学芸員
 参加人数 16 名

⑰中予コミュニティ・カレッジ「愛媛の博物館・研究機関講座」／愛媛県生涯学習センター

内 容 中川八郎没後100年 水彩画の旅
 日 時 12/15（木） 13：30～15：30
 場 所 愛媛県美術館
 講 師 喜安嶺主任学芸員
 参加人数 24 名

⑱令和4年度 祭都風早地域リーダー養成講座／風早活性化協議会

内 容 三輪田米山生誕200年・風早の三輪田米山紀行「米山のみち」ルート完成記念講演
 日 時 12/17（土） 14：00～15：30
 場 所 松山市北条コミセン
 講 師 長井健専門学芸員・担当係長
 参加人数 30 名

⑲「杉浦非水 時代をひらくデザイン」講演会

内 容 杉浦非水が目指したもの：その生涯と仕事
 日 時 12/18（日） 14：00～15：30
 場 所 静岡市美術館
 講 師 長井健専門学芸員・担当係長
 参加人数 60 名

⑳対話型鑑賞に関する研修会

内 容 対話型鑑賞
 日 時 12/27（火） 10：00～12：00
 場 所 宇和島市立明倫小学校
 講 師 鈴木有紀専門学芸員・担当係長
 参加人数 15 名

㉑松山ブンカ・ラボ／牛島光太郎 ワークショップ

内 容 対話のワークショップ 子どもの庭
 日 時 2/13（土） 19：00～21：00
 場 所 松山アーバンデザインセンター もぶるラウンジ
 講 師 金成めい学芸員
 参加人数 15 名

【ワークショップ】

①西条市中公民館「けんぴワークショップ」

内 容 対話型鑑賞、新聞紙で遊ぼう、竹の楽器作り、藍染め体験、など
日 時 6/4（土）、7/23（土）、9/17（土）、10/22（土）、11/12（土）、12/17（土）、
1/14（土）、2/25（土） 各13：30～15：00
場 所 西条市中央公民館
講 師 石崎三佳子専門学芸員、田代亜矢子専門学芸員、金成めい学芸員
参加人数 28名×8回

②惣開校区連合自治会「令和4年度惣開小学校 プリンス&プリンセス教室」

内 容 大きな風船で遊ぼう、分身をつくろう
日 時 7/21（木） 10：00～15：00
場 所 惣開公民館
講 師 石崎三佳子専門学芸員、田代亜矢子専門学芸員、金成めい学芸員
参加人数 延べ 66 名

③北条しらゆり児童クラブ

内 容 新聞紙で遊ぼう
日 時 8/25（木） 13：30～15：00
場 所 北条しらゆり児童クラブ
講 師 石崎三佳子専門学芸員、田代亜矢子専門学芸員
参加人数 22 名

④第1・3湯山児童クラブ

内 容 ポリ袋モビール
日 時 9/1（木） 13：30～15：00
場 所 第1・3湯山児童クラブ
講 師 石崎三佳子専門学芸員、田代亜矢子専門学芸員、創作ボランティア
参加人数 50 名

⑤伊予市立伊予小学校 小学2～4年特別支援学級

内 容 スチレン版画
日 時 11/15（火） 9：25～12：00
場 所 伊予市立伊予小学校
講 師 石崎三佳子専門学芸員、田代亜矢子専門学芸員
参加人数 6 名

⑥第1・3湯山児童クラブ

内 容 糸を巻いてクリスマスオーナメントをつくろう
日 時 12/16（金） 13：00～14：30
場 所 第1・3湯山児童クラブ
講 師 石崎三佳子専門学芸員、田代亜矢子専門学芸員、金成めい学芸員、創作ボランティア
参加人数 17 名

⑦生涯学習センター「ふれあいフェスタ」

内 容 いろいろなえブローチ
日 時 2/26（日） 10：30～15：30
場 所 愛媛県生涯学習センター
講 師 石崎三佳子専門学芸員、金成めい学芸員
参加人数 79 名

(3) 大学との連携

①令和4年度 博物館実習

学芸員資格取得のための博物館実習の受け入れを行った。

実習期間 8/4（木）～10（水） 各9：30～18：00 ※8/8（月）は休日

受入大学 愛媛大学法文学部、専修大学文学部

実 習 生 8 名

②愛媛大学「博物館資料保存論」

学芸員資格取得のための博物館学課程科目の授業を行った。

日 時 9/21（水） 13：30～15：30

講 師 長井健専門学芸員・担当係長

参加人数 46 名

(4) 調査・委員・審査・原稿執筆

【調査】

内 容	主催	実施日	対応者
綱敷天満神社奉納絵馬	今治市教育委員会	5/20（金）	長井健専門学芸員・担当係長
道後温泉事務所が所有する美術品	道後温泉事務所	6/7（火）	長井健専門学芸員・担当係長
内子町指定有形文化財高昌寺本堂の天井絵等	内子町教育委員会	7/12（火）	長井健専門学芸員・担当係長
等妙寺蔵「護摩私記」に関する文献史料	鬼北町教育委員会	12/20（火）	土居聡朋学芸課長

【委員】

内 容	主催	実施日	対応者
ギャラリーしろかわ運営審議会委員	西予市立美術館 ギャラリーしろかわ	R3.4.1～R5.3.31	石崎三佳子専門学芸員
松山市文化財保護審議会委員	松山市教育委員会	R3.4.1～R5.3.31	長井健専門学芸員・担当係長
松山市社会教育委員	松山市教育委員会	R3.11.15～R5.11.14	長井健専門学芸員・担当係長
伊方町地域博物館運営委員会	伊方町	R4.5.20～R7.5.19	土居聡朋学芸課長
「伊予稲荷神社宝物館」 文化財保存管理活用委員会	同左	R4.5.30～R5.8.31	土居聡朋学芸課長 喜安嶺主任学芸員
史跡河後森城跡調査・整備検討委員会委員	松野町	R4.9.8～R5.3.31	土居聡朋学芸課長

【審査】

内容	主催	実施日	対応者
「かまぼこ板の絵」展覧会 知事賞選考	文化振興課	5/31（火）	田代亜矢子専門学芸員
令和4年度愛媛県民総合文化祭総合プログラム表紙原画デザイン選考委員会	文化振興課	8/1（月）	武田信孝専門学芸員
歯・口の健康に関する図画・ポスターコンクール、啓発標語コンクール	一般社団法人愛媛県歯科医師会	9/14（水）	杉山はるか専門学芸員
令和4年度愛鳥週間用ポスター原画コンクール	自然保護課	9/9（金）	喜安嶺主任学芸員
令和4年度明るい選挙啓発ポスターコンクール	愛媛県選挙管理委員会	9/27（火）	石崎三佳子専門学芸員
「心の輪を広げる体験作文」及び「障害者週間ポスター」の審査会	愛媛県障がい者社会参加推進センター	9/14（木）	金成めい学芸員
障がい者芸術文化祭～愛顔ひろがるえひめの障がい者アート展～	愛媛県障がい者アートサポートセンター	11/24（木）	鈴木有紀専門学芸員・担当係長
第41回愛媛広告賞	愛媛広告協会	2/24（金）	田代亜矢子専門学芸員

【原稿執筆】

内 容	掲載誌	執筆者
杉浦非水作品紹介	「俳句手帳」（マルコボ、コム制作）	長井健専門学芸員・担当係長
浄土寺・浄瑠璃寺の絵画作品に関する解説	令和4年度特別展『浄土寺・浄瑠璃寺と写し霊場』図録（愛媛県歴史文化博物館、令和4年9月）	長井健専門学芸員・担当係長
R4年度アートの森プロジェクト「森のなぞなぞ美術館Ⅲ—木からハジマル、木からハジメル」	『かゝりび』令和4年7月号（愛媛県警察本部）	鈴木有紀専門学芸員・担当係長
コレクション展Ⅰ「ケンビコレクションで自然観察」	『かゝりび』令和4年8月号（愛媛県警察本部）	長井健専門学芸員・担当係長
特別展「みる冒険 ゆらぐ感覚」	『かゝりび』令和4年9月号（愛媛県警察本部）	石崎三佳子専門学芸員
企画展「弘法大師空海誕生1250年記念国宝 高野山金剛峯寺展」	『かゝりび』令和4年10月号（愛媛県警察本部）	長井健専門学芸員・担当係長
連載「アートの宝石箱から」 杉浦非水《三越呉服店 春の新柄陳列会》	『愛媛新聞』令和4年10月27日	長井健専門学芸員・担当係長
企画展「中川八郎没後100年 発見された日本の風景 美しかりし明治への旅」	『かゝりび』令和4年11月号（愛媛県警察本部）	喜安嶺主任学芸員
コレクション特別公開「生誕300年 吉田蔵澤—清廉なる画境—」	『かゝりび』令和4年12月号（愛媛県警察本部）	長井健専門学芸員・担当係長
コレクションⅢ「中川八郎、一挙公開！」	『かゝりび』令和5年1月号（愛媛県警察本部）	喜安嶺主任学芸員
木下恵介の作品世界 —パリの個展風景より	『木下恵介作品集』	杉山はるか専門学芸員
コレクション展Ⅳ「アートカード100！展Ⅱ」	『かゝりび』令和5年3月号（愛媛県警察本部）	鈴木有紀専門学芸員・担当係長
「村上通康・通総」「宇都宮豊綱」	『戦国武将列伝10 四国編』（戎光祥出版）	土居聡朋学芸課長
「来島村上氏の社殿造営—天正三年別宮大山祇神社社殿造立棟札を読む—」	『伊予史談』405号（伊予史談会）	土居聡朋学芸課長
「畦地梅太郎と故郷 愛媛について—秋山英一旧蔵資料から—」	『伊予史談』405号（伊予史談会）	喜安嶺主任学芸員

5 その他

(1) 第24回愛媛県美術館開館記念イベント

毎年11月27日の開館記念日前後に開館記念日イベントを実施し、多くの方に美術館に親しんでいただく特別な日として祝す。今年は11月27日（日）に鑑賞活動やワークショップ等様々な催しを実施し、県民に対して開かれた賑わいのある美術館づくりを目指した。

①コレクション展の観覧料無料

時 間 9：40～18：00
場 所 常設展示室3
内 容 コレクション展の観覧料を無料とした。
参加人数 283 名

②コレクショントーク

時 間 14：00～15：00
場 所 研修室
内 容 当館所蔵作品について、対話型鑑賞を行った。
参加人数 20 名

③ワークショップ「おしゃれメガネをつくろう」

時 間 ①10：00～10：45 ②11：00～11：45
場 所 エントランス
内 容 伊達メガネにモールやリボンを巻き付けたり、飾りを貼り付けたりしてデコレーションをした。開館記念日イベントを盛り上げるために成果物を身につけて館内や公園を移動するように促した。
材 料 費 300円
参加人数 延べ 20 名

④アートカード大会

時 間 ①10：30～11：30 ②13：30～14：30
場 所 展望ロビー
内 容 普段は学校団体のみの利用となっているアートカードを一般のお客様にもプレーしてもらい、美術館の取り組みを広く知ってもらう機会とした。
参加人数 延べ 17 名

⑤大地は大きな黒板だ！

時 間 ①11：00～11：30 ②13：30～14：00
場 所 美術館前庭
内 容 石だたみにチョークで大きな絵を自由に描いた。
参加人数 延べ 114 名

⑥ミュージアムコンサート

時 間 15：00～15：40
場 所 企画展示室2
内 容 ハンドベル演奏グループのプレーメンリンガーズによる演奏を通じて、来館者と美術館、そして音楽と美術作品をつなげることを目的に展示室内でコンサートを行い、展示した当館所蔵作品と演奏とのコラボレーションを楽しんでいた。
参加人数 80 名

⑦図録進呈

③④⑤⑥の参加者を対象に過去の展覧会図録を進呈した。
配布冊数 103冊

VI 美術館地域芸術文化活性化事業

アフターコロナを見据え、経済活動の停滞とともに影響を受けた県内の芸術文化を活性化するため、来館者にとって安心・安全な環境を整備するとともに、交流・創作スペースとしての機能を強化し、芸術文化に親しむことのできる場と機会を提供した。

【令和3年度2月補正事業】

1 「美術館に行こう！」（館蔵品に親しむバスツアープログラム）

県内の小学生を対象に、県の芸術文化に親しむ機会を提供するため、館蔵品による事前の出前授業と美術館見学のためのバスツアーを実施した。東予・中予・南予地域から次のとおり計18校1,306名の児童・生徒が美術館に来館した。

- ① 9月9日（金）：松山市立余土小学校 特別支援学級48名
- ② 9月16日（金）：県立宇和特別支援学校（知的障がい部門）中学部1～3年生69名
- ③ 11月10日（木）：松山市立五明小学校 1～6年生34名
- ④ 11月22日（火）：西条市立石根小学校 1～6年生106名
- ⑤ 11月24日（木）：県立今治特別支援学校 中学部2年生33名
- ⑥ 11月25日（金）：西条市立西条小学校 4年生79名
- ⑦ 11月30日（水）：西条市立丹原小学校 5・6年生105名
- ⑧ 12月16日（金）：砥部町立宮内小学校 4年生63名
- ⑨ 1月13日（金）：内子町立立川小学校 1～6年生27名
- ⑩ 1月24日（火）：松山市立高浜小学校 特支2・3・4年生139名
- ⑪ 1月25日（水）：愛南町立久良小学校 2・4・5・6年生15名
- ⑫ 2月9日（木）：愛南町立柏小学校 1～6年生50名
- ⑬ 2月21日（火）：八幡浜市立白浜小学校 1～6年生156名
- ⑭ 2月28日（火）：西条市立田野小学校 1～6年生87名
- ⑮ 3月1日（水）：松野町立松野東小学校 1～6年生37名
- ⑯ 3月2日（木）：宇和島市立吉田小学校 3・4・5年生95名
- ⑰ 3月6日（月）：西条市立楠河小学校 1～6年生100名
- ⑱ 3月10日（金）：八幡浜市立真穴小学校 1～6年生63名

2 交流スペースの活性化（エントランス・ハイビジョンギャラリー）

(1) デジタルを活用した非接触・参加型フォトイベントの実施

ウルトラテクノロジスト集団チームラボの「TeamLabCamera」によるフォトブース「ケンビカメラ」を設置し、独自の所蔵品等を活用したフォトフレーム11種を導入した。コロナ禍のエントランスにおける体験スポットとなり、併せて、作品に親しむ機会となった。

設置期間：6月～3月

フォトフレーム

- ・沖冠岳《百狸々図》
- ・河東碧梧桐《俳句 温泉めぐりして…》
- ・杉浦非水《三越呉服店 春の新柄陳列会》
- ・富岡鉄斎《鮮魚図》
- ・ピエール・ボナール《アンドレ・ボナール嬢の肖像 画家の妹》
- ・吉田蔵澤《墨竹》
- ・真鍋博《筒井康隆「スティング富豪刑事」》『小説新潮』1976年11月号挿図原画
- ・中山巍《月と静物》
- ・真鍋博《庭園都市》
- ・畦地梅太郎《よろこびの山》『山男誕生』より
- ・県のイメージアップキャラクター「みきゃん」と「こみきゃん」

※作品選定は、コレクション展に出品中の作品とした。

※作品解説のカードを作成し、配布。

(2) ハイビジョンギャラリーの見直し

来館者の安心・安全を確保しながら、オンラインイベントや交流スペースとしての機能強化を図るため、固定椅子を撤去し、新たに有線LAN用にスイッチングHUBやデジタル機器を付加した。

3 創作スペースの活性化（アトリエ）

県民アトリエ開設から22年が経過し、南館の耐震工事やコロナ禍で、アトリエ事業が縮小され、利用者が減少傾向にあった。アフターコロナを見越し外部講師を招聘し、創作の楽しさや新たな技法を伝えるイベントを実施、更にデジタルを活用して幅広くその魅力を伝えることで、県民にとって貴重な創作スペースをより利用しやすく、魅力ある場所として発信し、新規利用者の拡充、既存利用者の技術の向上を図った。

(1) アトリエで楽しむ創作 ワークショップ&公開制作

県民アトリエ（2室）の各部屋で利用の多い種目（シルクスクリーン、紡ぎ）について、専門の講師を招聘し、公開制作とワークショップを実施し、アトリエで活用できる制作手順の動画を作成した。

①羊と遊ぶワークショップ（原毛・洗い～カード～紡ぎ）

羊の原毛屋 SPIN HOUSE PONTAの本出ますみ氏による羊毛素材学（良く活用する原毛をホッチキスでノートに留めながら、自身の羊ノートを作成）を実施した後は、原毛の洗いから紡ぎまでの行程について、詳しく理論的な説明を交えながら、実際に触って体感できるワークショップを開催した。

日 時：【ワークショップⅠ 羊毛素材学】

10月8日（土） 13：00～17：00

【ワークショップⅡ 羊毛の選別・洗い】

10月9日（日） 10：00～13：00

【ワークショップⅢ カードの掛け方から紡ぎまで】

10月10日（月・祝）10：00～16：00（昼休憩1時間程度含む）

場 所：南館 アトリエ2

講 師：本出ますみ（羊の原毛屋 SPIN HOUSE PONTA／スピナッツ出版代表）

参 加 者：延べ 24 名（定員各8名）

②シルクスクリーンをやる、たのしむ

シルクスクリーンの多色刷りの工程やテクニックを知ることができる実演と制作体験を通して、シルクスクリーンの魅力、楽しさを味わうワークショップを開催した。

日 時：【実演】

原 稿 制 作／11月3日（木・祝） 10：30～12：00

製 版／11月3日（木・祝） 14：00～15：30

調色、試刷り／11月6日（日） 10：30～12：00

刷り、版合わせ／11月6日（日） 14：00～15：30

【ワークショップ シルクスクリーンでカラフルな蝶を刷ろう】

11月5日（土） 10：00～16：30

場 所：南館 アトリエ1

講 師：岩淵華林（画家）

参 加 者：延べ 35 名（実演／定員各10名、ワークショップ／定員6名）

(2) 制作手順紹介及びアーカイブ動画作成

アトリエでの事前学習やアトリエでの利用に活用するため、普及イベントの講師の協力を得て、制作手順を紹介する動画を制作し、利用者が制作時にタブレットで閲覧できるようにした。併せて、ワークショップのアーカイブ動画を作成し、公式YouTubeで公開した。

(3) アトリエ利用案内のリーフレット作成

アトリエを広く周知するため、利用案内を作成し、配布した。

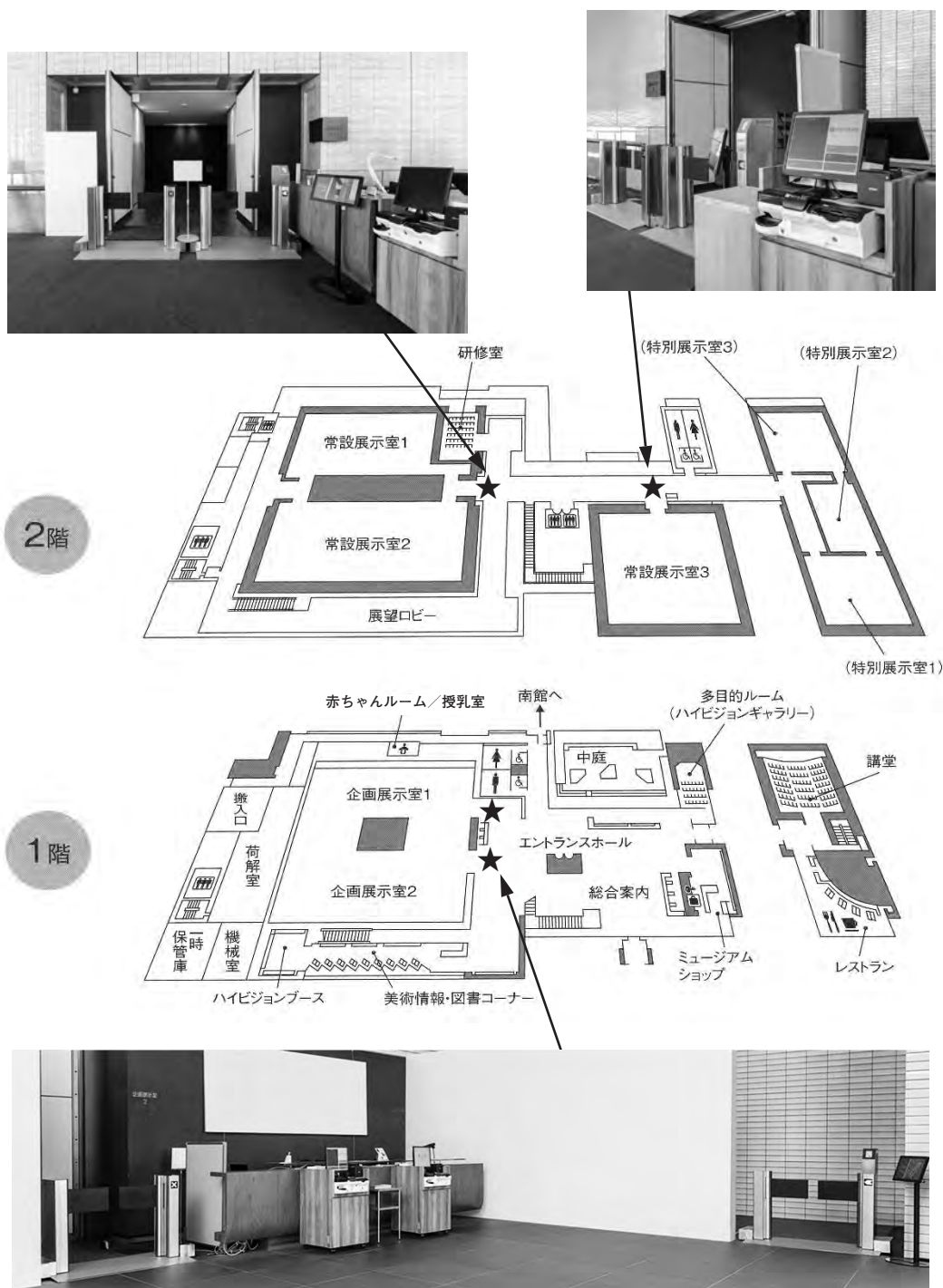
Ⅶ 文化施設活動継続環境整備事業

アフターコロナにおける県有文化施設の活動継続につながる環境整備の徹底が求められていることから、来館者がより安心して使用できるよう、新型コロナウイルス感染症の感染リスク低減を図るほか、感染拡大時においても活動を継続するための環境整備を行った。

【令和3年度2月補正事業】

○展示室入場ゲートシステムの導入について

各展示室（企画展示室1／2・常設展示室1／2・常設展示室3）で設置している企画展及びコレクション展の有人改札にセミセルフレジ及び二次元バーコードでの入場ゲートシステムを導入し、金銭とチケットの受け渡しに生じる接触リスクの低減を図った。



【令和4年度6月補正事業】

1 Wi-Fiの増設

美術館全体でのデジタル通信環境の機能向上を図るため、創作活動や貸館を実施する南館の一部（県民アトリエ、実技教室等）にも新たにWi-Fiを設置するとともに、新館システムの精度を強固にした。

○増設箇所等

南館の一部（増設）及び新館（システム精度の強化）

○利用例

【美術館事業での利用】

- ・展示室や南館県民アトリエにおけるリモート授業・解説講座等の実施
- ・展示室・県民アトリエ等におけるオンラインイベントの実施
- ・デジタルアート等の展覧会における活用

【来館者の利用】

- ・展覧会場での感想をその場で投稿・シェア
- ・写真撮影OKの展示での写真撮影&シェア

2 講堂・研修室等デジタル化・オンライン配信機能の増強

中核美術館として愛媛の文化芸術を内外により強く発信できるよう、講堂や研修室において、映像及び音響設備等の更新を行うとともに、オンラインセミナー等も配信可能な機材を新たに導入した。

○講堂

音響機器更新、プロジェクター導入、ブラインド更新

○研修室

音響機器更新、スクリーン・プロジェクター導入、遮光カーテン導入

○オンライン配信機材の導入

VIII 貸館事業

1 展示施設の利用方法

県民の美術活動の推進及び創作成果の発表の場として、新館特別展示室（1～3）、講堂、研修室、南館県民ギャラリー（1～12）、を有料で貸与している。

(1) 仮受付

使用日の1年前の月の初日に仮受付を行う。ただし、研修室のみ使用日の6ヶ月前からの仮受付となる。

(2) 申請

使用日の2ヶ月前頃に、使用許可申請書の様式を利用者に発送し、使用者の申請により使用を許可する。

(3) 使用料納付

使用許可後、納付通知書を利用者に送付し、利用者は、使用前に納入する。

(4) 利用時間及び休館日

利用時間：午前9時40分～午後6時。

休館日：毎週月曜日（第1月曜日を除く）、第1月曜日の翌日及び12月29日～1月3日。

（祝日及び振替休日にあたる場合は、その翌日）

(5) 搬出入

貸館は、原則として1週間単位で実施している。（新館講堂、研修室は除く。）

搬入は使用期間内の初日に、搬出は日曜日に実施している。

(6) 使用料

別表のとおり。

（別表） 愛媛県美術館施設使用料

（令和5年3月31日現在）

区 分				使用料（１日）
新 館	特別展示室 1		入場料が無料の場合	5,070 円
			入場料が有料の場合	8,110 円
	特別展示室 2		入場料が無料の場合	3,570 円
			入場料が有料の場合	5,710 円
	特別展示室 3		入場料が無料の場合	5,930 円
			入場料が有料の場合	9,480 円
	講 堂	入場料が無料の場合	午前 9 時 40 分から正午まで	1,840 円
			午後 1 時から午後 6 時まで	3,060 円
			全 日（午前 9 時 40 分から午後 6 時まで）	4,900 円
		入場料が有料の場合	午前 9 時 40 分から正午まで	2,940 円
			午後 1 時から午後 6 時まで	4,890 円
			全 日（午前 9 時 40 分から午後 6 時まで）	7,830 円
	研修室	午前 9 時 40 分から正午まで		2,030 円
		午後 1 時から午後 6 時まで		2,650 円
全 日（午前 9 時 40 分から午後 6 時まで）		4,680 円		
南 館	県 民 ギ ャ ラ リ ー 1			15,110 円
	県 民 ギ ャ ラ リ ー 2			11,870 円
	県 民 ギ ャ ラ リ ー 3			3,230 円
	県 民 ギ ャ ラ リ ー 4			4,310 円
	県 民 ギ ャ ラ リ ー 5			4,310 円
	県 民 ギ ャ ラ リ ー 6			2,150 円
	県 民 ギ ャ ラ リ ー 7			2,150 円
	県 民 ギ ャ ラ リ ー 8			6,470 円
	県 民 ギ ャ ラ リ ー 9			2,800 円
	県 民 ギ ャ ラ リ ー 10			2,900 円
	県 民 ギ ャ ラ リ ー 11			2,900 円
	県 民 ギ ャ ラ リ ー 12			3,230 円
	す べ て の 県 民 ギ ャ ラ リ ー			54,480 円

2 展示施設の利用状況

新館

展 覧 会 名		会期	展示室	日数	内 容	入場者数	観覧料
4月	第70回春季県展	4/19～4/27	特別展示室1～3	8	アンデパンダン方式の公募展	2,043	一般・団体 (600円・ 500円)、 高齢者高 大生・団体 (400円・ 300円)
	出開帳 一般に公開された ことのない仏像・寺宝展	4/29～5/8	特別展示室1～3	9	仏像・書・仏画	2,469	無料
4年4月合計				17		4,512	
5月	星野文昭・暁子さん詩画展	5/20～5/22	特別展示室1	3	水彩画と詩の展示	218	無料
	野村融「近景拝借」	5/25～5/29	特別展示室1	5	油彩画作品展示	216	無料
4年5月合計				8		434	
6月	第23回いろどりの書作展	6/15～6/19	特別展示室1～3	5	書作品の展示	357	無料
	西陣美術織 若冲動植綵絵展	6/30～7/4	特別展示室1・2	5	伊藤若冲の代表作を西陣織の技術で再現した織絵等の展示	580	無料
4年6月合計				10		937	
7月	第52回世界児童画展四国展	7/16～7/17	特別展示室1～3	2	3～15歳までの日本及び海外の児童画の展示(四国各 県の入賞者の作品展示が主)	528	無料
	第21回地域交流・スマイル キッズ美術展	7/27～7/31	特別展示室1～3	5	障害のある人たちと彼らを支える地域の人たち、地域の 幼稚園児や小学生たちによる美術作品を展示します。	783	無料
4年7月合計				7		1,311	
8月	JAGDAアレコレ展	8/12～8/19	特別展示室1～3	7	公益社団法人日本グラフィックデザイン協会の展示物の展示	292	無料
	更紗染めを楽しむ会 展覧会 2022	8/24～8/28	特別展示室1～3	5	会員が染め描いた更紗染めの作品を展示タペストリー、 テーブルセンター屏風等	602	無料
4年8月合計				12		894	
9月	南條観山美術館創立記念展	9/9～9/18	特別展示室1～3	9	南條観山 寒山拾得図 作品展示 軸装 天台四起図 屏風/額装/衝立	486	無料
4年9月合計				9		486	
10月	CCE AWARD 2022	10/7～10/8	特別展示室1～3	2	愛媛を中心とするクリエイターたちの仕事を展示し、 一般の公開審査を行います。	213	無料
	公募第38回「地展」霊峰石 鎚を描く絵画展	10/12～10/16	特別展示室1～3	5	油絵、水彩画、日本画等の展示	1,043	無料
	今を生きて マリオネットと ともに 谷 晶子展	10/19～10/30	特別展示室1～3	11	四国中央市在住の画家谷晶子の近作を中心に 約90点を展示	1,832	無料
4年10月合計				18		3,088	
11月	第11回三騎会展	11/2～11/6	特別展示室1～3	5	油絵・版画・シルクスクリーン・木彫	676	無料
	第49回公募墨雲書道展	11/10～11/13	特別展示室1～3	4	習練成果の発表	834	無料
4年11月合計				9		1,510	
12月	障がい者芸術文化祭～愛媛 ひろがるえひめの障がい者 アート展～	12/1～12/11	特別展示室1～3	10	県内に居住地等を有する障がい者から作品(絵画、書、 陶芸、その他立体作品)を募集し、作品展を開催する。	1,435	無料
	神山恭昭 ささやかな大展開覧会	12/18～12/27	特別展示室1	8	松山市在住の絵日記作家神山恭昭の個展。絵画、立体、 新聞連載の絵日記を展示する他、神山恭昭のドキュメン タリー映像も上映する。	801	2,000円
	通過展	12/21～12/25	特別展示室2・3	5	愛媛県で美術を志す10代、20代13名による展覧会	255	無料
4年12月合計				23		2,491	
1月	21世紀えひめ伝統工芸大賞	1/14～1/15	特別展示室1～3	2	標記事業の審査会及び展示会等を実施。なお、基本的 にクローズで実施し、展示会(1/14～15)の際は一般 開放とする。	245	無料
	第58回 愛媛県立松山南 高等学校 紙部分校デザイ ン科卒業制作展	1/25～1/29	特別展示室1～3	5	作品展示(グラフィックデザイン、CG、絵画、立体、陶芸)	663	無料
5年1月合計				7		908	
2月	つながるふれあうかんじる病 気のある子どもの創作表現 ワークショップ展覧会	2/28～3/5	特別展示室1	6	病気のある子どもたちのアート作品を展示します。	234	無料
5年2月合計				6		234	
3月	21世紀えひめ児童版画コン クール「天才ちるとれん」	3/22～3/26	特別展示室1～3	5	愛媛県内小学生の版画展	502	無料
5年3月合計				5		502	
4年度合計				131		17,307	

南館

展 覧 会 名		会期	展示室	日数	内容	入場者数	観覧料		
4月	第70回春季県展	4/19～4/27	ギャラリー1～12	8	アンデパンダン方式の公募展	3,544	区分	当日	団体
							一 般	600円	500円
							65歳以上	400円	300円
							高大生	400円	300円
						無料：小中生、障がい者			
4年4月計				8		3,544			
5月	Photo愛写真展	5/11～5/15	ギャラリー10	5	写真展示	470	無 料		
	第34回馬の目会松山グループ展	5/24～5/29	ギャラリー5・6	6	日本画の展示	902	無 料		
4年5月計				11		1,372			
6月	第56回現美展	6/1～6/5	ギャラリー2・3・7	6	洋画・日本画・写真/現代アート	263	無 料		
	#平和の桜	6/4	ギャラリー6	1	アナログイラスト、デジタルイラスト	42	無 料		
	第15回キルトin愛媛	6/22～6/26	ギャラリー3～6	5	キルト新作15点と花をテーマのキルト15点、シンボルキルトとフレンドシップキルト約50点	735	無 料		
	2022 コピスの会展	6/28～7/3	ギャラリー2	6	水彩画、油絵、色鉛筆。パステル	362	無 料		
4年6月計				18		1,402			
7月	第45回記念愛媛女流書家連盟展	7/20～7/24	ギャラリー1・2・3・7	5	書作品展示	1,148	無 料		
	第18回えひめ版画協会展	7/26～7/31	ギャラリー3	6	えひめ版画協会会員作品発表	516	無 料		
	第2回木版画愛好会展	7/26～7/31	ギャラリー6	6	木版画	262	無 料		
	第36回春風会書展	7/29～7/31	ギャラリー1	3	書道作品展示	297	無 料		
4年7月計				20		2,223			
8月	ティラノサウルス～進化の謎に迫る～	8/6～8/7	ギャラリー1	2	8/6アンモナイトのレプリカを作ろう 8/7植物化石を調べよう	140	8/6	300円	
	第50回記念書芸展	8/10～8/14	ギャラリー1～8	5	書道作品	1,995	8/7	1,000円	
	2022 IGANDA OB展	8/17～8/21	ギャラリー5・6	5	平面（油絵、日本画、写真、イラストレーション）立体（陶芸、ガラス、テキスタイル他）	168	無 料		
	平和への発信～広島原爆展～	8/16～8/21	ギャラリー9・10	6	広島原爆の写真、ポスター展示 平和読本展示	555	無 料		
	第73回毎日書道展四国展	8/24～8/28	ギャラリー1～12	5	毎日書道会の役員、四国在住の書家の入賞作品など約900点を展示	3,036	一般	500円	
							大学生	300円	
							高校生以下、65歳以上無料		
4年8月計				23		5,894			
9月	第41回書神会全国書道展覧会	9/1～9/4	ギャラリー1～12	4	書道	403	無 料		
	第33回愛媛独立書展	9/7～9/11	ギャラリー1～7	5	書道作品展示	871	無 料		
	松山大学写真部OB展	9/7～9/11	ギャラリー9・12	5	写真	107	無 料		
	2022年公募近美四国美術展	9/14～9/18	ギャラリー1	5	油絵、水彩画、日本画	1,027	無 料		
	第15回新作能面展	9/13～9/19	ギャラリー3	7	能面、狂言面の展示	386	無 料		
	第50回愛媛新興美術展	9/14～9/18	ギャラリー5・6	5	日本画	428	無 料		
	愛媛電友会「第9回趣味の美術展」	9/14～9/18	ギャラリー8～12	5	絵画、版画、写真、書道、工芸、手芸、水石等の展示	492	無 料		
	第6回愛媛水墨画会展	9/21～9/25	ギャラリー2	5	水墨画	494	無 料		
	第20回牛子華中国水墨画研究会展	9/21～9/25	ギャラリー6・7	5	水墨画の作品展示	354	無 料		
	第109回日本水彩松山展 第58回愛媛水彩展	9/21～9/25	ギャラリー8～10・12	5	水彩画	537	無 料		
4年9月計				51		5,099			

展 覧 会 名		会期	展示室	日数	内容	入場者数	観覧料		
10月	令和4年度県民総合文化祭 第71回秋季県展（前期）	10/18～10/25	ギャラリー1～12	7	県民各層より美術作品を公募し、入選、入賞作品約1,500点を展示（洋画・版画・写真・デザイン）	3,924	区分	当日	団体
							一 般	600円	500円
							65歳以上	400円	300円
							高大生	400円	300円
	無料：小中生、障がい者								
	令和4年度県民総合文化祭 第71回秋季県展（後期）	10/28～11/4	ギャラリー1～12	7	県民各層より美術作品を公募し、入選、入賞作品約1,500点を展示（日本画・彫刻・工芸・書道）	3,690	区分	当日	団体
一 般							600円	500円	
65歳以上							400円	300円	
高大生							400円	300円	
無料：小中生、障がい者									
4 年10月計				14		7,614			
11月	第1回愛媛双樹会展	11/8～11/13	ギャラリー3	5	日本画・洋画・水彩画・水墨画の平面作品及び陶芸作品	408	無	料	
	第18回愛媛一先会かな書展	11/11～11/13	ギャラリー1	3	書道作品展示	267	無	料	
	第32回MOA美術館松山児童作品展	11/12～11/13	ギャラリー4	2	児童の絵画展	457	無	料	
	令和3年度県民総合文化祭 第35回愛媛県高等学校総合文化祭（減免）	11/17～11/20	ギャラリー1～12	4	県内の高等学校、中等教育学校後期課程及び特別支援学校高等部の生徒による美術・工芸・書道・写真部門の総合的な作品展	1,479	無	料	
	2022松山国際写真集団写真展 第28回国際交流合同写真展	11/23～11/27	ギャラリー3・4	5	写真展示	553	無	料	
	風姿舎4人展	11/23～11/27	ギャラリー9	5	写真展示	434	無	料	
	沖縄－旅の記憶－ 一色龍太郎写真展	11/23～11/27	ギャラリー10	5	写真展示	433	無	料	
	第21回幽仙会展	11/23～11/27	ギャラリー12	5	表装・俳画・絵手紙	289	無	料	
	令和4年度県民総合文化祭 第19回中学生美術作品展（減免）	11/23～11/27	ギャラリー1・2	5	県内の中学生が制作した美術作品を展示（コンクールではなく、参加を希望する学校ごとに出品）	683	無	料	
	第29回書神会松山支部展	11/25～11/27	ギャラリー5・6	3	書道作品展示	184	無	料	
恩師 片山萬年、村上三島、河野如風 三人展	11/24～11/28	ギャラリー1	5	書作品	240	無	料		
4 年11月計				47		5,427			
12月	済美展2022（済美高校）	12/7～12/11	ギャラリー2～7	5	美術科3年生の卒業制作及び1・2年生と教員の美術作品（日本画、洋画、デザイン、彫刻、情報メディアデザイン、素描）	630	無	料	
	済美展2022（済美幼稚園）	12/7～12/11	ギャラリー3・4	5	園児作品（絵画、制作物、習字）	558	無	料	
	第39回愛媛県高等学校書道教員書作展（減免）	12/7～12/11	ギャラリー1	5	書道作品	362	無	料	
	第49回松山市医師会趣味の美術展	12/14～12/18	ギャラリー1	5	書、絵画、写真等	222	無	料	
	第46回愛光幼稚園舎作品展	12/21～12/24	ギャラリー8～12	4	水彩画・土粘土	1,303	無	料	
4 年12月計				24		3,075			
1月	第49回えひめこども美術展（減免）	1/4～1/15	ギャラリー1～12	11	愛媛県在住の幼児、児童生徒の平面、立体、書写など約1,000点の作品を展示	4,296	無	料	
	第47回書界展	1/18～1/22	ギャラリー1～12	5	書道作品展示	2,964	無	料	
	第5回愛媛県高等学校美術教員作品展（減免）	1/25～1/29	ギャラリー2・3・7	5	絵画、彫刻、デザイン、工芸、映像、インスタレーション作品展示	938	無	料	

1月	「愛媛の人」展	1/25～2/12	ギャラリー1	17	彫刻家「田中坦三」陶芸家「平野教道」のキヨ・シライシコレクションに加え、愛媛出身の	1,031	無 料
----	---------	-----------	--------	----	---	-------	-----

IX 入館者の状況

新館・南館

年 月	総入館者数	常 設 展					企 画 展				
		総観覧者	有料観覧者	無料観覧者	開催日数	一日平均	総観覧者	有料観覧者	無料観覧者	開催日数	一日平均
10～3年度合計	8,179,613	1,104,941	112,153	992,788	6,619	166.93	2,878,143	2,163,724	714,419	5,426	530.44
4年4月	28,047	2,413	147	2,266	26	92.81	11,156	8,371	2,785	25	446.24
4年5月	37,508	3,007	199	2,808	26	115.65	20,695	15,552	5,143	27	766.48
4年6月	13,727	1,717	358	1,359	26	66.04	4,986	3,909	1,077	11	453.27
4年7月	23,384	2,152	389	1,763	27	79.70	0	0	0	0	-
4年8月	42,339	4,188	246	3,942	26	161.08	1,832	949	883	22	83.27
4年9月	19,636	1,098	99	999	10	109.80	1,742	771	971	25	69.68
4年10月	46,840	5,547	142	5,405	20	277.35	21,352	18,057	3,295	26	821.23
4年11月	53,639	4,620	227	4,393	20	231.00	28,874	24,015	4,859	18	1,604.11
4年12月	13,079	1,145	111	1,034	24	47.71	1,564	872	692	24	65.17
5年1月	21,380	1,822	95	1,727	23	79.22	4,533	2,559	1,974	24	188.88
5年2月	17,080	2,410	268	2,142	19	126.84	5,655	3,743	1,912	24	235.63
5年3月	19,235	3,016	713	2,303	26	116.00	4,638	2,949	1,689	11	421.64
4年度合計	335,894	33,135	2,994	30,141	273	121.37	107,027	81,747	25,280	237	451.59
総 計	8,515,507	1,138,076	115,147	1,022,929	6,892	165.13	2,985,170	2,245,471	739,699	5,663	527.14

年 月	施 設 利 用 人 数							自主事業参加者(再掲)		備考
	県民 アトリエ※1	その他 (南館相談等)	県民 ギャラリー	ハイビジョン ギャラリー等	図 書 コーナー	その他 (講堂・研修室・特別展示 室ほか)	計	講 座	その他※2	
10～3年度合計	364,552	264,985	2,168,204	82,944	230,247	1,085,597	4,196,529	26,841	45,956	
4年4月	355	1,372	4,108	0	462	8,181	14,478	112	424	
4年5月	480	1,166	1,458	0	429	10,273	13,806	376	711	
4年6月	498	930	1,191	0	384	4,021	7,024	18	129	
4年7月	433	893	2,461	0	404	17,041	21,232	0	172	
4年8月	473	1,262	6,108	10	429	28,037	36,319	0	527	
4年9月	520	1,268	5,356	17	266	9,369	16,796	10	1,132	
4年10月	527	1,613	5,677	0	539	11,585	19,941	115	1,256	
4年11月	539	1,596	7,196	0	735	10,079	20,145	158	837	
4年12月	416	807	3,264	0	448	5,435	10,370	44	230	
5年1月	466	835	8,610	0	421	4,693	15,025	104	341	
5年2月	495	962	3,312	0	504	3,742	9,015	5	279	
5年3月	636	1,288	3,338	0	544	5,775	11,581	33	650	
4年度合計	5,838	13,992	52,079	27	5,565	118,231	195,732	975	6,688	0
総 計	370,390	278,977	2,220,283	82,971	235,812	1,203,828	4,392,261	27,816	52,644	0

※1 施設利用人員の「県民アトリエ」には、友の会実技教室も含まれる。

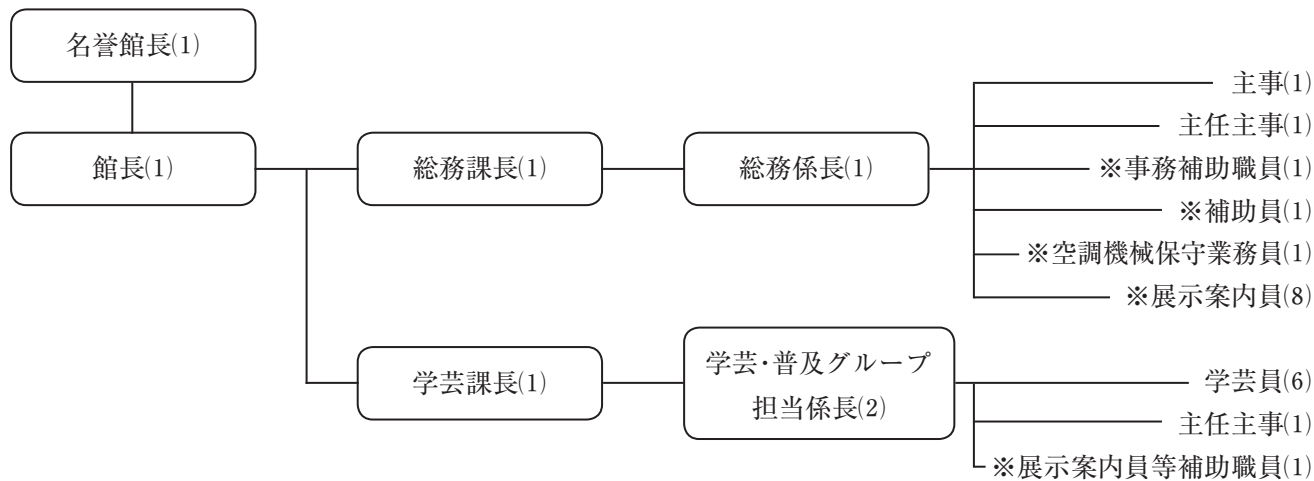
※2 エントランス等にて開催された、美術館主催による事業の参加人数

X 組織及び職員構成

1 組織図

職員数／28名

令和5年3月31日現在



(※会計年度任用職員)

2 職員名簿

職 名		氏 名	職 名		氏 名
名 誉 館 長		玉 井 日 出 夫	学 芸 課	学 芸 課 長	土 居 聡 朋
館 長		武 智 公 博		学 芸 ・ 普 及 G 担 当 係 長	長 井 健
総 務 課	総 務 課 長	田 中 由 美 子		〃	鈴 木 有 紀
	総 務 係 長	和 久 直 子		専 門 学 芸 員	田 代 亜 矢 子
	主 事	神 田 亜 紗 子		〃	石 崎 三 佳 子
	主 任 主 事 （ 再 任 用 ）	桐 木 敏 幸		〃	武 田 信 孝
				〃	杉 山 は る か
				主 任 学 芸 員	喜 安 嶺
		学 芸 員		金 成 め い	
		主 任 主 事 （ 再 任 用 ）		黒 田 秀 嗣	

(※会計年度任用職員除く)

XI 愛媛県美術館協議会委員名簿

令和5年3月31日現在

役 職	氏 名	現 職
会 長	本田 元広	(株)愛媛銀行会長
副会長	吉田 恭三	愛媛県美術会会長
委 員	梶岡 秀一	京都国立近代美術館情報資料室長・主任研究員
〃	稲畑ルミ子	名勝依水園・寧楽美術館 評議員
〃	伊達 優香	東京大学大学院情報学環客員研究員
〃	関 厚子	セキ美術館副館長
〃	稲田 哲也	愛媛県教育研究協議会 図工・美術委員長
〃	菊池 博喜	愛媛県高等学校教育研究会 芸術部会副部会長
〃	神野 文	愛媛県PTA連合会副会長
〃	栗田 まや	(公募)

設置：平成12年7月21日（任期：2年）

1 愛媛県美術館使用料条例

（使用料の徴収）

第1条 愛媛県美術館（以下「美術館」という。）を使用する者から、この条例の定めるところにより、使用料を徴収する。

（使用料の額）

第2条 前条に規定する使用料（以下「使用料」という。）の額は、別表に定める額の範囲内で知事が定める額とする。

2 前項に定めるもののほか、特別の企画による展示に係る観覧料は、当該特別の企画による展示に要する費用を勘案して知事がその都度定める額とする。

（使用料の納付時期）

第3条 使用料は、美術館の使用の前に納付しなければならない。ただし、知事が必要と認めるときは、後納させることができる。

（使用料の減免）

第4条 知事は、特に必要と認める者に対しては、その使用料を減免することができる。

（使用料の不還付）

第5条 既に納付した使用料は、還付しない。ただし、次の各号のいずれかに該当するときは、この限りでない。

- (1) 天災その他美術館を使用する者の責めに帰することができない理由により使用が不能となったとき。
- (2) 別表施設使用料の項に掲げる施設を使用する者又は美術館が収集し、保管し、若しくは展示する美術品及び美術に関する資料の閲覧、撮影、複写、模写、模造等若しくはこれらにより得たものの展示若しくは刊行物への掲載（以下「特別利用」という。）をする者が知事が定める日までに使用又は特別利用の取消しを申し出て、知事がやむを得ないと認めたとき。

（委任）

第6条 この条例に定めるもののほか、使用料の徴収に関し必要な事項は、知事が定める。

附 則

この条例は、平成10年10月1日から施行する。

附 則（平成12年3月24日条例第30号）

この条例は、平成12年4月1日から施行する。

附 則（平成16年3月26日条例第18号）

この条例は、平成16年4月1日から施行する。

附 則（平成21年3月24日条例第28号）

- 1 この条例は、平成21年4月1日から施行する。
- 2 改正後の愛媛県美術館使用料条例別表の規定は、この条例の施行の日以後の許可に係る特別利用について適用する。

附 則（平成26年3月28日条例第9号抄）

（施行期日）

1 この条例は、平成26年4月1日から施行する。（後略）（経過措置）

3 第16条の規定による改正後の愛媛県美術館使用料条例別表の規定は、施行日以後の使用に係る使用料で、施行日以後にその全額又は未徴収額について徴収するものについて適用し、施行日前の使用に係る使用料及び施行日以後の使用に係る使用料で、施行日前にその全額について徴収したものについては、なお従前の例による。

附 則（平成29年3月24日条例第5号抄）

（施行期日）

1 この条例は、平成29年4月1日から施行する。（後略）（経過措置）

3 第16条の規定による改正後の愛媛県美術館使用料条例別表の規定は、施行日以後の使用に係る使用料で、施行日以後にその全額又は未徴収額について徴収するものについて適用し、施行日前の使用に係る使用料及び施行日以後の使用に係る使用料で、施行日前にその全額について徴収したものについては、なお従前の例による。

附 則（令和元年7月9日条例第3号抄）

（施行期日）

1 この条例は、令和元年10月1日から施行する。（後略）（経過措置）

3 第15条の規定による改正後の愛媛県美術館使用料条例別表の規定は、施行日以後の使用に係る使用料で、施行日以後にその全額又は未徴収額について徴収するものについて適用し、施行日前の使用に係る使用料及び施行日以後の使用に係る使用料で、施行日前にその全額について徴収したものについては、なお従前の例による。

附 則（令和2年3月27日条例第9号抄）

（施行期日）

1 この条例は、令和2年4月1日から施行する。

附 則（令和3年3月26日条例第4号抄）

1 この条例は、令和3年4月1日から施行する。（後略）（経過措置）

3 第10条の規定による改正後の愛媛県美術館使用料条例別表の規定は、施行日以後の試験、検査、鑑定、調査、研究、分析又は使用（以下「試験等」という。）に係る使用料で、施行日以後にその全額又は未徴収額について徴収するものについて適用し、施行日前の試験等に係る使用料及び施行日以後の使用に係る試験等に係る使用料で、施行日前にその全額について徴収したものについては、なお従前の例による。

別表(第2条、第5条関係)

種 別			単 位	金 額
常設展観覧料			1 人 1 回につき	500 円
施 設 使用料	展示室		1 室 1 日につき	29,450 円
	講堂		1 日につき	7,830 円
	研修室		1 日につき	4,680 円
	県民 ギャラ リー	全室使用	1 日につき	54,480 円
		単室使用	1 室 1 日につき	15,110 円
特別利用料			1 点 1 回につき	5,500 円

2 愛媛県美術館管理規則

(趣旨)

第1条 この規則は、愛媛県美術館（以下「美術館」という。）の管理に関し必要な事項を定めるものとする。

(事業)

第2条 美術館は、博物館法(昭和26年法律第285号)第3条第1項に掲げる事業を行う。

(開館時間)

第3条 美術館の開館時間は、午前9時40分から午後6時までとする。

2 館長は、特別の事情があると認めるときは、前項に規定する開館時間を変更することができる。

(休館日)

第4条 美術館の休館日は、次のとおりとする。

(1) 毎月の第1月曜日以外の月曜日及び当該第1月曜日の翌日（これらの日が国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日（以下「休日」という。）に当たるときは、当該休日の直後の休日でない日）

(2) 1月1日から3日まで及び12月29日から31日まで
2 館長は、特別の事情があると認めるときは、臨時に休館し、又は休館日に開館することができる。

(入館の制限)

第5条 館長は、次の各号のいずれかに該当すると認められる者については、入館を禁じ、又は退館を命ずることができる。

- (1) 美術館の秩序を乱し、又は乱すおそれのある者
- (2) 美術館が収集し、保管し、若しくは展示する美術品及び美術に関する資料（以下「美術館の美術品等」という。）又は美術館の施設、附属設備等を滅失し若しくは損傷し、又は滅失し若しくは損傷するおそれのある者
- (3) その他美術館の職員の指示に従わない者

(観覧券の交付)

第6条 館長は、美術館が展示する美術品及び美術に関する資料を観覧しようとする者が観覧料を納付したときは、観覧券を交付する。

(使用の許可)

第7条 美術館の施設のうち、次の各号に掲げる施設を使用しようとする者は、それぞれ当該各号に定める期間内に愛媛県美術館使用許可申請書（様式第1号。以下「使用許可申請書」という。）を館長に提出し、その許可を受けなければならない。

(1) 企画展示室、常設展示室、特別展示室、講堂及び県民ギャラリー 使用日の1年前から7日前まで

(2) 研修室 使用日の6月前から2日前まで

2 館長は、前項の規定による使用の許可の申請があった場合において、使用が適当であると認めるときは、使用の許可を決定し、当該申請をした者に対し、愛媛県美術館使用許可書（様式第2号。以下「使用許可書」という。）を交付するものとする。この場合において、美術館の管理運営上又は公益上必要があると認めるときは、許可に条件を付することができる。

3 館長は、第1項に定める期間外に使用許可申請書の提出があった場合であっても、特に理由があると認めるときは、同項の使用の許可をすることができる。

(許可の基準)

第8条 館長は、美術館を使用しようとする者が次の各号のいずれかに該当すると認めるときは、前条第1項の使用の許可をしないものとする。美術館の管理運営上やむを得ない理由があるときも、同様とする。

- (1) 美術館の秩序を乱すおそれがあるとき。
- (2) 美術館の美術品等又は美術館の施設、附属設備等を滅失し、又は損傷するおそれがあるとき。

(使用の許可の変更)

第9条 第7条第1項の使用の許可を受けた者（以下「使用者」という。）は、使用日時、入場料徴収の有無その他知事が定める事項を変更しようとするときは、あらかじめ愛媛県美術館使用変更許可申請書（様式第3号）に使用許可書を添えて館長に提出し、その許可を受けなければならない。

(使用の許可の取消し等)

第10条 館長は、使用者が次の各号のいずれかに該当すると認めるときは、その使用の許可を取り消し、又は使用を制限し、若しくは停止することができる。美術館の管理運営上やむを得ない理由があるときも、同様とする。

- (1) この規則に違反し、又は美術館の職員の指示に従わないとき。
- (2) 偽りその他不正な手段により使用の許可を受けたとき。
- (3) 風俗を乱すおそれがあるとき。
- (4) 使用の許可の条件に違反したとき。

(使用料の額)

第11条 愛媛県美術館使用料条例（平成10年愛媛県条例第26号。以下「条例」という。）第2条第1項に規定する知

事が定める使用料の額は、別表に掲げるとおりとする。

(観覧料の減免)

第12条 知事は、条例第4条の規定に基づき、次に掲げる者に対しては、観覧料を免除する。

- (1) 教育課程に基づく学習活動として、展示室を観覧する県内の高等学校、中等教育学校の後期課程又は特別支援学校の高等部の生徒及びその引率者並びに展示室を観覧する県内の小学校、中学校、義務教育学校、中等教育学校の前期課程又は特別支援学校の小学部若しくは中学部の児童又は生徒の引率者
- (2) 身体に障害を有する者で、本人又はその保護者が身体障害者福祉法(昭和24年法律第283号)第15条に規定する身体障害者手帳の交付を受けているもの及びその介護者
- (3) 療育手帳(知的障害者の福祉の充実を図るため、児童相談所又は知的障害者更生相談所において知的障害と判定された者に対して支給される手帳で、その者の障害の程度その他の事項の記載があるものをいう。)の交付を受けている者及びその介護者
- (4) 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律(昭和25年法律第123号)第45条に規定する精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている者及びその介護者
- (5) 65歳以上の者

2 知事は、前項に定めるもののほか、必要と認めるときは、条例第4条の規定に基づき、観覧料を免除し、又はその一部を減額することがある。

3 前2項の規定にかかわらず、特別の企画による展示に係る観覧料の減免については、知事がその都度定める。

4 第1項第1号の規定により観覧料の免除を受けようとするときは、あらかじめ、学校長が愛媛県美術館観覧料免除申請書(様式第4号)を知事に提出しなければならない。

5 第1項第2号から第5号までの規定により観覧料の免除を受けようとする者は、これらの規定に該当することを証する書類を提示しなければならない。

(特別利用料の減免)

第13条 知事は、条例第4条の規定に基づき、次に掲げる者に対しては、特別利用(条例第5条第2号に規定する特別利用をいう。以下同じ。)に係る使用料(以下「特別利用料」という。)を免除する。

- (1) 美術に関する教育、学術上の調査研究又は啓発のために特別利用をする者で、知事が必要と認めるもの
- (2) 美術館の広報に関し効果があると認められる用途に供することを目的として特別利用をする者

2 知事は、前項に定めるもののほか、必要と認めるときは、条例第4条の規定に基づき、特別利用料を免除し、又はその一部を減額することがある。

(使用料の還付)

第14条 条例第5条第2号に規定する知事が定める日は、次の各号に掲げる区分に応じ、それぞれ当該各号に定めるとおりとする。

- (1) 企画展示室、常設展示室、特別展示室、講堂及び県民ギャラリー 使用日の30日前の日
- (2) 研修室 使用日の7日前の日
- (3) 美術館の美術品等 特別利用日の前日

第15条 条例第5条ただし書の規定により、知事は、次の各号に掲げる場合においては、それぞれ当該各号に定める額を還付する。

- (1) 条例第5条第1号に該当する場合 使用料の全額
- (2) 条例第5条第2号に該当する場合 使用料の50パーセントに相当する額

2 前項の規定により使用料の還付を受けようとする者は、愛媛県美術館使用料還付申請書(様式第5号)を知事に提出しなければならない。

(美術館の美術品等の特別利用)

第16条 美術館の美術品等の特別利用をしようとする者は、愛媛県美術館美術品等特別利用許可申請書(様式第6号)を館長に提出し、その許可を受けなければならない。この場合において、当該美術館の美術品等が寄託されたものであるときは、同申請書に、当該美術館の美術品等の寄託者の承諾書を添付しなければならない。

2 館長は、前項の規定による特別利用の許可の申請があった場合において、特別利用が適当であると認めるときは、特別利用の許可を決定し、当該申請をした者に対し、愛媛県美術館美術品等特別利用許可書(様式第7号)を交付しなければならない。この場合において、美術館の美術品等の管理上必要があると認めるときは、許可に条件を付することがある。

(美術館の美術品等の館外貸出し)

第17条 館長は、美術館の業務に支障がない場合であって、美術に関する学術上の調査研究又は啓発のために特に必要と認められ、かつ、美術館の美術品等の取扱い上の安全が確認できるときは、美術館の美術品等の館外貸出しを行うことができる。

2 前項の規定により美術館の美術品等の館外貸出しを受けようとする者は、愛媛県美術館美術品等館外貸出許可申請書(様式第8号)を館長に提出し、その許可を受けなければならない。この場合において、当該美術館の美術品等が寄託されたものであるときは、同申請書に、当該美術館の美術品等の寄託者の承諾書を添付しなければならない。

3 館長は、前項の規定による館外貸出しの許可の申請があった場合において、館外貸出しが適当であると認めるときは、館外貸出しの許可を決定し、当該申請をした者に

対し、愛媛県美術館美術品等館外貸出許可書（様式第9号）を交付しなければならない。この場合において、美術館の美術品等の管理上必要があると認めるときは、許可に条件を付することがある。

4 美術館の美術品等の館外貸出期間は、50日以内とする。ただし、館長がやむを得ない理由があると認めるときは、この限りでない。

5 館長は、館外貸出期間中であっても、館外貸出しを許可した美術館の美術品等の返還を求めることができる。
（美術品等の寄贈又は寄託）

第18条 美術館は、美術品及び美術に関する資料（以下この条において「美術品等」という。）の寄贈又は寄託を受けることができる。

2 美術館に美術品等を寄贈しようとする者は愛媛県美術館美術品等寄贈申出書（様式第10号）を、美術品等を寄託しようとする者は愛媛県美術館美術品等寄託申請書（様式第11号）を館長に提出しなければならない。

3 館長は、前項の規定による寄贈の申出又は寄託の申請があった場合において、当該寄贈の申出又は寄託の申請に係る美術品等の受入れが適当であると認め、当該美術品等の寄贈又は寄託を受けたときは、寄贈者又は寄託者に対し、愛媛県美術館寄贈美術品等受領証（様式第12号）又は愛媛県美術館寄託美術品等預り証（様式第13号）を交付しなければならない。

4 寄託を受ける美術品等の取扱いについては、館長が寄託しようとする者と協議して定める。

5 美術館は、寄託を受けた美術品等の不可抗力による損害に対しては、その責めを負わないものとする。
（損害賠償等）

第19条 自己の責めに帰すべき理由により、美術館の美術品等又は美術館の施設、附属設備等を滅失し、又は損傷した者は、原状回復をし、又はそれによって生じた損害を賠償しなければならない。

（補則）

第20条 この規則に定めるもののほか、美術館の管理に関し必要な事項は、知事が定める。

附 則

この規則は、令和2年4月1日から施行する。

附 則（令和3年3月26日規則第14号抄）

（施行期日）

1 この規則は、令和3年4月1日から施行する。

（後略）

（経過措置）

3 第11条の規定による改正後の愛媛県美術館管理規則別表の規定は、施行日以後の試験、検査、分析及び使用（以下「試験等」という。）に係る使用料で施行日以後にその全額又は未徴収額について徴収するものについて適用し、

施行日前の試験等に係る使用料及び施行日以後の試験等に係る使用料で施行日前にその全額について徴収したもののについては、なお従前の例による。

別表（第11条関係）

1 常設展観覧料

区 分	一 般	団体 (20人以上)
1 高等学校及び中等教育学校の後期課程の生徒、大学の学生その他これらに類する者	220 円	170 円
2 15歳以上の者(中学校及び中等教育学校の前期課程の生徒並びに1に該当する者を除く。)	330 円	260 円

2 施設使用料

区 分		使用料	
企画展示室 1	入場料が無料の場合	15,040 円	
	入場料が有料の場合	24,060 円	
企画展示室 2	入場料が無料の場合	15,040 円	
	入場料が有料の場合	24,060 円	
常設展示室 1	入場料が無料の場合	13,610 円	
	入場料が有料の場合	21,770 円	
常設展示室 2	入場料が無料の場合	18,410 円	
	入場料が有料の場合	29,450 円	
常設展示室 3	入場料が無料の場合	12,030 円	
	入場料が有料の場合	19,240 円	
特別展示室 1	入場料が無料の場合	5,070 円	
	入場料が有料の場合	8,110 円	
特別展示室 2	入場料が無料の場合	3,570 円	
	入場料が有料の場合	5,710 円	
特別展示室 3	入場料が無料の場合	5,930 円	
	入場料が有料の場合	9,480 円	
講 堂	入場料が無料の場合	午前 9 時 40 分 から正午まで	1,840 円
		午後 1 時から 午後 6 時まで	3,060 円
		全日（午前 9 時 40 分から 午後 6 時まで）	4,900 円

講堂	入場料 が有料 の場合	午前 9 時 40 分 から正午まで	2,940 円
		午後 1 時から 午後 6 時まで	4,890 円
		全日（午前 9 時 40 分から 午後 6 時まで）	7,830 円
研 修 室	午前 9 時 40 分から正午まで		2,030 円
	午後 1 時から午後 6 時まで		2,650 円
	全日（午前 9 時 40 分から 午後 6 時まで）		4,680 円
県民ギャラリー 1			15,110 円
県民ギャラリー 2			11,870 円
県民ギャラリー 3			3,230 円
県民ギャラリー 4			4,310 円
県民ギャラリー 5			4,310 円
県民ギャラリー 6			2,150 円
県民ギャラリー 7			2,150 円
県民ギャラリー 8			6,470 円
県民ギャラリー 9			2,800 円
県民ギャラリー10			2,900 円
県民ギャラリー11			2,900 円
県民ギャラリー12			3,230 円

注 県民ギャラリーをすべて使用する場合の使用料は、この表の規定にかかわらず、54,480 円とする。

3 特別利用料

区 分	単 位	金 額
閲覧	1点1日につき	550 円
模写・模造	1点1日につき	5,500 円
撮影・複写	1点1回につき	5,500 円
原版使用	1点1回につき	5,500 円

- 注 1 文書は、1葉を1点とする。
- 2 びょうぶは、1隻を1点とする。
- 3 1そろいをなす卷子は、1巻を1点とする。
- 4 掛軸は、1幅を1点とする。
- 5 小型の物で1組又は1箱となっているものは、1組又は1箱を1点とする。
- 6 多数の物で1そろい又は1具となっているものは、数量に応じて数点に分けるものとする。
- 7 その他の資料は、各個を1点とする。

※ 様式については、掲載を省略します。

施設使用許可申請書が必要な場合は、愛媛県美術館ホームページ(<https://www.ehime-art.jp/>)を参照してください。

3 愛媛県博物館協議会設置条例

(設置)

第1条 博物館法(昭和26年法律第285号)第20条第1項の規定に基づき、次の表の左欄に掲げる博物館に、それぞれ同表の右欄に掲げる博物館協議会(以下「協議会」という。)を置く。

愛媛県総合科学博物館	愛媛県総合科学博物館協議会
愛媛県歴史文化博物館	愛媛県歴史文化博物館協議会
愛媛県美術館	愛媛県美術館協議会

(任命の基準)

第2条 協議会の委員(以下「委員」という。)は、学校教育及び社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者並びに学識経験のある者のうちから任命する。

(定数)

第3条 委員の定数は、それぞれ14人以内とする。

(任期)

第4条 委員の任期は、2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(雑則)

第5条 この条例に定めるもののほか、協議会の組織及び運営に関し必要な事項は、規則で定める。

附 則

この条例は、平成12年4月1日から施行する。

附 則(平成24年3月27日条例第7号抄)

この条例は、平成24年4月1日から施行する。

附 則(令和2年3月27日条例第9号抄)

(施行期日)

1 この条例は、令和2年4月1日から施行する。

4 愛媛県美術館協議会運営規則

(趣旨)

第1条 この規則は、愛媛県博物館協議会設置条例(平成12年愛媛県条例第31号)第5条の規定に基づき、愛媛県美術館協議会(以下「協議会」という。)の組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(会長及び副会長)

第2条 協議会に会長及び副会長各1人を置く。

2 会長及び副会長は、委員の互選により定める。

3 会長は、協議会を代表し、会務を総理する。

4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を代行する。

(招集)

第3条 協議会の会議(以下「会議」という。)は、愛媛県美術館長が招集する。

2 会議の日時、開催場所及び会議に付議する事項は、あらかじめ委員に通知しなければならない。

(会議)

第4条 会議は、会長が議長となる。

2 会議は、委員の過半数の出席がなければ、議事を開き、議決することができない。

3 会議の議事は、出席した委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(庶務)

第5条 協議会の庶務は、愛媛県美術館において処理する。

(委任)

第6条 この規則に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、会長が協議会に諮って定める。

附 則

この規則は、令和2年4月1日から施行する。

2 委員会の会議には、委員長が必要に応じて、委員でない者の出席を求めることができる。

(任期)

第6条 委員の任期は、委嘱の日から2年間とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員は、再任されることができる。

(庶務)

第7条 委員会の庶務は、愛媛県美術館において処理する。

(その他)

第8条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は教育長が定める。

附 則

この要綱は、平成12年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成14年2月5日から施行する。

附 則

この要綱は、平成16年2月20日から施行する。

附 則

この要綱は、平成18年3月3日から施行する。

5 愛媛県美術品等収集評価委員会設置要綱

(設置)

第1条 美術作品の収集等に関する事務を適正かつ円滑に行うことを目的として、愛媛県美術品等収集評価委員会(以下「委員会」という。)を設置する。

(任務)

第2条 委員会は、次の事項について教育長の諮問に応じ、審議を行う。

- (1) 美術作品の選定及び評価に関すること。
- (2) 美術作品の情報提供に関すること。
- (3) その他必要な事項に関すること。

(組織)

第3条 委員会は、委員7人以内をもって組織する。

2 委員は、美術に関する知識を有する者の中から、教育長が委嘱する。

(委員長及び副委員長)

第4条 委員会に委員長及び副委員長各1人を置く。

2 委員長は、委員のうちから互選し、副委員長は委員長が指名する。

3 委員長は、会務を総理する。

4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるときは、その職務を代理する。

(会議)

第5条 委員会の会議は、委員長が招集する。

XIII 施設・設備の概要

○ 新 館

(1) 施 設

所 在 地	愛媛県松山市堀之内
設 計	株式会社日建設計
施 工	
建 築	大成・野間共同企業体
電 気	四電工・三信電設共同企業体
空 調	須賀・日比谷共同企業体
衛 生	株式会社ダイイチマリン
昇 降 機	三菱電機株式会社
構 造	鉄骨鉄筋コンクリート造 地上3階地下1階
面 積	(敷地面積) 7,199.73㎡ (建築面積) 3,218.78㎡ (延床面積) 10,365.46㎡

仕 上 げ

外 部	特注磁器質ボーダータイル 打込PC 版
屋 根	銅板葺・アルミハニカムパネル アスファルト防水の上コンクリートパネル敷
特殊工法	PC 版圧着構造・外壁大型カーテンウォール

(2) 設 備

【空 調 設 備】

空調方式	中央ダクト方式・パッケージ方式・ファンコイル方式
主要熱源機	直だき吸収冷温水機・空気熱源ヒートポンプユニット
熱源設備	(ガス焚吸収式冷温水機) + (空気熱源回収形ヒートポンプ) + (冷温水蓄熱槽) 組み合わせ方式
容 量	ガス焚吸収式冷温水機 150R ton×1 台 空気熱源熱回収形ヒートポンプ100R ton×1 台
空調系統・空調方式	展 示 室 8 系統 単一ダクト変風量 収 蔵 庫 4 系統 単一ダクト定風量方式 一 般 15系統 単一ダクト定風量方式 単一ダクト変風量 (ファンVAV) 方式 1F 中監盤室、講師控室、ボランティア室 ビル用マルチパッケージ方式
換 気 設 備	熱源機械室、電気室、特殊ガスボンベ室、荷捌室、EV機械室他は第1種換気とし、便所、湯沸他は第3種換気とする。
排 煙 設 備	自然排煙…エントランスホール等 機械排煙…BF廊下、企画展示室(1)、(2)、常設展示室(1)、(2)、展示ロビー(3)、搬入口、荷解室、ハイビジョンギャラリー
蓄 熱 槽	冷水槽…540 m³、温水槽…170m³

(床下二重ビット利用)

【電 気 設 備】

引 込	高圧・架空
電 灯	Tr200KVA×3 台
動 力	Tr500KVA×2 台
コンデンサ	低圧 50KVr×6 台
リアクトル	低圧 3KVr×6 台
発 電 機	3φ3W220V 205KVA・240PS 1φ3W 110V 6Kw ディーゼル軽油

直流電源 サイリスタ全自動式整流器 3φ3W 200V 10時間 MS-E 300Ah/54セル
 放送機器 出力(非常・業務)720W 出力(BGM)360w
 卓上型2台 ワイヤレス 800MHz
 テレビ共聴 VHF・UHF・BSアンテナ
 電話 PCM時分割方式 一般内線90/120内線 10/10回線64局線1/10回線 PHS 接続装置 10/10
 回線 アナログ局線10/12回線 INS1500局1/4回線
 インターホン 身障者用・夜間訪問用
 電気時計 ダイチ製 DC-3002、DC-3006
 火報防火扉 GP型1級50回線 副表示20L 諸警報55L 防排煙130L ガス漏れ5L
 表示設備 DC24V 発光ダイオード(2モード形)

【衛生設備】

給水設備 飲 用 松山市上水道引き込み(50mm)→受水槽(11m³)加圧ポンプ方式
 雑 用 雨水利用+井水→受水槽(28m³) 加圧ポンプ方式
 給湯設備 中央給湯方式(太陽熱利用)+局所方式
 真空式温水ヒーター 100,000kcal/H 2台
 貯湯槽2m³ 2台
 電気湯沸器 30リットル8台
 排水設備 建物内汚水・雑排水分流方式(雨水は分流)
 都市ガス設備(中圧) 吸収式冷温水機及び真空式温水ヒーターに供給
 消火設備 屋内消火栓設備、連結散水設備(5系統)、インナージェン消火設備(6系統)、
 消火器設備、移動式粉末消火設備、フード消火設備(厨房)
 その他 太陽熱利用設備、雨水再利用設備(有効水量206m³)、井水設備

【昇降機設備】

乗用油圧エレベーター(15人乗 車椅子対応)2台
 乗用油圧エレベーター(11人乗 車椅子対応)1台
 荷物用油圧エレベーター(4,200kgW カゴ3,500mm×D4,800mm×H3,000mm)1台

○ 南 館

(1) 施設

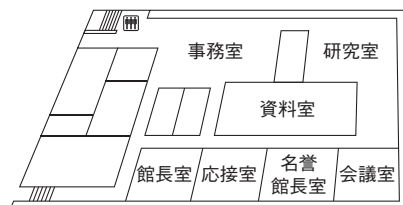
所在地 愛媛県松山市堀之内
 構造 鉄筋コンクリート造
 地上3階地下1階
 面積 (敷地面積)2,301.50m²
 (建築面積)921.20m²
 (延床面積)4,296.69m²

区 分	室 名	面 積 (m ²)
南 館	創作部門	
	県民ギャラリー1～12	2,004
	県民アトリエ1	68
	県民アトリエ2	105
	実技教室	124

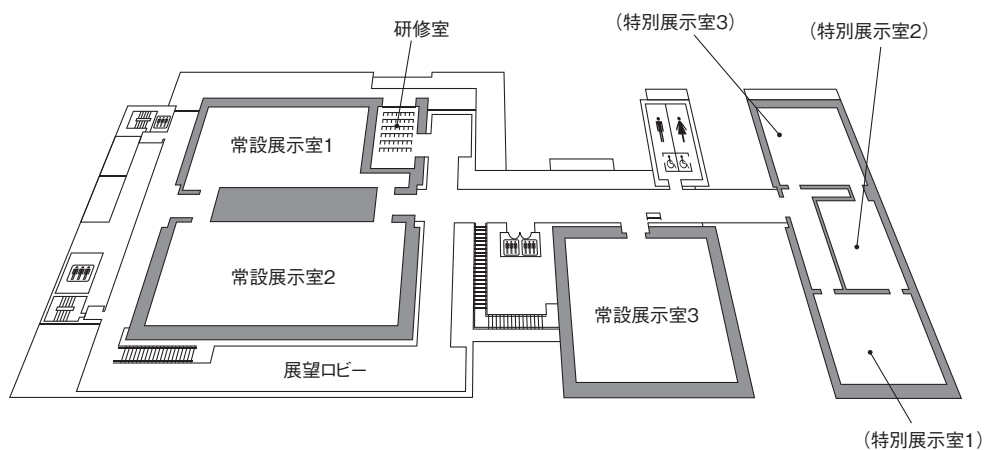
● 館内案内図 ●

新館フロア

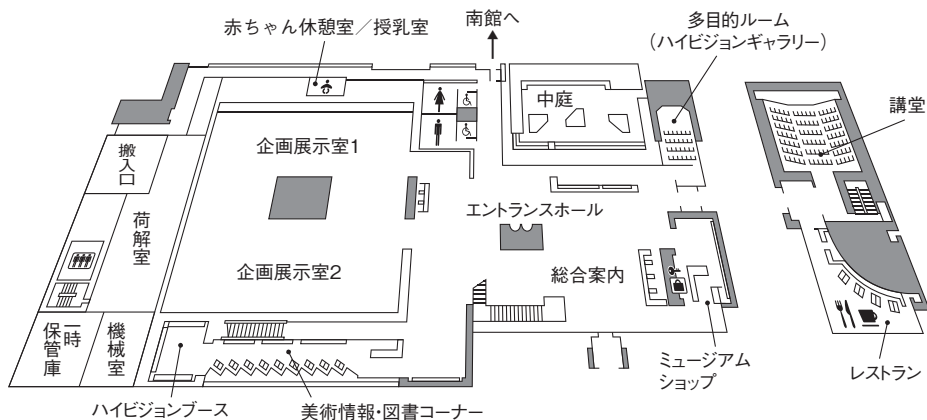
3階



2階



1階

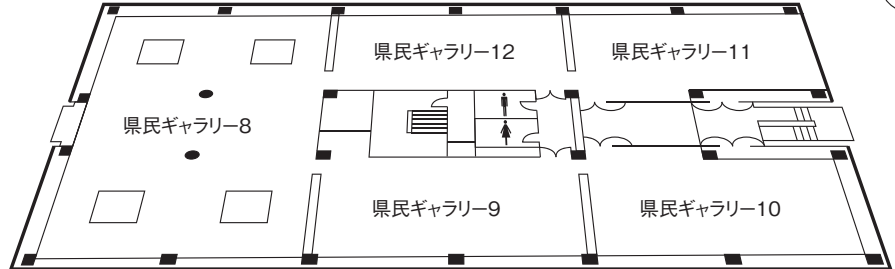


● 館内案内図 ●

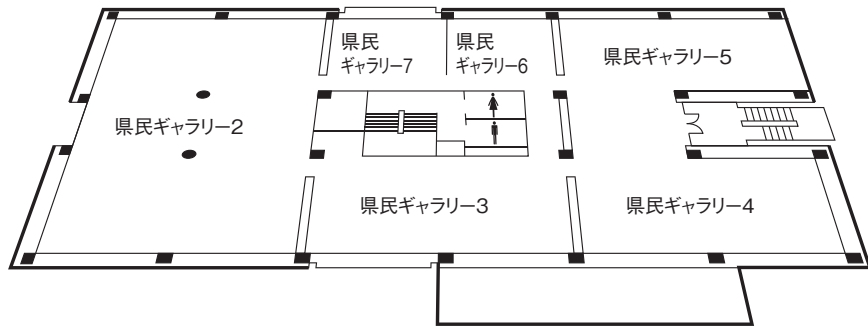
南館フロア



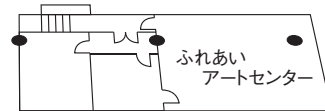
3階



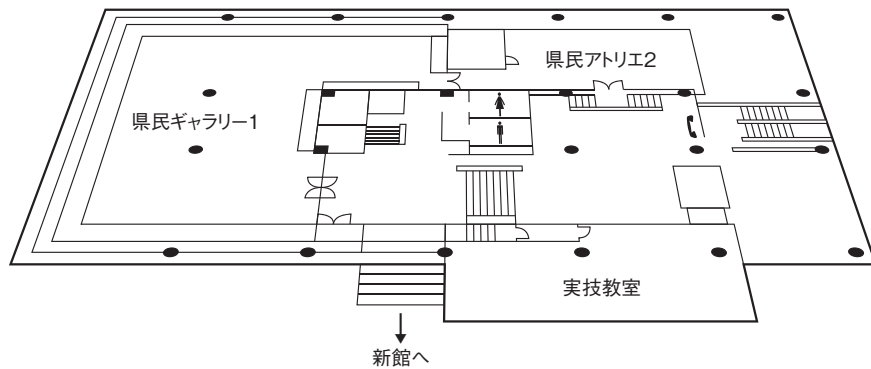
2階



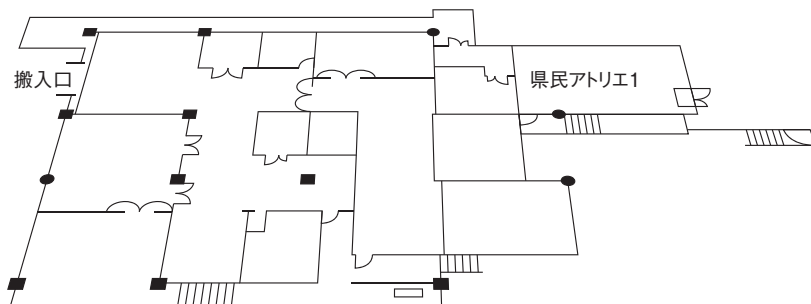
中2階



1階



地下1階

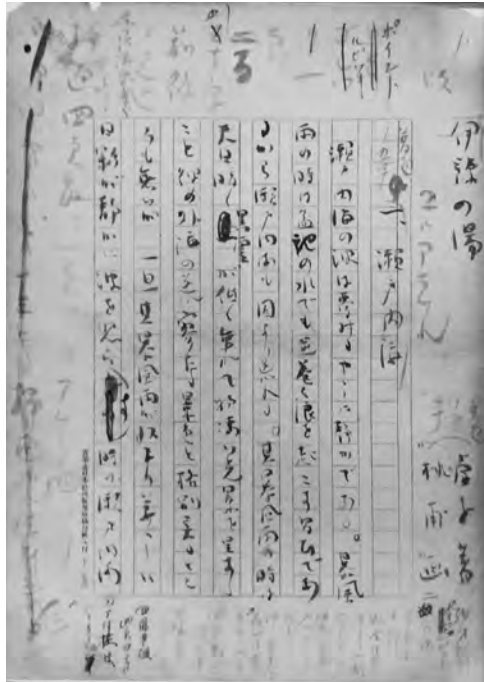


愛媛県美術館

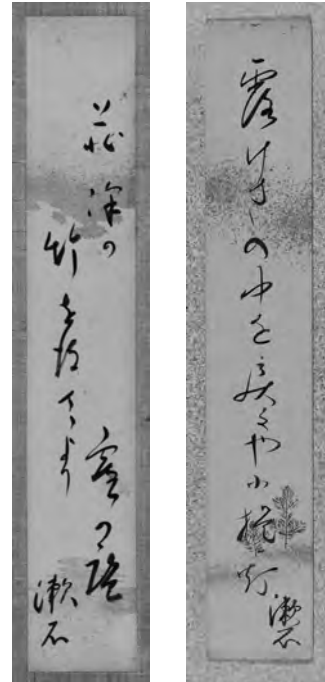
研究紀要 第22号

BULLETIN

THE MUSEUM OF ART, EHIME



図版18 高浜虚子「伊予の湯」原稿



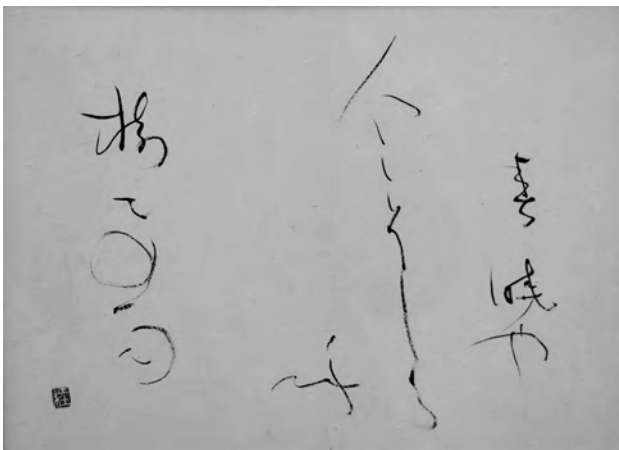
図版16・17 夏目漱石句 短冊



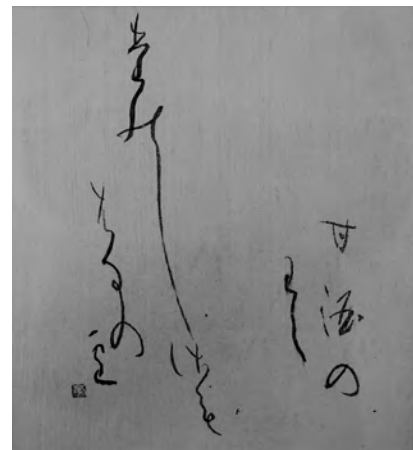
図版20 金子鷗亭書（色紙）



図版19 飯島春敬書（色紙）



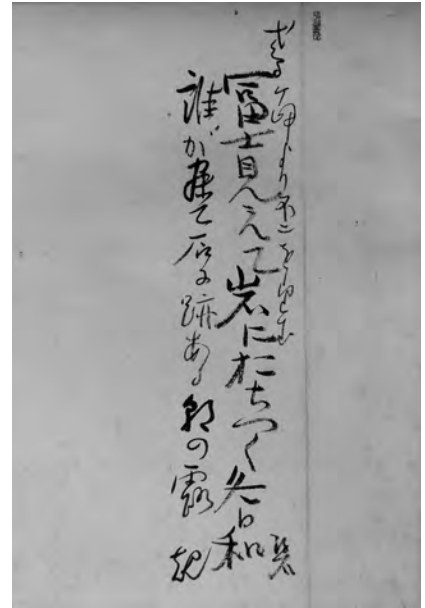
図版22 堀桂琴書（色紙）



図版21 杉岡華邨書（色紙）



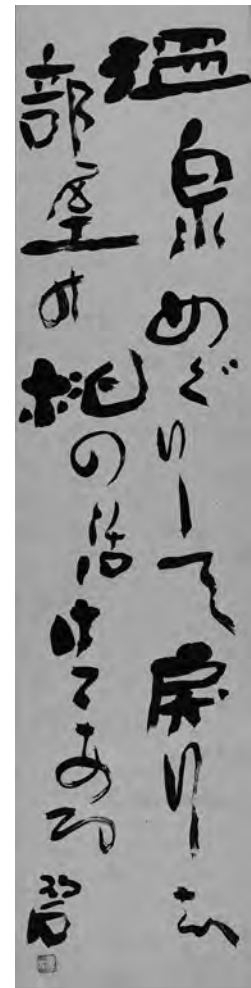
参考図版2 折井愚哉『相模百景』「鳶ヶ崎」
国立国会図書館所蔵



図版13 正岡子規・河東碧梧桐句



図版15 河東碧梧桐句幅・井出水句幅



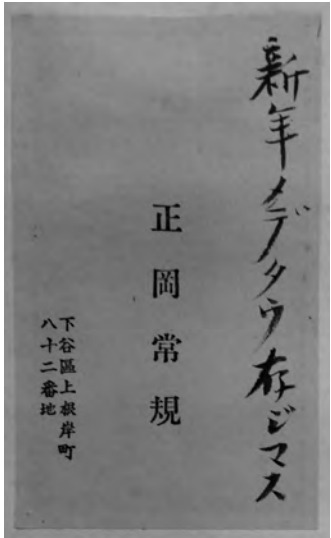
図版14 河東碧梧桐句幅



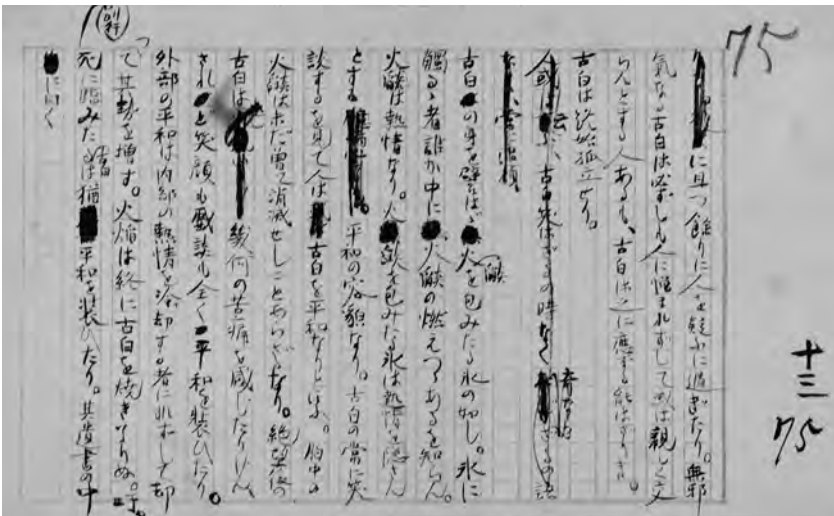
図版9 正岡子規 喫茶去



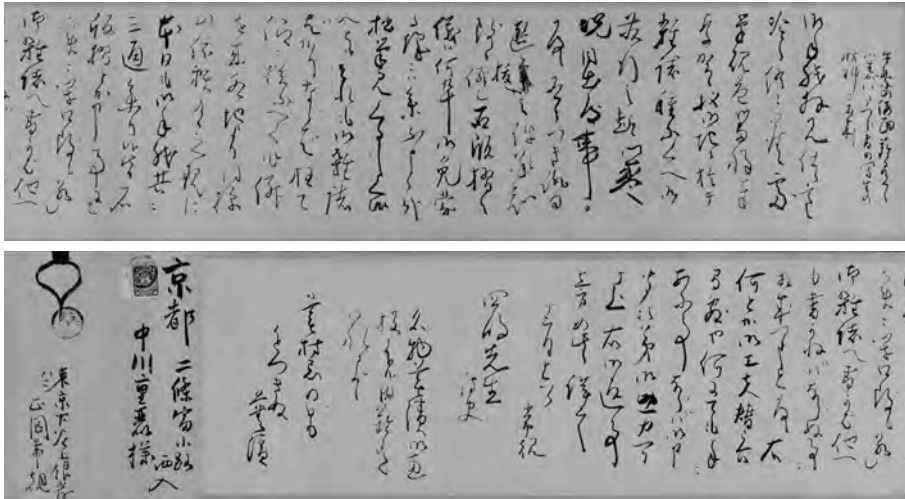
図版11 正岡子規写「上中川大王乞殉国録」



図版10 正岡子規 年賀名刺



図版12 正岡子規「藤野古白伝」断簡



図版5 明治32年12月16日付中川四明宛正岡子規書簡



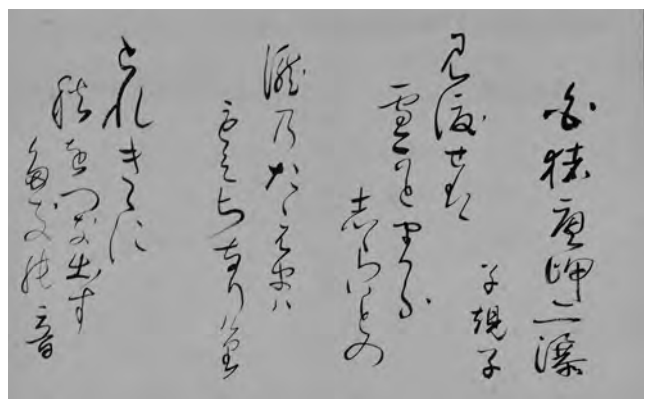
図版8 正岡子規 柱掛



参考図版1
正岡子規「原人図」
国立国会図書館所蔵



図版6
明治32年12月16日付
中川四明宛正岡子規書簡
封緘拡大

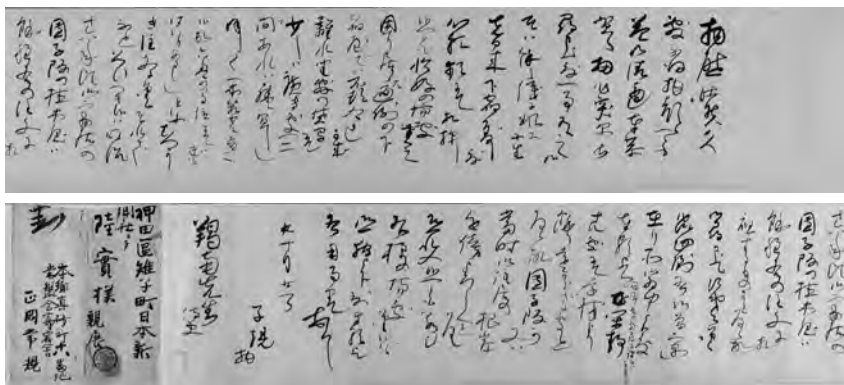


図版7 正岡子規 白猪唐岬二瀑



図版1 人物画賛 物外不遷筆

図版2 鬼白画賛 物外不遷筆



図版3

明治24年10月21日付

陸羯南宛正岡子規書簡



図版4

明治25年5月28日付

河東碧梧桐宛正岡子規書簡

- (7) 明治二五年五月四日付高浜虚子宛正岡子規書簡(『子規全集 第十八卷 書簡二』、三〇二頁)
- (8) 根本文子『正岡子規研究 中川四明を軸として』(笠間書院、二〇二一年)
- (9) 小自在庵四明『平言俗語俳諧美学』博文館、一九〇六年
- (10) 四明中川重麗『形似神韵 触背美学 一名新俳諧美学』博文館、一九一一年
- (11) 「原人図」は国立国会図書館所蔵。正岡子規著・正岡忠三郎監修『子規写生画』(講談社、一九七五年)に図版収録。
- (12) 山上次郎『子規の書画』新訂増補(二〇一〇年)、一〇二頁・一〇五頁
- (13) 河之内近藤家の詳細と子規の河之内紀行については、高須賀康夫「子規と河之内近藤家」『東温史談』十五号、二〇二〇年に詳しい。
- (14) 明治二十八年十一月六日正岡子規宛夏目漱石書簡(『定本漱石全集』第二十二卷 書簡上 書簡七十一番)。
- (15) 森四月(次太郎)の動向は、井上淳「森次太郎(四月)の青春」『伊予史談』三五六号、二〇〇〇年、同「坊っちゃん」の時代の松山―「森次太郎日記」を素材として―(『伊予史談』三七六号、二〇〇五年)に詳しい。
- (16) 正岡子規『散策集』『子規全集』第十三卷 小説・紀行文、六二二頁
- (17) 柳原極堂『友人子規』前田出版社、昭和一八年
- (18) 増田和朗「喫茶古」愛媛県美術館編・発行『愛媛県美術館所蔵作品選』、一九九八年
- (19) 註(17)に同じ。
- (20) 「森四月日記」明治二十八年九月二十日付記事(愛媛県立図書館所蔵)
- (21) 山上次郎『子規遺墨 第三卷 書簡編』(求龍堂、一九七五年)別冊解説 六十五頁。
- (22) 『子規全集 卷二十』七〇〇頁。
- (23) 愛媛県美術館編・所蔵「56子規関係収納作品調書」、一九八一年。
- (24) 山上次郎『子規遺墨 第一卷 書跡編』(求龍堂、一九七五年)別冊解説 九三頁。
- (25) 折井愚哉(太一郎)著『相模百景』一(折井太一郎、一八九六年)国立国会図書館デジタルコレクション <https://dndi.go.jp/pid/875068>
- (26) 子規の「誰が寝て石に跡ある朝の露」の句は、明治二十七年秋の「寒山落木」抹消句の一つとして収録されている(『子規全集』第二卷 俳句二 六三九頁)。
- (27) 金沢覚太郎「折井愚哉と三遊亭四朝」(明治文化研究会編『明治文化研究第五集』一九七〇年)所収。
- (28) 島田三光「碧梧桐の書」(徳島県立文学書道館特別展図録『河東碧梧桐 書と俳句』二〇〇一年)
- (29) 栗田靖「河東碧梧桐年譜」『河東碧梧桐の基礎的研究』第四章(翰林書房、二〇〇〇年)
- (30) 井出治(台水)『台水句調』(裁松書房、一九三六年)
- (31) 明治四十二年七月六日付本多嘯月宛書簡は『定本漱石全集 第二十四卷 書簡下』四二頁、一九三四番として収録。大正二年六月二日付森次太郎宛書簡は、同四二頁、一九三四番として収録。漢詩は『定本漱石全集 第十八卷 漢詩文』一二七番に収録されており、土居聡朋・長井健「上田星邨旧蔵の書画コレクションについて」(『愛媛県美術館研究紀要』十九号、二〇二一年)で紹介されているので参照されたい。
- (32) 『定本漱石全集 第二十卷 日記・断片下』、二四五頁
- (33) 『定本漱石全集 第二十卷 日記・断片下』、二四七頁
- (34) 森四月「いろいろの思出」(初出『淡柿』第四四号、大正六年。『定本 漱石全集』別巻(二〇一九年、岩波書店)に収録)
- (35) 吉田蔵沢の墨竹画については、長井健「吉田蔵澤『墨竹図』考」(『愛媛県美術館研究紀要』第十五号、二〇一七年)に詳しい。
- (36) 夏目鏡子述・松岡護筆録「漱石の思ひ出」(岩波書店、改版二〇〇三年、新装復刊二〇一六年)
- (37) 夏目漱石「思ひ出すことなど」三十三章「病院の春」(『定本漱石全集 第十二卷 小品』四五三頁。
- (38) 村上三島(大正元年一九一二)〜平成十七年二〇〇五)は書家。本名正一。大正元年(一九一二)愛媛県大三島の越智郡瀬戸崎村(現今治市上浦町)に生まれた。幼少の頃に大阪府三島郡吹田町(現、吹田市)に移る。雅号の〈三島〉は故郷の大三島と移り住んだ三島郡にちなむ。辻本史邑に師事し、日展で昭和二十三年特選、三十九年文部大臣賞。四三年「杜甫贈高式顔詩」で芸術院賞。三十五年日本書芸院理事長となり、関西書道界の発展に尽くす。六十年芸術院会員。平成十年文化勲章。日展理事・顧問、日本書芸院理事長などを歴任。郷里愛媛県大三島に村上三島記念館がある。
- (39) 飯島春敬編『携帯版 古典かな字典』書藝文化新社、二〇〇八年)など。
- (40) 藍菊会ホームページ「会の歴史」<https://ranjun.heellife.net/hist>
- (41) 板橋区立美術館編・刊『金子鳴亭』(一九九三年)など
- (42) 宮本竹逕編『書道技法講座 二〇 かな 関戸本古今集 伝藤原行成』(二玄社、二〇〇九年)

奈良県の出身。仮名を尾上柴舟らにまなぶ。昭和四十五年大阪教育大学教授。五十三年日展文部大臣賞。五十八年芸術院賞。六十年日本書芸院理事長、のち最高顧問。平成元年芸術院会員。十二年文化勲章。平成十二年（二〇〇〇）奈良市に杉岡華邨書道美術館が開館して館長に就任した。

本句は水原秋櫻子（明治二十五年（一八九二）～昭和五十六年（一九八一））の句。本名は豊、東京都の出身。高浜虚子に師事、「ホトトギス」で山口誓子らと4S時代を築く。昭和六年主宰誌「馬酔木」で虚子の写生観を批判、新興俳句運動の口火をきった。三十九年芸術院賞、四十一年芸術院会員。

○堀桂琴書「春曉や人こそしらね樹々の雨」(図版22)

堀桂琴（明治四十年（一九〇七）～平成十四年（二〇〇二））は、本名チヨ子、山口県徳山市の出身。師は比田井小琴。毎日展会員・審査員、独立書人団副理事長。独自の仮名書風の作品で、昭和五十九年芸術選奨文部大臣賞を受賞。

本句は日野草城（明治三十四年（一九〇一）～昭和三十一年（一九五六））の句。日野は本名克修、東京都の出身。京大法学部卒。「ホトトギス」同人となるが、昭和十年俳誌「旗艦」を創刊主宰し新興俳句運動を展開。「ホトトギス」から除名される。モダンイズムに立つ清新な連作俳句で知られた。一時俳壇を去ったが、第二次大戦後復帰し「青玄」を創刊。

○宮本竹逕書「朝日さす弓師が店や福寿草」

宮本竹逕（一九一二年～二〇〇二年）は、本名は顕一、広島県福山市の出身。仮名を桑田笹舟に、漢字を炭山南木に師事。日展参事・読売書法会顧問・日本書芸院名誉顧問・日本かな書道会顧問・寒玉書道会会長・歌会始召人などを歴任⁽⁴²⁾。社団法人日本書芸院・社団法人日本かな書道会・読売書法会・寒玉書道会を創立。本句は与謝蕪村（享保元年（一七一六）～天明三年（一七八四））の句。蕪村は江戸時代中期の俳人、文人画家。正岡子規が再評価したことで知られている。

愛媛県立美術館分館の開館を契機として、村上三島の呼びかけのもと、昭和

五十四年に一斉に制作されたこれらの作品は、いずれも小品ではあるが、もともとの俳句の魅力と、それぞれの作家の書としての個性が響き合う作品群となっており、村上三島の幅広い交流関係を示すとともに、昭和五十年代に全国的に活躍していた主要な書家達によるまとまったコレクションとして貴重である。

おわりに

以上、書跡の分野で、近世から現代に至るまでの俳句文学と美術関連の所蔵品を概観した。正岡子規とその周辺を中心に、近世・近代・現代とそれぞれの俳文学や俳文学と美術に関わる貴重な書跡が収蔵されていることを僅かながらも明らかにできたと思う。本稿が足がかりとなり、さらに一点ごとの歴史的、美術史的価値の研究が進展することを期待したい。

また、今回概観したのは所蔵品、すなわち県に所有権がある作品群のみであったが、愛媛県美術館では、寄託作品群として、阿部里雪コレクションをはじめ書跡の分野でも俳文学と美術に関連する多数の作品群が含まれている。その全容については、稿を改めて考察・紹介することとした。

註

- (1) 長井健・岩本成美・土居聡朋「愛媛県美術館「俳文学と美術」コレクション」(『愛媛県美術館研究紀要』第二十二号、二〇二四年)
- (2) 物外の生涯は、高田道見『物外和尚逸伝』(仏教館、一九〇四年)に詳しい。
- (3) 長井健「人物画賛」『愛媛県美術館所蔵作品集』二〇一〇年
- (4) 山上次郎編『子規遺墨』全三卷(求龍堂、一九七五年)
- (5) 山上次郎『子規の書画』(二玄社、一九八一年。増補改訂版 同、二〇一〇年)
- (6) 河東碧梧桐『子規の回想』(昭南書房、一九四四年)

(一九二八年)に財団法人子規庵保存会初代理事長となった。当館では、律の葉書一通と子規筆と伝える何らかの物語の断簡をあわせた軸装一点を所蔵している。律の葉書は昭和七年一月六日付消印で、愛媛県三津浜新町の大原ちか子宛に送付した新年の挨拶であり、東京に移住後も律が愛媛県松山市の縁者との交流を続けていたことが分かる。

三 村上三島コレクション

愛媛県では、昭和五十五年(一九八〇)、松山藩旧藩主久松家の久松定謨が大正十四年(一九二五)に建設したフランス式洋館「萬翠荘」を、愛媛県立美術館分館として整備開館した。これを記念するため、県からの相談を受けた愛媛県出身の書家・村上三島⁽³⁸⁾は、分館開館記念展として「日本の百作家小品吉祥書道展」を企画。当時の著名な書家一〇〇余名に、「正月にちなむ題材」での色紙大の作品の提供を呼びかけ、村上の元に集まった作品を寄贈、展示公開した。この時の作品一〇五名一〇五点を愛媛県美術館の館蔵品として収蔵しており、うち金子歐亭はじめ一五名が俳句を題材とした書作品を提供している。本稿ではこのうち六点を取り上げ紹介したい。

○飯島春敬書「さまゞのことおもひ出すさくらかな」(図版19)

飯島春敬(明治三十九年(一九〇六)〜平成八年(一九九六))は、本名稲太郎、東京都の出身。師は中村春堂。昭和二十年(一九四五)に日本書道美術院を創設、二十二年に書芸文化院を設立し、戦後の書道界の再建と書道普及につくした。古筆の研究と収集でも知られ、昭和六十二年毎日出版文化賞特別賞を受賞。財団法人日本書道美術院理事長、社団法人書芸文化院理事長、かな書道作家協会理事長、毎日書道展名誉会員審査員、財団法人毎日書道会理事、日展参与、社団法人全日本書道連盟名誉顧問等を務めた⁽³⁹⁾。

本句は松尾芭蕉の句。『笈の小文』所収。元禄元年(一六八八)芭蕉が、奥の細

道の旅に出る一年前、故郷の伊賀の国に帰省した時に詠んだ句である。

○今関脩竹書「一月も三日過ぎけり樹にからす」

今関脩竹(明治四二年(一九〇九)〜平成元年(一九八九))は、本名は茂、千葉県の出身。師は高塚竹堂。日展を中心に作家活動を展開。府立第三高等女学校(現在の都立駒場高等学校)の教員を経て、大東文化大学、二松学舎大学・東京学芸大学などで長きに渡り教鞭をとり、後進の育成に努めた。昭和三五年(一九六〇)に藍菊会を設立し、関東の仮名書道を牽引した⁽⁴⁰⁾。

本句は老鼠堂永機(文政六年(一八二三)〜明治三十七年(一九〇四))の句。幕末、明治時代の俳人。本名は穂積善之。父六世其角堂鼠肝の後をうけて七世其角堂となる。全国を行脚し門人千人と称された。

○金子鷗亭書「水仙や古鏡の如く花をかゝぐ たかし」(図版20)

金子鷗亭(明治三十九年(一九〇六)〜平成十三年(二〇〇一))は、本名は賢蔵、北海道の出身。師は比田井天来。二十三年戦争で壊滅状態にあった書道界を再建するため、飯島春敬らと共に第一回全日本書道展(のちの毎日書道展)創設に尽力。三十九年創玄書道会を創設して理事長に就任、のち会長。四十四年日展理事、五十年常務理事、のち参事。このほか毎日書道会理事、近代詩文書作家協会会長などを務めた。「近代詩文書」という新ジャンルを確立したほか、政府主催の全国戦没者追悼式で昭和二十七年から平成五年まで「全国戦没者追悼之標」の標柱揮毫を行ったことでも知られる。勲三等旭日中綬章、文化功労者、文化勲章、東京都名誉都民⁽⁴¹⁾。

本句は松本たかし(明治三十九年(一九〇六)〜昭和三十一年(一九五六))の句。本名は孝、東京都の出身。能楽師松本長の長男。病弱のため能を断念、高浜虚子に俳句を学び「ホトトギス」同人となる。俳誌「笛」を主宰。著「鷹」「石魂」など。

○杉岡華邨書「甘酒のわくたのしさもはるの雪」(図版21)

杉岡華邨(大正二年(一九一三)〜平成二十四年(二〇一二))は、本名は正美、

○短冊「蔵澤の竹を得てより露の庵」(図版17)

『定本 漱石全集』第十七卷(岩波書店、二〇一九年)四二八頁、二二六四番として所収。漱石は明治四十三年十一月五日に松山の森円月から蔵沢の竹の墨画を受け取り⁽³²⁾、同十二日に本句を日記に書き留めている⁽³³⁾。円月は、漱石に蔵沢の竹の墨画を贈ったあと、漱石から「露の庵」の一句を認めた短冊と書簡を送られたことを記しているので⁽³⁴⁾、本短冊はもと森円月の手元にあったものであろう。

吉田蔵澤(享保七年(一七二二)～享和二年(一八〇二))は南画家、松山藩士。在職中に善政を行い信望を集めた。一方、絵を好み、二十歳代に狩野派系の画を学ぶが、五十歳代には南画の世界に向かい、七十歳代に入り変幻自在な境地を見せる墨竹画に至る⁽³⁵⁾。漱石夫人の鏡子は、良寛のほかに漱石が収集した物に伊予の明月上人と蔵澤があり、二つとも松山出身の森円月から送られたもので、特に蔵澤の墨竹を珍重し、自ら蔵沢を手本に竹を描いたことを回想している⁽³⁶⁾。漱石は、明治四十三年夏の所謂「修善寺の大患」からの帰京後、四十三年十月から明治四十四年二月末まで長与胃腸病院で療養していたが、明治四十三年の大晦日に、漱石は、看護婦が入手してきた紅白の梅のうち白梅を、蔵沢の竹の画の前に挿して楽しんでいる⁽³⁷⁾。

漱石の句作の一端を示すとともに、漱石が松山を離れた後も、松山で知己を得た人物たちと交流し、松山ゆかりの美術品を愛蔵したことを示す作品である。

(四) その他

その他正岡子規に関連する人物の作品・資料として、別稿の概要に記載のとおり、柳原極堂の作品を三点、高浜虚子・五百木瓢亭・松根東洋城・正岡律の作品・資料を各一点づつ所蔵している。

柳原極堂(慶応三年(一八六七)～昭和三十二年(一九五七))は、明治―昭和時代の俳人、新聞人。本名は正之。正岡子規に学び、明治三十年郷里の松山で「ほ

と、ぎす」を創刊、翌年同誌を高浜虚子にゆだねる。伊予日日新聞社長などを務めた後に上京、昭和七年「鶏頭」を創刊・主宰。十七年に帰郷し、子規の研究と顕彰に専心した。当館では、紙本額「執正句畏」一点、俳句「春風やふね伊予に寄りて道後の湯」軸一点、書簡一点を所蔵している。「春風や」は明治三十年(一八九七)四月三日、松風会例会の席題吟「名所詠みこみ」の句である。子規にも推賞された極堂の代表句で、極堂の自筆による句碑が道後温泉方生園にも設置されている。

高浜虚子(明治七年(一八七四)～昭和三十四年(一九五九))は、俳人・小説家。本名清。愛媛県松山市出身。二高中退。正岡子規に師事。子規派の俳句雑誌「ホトトギス」を継承して主宰。「客観写生」を唱えて、俳句を花鳥諷詠の詩と主張し、写生文小説も書き評価された。当館では、道後温泉を題材として執筆された「伊予の湯」(大正八年刊行)の原稿の一部を所蔵している(図版18)。推敲の跡も生々しく、虚子の創作活動の一端がうかがえる貴重な原稿である。

五百木瓢亭(明治三年(一八七二)～昭和十二年(一九三七))は、明治―昭和時代前期のジャーナリスト、俳人。明治二十二年上京し、同郷の正岡子規らと句作にはげむ。二十八年日本新聞社にはいり、三十四年「日本」編集長。昭和三年政教社に移り「日本及日本人」を主宰。大アジア主義をとらえた。当館では、俳句「せゝらきや山吹もある道すから」軸一点を所蔵している。

松根東洋城(明治十一年(一八七八)～昭和三十九年(一九六四))は俳人。本名豊次郎。東京生まれ。夏目漱石に師事し「ホトトギス」に拠った。一時は高浜虚子に代わり「国民新聞」の俳壇を指導、河東碧梧桐の新傾向俳句に対立した。俳誌「洪柿」を創刊・主宰。句集に『俳諧道』『黛』『薪水帖』など。当館では、句幅「人々の顔人々の句夜長かな」軸一点を所蔵している。

正岡律(明治三年(一八七〇)～昭和十六年(一九四一))は、俳人・正岡子規の妹。明治二十五年(一八九三年)十一月より東京に移り子規の看病を行い、明治三十五年(一九〇二年)に兄の子規が亡くなると家督を相続し、昭和三年

(表3) 河東碧梧桐作品・書簡 (愛媛県美術館所蔵)

No	全体 目録 番号	作品名・俳句		落款・印	初出	備考 『河東碧梧桐全集』収録状況等
1	69	温泉めぐりして戻りし部屋の桃の活けてある		落款「碧」、陰文方印「秉五」	「温泉まはりして」として大正15年5月号『三昧』15号所収	(図版14)
2	64	此船乗らな酒つみさかるかもめらが		落款「碧」、陰文方印「秉五」	昭和3年12月、『三昧』46号所収	『全集』第一巻、308頁
3	68	絵馬を見て一明りする宿いそぐ皆と出てゆく		落款「碧」		軸箱に書「けふも遅風呂のそれゝに入りて寝に行く 台水」(未表装、図版15) 同梱
4	70	交ミ (からみ) 蜻蛉濱の砂原そらを飛んで		落款「碧」、陰文方印「秉五」		箱裏に「河東碧梧桐先生御揮毫／創刊五周年記念品／松山民衆新聞社」の貼紙あり
5	71	紙本屏風 (六曲一隻)	通り雨をよけし梅見もどりの棲そへゐる	落款「碧」	大正8年3月か短冊・色紙揮毫例あり	『全集』第一巻、195頁
			散る頃のさくら隣のも咲き誘ひ来る	落款「碧」、陰文方印「秉五」	昭和3年4月、『三昧』38号所収	『全集』第一巻、266頁
			みかん葉ない枝なり炉に燐る払ふ	落款「碧」、陰文方印「秉五」	大正14年1月か、短冊等揮毫例あり	『全集』第一巻、247頁
			鮎をき、に一はしり小女の崖下りて行く	落款「碧」、陰文方印「秉五」	大正14年7月、『三昧』5号所収	『全集』第一巻、253頁
			雪散る青空のまた此頃のそら	落款「碧」、陰文方印「秉五」		短冊・書幅等揮毫例あり
			芒なす穂に萩の花なきゆれつゐる	落款「碧」、陰文方印「秉五」	昭和2年9月、『三昧』所収	『全集』第一巻、293頁
6	73	山口忍非郎宛書簡 (11月3日付)				伊東 碧梧桐→大阪住吉区田辺町山口正様 (忍非郎)

『全集』…河東碧梧桐全集編集室編『河東碧梧桐全集』(短詩人連盟、2001年)

入りて寝に行く「台水」との書が未表装の状態と同梱されていることを今回発見した。落款から井出台水の書であることが分かる。井出台水は、慶応元年(一八六五)岡山県生まれ、本名は治。日露戦争従軍中に軍人仲間で拍車会を作り、萩原井泉水、河東碧梧桐らの指導を受けた。碧梧桐が主宰し、のち中塚一碧楼が主宰した「海紅」に依り、「碧」「三昧」と碧梧桐とともに歩む。大正十年に満州に渡りアカシヤ会を興して自由律俳句を大陸に広めた。本句は台水の句集『台水句調』(30)に大正十五年の句として所収されている。

(三) 夏目漱石

夏目漱石(慶応三年(一八六七)～大正五年(一九一六))は、近代日本の作家。明治二十六年(一八九三)帝国大学英文科卒業後、同二十八年四月に愛媛県の松山中学に赴任、第五高校の教師を経てロンドンへ留学。帰国後、東大講師となる。『吾輩は猫である』によって文壇に登場後、明治三十九年に松山中学時代の経験を下敷きとした『坊っちゃん』を発表。四十年朝日新聞に入社し専属作家となった。『三四郎』『それから』『門』などのほか、大病を経て『こゝろ』『道草』『明暗』などの作品を残した。漱石は親友子規の感化で俳句を創作し、生涯に約二五〇〇句を残している。

当館では漱石の短冊二点、書簡二点、漢詩(五言絶句)一点の計五点を所蔵している。すでに書簡及び漢詩は翻刻・紹介されているので(31)、本稿では短冊二点を紹介する。

○短冊「露けさの中をもどるや小提灯」(図版16)

明治四十年頃に使用されていた手帳に書き留められていた句として『定本 漱石全集』第十七巻(岩波書店、二〇一九年)三四五頁、二〇二九番として所収。同書には「中に帰るや」として収録されているが、中句を「中を戻るや」とする短冊が「図説漱石大観」に収録されていることを記しており、本短冊もそうした作品の一つである。

をする事になった。画帖を相模百景と言って、上下二冊正に百景あった。鉛筆画のスケッチ風のもので、忠実な写生がしてあった。百景悉く新しい句を題する意気組で作り始めて、それを順次当時の仲間へ廻送する事にした。本帖の第一、第二が其の片影の名残である。(中略) 第一帖は子規居士の真筆であるが、之は当時居士を尋ねた時、談題句の事に及んで、二人で即席に書いたものと記憶する。句の肩に場所を指定したのは、百景中の標題を居士の書いたものである。かやうな草稿は、当時各方面にあったのであるが、惜むらくは皆散逸して、其一片をも留めない。愚哉氏がこの旧稿を示して、當時を偲ぶ種としたのは、近頃の悦ばしさである。敢て蕪文を巻頭に書く所以である。又た百景追憶帖と命題する所以である。／大正九年十一月／外遊準備多忙裏にありて 碧梧桐識〔改行の／及び線は筆者〕とある(27)。本品は、折井愚哉「相模百景」の「鳶ヶ崎」掲載の句と一致しており、かつ「句の肩に場所を指定」という位置関係も碧梧桐の記載のとおりであるから、本作品は、碧梧桐が「惜しむらくは皆散逸して、其の一片をも留めない」と記した、折井の相模百景の写生画をみた子規と碧梧桐が二人で即席に書いた、後の「百景追憶帖」の草稿の断片となるものであろう。折井愚哉と正岡子規・河東碧梧桐との交流の一端を示す資料であるとともに、折井の写生画と子規・碧梧桐の句が響きあう過程を示した、まさに「俳文学と美術」関連コレクションの一つといえる。

このほか、各種の俳句選集・俳句会稿・選歌等に係る断簡も多く所蔵している。これらの所蔵品も、俳人子規の活動を辿る上で貴重である。

(二) 河東碧梧桐

河東碧梧桐(明治六年(一八七三)～昭和十二年(一九三七))は、本名兼五郎、愛媛県松山市出身。松山中学時代に正岡子規から俳句の手ほどきをうけた。二高中退後、上京し、子規の俳句革新運動に参加し、「ホトトギス」の中心的存在となる。明治三十五年(一九〇二)の子規没後は新聞「日本」の俳句選者。その後国内各

地を旅し、俳句の近代化のため新傾向俳句を広めた。のち自由律をも作句。子規より「天資の能」と称賛された能筆であったが、中国六朝の碑帖や漢の木簡の書に強く感銘を受け、以後は技巧をこえた自在境の書風に変わった。前述のとおり、美術館所蔵の子規書簡の中には碧梧桐宛のものも多い。

美術館所蔵の河東碧梧桐の俳句作品は全十点で、その他書簡や木簡などがある。初出や刊行物収録状況等の関係は表3のとおり。

当館所蔵の碧梧桐作品は大正末期から昭和初期にかけての書が大半であり、『全集』未収録句の書幅も含まれている。島田三光は碧梧桐の書を四期に分け、それぞれの時期の書風を明らかにしているが(28)、当館所蔵の俳句書跡はいずれも島田の分類による第四期(大正十二年～昭和十二年)、すなわち六朝の書風から離れて、律動的で緩急自在の柔らかな線質からなる個性的な表現の時期の作品である。第四期に多くみられる、右上に大きく文字群を置き、左下に余白を取る空間構成のものが多い。

なお、本作品群からは、碧梧桐と周囲の交流の一端も見えて取れる。まず十一月三日付碧梧桐書簡は、封筒では宛先が「大阪住吉区田辺町 山口正様」、書簡では宛先が「忍非郎様」となっており、碧梧桐らの同人誌『三味』に句会の成果を連載していた「大阪俳三味会」の中にしばしば登場する「山口忍非郎」に宛てた書簡であることが判明する。消印が十分確認できず本文も年欠であるが、同人誌『三味』十二号の編集が話題になっており、同十二号は大正十五年二月発行なので、本書簡は大正十四年のものと推定される。「伊東 碧梧桐」とあり、静岡県伊東から発信したものであろうか。碧梧桐はこの十二日後の十一月十五日には大阪大会に出席しており(29)、山口と面談する機会もあったであろう。なお、当館所蔵品の一つ、碧梧桐筆の木額「忍非郎居」は、碧梧桐がこの山口忍非郎の居室のために与えたものであろう。

また、本稿執筆のため作品の状態を確認していたところ、碧梧桐の書幅「絵馬を見て一明りする宿いそぐ皆と出てゆく」の軸箱には、「けふも遅風呂のそれ」に

江戸時代の漢学家・森田益(節齋)が伏見宮邦家親王の第四王子・朝彦親王(文政七年(一八二四)～明治二十四年(一八九一))の幕末期における事跡をまとめた記録を、子規が筆写したもの。『子規遺墨 第三巻 書簡編』六十二番に所載。朝彦親王は青蓮院門跡となり、のち還俗して中川宮・賀陽宮等と称し、明治期に久邇宮と改称した。幕末期には安政の大獄に座して処罰されたが、孝明天皇の信任が厚く公武合体運動を推進した。明治新政府に疎まれ明治元年に広島に蟄居、のちに伊勢神宮の祭主を務めた。山上は『子規遺墨』の中で「この稿は恐らく子規が漱石に明治豪傑譚と気節論を送った明治二十四年ころ書写したものである」と推測しており⁽²¹⁾、当時の子規の筆力と思想の一端を見ることができるとしている。

○「藤野古白傳」断簡(図版12)

箱書に「藤野古白伝 断簡 正岡子規自筆草稿」とある。藤野古白は愛媛県久万町(現久万高原町)出身、本名潔。正岡子規の従妹で、子規の四才年下にあたる。東京専門学校(現早大)に入学し、当初子規らと句作し、趣向や感覚の斬新さで頭角を現す。後に小説や戯曲の創作に転じ、明治二十八年に「人柱築島由来」を早稲田文学に発表するが世評に上らず、同年ピストル自殺。子規はその死を悼み、明治三十年(一八九七)『古白遺稿』を刊行した。

この断簡は、『古白遺稿』に収録された藤野古白の伝記の一部で、ピストル自殺直前の古白の人となりについて子規が記した部分である⁽²²⁾。古白の身を「火焰を包みたる水の如し」と評し、古白が常に笑談するのを見て人は古白を平和なりというが、胸中の火焰は消滅することなく、絶望後の古白は甚だしい苦痛を感じながらも笑顔も戯談も平和を装っていた。しかし外部の平和は内部の熱情を冷却することなく、かえってその勢いを増し、その火焰がついに古白自身を焼いてしまった、としている。子規の直筆原稿で修正の後も多く見え、古白の伝記をまとめるにあたっての子規の試行錯誤の跡が生々しく伝わる品といえる。

○正岡子規・河東碧梧桐句(図版13)

「鶯ヶ岬より不二を望む／富士見えて岩におちつく冬日和 碧／誰が寝て石に跡ある朝の露 規」。本作品が収蔵された時の旧愛媛県立美術館時代の調書には「合作とはいえないように思う。何かの断片か。要検討。同種のものが「河東碧梧桐―俳句と書(沢田大暁) P 194にあり」とあり⁽²³⁾、収蔵はしているものの長年にわたり美術館では本品の性格を把握しかねていたのが現状であった。ところをもと本作品を所蔵していた山上次郎の記述を確認すると、本品について「折井愚哉の「百景追憶帖」に関するものである」と指摘している⁽²⁴⁾。この山上の指摘を手掛かりとして、改めて本品について検討していきたい。

折井愚哉(明治四年(一八七二)～昭和九年(一九三四))は、本名太一郎。明治―昭和時代前期の洋画家、俳人である。絵画を小山正太郎・橋本雅邦に、俳句を正岡子規に学ぶ。明治三十四年に大阪朝日新聞に入社、のち郷里岡山の中学で図画を教えた。当館でも、明治三十一年の折井愚哉宛正岡子規書簡を所蔵している。明治二十九年、この愚哉が著者兼発行者として発刊した画文集に「相模百景」上下二巻がある⁽²⁵⁾。見開き二ページで、折井の描いた相模の風景が白黒の石版刷で印刷され、その次に活版で、子規、碧梧桐、鳴雪、瓢亭、虚子らの面々がその風景を詠んだ句を一つづつ並べてある。この「相模百景」の風景の一つに「鶯ヶ崎」があり、折井の絵で前景右方より左方海中に巨大な岩石が伸びる風景を描き(参考図版2)、その後、鶯ヶ崎が神奈川県三浦郡長井村(現横須賀市)の勝景であることを説明し、「誰が寝て石に跡ある朝の露 子規／夕波をすくふて起つやむら千鳥 鳴雪／富士見えて岩におちつく冬日和 碧梧桐／涼しさや岩に腰かけ釣たる、愚哉」と四つの句を記しており、当館所蔵の二句と地名や句が一致している⁽²⁶⁾。

この「相模百景」の原本になったのが「百景追憶帖」で、愚哉が相模各地の風景を写生し作成した画帖に、子規らが愚哉の画帖を観ながら寄せた句稿を三冊にまとめて記念としたものである。この追憶帖第一に寄せた河東碧梧桐の由来記では「(前略) 折井愚哉氏が相模をあるいた写生画帖を印行するに方ってこれに題句

との 瀧のたえまは もみちなりけり／たれきくに 秋をつき出す たきの音」山上によれば旧三内村河之内（現東温市）近藤林内家旧蔵という。明治二十三年九月に東京大学文科国文学科に入った正岡子規は、帰省の折に明治二十四年八月、大田柴洲・滝村黄塔とともに白猪・唐岬観瀑へ出かけた。この時同地の素封家の近藤家に宿泊した時に書画帳に書いたものである⁽¹³⁾。なお、後年の明治二十八年十二月、夏目漱石がこの二瀧を見に来て近藤本家に宿泊し、この画帳を見て子規宛に、「近藤家にて観瀑の書画帳一覽中に、貴兄の発句及び歌あり、発句も書も頗る拙の様に思はれ候。僕此の書画帳を見て貴兄の処に至りて不覚破顔微笑す。（下略）」との書簡を送っている⁽¹⁴⁾。

○柱掛 二点（図版8） 明治二十八年（一八九五）

明治二十八年十月七日、帰郷中の正岡子規が、松山市余戸の森円月の家を訪問した時に、一枚の柱掛の両面に揮毫したものを割って二枚としたもの。

森円月は、明治三年（一八七〇）愛媛県伊予郡余土村余戸に誕生。正岡子規、夏目漱石より三歳年下である。本名は次太郎。号に円月、松嶺がある。明治二十七年同志社普通学校を卒業。二十九年四月から三十一年三月まで愛媛県尋常中学校、三十三年四月から三十四年三月まで兵庫県の柏原中学校で英語の教師をした後、三十四年から渡米、エール大学で英語を本格的に学び、三十八年一月に帰国。帰国後は東京に居を構え、東洋協会で『東洋』などの雑誌編集に従事。子規や漱石との交流があった。昭和二十年戦時疎開により余戸に帰郷。以後は松山で過ごし、昭和三十年に没している⁽¹⁵⁾。

本柱掛は、「初ほすやにはとり遊ぶ門の内 子規」「南窓倦書起 門外有青山 明治廿八年」と記されている。子規は『散策集』の中で、円月宅を訪問した時の様子を、「夕暮に今出を出で、人車を駆りて森某を余戸に訪ふ。柱かくしに題せよといはれて／初干すや 雞遊ぶ 門のうち／席上一詩あり／雞犬孤村富 松菊三逕間／南窓倦書起 門外有青山」と記しており⁽¹⁶⁾、本品と『散策集』の記載が一致している。森円月はこの時のことを「自分方に来られしは午後三時なりしと思ふ。

居士の揮毫とて豫め墨を磨つて待つてゐたといふわけでもなければ、来訪後多少雑談もしたり墨を磨つたりして揮毫の後歸られたのだから、少くも一時間以上は宅に居られたと思ふ。」と回想している⁽¹⁷⁾。

○喫茶去（図版9）

落款に「森君静鑒／升生」とある。増田和朗は「森君」を森円月のことで、明治二十八年森家に投宿した際に揮毫したものと思われる、としている⁽¹⁸⁾。子規の森家への訪問は同年十月七日のことであるが、『散策集』には前述の柱掛の他に森家で本作品の揮毫を行ったことは記されていない。柳原極堂が記録した森円月の思い出として、円月は画仙紙十数葉を持ちこみ子規の揮毫を所望し、円月が「依頼しておいた揮毫はもう出来ただろう」と思い子規の寓居を訪ねたところ、書いた作品を松風会員達が持って行ってしまったので、改めて画仙紙を買い込み依頼したところ子規が快く引き受けて揮毫したことを述懐している⁽¹⁹⁾。森円月は、自身の日記の中で、明治二十八年九月二十日に当時子規が漱石と寄宿していた松山市二番町の上野義方宅（愚陀仏庵）を訪ね、二時間ほど談話した後に画仙紙に子規の揮毫を所望したことを記録しており⁽²⁰⁾、本作品もこうした機会に円月の依頼により愚陀仏庵で揮毫された可能性もあろう。

明治二十八年、子規は日清戦争に記者として従軍、帰国の途中で咯血し、神田の須磨保養所に入所した後、小康を得て松山に帰郷する。そして夏目漱石が寓居していた松山市二番町・上野義方宅の離れ（愚陀仏庵）に入り、療養や松山近郊への吟行を行いながら二カ月余り地元松山の俳人の指導等を行うのだが、先に紹介した二点はこのときの動向を示す作品として貴重である。なお、当館では子規の年賀名刺（図版10）も所蔵している。年代不明ながら、子規が森円月に送ったものである。これも子規と森円月との交流を示す資料群といえるだろう。

③ 原稿・草稿

○「上中川大王乞殉国録」(図版11)

なお、本書簡は愛媛県松前町出身の実業家・坪内寿夫氏の旧蔵品である。

○明治二十五年（一八九二）五月二十八日付河東碧梧桐宛正岡子規書簡（図版4）
河東碧梧桐が執筆した小説「渡し守」を巡りやりとりされた書簡の一つで、「人間より花鳥風月がすき也」の一節が記されており著名である。

明治二十四年十二月、子規は小説家として世に出ることを志し小説「月の都」の執筆に着手。翌二十五年二月、脱稿した「月の都」を持って、同い年ですでに小説家として世評の高かった幸田露伴を訪問、批評を依頼したが評価は芳しくなく、出版を断念する。一方碧梧桐も小説「渡し守」を著すものの、子規は五月中旬の書簡でその完成度を厳しく批判する。その後五月十六日付書簡で子規は碧梧桐を慰撫し、碧梧桐の「小説家」と「詩家」を区別した意見に対し「小生の意ハ二者を別物とせし訳なれども、尤二者とも定義判然ならざる故に、加減な事を申し、ものにて論理的のものにてハ無之候、愚意を平たくいへば即ち尤コンクリートにいへば人間よりは花鳥風月がすき也」という位の事に有之候（／は改行）と記し、決して失望し給うな、と記し、「ほととぎす（花押）」と自身を署名している。他の書簡に比べて文字が小さく、線の細い印象である。

この書簡を受け取った碧梧桐は、「人間より花鳥風月が好き也」の一句は、当時の私には少々理屈に合わない不満があった。がこれを今一層コンクリートに言へば「小説より発句が好き也」であろうとも解した。」と述懐している（6）。子規は本書簡の二十一日前に高浜虚子に宛てた書簡でも「僕ハ小説家トナルヲ欲セズ詩人トナルコトヲ欲ス」と伝えているが（7）、本書簡を出した翌月の六月、子規は新聞「日本」に「瀬祭書屋俳話」を連載開始し、俳句革新に着手する。本書簡は近代俳句創設者としての子規が誕生する直前の心境を示す書簡として貴重である。

○明治三十二年（一八九九）十二月十六日付中川四明宛書簡（図版5）

中川四明（嘉永二年（一八四九）〜大正六年（一九一七））は、本名重麗、俳人・美学者。旧制松山中学校初代校長・草間時福の兄。明治二十二年に新聞「日本」

に西洋美術の概念を紹介した「美術家」は、子規の西洋美術受容に影響を与えたと根本文子氏は評価している（8）。『京都美術協会雑誌』等に数多くの論考を掲載、明治三十三年からは京都市美術工芸学校の嘱託教員となり、京都美学界の指導に当たった。俳人としては、子規の『小日本』への協力を契機として日本派の俳人となり、明治二十九年に俳句結社「京阪俳友満月会」を起し、京都俳壇の重鎮として活動。俳句論・美学論として『俳諧美学』（9）、『触背美学』（10）を刊行している。

明治三十二年十二月、子規は中川四明から京都で新たに発行する日本派の雑誌『種ふくべ』への巻頭言と選句の依頼を受けていたが、本書簡はこれに対する返信である。まず、「牛祭」の仮面を贈られたことに對する礼を述べ「小生がいたづら書の写生の材料に相成候」と記した後、本文で『種ふくべ』への選句依頼については承知し、石販摺の依頼については丁重に断りつつも、京都に日本派の俳句誌ができることに對し喜んで協力を申し出ている。このあと中川が子規に送った蕪漬けの礼を述べ、「蕪村忌の日も近つきぬ蕪漬」の句を添えており、差出封筒の封緘に子規は蕪の絵を描いている（図版6）。なお、牛祭りは十月十二日の京都太秦広隆寺で開催されていた祭礼で、この牛祭の仮面を面白く思った子規は、この仮面を中心にして「原人図（参考図版1）」を描いている（11）。

山上次郎は、著書『子規の書画』の中で、子規書簡の書としての魅力を「真情あふれる内容と、紙面に流動する書体から受ける印象は、炎暑のもと涼風を受けようにすがすがしく、「子規という人間そのものが、赤裸々にあらわれている」と評価しており（12）、これら当館所蔵の子規書簡からもこうした魅力をうかがい知ることができる。

② 書幅等

○白猪唐岬二瀑（図版7）

明治二十四年（一八九一）八月に白猪の滝・唐岬の滝を観瀑した時に詠んだ歌と句が記されている。「白猪唐岬二瀑／子規子／見渡せば 雪かとまがふ しらい

(表2) 正岡子規書簡(愛媛県美術館所蔵)

No	全体 目録 番号	年月日	書簡名	差出	受取	備考
1	117	明治24年10月 21日付	正岡子規書簡(陸羯南 宛)	本郷真砂町十八番地常磐会 寄宿舎 正岡常規	東京市神田区雉子町日本新 聞社 陸實様	『全』第十八巻・217頁
2	113	明治25年1月 12日付	正岡子規書簡(河東碧 梧桐宛)	東京駒込 正岡常規	松山千舟町 河東秉五郎殿	『全』第十八巻・230頁
3	114	明治25年1月 13日付	正岡子規書簡(河東碧 梧桐宛)	東京 正岡升	松山 河東碧梧様/平信	『全』第十八巻・234頁
4	102	明治25年1月 13日付	正岡子規書簡(銚・碧 梧桐・虚子宛)	東京市本郷区駒込追分町 三十番地 正規拝	松山市千船町九十六番戸 河東銚君/河東秉君/高濱 清君	『全』第十八巻・236頁。237 頁記載の別紙は無。
5	95	明治25年5月 28日付	正岡子規書簡(河東碧 梧桐宛)	東京上根岸 正岡常規	愛媛県松山市千船町九十六 番戸 河東秉五郎君	『全』第十八巻・314頁
6	115	明治25年9月5 日付	正岡子規書簡(河東碧 梧桐宛)	東京下谷上根岸八十八番地 正岡常規	愛媛県松山市千船町九十六 番戸 河東秉五郎様	『全』第十八巻・334頁
7	94	明治25年10月 17日付	正岡子規書簡(河東碧 梧桐宛)	東京上根岸八十八 正岡常 規	愛媛県松山市千船町九十六 番戸 河東秉五郎様	『全』第十八巻・375頁
8	91	明治25年10月 20日付	正岡子規書簡(大原恒 徳宛)			『全』第十八巻・377頁、封筒 欠
9	116	明治26年1月 31日付	正岡子規書簡(河東碧 梧桐宛)	東京下谷上根岸八十八 正 岡常規	伊予国松山市千船町九十六 番地 河東秉五郎様	『全』第十八巻・397頁
10	96	明治29年12月 11日付	正岡子規書簡(河東碧 梧桐宛)	下谷上根岸八十二 正岡升	神田淡路町一丁目一番地高 田屋 河東秉五郎殿/返事 あり	『全』第十九巻・93頁
11	97	明治30年	正岡子規書簡(河東碧 梧桐宛)			『全』第十九巻・532頁
12	92	明治31年11月 □日	正岡子規書簡(折井愚 哉宛)	(書簡) 東京市下谷区上根岸町 八十二番地 正岡常規		封筒無。『全』第十九巻・318 頁。書簡後半は76「課題句」 上半分に続く。箱書が「正岡 子規居士五雲」とあり、箱書 と作品が同一か不明。
13	92	明治27年12月 30日	(正岡子規書簡封筒 (折井愚哉宛))	(封筒) 東京下谷上根岸八十二番地 正岡常規	(封筒) 摂津国大阪市東区博労町三 丁目集画堂内 折井太一殿	書簡本文無。消印明治27年12 月30日(『全』第十八巻507頁 の封筒が、上の書簡と同一に 軸装)
14	93	明治31年11月 []日	(正岡子規書簡(折井 愚哉宛))	(書簡)	(書簡)	作品名「課題句」。書簡は75折 井太一郎宛書簡の続き。
15	93	明治29年11月 30日	(正岡子規書簡封筒 (渋川柳次郎宛))	(封筒) 東京下谷上根岸八十二 正 岡常規	(封筒) 常陸国土浦町字田宿 渋川 柳次郎殿	作品名「課題句」。書簡と封筒 を同一の軸装。『全』十九巻91 頁に本文欠として収録。渋川 柳次郎は東京朝日新聞記者。
16	105	明治32年12月 16日付	正岡子規書簡(中川四 明宛)	東京下谷上根岸八二 正岡 常規	京都二條富小路西入 中川 重麗様	『全』第十九巻・453頁
17	89	明治33年9月6 日付	正岡子規葉書(浅沼武 文宛)	東京下谷上根岸八二 正岡 常規	伊勢山田岩淵町 浅沼武文 殿	『全』第十九巻・551頁
18	106	明治34年12月 22日付	正岡子規書簡(長塚節 宛)	東京下谷上根岸八二 正岡 常規	茨城県結城郡石下局岡田村 長塚節様	『全』第十九巻・629頁。封筒 表・裏書は代筆。

『全』…『子規全集』(講談社、1977年)

(表1) 物外不遷の発句作品 (愛媛県美術館所蔵)

No	全体目録番号	作品名	発句	落款等	備考
1	127	人物画賛	人もなく我影もなし梅の花	落款「物外」、楯門連印 陰文「冷暖生崖世間安楽」・陽文「物外老人一号泥仏庵」	図版1
2	123	鬼自画賛	先の世も鬼にまけぬぞ二日灸	落款「七十一翁物外画」、楯門連印 陰文「冷暖生崖世間安楽」・陽文「物外老人一号泥仏庵」	図版2
3	128	月画賛	信州鏡台山思ひ出して／けふの月あきれるような天下一	落款「物外」、楯門連印 陰文「冷暖生崖世間安楽」・陽文「物外老人一号泥仏庵」	
4	129	俳句一行書	極楽も地獄もてらす初日哉	落款「物外老人題」、楯門連印 陰文「冷暖生崖世間安楽」・陽文「物外老人一号泥仏庵」	「物外大和尚書初日廻短歌 甲子春 四世中山英三郎所持」
5	130	鉢叩き画賛	かるく祖師のおしへや鉢たたき	落款「物外老人題」、印	
6	131	富士画賛	しら雪の上何もなし不二の山	落款「七十一□／物外題」、印「物外」	
7	132	柳画賛	ふらりくしては芽を出す柳かな	落款「物外老人」、楯門連印 陰文「冷暖生崖世間安楽」・陽文「物外老人一号泥仏庵」	
8	133	俳句短冊 二幅	(右) 古池や何万そだつ蛙の子 (左) 翁忌や蛙も穴にかしこまり	落款「物外」	
9	134	擬宝珠自画賛	擬宝珠の年号撫て秋の月	落款「物外老人題」、印	擬宝珠に「天正十八庚寅年」年号有

二 正岡子規とその周辺

(一) 正岡子規

当館所蔵の正岡子規の書跡は、山上次郎（大正二年（一九一三）～平成二十二年（二〇一〇））が収集し、昭和五十六・七年度（一九八一・八二年度）に当館の前身である愛媛県立美術館に収蔵されたものが大半を占める。山上は昭和二十六年（一九五二）に愛媛県議会に当選し、以後三期務める間に「子規記念館」の建設や「愚陀仏庵」の再建を提唱したほか、長年正岡子規や斎藤茂吉の研究に携わり『子規遺墨』全三巻（4）、『子規の書画』（5）等を著した。当館所蔵の正岡子規書跡は全三十一点で、書簡、書幅・短冊、原稿、俳句選集断簡等からなる。

① 書簡

正岡子規の書簡は明治二十四年（一八九二）から明治三十四年（一九〇一）までの十五点を所蔵している。受け入れ時に同一書簡の断簡が別々に登録されているものや、別の書簡と封筒を一点として受入しているものがあり、子規の書簡自体は十四点で、封筒のみが二点となっている。特に明治二十五年のものが七点と多い。差出・受取及び『子規全集』等収録状況は以下のとおり（表2）。

以下、この一覧の中から書簡三通を選び、内容を簡単に紹介したい。

○明治二十四年（一八九二）十月廿一日付陸羯南宛正岡子規書簡（図版3）

旧松山藩主久松家が出資して設立した常磐会寄宿舎に住んでいた子規が、陸羯南に対し、大学への通学に至便な团子坂又は根岸への下宿斡旋を依頼した書簡。陸羯南は子規の叔父・加藤拓川と学友であり、明治二十二年二月に、神田雉子町で新聞「日本」を創刊していた。子規からの依頼を受けた羯南は、根岸の自宅の西隣を下宿として斡旋したこともあり、この後羯南と子規は親しく交わり、翌二十五年十二月に子規は「日本」新聞に入社した。本書簡は、子規が終生根岸に住み、新聞「日本」を舞台として俳句革新を展開する契機となったものといえる。

(三) 書跡

土 居 聡 朋

はじめに

本紀要掲載の別稿「特集 愛媛県美術館「俳文学と美術」コレクション」(1)では愛媛県美術館所蔵の当該コレクションの概要及び目録を紹介したが、このうち書跡の分野の作品は、大別して「近世」「正岡子規とその周辺」「村上三島コレクション」の三つの作品群に分類できる。本稿では、愛媛県美術館「俳文学と美術」コレクションの書跡作品について、特に「正岡子規とその周辺」を中心とし、これらの作品群ごとに、より詳細な紹介と若干の考察を行いたい。

一 近世―物外不遷の俳画・書

近世の俳諧に関する書跡として特筆すべき作品群に、禅僧・物外不遷の書が挙げられる。物外は、寛政六年(一七九四)又は同七年(一七九五)の生まれで、没年は慶応三年(一八六七)。譚是不遷、泥仏庵と号した。父は松山藩の足輕三木兵太信茂。曹洞宗龍泰寺(松山市)祖灯のもとで出家し、山城国(京都府)興聖寺の関浪磨転に師事、備後国(広島県)尾道の済法寺住職となる。剛力で武術に優れ、晩年は尊攘運動に加わった。存命中から書画も高い評価を受け、俳諧にも親しんだ(2)。

当館では、物外不遷の作品十一点を収蔵しており、うち七点が発句を賛した俳画、二点が発句のみの書である(表1)

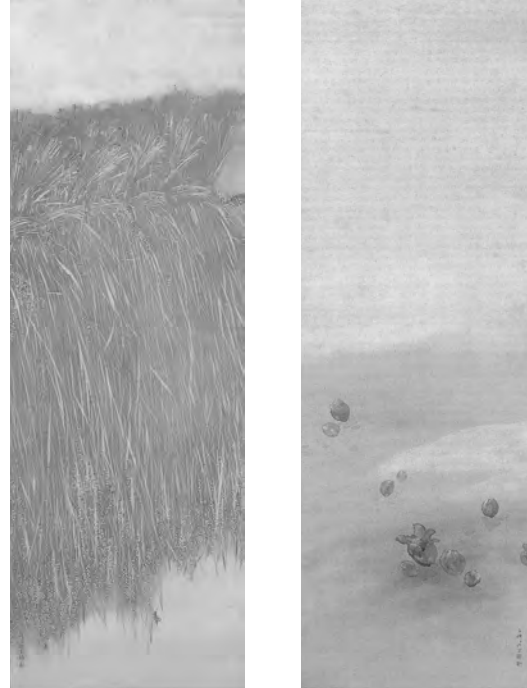
このうち「人物画賛」(図版1)は、賛に「人もなく我影もなし梅の花」と書かれ、「の」の字のような人の後ろ姿を描く。

「鬼自画賛」(図版2)は、「先の世も鬼にまけぬそ二日灸」の発句を賛し、男性が鬼を押さえつける絵を描く。「七十一翁物外画」とあることから、元治元年(一八六四)又は元治二年・慶応元年(一八六五)の作であることが分かる。印は陰文「冷暖生崖世間安楽」・陽文「物外老人一号泥仏庵」の楕円連印。二日灸とは、陰暦二月二日に灸を据えるもので、灸の効能が倍加し年中息災になるという。八月二日にすえる灸にも使われたが、鬼を抑え込む絵であることから節分の前日にあたる二月の二日灸を詠んだものと思われる。このあと慶応元年三月、物外は済法寺住持職を譲り上京して尊攘運動に加わり、二年後の慶応三年(一八六七)に大坂で没した。

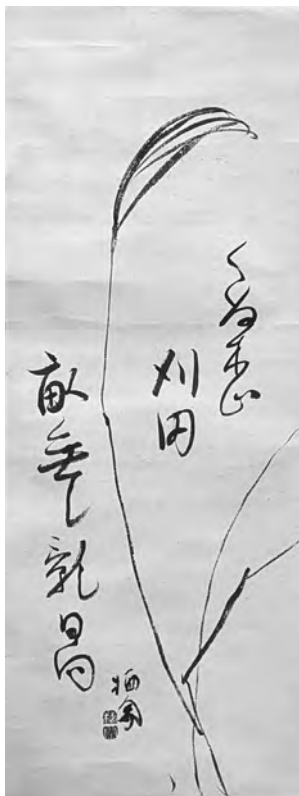
物外は存命中から蕉風の俳人として全国的な評価を得ていたが、江戸時代には、他にも禅画を描いた白隠や仙厓、一木佛を彫った遊行僧・円空など、諸芸に通じた僧侶が多くおり、近年、個性的な表現者として評価が高まっており、物外の書画もこうした系譜に位置づけられると長井健は評価している(3)。



図版2 川端龍子
〈荒海〉



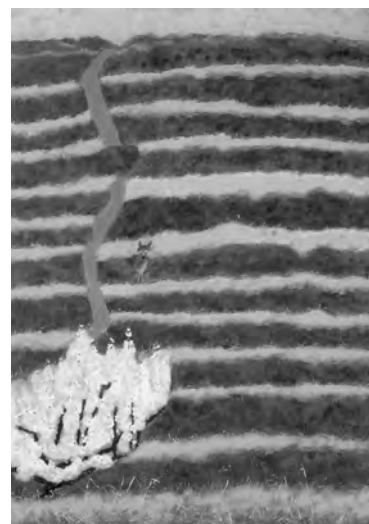
図版1 平福百穂 〈落の臺・かけ稲〉



図版5 竹内栖鳳
〈薄図〉



図版3 池田遙邨 〈蚊帳の中までまん丸い月昇る山頭火〉



図版4 池田遙邨
〈まっすぐな道でさみしい山頭火〉

さが指摘できるのではないだろうか。人物同士の交流に着目すると、平福百穂と川端龍子と共に高浜虚子と同じ会社で勤務していた点など、それぞれの画家が広げる交流関係が、他の画家の交流関係と少しずつ重なり合っていることが分かった。こうした相関関係についても、今後整理していきたい。

註

- (1) 略歴は、弦田平八郎「平福百穂年譜」『現代日本の美術 第二巻 平福百穂／富田溪仙』(集英社、一九七七年、一四三～一四七ページ)を基に作成した。
- (2) 百穂が歌を詠むようになったきっかけはジャーナリストの国府犀東と共に富士山を訪れた際に句を詠んだことであった。この時の歌は子規門下の歌人たちによる、根岸短歌会の歌人たちによる短歌雑誌『馬酔木』に掲載され、それ以降百穂は同誌の表紙絵、挿絵を手掛けながら、自身の歌も発表した。
- (3) 百穂とアラragi派の歌人との交流については、下記を参照した。弦田平八郎「平福百穂 生涯と芸術」(前掲書、七十七～八十四ページ)、横山季由「アラragiの系譜」(現代短歌社、二〇二〇年)、『子規と写生―近代文人の絵画世界―』(愛媛県美術館、一九九九年)。
- (4) 梶岡秀一「作品解説」『愛媛県美術館所蔵作品集 2010』(愛媛県美術館、二〇一〇年、五十七ページ)。
- (5) 龍子の略歴および俳句との関わりについては「川端龍子年譜」『現代日本の美術 第四巻 川端龍子』(集英社、一九七七年、一三五～一四〇ページ)及び、川端龍子『川端龍子 詠んで描いて四国遍路』(小学館、二〇〇八年)を参照した。
- (6) 池田遙邨の生涯については下記を参照。今井淳「池田遙邨 絵とこころ―生涯と画業―」『没後20年 池田遙邨展』(海の見える杜美術館、二〇〇八年、十一～二十七ページ)。
- (7) 「山頭火シリーズ」については下記を参照した。佐々木千恵「移動する眼差し―広重と山頭火をめぐる旅」『生誕一一〇年記念 池田遙邨展』(倉敷市立美術館ほか、二〇〇五年、九十六～一〇一ページ)。今井淳、註6に同じ。
- (8) 佐々木千恵、註7に同じ、一〇一ページ。

(9) 「刈田」は稲を刈り取った後の田であり、季節は秋と分かる。「くぬ木山」については、「柵山」(富山県、福島県)、「くぬぎ山」(千葉県)等の地名があり、また神奈川県に「櫟山」という山が存在するが、栖鳳が上記の地を訪れて句を詠んだことは確認できず、具体的な地名を指しているのかは不明。

(10) 『資料集 竹内栖鳳のすべて VOL.3』(王舎城美術博物館、一九八九年、四十九～五十ページ)。

には《烏賊》が帝展で特選。昭和十一年（一九三六）に水明会を組織。昭和初期には、全国の寺社を巡拝しながら、訪れた寺社を題材にした作品を文展に発表。昭和二十八年（一九五三）、画塾青塔社を主宰。画家の指導にあたる。昭和五十九年（一九八四）より「山頭火シリーズ」を開始。昭和六十二年（一九八七）秋、文化勲章を受章。昭和六十三年（一九八八）に病により逝去（6）。

当館所蔵の《蚊帳の中までまん丸い月昇る山頭火》（no.52／図版3）と《まつすぐな道でさみしい山頭火》（no.53／図版4）はいずれも昭和六十三年（一九八八）、遙邨の晩年に描かれた作であり「山頭火シリーズ」に数えられる。

「山頭火シリーズ」は、遙邨が晩年に開始した、山口県出身の自由律俳句の俳人・種田山頭火（一八八二～一九四〇）の句を題材にした連作である。昭和五十九年（一九八四）制作の《山頭火行く》に始まり、遙邨の遺作となった《家を持たない秋がふかうなつた 山頭火》まで、全二十八点を数える。同シリーズ自体は晩年の作であるが、遙邨は、昭和八年頃（一九三三）に、山頭火の自選句集『草木塔』を手にしており、また自身も自由律俳句を詠んでいた。「山頭火シリーズ」で題材とする句は遙邨自身が選んだものであり、題材としたい山頭火の句を書き出した巻紙があったという（7）。

本稿では、当館所蔵作品をもとに、同シリーズの特徴を二点指摘したい。一つは描かれた場所である。本シリーズでは、作品に描かれた風景は実際に句が詠まれた場所とは必ずしも一致しない。また、昭和初期に行われた東海道での写生旅行時のスケッチに基づいた作品もあり、山頭火シリーズに描かれた風景は、記憶と空想とが織り交ぜられた「遙邨の心象風景」であるとも指摘されている（8）。当館所蔵の《蚊帳の中までまん丸い月昇る山頭火》でも、左下に描かれた店先の暖簾に文字らしきものが描かれており、場所のモデルの存在が窺える。この点については、今後調査検討を進めたい。

もう一点は、《まつすぐな道でさみしい山頭火》に関連する、山頭火の存在の示し方である。本作では、画面を縦方向に一本の道がはしっているが、こうした縦

方向に伸びる道は山頭火シリーズに度々みられる。同シリーズには、山頭火の姿が直接描かれた作品のほか、山頭火自身を描かずに法衣や傘などのみを描くことで、その存在を想像させる作品が見られる。縦方向に伸びる道もまた、その道を歩いた山頭火の足跡を伝えるモチーフとして描かれていると考えられる。

（四）その他の作品

上記で取り上げていない作品として、竹内栖鳳（元治元年「一八六四」～昭和十七年「一九四二」）の《薄図》（no.55／図版5）が挙げられる。本作は紙本墨画による掛軸で、「くぬ木山刈田畝無し影日向」の句が書き込まれている（9）。本作の題名は《薄図》とされているが、句の内容から、中央に描かれているのは稲である可能性もある。愛媛県砥部町出身の新派劇俳優・井上正夫（一八八一～一九五〇）の旧蔵品で、平成二十六年（二〇一四）に当館に収蔵された。

若い頃から京都で俳句を嗜んでいた栖鳳であるが、俳画風の作品は晩年に特に多く見られるようになる。それらは、画家自身が「漫筆」と言い表した戯画の作品群の中に位置づけられる。即興的に、かつ簡略化された筆で描かれた俳画風の作品は、栖鳳の俳句の素養に加え、対象を観察し少ない筆数で捉えるという、写生の追求を表すものであることが指摘されている（10）。

むすび

以上、当館の所蔵作品より、県外作家による俳文学と関わりのある作品を紹介した。俳句、短歌における写生論を絵画制作に取り入れた百穂や、俳句を題材に絵画を制作した龍子や遙邨と、限られた作例を通してではあるものの、近代の日本画家に俳文学が与えた影響の諸相をみることでできた。さらに、龍子と遙邨の経歴からは、彼らが土地を巡り、その先々で絵を描くことを頻繁に行っていることが分かる。旅や巡礼に対する関心からも、龍子、遙邨と俳文学との親和性の高

龍子の生涯は、俳句と縁の深いものであった。異母兄弟に、高浜虚子（一八七四～一九五九）に師事した俳人の川端茅舎（一八九七～一九四二）をもち、龍子自身も後にホトトギスの同人となる。龍子と虚子との関わりはもう一つあり、明治四十年（一九〇七）に龍子が挿絵画家として入社した国民新聞社に、その翌年、元々俳句欄の選者であった高浜虚子が文芸部長に就任している。

俳人たちとの交流に加えて、平福百穂や小川芋銭など、俳人としても活躍した画家たちと美術団体の結成などを通じて関わっていた点も注目される。

龍子自身も俳人としての顔を持ち、昭和二十二年（一九四七）には俳誌『ホトトギス』の同人に推挙されている。さらに昭和二十五年（一九五〇）、龍子は俳人の深川正一郎（一九〇二～一九八七）に同道し、四国遍路の旅に出る。深川正一郎は愛媛県四国中央市出身であり、高浜虚子に師事し、ホトトギスの同人として活躍していた。龍子の四国遍路はその後断続的に続けられ、開始から五年後に達成された。この道中、龍子は、それぞれの札所でスケッチを描くと同時に、そこで目にした人や風景などを題材とした俳句を残している。

当館が所蔵する川端龍子の作品《荒海》（no. 54／図版2）は、松尾芭蕉（一六四四～一六九四）による「荒海や佐渡に横たふ天の河」の句を題材にした作品である。当館には平成十六年（二〇〇四）に収蔵された。現在は額装作品であるが、もとは軸装であった。

龍子は昭和二十六年（一九五一）より、四国遍路と並行して、松尾芭蕉の足跡を辿り山形・秋田・新潟・富山・石川を訪れ、句を題材とした作品を制作する。こうして制作された作品は、日本橋高島屋において全四回開催された「奥の細道連作絵画展」にて発表されている。《荒海》は、箱書きに「奥の細道第三回展覧会出品之内」とあることから、制作年と同年の十一月に日本橋三越にて開催された個展「『奥の細道』連作第三回展」にて発表されたことが分かる。

本作は、激しく波打つ佐渡の海と、その上で煌めく天の川の二物を画面の中に描き、芭蕉の句に詠まれた光景を再現している。澄んだ秋の空には星の光がよく

見えることから、天の川が秋の季語とされているように、本作では砂子を用いて表された星のきらめきが、夜空を背景に映えるように描かれている。しかしその一方で、夜空はかすみがかかったように仕上げられており、そのため、画面下部に描かれた波のしぶきが夜空にけ込み、一体となったような、壮大な光景を生み出している。

（三）池田遙邨 明治二十八年（一八九五）～昭和六十三年（一九八八）

岡山県に生まれる。本名「昇一」。生後ほどなくして父の転勤により大阪へ転居。その後も福岡、上海、広島と一家で転居を繰り返す。幼い頃から絵を描くことを好んでおり、十五歳の時に大阪の画塾に入り、松原三五郎（一八六四～一九四六）より洋画の教育を受ける。福山市内で展覧会を開催しながら洋画を学び、大正二年（一九一三）に小野竹喬（一八八九～一九七九）と知り合う。大正三年（一九一四）の第八回文展に、水彩画《みなとの曇り日》が初入選。大正七年（一九一八）頃より、日本画への関心が高まり、独学で制作した屏風作品を文展に出品するも落選。大正八年（一九一九）に小野竹喬をたのんで京都へ移り、竹内栖鳳による画塾竹杖会に入る。同年の秋の帝展に、日本画《南郷の八月》が入選。翌年も《湖畔残春》が第二回帝展に入選した。大正十年（一九二一）より、京都市立絵画専門学校で日本画を専攻する。この頃、ゴヤやムンクなどに影響を受けた作品を多く制作する。大正十二年（一九二三）の関東大震災を受け、鹿子木孟郎（一八七四～一九四二）と共に東京に行き、被災の様子をデッサンする。翌年、これを基に制作した《災禍の跡》を帝展に出品するも落選。その後一年ほど、妻と共に岡山県内を転々とした後、京都に戻る。京都に戻って以降は、古典絵画の研究に専念する。大正十五年（一九二六）に、小野竹喬、鹿子木孟郎らと共に鳥城会を結成。昭和二年（一九二七）には、歌川広重の東海道五十三次に対する憧れから、東海道の写生旅行を敢行。昭和三年（一九二八）に《雪の大阪》が、同五年（一九三〇）

写生をめぐる議論にも加わっていたという。

明治四十一年（一九〇八）に、『馬酔木』から発展する形で、短歌雑誌『阿羅々木』（後に『アララギ』と改題）が創刊されると、百穂は表紙絵を手掛けるほか、自身の短歌も寄稿した⁽²⁾。また、資金の用立てなど、アララギの経営面での協力も行う。アララギの同人たちは万葉集の研究に取り組んだことでも知られるが、百穂は万葉集に収録された歌を題材にした日本画の制作も行っており、この点からも百穂とアララギとの交流の深さをみることができる。

百穂と歌人たちとの交流は、写生派の画家に学び、无声会で「自然主義」を標榜した百穂の関心と、子規の写生論を受け、写生に基づく短歌の実践を試みる歌人たちの関心との共鳴によるものであったといえる⁽³⁾。

当館所蔵の《落の臺・かけ稲》（no.56／図版1）は、大正十三年（一九二四）の作で、当館には平成十年（一九九八）に収蔵された。双幅の掛け軸である本作は、春と秋を対にして構成されている。各幅に落款「百穂貞謹画」と「百穂」の方印が見られる。大正以降の百穂の作品は、大和絵や琳派の技法や題材を取り入れたことにより、作風の幅の広がりをもせる。その一方で本作は、対象の姿を観察に基づきながら的確に捉えており、百穂の写実に対する根本的な姿勢をみることができる。

俳文学との関わりで注目されるのが、春と秋の季節の表現である。一幅に雪解けの地面から生える落の臺を、もう一幅には天日干しされる稲を描いた本作は、春と秋それぞれの季節の様相を簡潔に表している。落の臺、掛け稲はそれぞれ春と秋の季語であるものの、本作ではそれらを、季節を示す典型的な事物として記号的に表すのではなく、あくまで実際に存在する事物として描写している。秋の幅に描かれた稲穂には、小さなコオロギが一匹とまっているが、このコオロギも、秋の景物ではあるものの、偶然そこにいたような自然さを感じさせる。

本作には、秋田県出身である平福百穂自身の実感の伴った、北国ならではの季節の移ろいが表されていることが指摘されており⁽⁴⁾、周囲の事物に目を向け、

自身の実感に基づいて季節の様相を表した本作においても、百穂の絵画制作における関心と、アララギ派の歌人たちの短歌をめぐる関心との重なりが表れている。

（二）川端龍子 明治十八年（一八八五）～昭和四十一年（一九六六）

和歌山県に生まれる。明治二十八年（一八九五）に家族と共に上京。中学校在学中に、読売新聞主催の公募『明治三十年画史』に、自身の作品が入選したことをきっかけに画家を志す。はじめは白馬会洋画研究所、太平洋画会に所属し、大正のはじめまでは洋画を専門とした。明治三十九年（一九〇六）、雑誌『ハガキ文学』の表紙絵を手掛けて以降、表紙絵や挿絵の仕事も多く、明治四十年（一九〇七）には国民新聞社に入社し、平福百穂と共に挿絵画家として勤務する。同年、『隣の人』が文展に初入選。翌年『とこしへにさらば』が第二回文展で入選。その後は落選が続く。大正二年（一九一三）に、絵画を学ぶためアメリカに留学。この際に、ボストン美術館で見た『平時物語絵巻』に感銘を受けたことなどが契機となり、帰国後は日本画に転向する。大正四年（一九一五）、再興第二回院展に『狐の怪』が入選。その後、日本の神話や伝説を題材とした作品を発表し、大正六年（一九一七）には日本美術院の同人となる。院展で活躍する一方、大正四年には、平福百穂、小川芋銭（一八六八～一九三八）らと珊瑚会を結成し、大正十三年（一九二四）まで計十回の展覧会を開催する。

龍子は、大正十年（一九二二）頃より、展覧会の会場で鑑賞することを前提とした、大画面に相応しい画面構成、色彩、線の用い方を重視する「会場芸術」としての作品への志向を強めていった。この理念の下、昭和四年（一九二九）に青龍社を発足する。

戦後は四国遍路や西国三十三箇所巡礼など、巡礼の旅に赴き、訪れた地の光景を描く。昭和三十四年（一九五九）に文化勲章受章。昭和四十一年（一九六六）、老衰のため逝去⁽⁵⁾。

(二) 絵画等(県外作家)

岩 本 成 美

はじめに

本稿では、前稿の「作品紹介 (一) 絵画等(郷土作家)」に続き、同コレクションにおける県外作家の作品を紹介する。所蔵作品の一覧は目録の通りであるが、以下では、平福百穂、川端龍子、池田遙邨の作品を中心に、作者及び当館所蔵作品と俳文学との関わりについて解説する。

(一) 平福百穂 明治十年(一八七七)～昭和八年(一九三三)

秋田県仙北郡角館町に生まれる。本名は「貞蔵」。父は円山四条派の日本画家・平福穂庵(一八四四～一八九〇)。はじめ穂庵に絵を学び、父の死後、明治二十七年(一八九四)より円山派の画家・川端玉章(一八四二～一九一三)の門人となる。この時に同じく門下にいた結城素明(一八七五～一九五七)と知り合う。明治三十年(一八九七)、素明のすすめにより東京美術学校の日本画科に入学し、その翌年に玉章の塾を出る。明治三十二年(一八九九)、素明、福井江亭(一八六六～一九三七)、石井柏亭(一八八二～一九五八)ら玉章の門下たちと共に无声会を結成。同団体は、西洋絵画の写実的表現の影響と、院展の理想主義的な傾向への対抗から、日本画における「自然主義」を標榜して結成され、大正二年(一九一三)までの間、計十三回の展覧会を開催した。明治三十五年(一九〇二)には、東京美術学校の西洋画科に入学し、長原孝太郎(一八六四～一九三〇)よりデッサン

を学ぶ。同年、歌人の伊藤左千夫(一八六四～一九一三)と知り合ったことをきっかけに病床の子規を見舞う。

明治三十四年(一九〇一)、雑誌『新声』の絵画主任となつて以降、新聞や雑誌の挿絵を数多く手掛ける。明治四〇年(一九〇七)に入社した国民新聞社では、挿絵画家として人気を博す。同社では川端龍子が同僚として勤務していた。

大正六年(一九一七)、中国の春秋時代の人物を題材にした『豫讓』が第十一回文展で特選。大正五年(一九一六)、結城素明、松岡映丘(一八八一～一九三八)らとともに金鈴社を結成。大正八年(一九一九)、自宅に画塾白田舎を創設し画家の指導にあたる。大正十五年(一九二六)、第七回帝展審査員を務め、自身も『荒磯』を出品。翌年も審査員を務めながら、『新冬』を出品した。昭和五年(一九三二)、自身の秋田蘭画の研究をまとめた書籍『日本洋画曙光』を発表。同年、ローマでの日本美術展開催にあたり、文部省在外研究員として渡欧。昭和七年(一九三二)、東京美術学校の教授に就任。昭和八年(一九三三)に逝去する⁽¹⁾。

次に、百穂と俳文学との関わりについて述べてたい。先述した、百穂が子規を見舞うきっかけを作った人物、伊藤左千夫は、子規に師事し、子規の死後には根岸短歌会を率いた人物である。伊藤左千夫と知己を得たことに始まり、百穂は、長塚節(一八七九～一九一五)、斎藤茂吉(一八八二～一九五三)、島木赤彦(一八七六～一九二六)ら、後に短歌雑誌『馬酔木』、『アララギ』の同人となる人物たちと交流を広げていく。百穂は、歌人たちの間で交わされる、短歌における



図8 井上正夫《西瓜畑図》

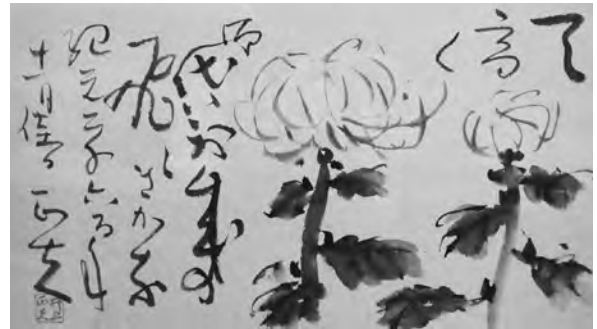


図7 井上正夫《菊図》



図9 大宮昇《子規像》
昭和32年 (1957)



図11 八木彩霞《蚊遣図》
坪内コレクション



図10 長谷川竹友(画)、酒井黙禪(句)
《松山を中心にして秋終》
坪内コレクション



参考3 柳瀬正夢《柳原極堂像》
阿部里雪コレクション（当館寄託）

参考2
野間仁根 俳画
個人蔵



図5 野間仁根《葡萄と栗鼠》



図6 柳瀬正夢〔似顔絵 柳原極堂〕



参考4 柳瀬正夢（表紙）『鶏頭』10巻6号、11巻1号
個人蔵

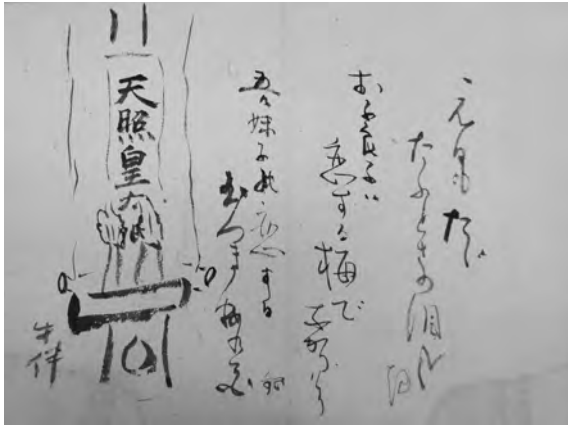


図2 下村為山《為山俳画帳》
明治24-25年（1891-92）頃



図1 下村為山《月下宿鳥図》
昭和11年（1936）



図3 杉浦非水《〔梅に月〕》

参考1
杉浦非水（画）、下村為山（句）
《〔釣船図〕》
個人蔵



図4 杉浦非水《雨》
昭和40年（1965）

的素養を備えていること、また子規周辺の俳人たちと直接の接点を持っていたことが挙げられようか。中でも、柳原極堂と交友を結んだ作家が多いのは、極堂がマスメディア（出版）におけるオーソリティとして彼らと協働する機会にあったこと、そして子規の芸術理念を堅実かつ正当に継承する存在として、厚い人望を寄せられていたことが大きな要因ではないかと言える。今後、極堂を紹介した子規の「写生論」の波及について考察することも、重要な視点となるかも知れない。

註

- (1) 阿部里雪「一葦会の思い出」新編 子規門下の人々 愛媛新聞社、二〇〇四年
- (2) 『子規全集 第二巻 俳句二』(講談社、一九七五年)「寒山落木 巻三 明治二十七年新年」の項に収録。ただし、本作品冒頭に記された虚子の極書(昭和十八年三月十四日付)では、明治二十四～二十五年(一八九一～九二)頃の作とされている。
- (3) 杉浦非水「自伝六十年(二) 中学時代」『広告界』第十二巻第二号、一九三五年二月
- (4) 杉浦非水「自伝六十年(一) 幼少時代」『広告界』第十二巻第一号、一九三五年一月
- (5) 青木朋子「資料紹介」杉浦非水による『明治四十三年日記』について『愛媛県美術館研究紀要』第十九号、二〇二三年。なお本論には、日記の全文が翻刻されている。
- (6) 『生涯一四〇年 杉浦非水 開花するモダンデザイン』展(愛媛県美術館、二〇一七年)に出品。
- (7) 拙稿「野間仁根の文人性について―昭和一〇～二〇年代の動向を中心に」『愛媛県美術館研究紀要』第五号、二〇〇六年
- (8) 拙稿「柳瀬正夢と俳句―画家として、俳人として」『柳瀬正夢一九〇〇―四五』展図録、読売新聞社、美術館連絡協議会、二〇一四年
- (9) 『王土』では創刊当初の大正十一年(一九二二)六月号から昭和二年(一九二七)六月号までの間、断続的に挿絵を担当。同誌では他に、岩本別稿でも取り上げる平福百穂、川端龍子や、前川千帆、森田恒友らが表紙絵や挿絵を担当している。『ホトトギス』については、大正十二年(一九二三)四月号の表紙絵及びカットのみ現在確認されている。
- (10) 烏谷照雄「鶏頭」を舞台に―俳人・柳瀬蓼科の誕生と阿部里雪『子規會誌』一三七号、松山子規会、二〇一三年

十四年（一九二五）に上京。上京後は武蔵野に定住し、版画を始める。昭和一〇年（一九三五）、第四回日本版画協会展に《漁船》が入選。なお同展には、同十七年（一九四二）まで出品を続けた。同十五年（一九四〇）、畦地梅太郎（一九〇二）～九九、旭正秀（一九〇〇～五六）らと新版画会を結成し、同十七年まで展覧会を開催する。同十九年（一九四四）長野県に疎開し、農民美術草木染信濃紬の指導に従事した。同三十二年（一九五七）松山へ帰郷し、愛媛大学講師を務め、市内千舟町に開設した愛媛版画研究所で後進の指導にあたるほか、愛媛県展版画部の設立にも尽力するなど、県内版画振興において重要な役割を果たした。労働者や古代日本の神話などをテーマに、憂いある独特の作風を築いた。

本コレクションに含まれる版画作品二点は、いずれも子規の著名な横顔の肖像写真がモチーフとなっている（no. 12、13／図9）。子規周辺の俳人との直接的な交流は不明だが、同郷の偉大なる芸術の先達への敬意が感じられる。

長谷川竹友 明治十八年（一八八五）～昭和三十七年（一九六二）

温泉郡拝志村（現東温市重信）出身。本名・井上武次郎。十三歳の頃、画家を志し京都へ出て、都路華香（一八七一～一九三二）に師事。明治四十一年（一九〇八）京都の長谷川家の養子となる。翌年、東京へ転居。高浜虚子と親交を深め、長らく『ホトトギス』の挿絵・裏表紙絵を描いた。大正五～七年（一九一六～一八）、インドへ写生旅行に出る。中国へもたびたび赴いた。帰国後は松山や重信を拠点に活動。同十二年（一九二三）、第一回伊予美術展で委員をつとめる。昭和七年（一九三二）、愛媛美術工芸展に出品、以後監査委員もつとめた。同二十一年（一九四六）県代表美術展、第一回愛媛美術展に参加。翌年結成の愛媛美術協会でも委員をつとめる。同二十七年（一九五二）、菅野剛吉（一九一〇～八六）、石井南放（一九一二～九一）らと愛媛美術連盟結成。同年、愛媛県美術会（県展）創立にあたり、名誉会員に推挙された。時期によって多様な作風を展開したが、戦前から戦後にかけての県日本画壇の牽引者として活動した。

画業の早くより、子規周辺の俳人たちとの直接的な交友があったことに加え、県日本画壇の中心的存在でもあったため、ネットワークが豊富なことも手伝ってか、様々な俳人との合作が多数伝存する。県内に拠点を置いていた画家の中では、俳文学との関わりが最も密接濃厚だった人物と言える。本コレクションの二点とも俳人との合作である（no. 44、45／図10）。

八木彩霞 明治十九年（一八八六）～昭和四十四年（一九六九）

松山市出身。本名・熊次郎。明治四十三年（一九一〇）、愛媛師範学校本科一部卒業。大正四年（一九一五）頃、「森永ミルクキャラメル」のパッケージデザインを手がけたとされる。同五年（一九一六）、横浜元街小学校に勤務し、ドイツ人画家リーデルスタインに師事。同九年（一九二〇）、十二年（一九二三）には宮内省より明治天皇肖像画制作の命を受けて奉納。同十四年（一九二五）、横浜元街小学校を退職し、フランスに留学。グランド・シヨミール芸術学校で学ぶ。留学中には、藤田嗣治（一八八六～一九六八）とも交友を深めた。昭和二年（一九二七）帰国し、東京にアトリエを構える。同四十三年（一九六八）、藤田の訃報を受けて、自らも筆を折る。

風景や動物などを主なモチーフとして、独特の濃厚な写実味をみせる油彩画を本領としたが、その一方で、さらりとした味わいの淡彩の日本画も多数のこしている。句・画ともに自筆の俳画作品も好んで描いている（no. 50、51／図11）。漢詩の素養が高く、文芸全般に通じていたことが作画活動に強く反映されたようだが、特に内藤鳴雪とは文芸論を交わして親交を深めたことから、鳴雪との合作も多く伝わる。

おわりに

以上、当館コレクションにおける郷土作家たちと俳文学との関わりについて、一望してみた上での要点をまとめるなら、ほとんどの作家が、もともと高い文学

め再上京した際に吉祥寺に住んでいた極堂と、西落合から三鷹に越してきた柳瀬とはかなり近いこともあってか、同十六年（一九四一）夏から翌年にかけて、柳瀬が極堂の句会に入入りしている様子が、柳瀬の句稿（東京都現代美術館美術図書室蔵）に添えられた日記から分かる。極堂主宰、里雪編集により昭和七年十月から十年間で計一一八冊が出版された同誌は、当初は下村為山が表紙絵を担当していたが、為山の帰郷に伴い、最後の二年分を柳瀬が担当することになった（参考4）。同時に柳瀬は同誌へ自ら投句も続け、その掲載数は三百句にも及び、これは他の同人と比較しても抜きん出た最高数である（10）。昭和十九年（一九四四）二月には、松山へ疎開していた極堂を柳瀬が訪ね、極堂の顔をスケッチしており、当館にはその時の色紙が所蔵される（no. 49／図6）。戦時下の昭和十年代後半は、『雞頭』以外の複数の俳誌・雑誌へもさかんに投句を行い、また国内はもとより、北京、満州、ロシアへ旅行した際にスケッチとともに多くの句を残している。また小林一茶ゆかりの信濃地方をめぐる雑誌の取材旅行に同行し、紀行文の挿絵を描いたり、この時期は画家でなく俳人「柳瀬蓼科」としての活動が目立つ。そして昭和十八年（一九四三）には、柳瀬は自身の句集の刊行のための準備に取りかかり、それまでに書きためた中から七九六句を選び出して三つの句稿（東京都現代美術館美術資料室蔵）にまとめ、十五歳のデビュー作《河と降る光と》を激賞されて以来の恩人である小宮豊隆（夏目漱石門人の文芸評論家）に句集のための序文を依頼した。しかし結局、激化の一途をたどる戦時下において、句集は未刊に終わり、柳瀬もこの世を去った。なおこの句集は、遺族の柳瀬信明氏によって平成十九年（二〇〇七）に『山の絵 柳瀬蓼科句集』（私家版）として刊行された。

（五）その他の作家たち

その他、本コレクションに含まれる郷土作家には、以下のような面々が挙げられる。

井上正夫 明治十四年（一八八二）～昭和二十五年（一九五〇）

浮穴郡大南村（現砥部町）出身。本名・小坂勇一。明治二十九年（一八九六）大阪で新派劇を見て俳優を志す。翌年松山で初舞台を踏み、新派の一座を転々としたのち、同三十七年（一九〇四）上京し、伊井蓉峰の真砂座で頭角を現して幹部俳優となる。同四十三年（一九一〇）、新派を離れ「新時代劇協会」を結成、野外劇、連鎖劇などの新機軸を打ち出す。大正六年（一九一七）、『大尉の娘』で監督・主演、革新的な撮影技法を用い、映像を芸術的な域に高めた。同年に新派に復帰した後は大幹部として、優れた性格描写と重厚な演技で活躍。同十五年（一九二六）には、新感覚派映画連盟制作・川端康成脚本の『狂った一頁』に主演。昭和十一年（一九三六）、新派の大衆性と新劇の芸術性を併せ持つ「中間演劇」を提唱して井上演劇道場を創設、商業演劇の向上と後進の育成に努めた。同二十四年（一九四九）、新派劇俳優として初めて日本芸術院会員となる。演劇の大衆化に尽力するとともに、「活動写真」を「映画」という位置にまで高めた功労者として評価された。

井上は、余技として書画を嗜み、岡田三郎助（一八六九～一九三九）の本郷洋画研究所でも学んでいるが、とりわけ富岡鉄斎（一八三七～一九二四）に私淑したことはよく知られ、実際に鉄斎門人の安藤耕斎（一八六二～一九三九）にも師事した。ゆえに、その絵には文人風の独特の洒脱な味わいがある。当館所蔵の井上作品九十九点のうち十一点は俳句が添えられた俳画形式（no. 1～11／図7、8）で、その他にも多くの作品に漢文が書き込まれていたりと、一貫して詩書画一致の境地が示される。また、岩本別稿で取り上げている竹内栖鳳（一八六四～一九四二）の俳画《薄図》（no. 55）は井上旧蔵品であり、俳句・俳画に対する日常的な親しさと素養の高さがうかがえる。

大宮昇 明治三十四年（一九〇二）～昭和四十八年（一九七三）

松山市出身。北予中学校卒業後、朝鮮、馬山で鉄道会社の仕事に従事し、大正

一九六四)に師事し、大正・昭和期における県内俳壇の中心的存在で、その滋味豊かな枯淡の作風により、俳句だけでなく自ら作画も行った。終戦後も二人はしばらく地元に留まり、有志を募って「泊句会」を結成。実際には酒宴が主な目的だったらしいが、それも含めてまさに文人的な風雅の集いだったようだ。さらにここでは句作だけでなく、野間を中心にして写生会もしばしば行っていたという。この句会で生み出された多くの俳句や俳画が、交友のあった人々の手元に現存する(参考2)。ここに見られる飄々とした気分は、「野間仁根」華麗な色彩の油彩画家」というイメージを覆すが、油彩画と全く断絶したものではなく、自然に向けられた親和的なまなざしや心温まるユーモアセンスは、油彩画・俳画の双方に通底するものである。野間の日本画制作は、疎開以前、熊谷守一との積極的な交流があった時期から、すでに手がけていたと見られるが、この句会での集中的な制作、さらに壺天子との交流は、野間の本質的な文人性を顕在化させる最大要因であったと考えられる。そして戦後の野間の画風は、細かいところに拘泥しない、力みのなさが大きな魅力と言え、扱う主題も、戦前の、様々な要素をまさに「こった煮」したような構想的なものから、モチーフが整理された明快なものへ向かうことになる。当館所蔵の野間の日本画は《葡萄と栗鼠》(no.43/図5)一点のみであるが、本作にも一連の俳画と共通する野間らしい文人性が良く表れている。

(四) 柳瀬正夢 明治三十三年(一九〇〇)～昭和二〇年(一九四五)

松山市出身。本名・正六(まさむ)。福岡県門司市(現北九州市)で少年期を過ごし、十五歳で《河と降る光と》(武蔵野美術大学美術館・図書館蔵)が第二回再興院展に入選、十代の頃から門司で個展を開催して支援者を得つつ、さらに北九州の美術運動にも加わるなど、若い時期から目覚ましく活動した。二〇歳頃から活動の拠点を東京に移すと、読売新聞社に入社し、ジャーナリズムの仕事を手がけたほか、大正期新興美術運動やプロレタリア美術運動に加わり、漫画やグラ

フィックデザインなどにも活躍の場を広げた。昭和七年(一九三二)治安維持法違反容疑で逮捕されたが、翌年保釈後は再び油絵を描いた。以後は全国各地や中国大陸を訪れ、その風景や人物をモチーフにした作品を次々に制作するも、同二〇年(一九四五)五月に新宿駅で空襲に遭い四十五歳で死去した。大正期から昭和戦前・戦中期にかけて、油彩画、グラフィックデザイン、諷刺画、漫画、写真、絵本、そして今回述べる俳句など多方面にわたって先駆的な活動を展開した。

柳瀬は、絵筆が取れなくなった第二次大戦下において、柳原極堂ら子規門下・周辺の俳人たちと交流を深め、絵画に代わる表現手段として俳句に没頭した(8)。すでに十代の頃から詩や短歌といった文芸的素養を発揮していた柳瀬だが、俳句との最初の関わりは、一九二〇年代に始まる出版ジャーナリズムでの仕事においてであったと推測される。表紙絵・挿絵・カットを担当した多くの雑誌の中に、『土上』『ホトトギス』といった子規系俳人たちが携わった俳誌が含まれている(9)。ただし当時の柳瀬にとって俳誌は、一連の装丁や挿絵の仕事のうちのの一つに見受けられ、表現的には、同時期に描かれた油彩画同様、未来派の影響を受けた流動的でダイナミックな描線が主体である。

その後、柳瀬と俳句との関係は、同郷の俳人たちとの親交を重ねることで、さらに深化していった。柳瀬に直接俳句の手ほどきをし、柳瀬が愛した信州の山にちなみ「蓼科」という俳号を与えるなど、最も親交を深めたのが越智郡伯方町(現今治市)出身の阿部里雪(一八九三～一九七三)であった。現在、当館で寄託を受けている里雪旧蔵資料には、多くの俳人たちの書画等に交じって、柳瀬の作品が多く含まれている。いずれも水彩の小品を中心とした即興的な作風のものだが、里雪の家族の似顔絵や、極堂の肖像画(参考3)、里雪と親交のあった俳人たちの書画とともに柳瀬の絵が貼り交ぜられた屏風など、両者の親密さが強くうかがえる。里雪の師であり、柳瀬もまた師事した柳原極堂は、土居別稿でも触れるが、同い年の子規と行動を共にし、子規没後はその顕彰に尽力した、言うまでもなく松山を代表する俳人の一人である。昭和七年(一九三二)に俳誌『雞頭』発刊のた

碧師も同じ感じであつたらしい。碧梧桐の句を一つとつて俳画にしたので殊さら碧調の句と不折の画か不調和なことは云ふまでもない。丁度ナポレオン一世が利休の十徳でも借着したやうだらうと思ふ、碧師も云ふ如く不折は日本新聞時代の方が寧ろ俳味が横溢して居るやうに思ふ。なまなか雪舟の粉本などに沈溺して雪舟宗を天下に呼ふなどは不折の墮落である。

(五月十七日付)

往復の電車の中で一日一信と日本俳句を積讀する普通の句集やほと、きすなどの句を見ると自分にも出来さうな句斗りのやうな感じがするが此日本人の俳句欄讀む時はいつも及ばざる遠き感じである自然讀む事に解する事に骨を折る事になるしかし以前に讀んだ時よりも解して面白味を感じる事が深くなった自分もそれ丈の進境であらうと思ふ

(五月十八日付)

五月十五日の日記には、十二の自作句が記されており、前後の日記の内容から判断するに、少なくともこの時期の非水にとっては、句作が日常的な行為であつたことがうかがえる。

非水の創作活動の基盤に、自然を真摯に凝視する「写生」精神があることは従来から広く指摘されるとおりで、それは本人の口からも再三述べられている。幼少から身近な動植物の写生を好み、やがて円山四条派の画家に師事した非水にとって、「写生」は慣れ親しんだものであつたことは疑いないが、そこにさらに子規の「写生」理論の影響を考へてみることも今後の課題とすべきかも知れない。例えば、図案家としての前線を退いた昭和十年代以降に専ら描いた日本画作品(no.30～39/図3、4)は、瀟洒な筆致や淡彩の手法などに俳句・俳画的な気分を

感じさせる。なお、これらと同様の作風による非水の画と下村為山の句による合作(個人蔵、参考1)も一点確認されており(6)、子規周辺の作家たちとの接点を探る必要もあろう。当館が所蔵する非水旧蔵資料は膨大な量ゆえ、整理や分析が完了していないこともあり、俳句に関する重要な資料が埋もれている可能性も大いにある。今後の新資料発見に期待したい。

(三) 野間仁根 明治三十四年(一九〇一)～昭和五十四年(一九七九)

越智郡津倉村(現今治市吉海町)出身。画家を志して上京し、川端画学校を経て、大正九年(一九二〇)東京美術学校西洋画科に入學。同十一年(一九二二)二科展に初入選。昭和三年(一九二八)の第十五回二科展で《夜の床》(当館蔵)が樗牛賞を、翌年の第一六回展で《ぜ・ふうるむうん》(当館蔵)が二科賞を受賞。同五年会友、同八年会員となる。戦時中は郷里へ疎開したが、終戦後すぐに二科再建に奔走。昭和二十七年(一九五二)日展改組に審査員として参加。同三〇年(一九五五)二科会を退会して、鈴木信太郎(一九五〇～一九八九)らと一陽会を結成。個展も多数開催した。戦前はフォーヴィスムやシュルレアリスムの影響が濃厚な幻想的を展開し、戦後は曇りのない明朗で奔放な作風へ移行したが、生涯一貫して自由で屈託ない世界観を追求した。

野間独自の明朗闊達な作風が成立、展開した背景には、自身が備える「文人性」が大きく影響していると推測される(7)。昭和戦前期の二科会時代においては、当時の洋画壇で好まれた南画的表現への共感があると見てよく、特に熊谷守一(一八八〇～一九七七)への敬慕と直接の交流が大きな影響を与えたようだ。それに加えて、戦時中に郷里へ疎開した際に、親交を深めた同郷の俳人、村上壺天子(一八八七～一九八四)の影響により俳句・俳画を熱心にたしなんだことが、戦後のより大らかな独自の表現を生み出す直接の要因になったのではないかと考えられる。壺天子は、子規・漱石に学び『洪柿』を主宰した松根東洋城(一八七八～

夢も同年六月の会に初参加している⁽¹⁾。ちなみに柳瀬は、本作が出品された先述の作品展のポスター（武蔵野美術大学美術館・図書館蔵）のデザインを手掛けている。

《為山俳画帳》（no.23／図2）は、為山筆の絵画作品として登録されているが、正しくは子規及び直系の俳人たちとの寄合書と呼ぶべきものである。子規は「元日もたゞたふとさの泪哉」⁽²⁾の句を寄せ、その他に高浜虚子（一八七四～一九五九）、内藤鳴雪、藤野古白（一八七一～九五）らが句を連ねる。為山が画と句をともに表した帖もあれば、他の俳人たちとの寄合書きもあり、全体を通して軽妙かつ瀟洒な俳味が横溢した、まさに与謝蕪村以降の俳画の正統に連なるような作品と言える。

（二）杉浦非水 明治九年（一八七六）～昭和四〇年（一九六五）

松山市出身。本名・朝武（つとむ）。十六歳で地元四条派絵師、松浦巖暉（？～一九一二）に入門。明治三〇年（一八九七）、日本画家を志して上京し川端玉章（一八四二～一九一三）に師事、東京美術学校日本画専科へ入学した。同時に同校教授であった黒田清輝（一八六六～一九二四）の薫陶を受け、黒田が一九〇〇年パリ万博視察時に持ち帰ったアール・ヌーヴォーなどの装飾資料に感化され、図案家を志すようになる。明治四十一年（一九〇八）より三越の嘱託となり、同四十三年（一九一〇）には同店図案部主任となる（昭和九年まで在籍）。同四五年（一九一二）中澤弘光（一八七四～一九六四）らと光風会を創立。大正十三年（一九二二）渡欧、同十五年に帰国後は日本初の図案研究団体「七人社」を結成。昭和四年（一九二九）帝國美術学校（現武蔵野美術大学）教授工芸科図案科長に就任。同十年（一九三五）には多摩帝國美術学校（現多摩美術大学）創設に携わり、初代校長および図案科主任教授を兼任した。日本のモダンデザイン、グラフィックデザインのパイオニアとして高く評価される。

非水自筆の基本資料である「自伝六十年」には、自身と俳句（子規）との関わりについて語られる箇所がいくつかある。

私達年齢の人は皆さうであるが、幼少の時から漢学をうんと云ふ程叩き込まれた為に、下手乍らも漢詩に熱中した時代でもあった。後年俳句に夢中になったのは、同郷から出た正岡子規一派の感化によることであるが、其時分短歌は旧派の和歌時代であり、新体詩などもまだ産まれなかつた時であるから、漢学の教養に立脚して漢詩を作るのは自然の成行であつたらう。⁽³⁾

また、三越入店以前の二十歳代の終わりの一年半ほど、島根の中学校で図画教員として勤務していた時期について、「廿九才濱田の中学校時代、厨川千江氏等と子規派の俳句に熱中してゐた時代に、私は翡翠郎という俳号を持つてゐた」⁽⁴⁾と述懐する。そして、この時に用いていた俳号「翡翠郎」が、のちの雅号となる「非水」の由来となったのだという。

非水が俳句に夢中になった「後年」というのが具体的にいつを指しているのかは判断しかねるが（あるいは島根時代を指すのかも知れないが）、一例としては、三越入店後の明治四十五年（一九一三）五月に記された日記（当館蔵）からは、通勤の電車内で句作を思案したり、『日本及日本人』『ホトトギス』の俳句欄に目を通したりしていた様子がうかがえる⁽⁵⁾。

衾に入ッて日本及日本人の一日一信を讀む碧氏の不折俳画評か中々痛快である

先達神田の古本屋で不折俳画を見たから買うかと思つて開けて見ると

案外陳腐で所謂の俳画である目に馴れた平凡な飄々た趣

味のものが不折式筆法でなぐつてあるに外ならんで少しも新らしい

感じの現代的な俳画でないので失望して買うのをやめたが

(一) 絵画等(郷土作家)

長 井 健

はじめに

まず本稿では、当館の「俳文学と美術」コレクションから、特に美術史上及び当館コレクションにおいても重要と考える四名を中心に、郷土作家による絵画等の作品及び各作家と俳文学との関わりについて述べることにしたい。なお、俳文学と直結する所蔵作品がない作家も居るが、本人の活動履歴や当館所蔵品以外の作例から、明らかに俳文学との関わり＝自身の創作活動への少なからぬ影響が指摘できることから、その影響関係を検討するために必要と考えられる所蔵作品も、本コレクションに含めて取り上げることとする。なお、正岡子規《梅花》(no.48)については、本論序文ですでに言及した通りなので、本稿では触れない。

(一) 下村為山 慶応元年(一八六五)～昭和二十四年(一九四九)

松山市出身。本名・純孝。明治十五年(一八八二)上京し、本多錦吉郎(一八五一～一九二二)の画塾「彰技堂」に入り洋画を学ぶ。同二〇年(一八八七)には小山正太郎(一八五七～一九一六)の画塾「不同舎」に転じ、中村不折(一八六六～一九四三)とは双壁と称された。同二十二年(一八八九)第一回明治美術会展に出品、翌年第三回内国勸業博覧会にも出品し、褒状を受ける。同二十四年(一八九一)に従兄である内藤鳴雪(一八四七～一九二六)を介して正岡子規と出会う。「日本画崇拜者で西洋画排斥者であった」という子規に対し、不折とともに

「邦画洋画優劣論」を闘わせることによって、「写生」によって対象を捉え、客観的に表現する方法を子規に伝えた。子規との交友により、以降は日本画に転向、さらに俳句も学ぶようになり「牛伴」と号した。同二十七年(一九〇四)、『小日本』俳句欄の挿絵を子規から依頼されるが辞退、その任は不折に委ねられた。同三〇年(一九〇七)、松山で俳誌『ほと、ぎす』が柳原極堂によって発刊されるにあたり題字、挿絵を担当。翌年、子規による東京版『ほと、ぎす』(のち同三十四年に『ホトトギス』と改名)発刊に際しても、不折や浅井忠(一八五六～一九〇七)らとともに挿絵を描く。画俳両道に通じ、「俳味画」ともいべき作品を専ら手掛けて、大正期には俳画の大家として活動した。

当館所蔵の為山作品(no.15～29)は、その全てが日本画で、洋画は含まれない。いずれも巧みな水墨(時に淡彩を伴う)表現を駆使した洒脱な作風が一貫している。このうち最も大きな作品が、晩期(七十二歳)の《月下宿鳥図》(no.19/図1)で、東京在住の愛媛県人により結成されたサロンの集まりである「一茎会」が昭和十一年(一九三六)七月に開催した同人作品展の出品作と伝わる。同会は、勝田主計(一八六九～一九四八/子規友人、大蔵・文部大臣)、水野広徳(一八七五～一九四五/元海軍大佐、反戦論者)、高橋龍太郎(一八七五～一九六七/通産大臣、ビール王)といった政財界人を中心に、為山のほか柳原極堂(一八六七～一九七五)、河東碧梧桐(一八七三～一九三七)、五百木瓢亭(一八七一～一九七三)といった子規直系の俳人たちが揃って参加しており、後述する柳瀬正

106	正岡子規	長塚節宛書簡(明治34年12月22日付)	明治34年(1901)	紙本墨書／軸	(本文)23.0×12.6 (封筒)18.8×14.9	
107	正岡子規	年賀名刺		紙本淡彩／軸	35.6×24.1	
108	正岡子規	俳句 雪解けや町を走らす裸馬		紙本墨書／軸	36.0×5.4	
109	正岡子規	俳句分類 初稿本「五月雨」		紙本墨書／軸	23.8×31.9	
110	正岡子規	柱掛	明治28年(1895)	墨／木	(各)174.5×9.7	
111	正岡子規	藤野古白傳断簡		紙本墨書／軸	21.0×34.7	
112	正岡子規	ふみから募集歌の通知		紙本墨書／軸	17.9×16.2	
113	正岡子規	河東碧梧桐宛書簡(明治25年1月12日付)	明治25年(1892)	紙本墨書／卷子	(本文)15.9×316.5 (封筒)20.6×16.0	
114	正岡子規	河東碧梧桐宛書簡(明治25年1月13日付)	明治25年(1892)	紙本墨書／卷子	(本文)15.7×162.5 (封筒)18.4×14.1	
115	正岡子規	河東碧梧桐宛書簡(明治25年9月5日付)	明治25年(1892)	紙本墨書／卷子	(本文)16.2×148.5 (封筒)17.6×13.6	
116	正岡子規	河東碧梧桐宛書簡(明治26年1月31日付)	明治26年(1893)	紙本墨書／卷子	(本文)16.8×198.3 (封筒)17.7×13.7	
117	正岡子規	陸羯南宛 明治二十四年十月廿一日付書翰	明治24年(1891)	紙本墨書／卷子	18.0×147.5	坪内コレクション
118	正岡子規	俳句 留守狐おともきつね送りけり		紙本墨書／短冊 (額)	36.7×5.7	坪内コレクション
119	正岡子規、河東碧梧桐	子規・碧梧桐句		紙本墨書／軸	24.2×18.0	
120	松根東洋城 明治11年(1878) - 昭和39年(1964)	俳句 人々の顔人々の句夜長かな		紙本墨書／軸	132.5×32.5	
121	松本春子 明治33年(1900) - 平成元年(1989)	上島鬼貫句 うちはれて障子も白しはつ 日かげ	昭和54年(1979)	紙本墨書／額	26.5×23.6	
122	宮本竹逕 明治45年(1912) - 平成14年(2002)	与謝蕪村句 朝日さす弓師が店や福寿草	昭和54年(1979)	紙本墨書／額	12.9×14.3	
123	物外不遷 寛政6年(1794) - 慶応3年(1867)	鬼白画賛	元治元年(1864) - 慶応元年(1865)	紙本墨画墨書／軸	116.5×25.0	
124	物外不遷	五字一行書		紙本墨書／軸	137.7×29.7	
125	物外不遷	十字二行書		紙本墨書／軸	135.3×48.2	
126	物外不遷	書簡		紙本墨書／軸	31.0×70.5	
127	物外不遷	人物画賛		紙本墨画墨書／軸	94.0×29.5	
128	物外不遷	月画賛		紙本墨画墨書／軸	91.0×29.5	
129	物外不遷	俳句一行書		紙本墨書／軸	130.6×30.4	
130	物外不遷	鉢叩き画賛		絹本墨画墨書／軸	98.0×27.7	
131	物外不遷	富士画賛		紙本墨画墨書／軸	30.0×58.7	
132	物外不遷	柳画賛		紙本墨画墨書／軸	91.4×25.4	
133	物外不遷	俳句 短冊		紙本墨書／短冊 (軸双幅)	(各)36.0×6.0	
134	物外不遷	擬宝珠自画賛		紙本墨書／軸	106.5×29.5	
135	柳原極堂 慶応3年(1867) - 昭和32年(1957)	書簡		紙本墨書／額	19.2×91.8	
136	柳原極堂	俳句 春風やふね伊予に寄って道後の湯		紙本墨書／軸	130.0×32.0	
137	柳原極堂	執正勿畏	昭和29年(1954)	紙本墨書／額	34.0×117.0	

※備考欄に「坪内コレクション」とある作品は、来島どつく、日刊新愛媛などの経営で知られ「再建王」とも称された実業家・坪内寿夫（1914 - 99／松前町出身）の旧蔵品で、平成22年（2010）度に遺族より寄贈された。

69	河東碧梧桐	俳句 温泉めぐりして戻りし部屋の桃の 活けてある		紙本墨書／軸	134.5×32.0	
70	河東碧梧桐	俳句 交ミ蜻蛉濱の砂原そらを飛んで		紙本墨書／軸	133.6×32.5	
71	河東碧梧桐	俳句 芒なす穂に萩の花なきゆれつゐる 他		紙本墨書／ 六曲屏風一隻	(各)134.5×32.0	
72	河東碧梧桐	我心終不移		絹本墨書／額	34.0×137.5	
73	河東碧梧桐	山口忍非郎宛書簡(11月3日付)		インク・紙／軸	134.5×32.0	
74	五百木瓢亭 明治3年(1870) - 昭和12年(1937)	俳句 せせらきや山吹もある道すから		紙本墨書／軸	133.5×33.0	
75	小山素洞 大正5年(1916) - 平成23年(2011)	小林一茶句 我が春も上々吉ぞ梅の花	昭和54年(1979)	紙本墨書／額	26.5×23.7	
76	杉岡華邨 大正12年(1913) - 平成24年(2012)	水原秋櫻子句 甘酒のわくたのしさもは るの雪	昭和54年(1979)	紙本墨書／額	26.4×23.6	
77	高浜虚子 明治7年(1874) - 昭和34年(1959)	「伊予の湯」原稿		紙本墨書／冊子 (2冊)	(各)27.2×19.7	
78	中島曙象 大正14年(1925) - 平成16年(2004)	正岡子規句 新年や鶯鳴いてほと、ぎす	昭和54年(1979)	紙本墨書／額	26.5×23.6	
79	中野蘭嶸 明治41年(1908) - 平成13年(2001)	壽	昭和54年(1979)	紙本墨書／額	26.6×23.6	
80	中平南谿 明治36年(1903) - 平成13年(2001)	春水満四澤	昭和54年(1979)	紙本墨書／額	26.6×23.6	
81	中村素堂 明治34年(1901) - 昭和57年(1982)	会心處	昭和54年(1979)	紙本墨書／額	26.3×23.2	
82	中村龍石 大正2年(1913) - 平成11年(1999)	俳句 しつかさや…	昭和54年(1979)	紙本墨書／額	26.5×23.8	
83	夏目漱石 慶応3年(1867) - 大正5年(1916)	俳句 蔵澤の竹を得てより露の庵		紙本墨書／軸	36.0×6.0	
84	夏目漱石	俳句 露けさの中を戻るや小提灯		紙本墨書／短冊 (軸)	36.0×6.0	
85	夏目漱石	本多嘯月宛書簡(明治42年7月6日付)	明治42年(1909)	紙本墨書／軸	17.5×72.5	
86	夏目漱石	森次太郎宛書簡(大正2年6月2日付)	大正2年(1913)	紙本墨書／卷子	(本文)18.3×105.8 (封筒)19.5×16.0	
87	平田華邑 大正3年(1914) - 平成3年(1991)	俳句 朝夕の…	昭和54年(1979)	紙本墨書／額	26.5×23.7	
88	堀桂琴 明治40年(1907) - 平成14年(2002)	日野草城句 春暁や人こそしらね樹々の 雨	昭和54年(1979)	紙本墨書／額	22.0×29.7	
89	正岡子規 慶応3年(1867) - 明治35年(1902)	浅沼武文宛書簡(明治33年9月6日付)	明治33年(1900)	紙本墨書／軸	(各)14.1×9.2	
90	正岡子規	上中川大王乞殉国録		インク・紙／卷子	(各)23.5×30.7	
91	正岡子規	大原恒徳宛書簡(明治25年10月20日付)	明治25年(1892)	紙本墨書／卷子	16.0×153.0	
92	正岡子規	折井愚哉宛書簡(明治31年)	明治31年(1898)	紙本墨書／軸	(本文)24.6×33.4 (封筒)20.5×14.6	
93	正岡子規	課題句	明治31年(1898)	紙本墨書／軸	(本文)24.7×33.5 (封筒)20.7×14.5	
94	正岡子規	河東碧梧桐宛書簡(明治25年10月17日付)	明治25年(1892)	紙本墨書／卷子	(本文)16.1×177.0 (封筒)18.4×14.0	
95	正岡子規	河東碧梧桐宛書簡(明治25年5月28日付)	明治25年(1892)	紙本墨書／卷子	(本文)23.8×90.0 (封筒)18.5×14.4	
96	正岡子規	河東碧梧桐宛書簡(明治29年12月11日付)	明治29年(1896)	紙本墨書／軸	(本文)17.1×22.6 (封筒)19.6×14.9	
97	正岡子規	河東碧梧桐宛書簡(明治30年)	明治30年(1897)	紙本墨書／軸	17.7×21.8	
98	正岡子規	喫茶去		紙本墨書／額	32.0×75.5	
99	正岡子規	子規選句稿 三枚		紙本墨書／軸	(各)24.4×33.8	
100	正岡子規	承露盤(部分)		紙本墨書／軸	23.7×32.5	
101	正岡子規	白猪唐岬二瀑 歌と句		紙本墨書／軸	28.2×44.8	
102	正岡子規	銓・碧梧桐・虚子宛書簡(明治25年1月13 日付)	明治25年(1892)	紙本墨書／卷子	(本文)15.5×168.0 (封筒)15.0×15.0	
103	正岡子規	選句稿		紙本墨書(2枚)／ 軸	(各)23.9×32.5	
104	正岡子規	短歌稿		紙本墨書／軸	23.8×33.3	
105	正岡子規	中川四明宛書簡(明治32年12月16日付)	明治32年(1899)	紙本墨書／卷子	(本文)17.7×116.0 (封筒)18.9×14.0	

40	桜井忠温(画) 明治12年(1879) - 昭和40年(1965) 内藤鳴雪(句) 弘化4年(1847) - 昭和元年(1926)	初秋の折節須磨のほりかな		紙本着色／軸	65.5×31.5	坪内コレクション
41	仙波嘉雄 大正10年(1921) - 平成5年(1993)	俳聖子規		油彩・画布		
42	土井要輔 明治29年(1896) - 昭和42年(1967)	子規座像		木	60.0×40.0×45.0	
43	野間仁根 明治34年(1901) - 昭和54年(1979)	葡萄と栗鼠		紙本着色／軸	34.3×55.0	
44	長谷川竹友(画) 明治18年(1885) - 昭和37年(1962) 内藤鳴雪(句)	願ふこと人のしあはせ日向ぼこ		紙本着色／軸	131.2×33.0	坪内コレクション
45	長谷川竹友(画) 酒井黙禪(句) 明治16年(1883) - 昭和47年(1972)	松山を中心にして秋終		紙本着色／軸	133.5×32.7	坪内コレクション
46	前田伍健 明治22年(1889) - 昭和35年(1960)	そま桜すめら御國のわれも民		紙本着色／軸	134.5×32.4	坪内コレクション
47	前田伍健(画) 柳原極堂(句) 慶応3年(1867) - 昭和32年(1957)	己が影愚なりとおもふ冬ごもり	昭和30年(1955)	紙本着色／軸	66.5×17.4	坪内コレクション
48	正岡子規 慶応3年(1867) - 明治35年(1902)	梅花		紙本水彩／軸	26.3×34.9	
49	柳瀬正夢 明治33年(1900) - 昭和20年(1945)	〔似顔絵 柳原極堂〕	昭和19年(1944)	墨、水彩・紙／色紙	27.0×24.1	
50	八木彩霞(画) 明治19年(1886) - 昭和44年(1969) 三好湧川(句) 明治21年(1888) - 没年不詳	七夕や農道に仰ぐ天の川		紙本着色／軸	43.8×31.7	坪内コレクション
51	八木彩霞	蚊遣図		紙本着色／軸	49.0×34.0	坪内コレクション

(2) 絵画等 (県外作家)

No.	作家名 (生没年)	作品名	制作年	材質技法	寸法	備考
52	池田遙邨 明治28年(1895) - 昭和63年(1988)	蚊帳の中までまん丸い月昇る山頭火	昭和63年(1988)	紙本着色／額	62.5×90.6	
53	池田遙邨	まっすぐな道でさみしい山頭火	昭和63年(1988)	紙本着色／額	90.2×64.5	
54	川端龍子 明治18年(1885) - 昭和41年(1966)	荒海	昭和28年(1953)	絹本着色／額	131.0×72.0	
55	竹内栖鳳 弘化3年(1846) - 昭和17年(1942)	薄図		紙本墨画／軸	47.1×18.2	
56	平福百穂 明治10年(1877) - 昭和8年(1933)	蔭の臺・かけ稲	大正13年(1924)	絹本着色／軸双幅	(各)148.5×50.0	

(3) 書跡

No.	作家名 (生没年)	作品名	制作年	材質技法	寸法	備考
57	飯島春敬 明治39年(1906) - 平成8年(1996)	松尾芭蕉句 さまごまのことおもひ出すさくらかな	昭和54年(1979)	紙本墨書／額	26.5×23.7	
58	池内岬舟 大正3年(1914) - 平成5年(1993)	松尾芭蕉句 春もややけしきととのふ月と梅	昭和54年(1979)	紙本墨書／額	26.5×23.5	
59	今関脩竹 明治42年(1909) - 平成元年(1989)	老鼠堂永機句 一月も三日過ぎけり樹にからず	昭和54年(1979)	紙本墨書／額	23.7×26.6	
60	浮乗水郷 明治39年(1907) - 昭和59年(1984)	俳句 しまの松初日さやかに立ちならぶ	昭和54年(1979)	紙本墨書／額	26.5×23.6	
61	大平山濤 大正5年(1916) - 平成19年(2007)	俳句 奈良の古佛は静かにものを言う	昭和54年(1979)	紙本墨書／軸	23.6×26.5	
62	小沢神魚 平成元年(1989) - 平成6年(1994)	正岡子規句 初日さす硯の海に波もなし	昭和54年(1979)	紙本墨書／額	26.5×23.6	
63	金子鵬亭 明治39年(1906) - 平成13年(2001)	松本たかし句 水仙や古鏡の如く花をかかぐ	昭和54年(1979)	紙本墨書／額	26.5×23.7	
64	河東碧梧桐 明治6年(1873) - 昭和12年(1937)	俳句 此船乗らな酒つまさかるかもめらが	昭和時代初期	紙本墨書／軸	139.5×34.0	
65	河東碧梧桐	四字句 衣香衫影		紙本 墨／額	31.0×132.0	
66	河東碧梧桐	趣在有無之間	大正14年(1925)	紙本墨書／額	34.0×124.0	
67	河東碧梧桐	忍非郎居		木・陰刻／木額	136.5×42.0	
68	河東碧梧桐	俳句 絵馬を見て一明りする宿いそぐ皆と出てゆく・		紙本墨書／軸	134.5×32.0	

愛媛県美術館「俳文学と美術」コレクション 目録

(1) 絵画等(郷土作家)

No.	作家名(生没年)	作品名	制作年 ※空欄は不詳	材質技法・ 支持体等	寸法 (縦×横/cm)	備考
1	井上正夫 明治14年(1881) - 昭和25年(1950)	雷神図		紙本淡彩・軸	24.5×44.8	
2	井上正夫	菊図	昭和15年(1940)	紙本淡彩・額	24.7×45.0	
3	井上正夫	鳴子図	昭和15年(1940)	紙本淡彩・額	24.2×33.5	
4	井上正夫	鳴子図	昭和15年(1940)	紙本淡彩・額	24.2×33.5	
5	井上正夫	ひょっとこ面・どんたく面図		紙本淡彩・額	24.0×33.6	
6	井上正夫	ひょっとこ面・どんたく面図	昭和15年(1940)	紙本淡彩・額	24.8×39.6	
7	井上正夫	案山子図		紙本淡彩・額	29.7×75.7	
8	井上正夫	富士山図		紙本墨画・軸	44.8×49.8	
9	井上正夫	富士山図		紙本墨画・軸	43.0×48.9	
10	井上正夫	西瓜畑図	昭和16年(1941)	紙本淡彩・軸	29.5×40.5	
11	井上正夫	親子図(日のもとは…)		紙本淡彩・額	34.0×42.5	
12	大宮昇 明治34年(1901) - 昭和48年(1973)	子規像	昭和32年(1957)	メゾチント・紙	23.7×18.1	
13	大宮昇	子規のふるさと		エッチング・紙	7.0×8.8	
14	栗田樗堂 寛延2年(1749) - 文化11年(1814)	松尾芭蕉像		木版・紙	40.0×26.0	坪内コレクション
15	下村為山 慶応元年(1865) - 昭和24年(1949)	華王		紙本着色／軸	45.5×60.3	
16	下村為山	柿に雀		紙本淡彩／軸	40.5×48.5	
17	下村為山	柿に雀之図		紙本着色／軸	133.4×37.7	坪内コレクション
18	下村為山	河畔図		紙本着色／軸	137.5×35.7	
19	下村為山	枯芭蕉に水仙		紙本淡彩／軸	148.5×40.2	
20	下村為山	月下宿鳥図	昭和11年(1936)	紙本墨画淡彩／軸	69.5×91.0	
21	下村為山	桜に雀		紙本淡彩／軸	128.5×24.5	
22	下村為山	山水之図	昭和初年頃	絹本着色／軸	107.5×43.1	
23	下村為山	為山俳画帳	明治24-25年 (1891-92)頃	紙本墨画／画帖	31.2×45.0(画帖)	
24	下村為山	夏蜜柑図		紙本着色／軸	20.5×20.5	坪内コレクション
25	下村為山	風竹雀		紙本淡彩／軸	135.8×39.5	
26	下村為山	孟冬・墨竹に枇杷の花		紙本墨画淡彩／軸	143.1×45.7	
27	下村為山(画) 野間叟柳(句) 元治元年(1864) - 昭和7年(1932)	雪あきて梅の山野となりにけり		紙本着色／軸	20.3×30.1	坪内コレクション
28	下村為山	柳蔭遊魚図		紙本墨画淡彩／軸	136.5×33.0	
29	下村為山	寒雀		紙本淡彩／軸	132.2×32.7	
30	杉浦非水 明治9年(1876) - 昭和40年(1965)	〔つぐみ〕		紙本着色／額	47.0×48.6	
31	杉浦非水	〔ふくろう〕		紙本着色／額	49.0×60.8	
32	杉浦非水	〔梅に月〕		紙本着色／額	47.5×51.5	
33	杉浦非水	〔梁〕		紙本着色／額	42.0×52.8	
34	杉浦非水	浅間山ときつつき	昭和19-24年 (1944-49)	絹本着色／額	43.5×51.0	
35	杉浦非水	雨	昭和40年(1965)	絹本着色／額	43.0×51.0	
36	杉浦非水	岩つばめ		紙本着色／額	130.0×32.0	
37	杉浦非水	猫		紙本淡彩／色紙(額)	27.2×24.1	
38	杉浦非水	岑嶺豪雪		絹本着色／額	51.0×49.5	
39	杉浦非水	山百合となでしこ	大正6年(1917)頃	紺色留袖(着物)に 着色	151.5×118.0	

(一六四四～九四)の「軽み」の風により完成した俳諧もその例に漏れず、やがて絵画との融合により「俳画」が生まれ、優れた画人でもあった与謝蕪村(一七一六～八三)によって完成に至る。そして近代俳句の大成者である子規が、文学と美術を行き来しながら、西洋的写生を融合させたことで、俳文学と美術との結びつきは、新たな広がりや深まりを形成していったと言えよう。

本特集は、俳文学と美術との関係性・親和性や、互いに交差することで生み出される豊かな表現世界に目を向けることはもとより、両者を横断し俯瞰する広い視野を持つことによって、各作家たちの特徴や思考などについて、今後より深く考察していくための基礎情報とするものである。

本コレクションを目録化したものが、次々頁以降の表である。その上で、「(一) 絵画等(郷土作家)」「(二) 絵画等(県外作家)」「(三) 書跡」の三稿に分けて、それぞれの内容を論じるとともに、主要な作家及び作品について解説紹介したい。

(長井)

註

(1) 正岡子規と写生については、以下を参照。

『子規と写生』展図録、愛媛県美術館、一九九九年

『正岡子規と美術』展図録、横須賀美術館、二〇二二年



図1 正岡子規《梅花》
明治33年(1900)

特集 愛媛県美術館「俳文学と美術」コレクション

長 井 健
岩 本 成 美
土 居 聡 朋

愛媛県美術館では、郷土作家を中心に、現在国内外のさまざまな作家の作品約一万二千点を収蔵しているが、愛媛固有の視点でコレクションの特徴を考えてみた時、「俳文学と美術」というキーワードを挙げる事ができる。そしてそれは、日本の近代史上に重要な足跡を残した、本県松山市出身の文学者・正岡子規（一八六七～一九〇二）の存在を抜きにしては語れない。作家としてのみならず、俳句や短歌の革新を主導した理論家としても活躍した子規。その理論の核心は、「写生」の重要性を説いたものとして知られる。すなわち表現活動においては、その対象をよく観察し、それによって感ずる心の度合いに従うことが肝要であり、その結果、対象のもつ豊かな美しさを捉えることが出来ると考えたのである。子規のこの「写生」に対する考え方は、同時代を生きた浅井忠（一八五六～一九〇七）や中村不折（一八六六～一九四三）、本論でも取り上げる下村為山（一八六五～一九四九）といった洋画家たちと交流を通して、西洋画への関心と理解を深める中で育まれたもので、西洋由来の「写生」に対象をよく観察し、客観的な描写によって真実に到達しようとする思考を、文学に取り込むことで到達したものとされる（1）。

子規は三十四歳という若さで亡くなったが、少年時代から絵に親しんでいた素

養があり、その晩期には病床にあって、身近な植物を題材にした絵を描いている。当館が所蔵する唯一の子規自筆の絵画作品《梅花》（図1）もその一つで、水彩画ながら油絵風の陰影を用いた重厚な趣も感じさせる。病床の薄闇に浮かび上がる白梅の姿は、死を目前に意識した子規の心境を投影するようにも見え、あくまで客観的に対象の本質を見据える独自の「写生」への姿勢が貫かれていると言えよう。

古来、洋の東西を問わず、文学と美術（主に絵画）は連動するものと考えられてきた。古代ギリシャの詩人、ホラティウスが『詩論』の中で「詩は絵のごとし」と述べて以来、西洋では詩と絵は関係が深いものとされ、中国でも、詩と書と画はその根源を同じくするという「詩書画一致」の思想を背景に、三者に精通した文人が理想とされ、また三者を一体として鑑賞することが尊ばれた。日本でも美術、特に絵画は文学との接点において多様な展開を遂げてきた。和歌に基づきその歌の情趣や心ばえを表出させた「歌絵」、あるいは室町時代の禅宗社会における文人的交友の産物である「詩画軸」など、それらは文学と絵画のどちらが優位にあるということではなく、両者が影響し合うことで醸し出す世界にこそ、その芸術的な本質と価値があると言える。短歌から派生し、江戸時代前期に松尾芭蕉

愛媛県美術館
令和4年度年報・研究紀要第22号

令和6年3月発行

発行所 愛媛県美術館
愛媛県松山市堀之内
TEL.089-932-0010
FAX.089-932-0511

印刷所 株式会社 明 朗 社



愛媛県美術館